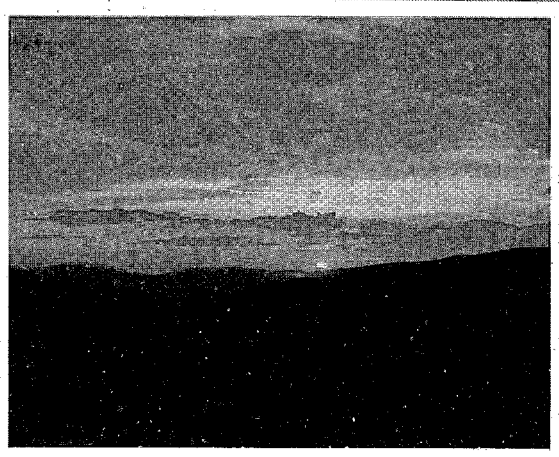
カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

新しい出発 未来に希望を



「過去への反省から未来に向けて新しく出発しよう…」一九九六年元旦に当たり、ヨセフ松永久次郎司教は全教区民にメッセージを送った。ヨハネ・パウロ二世教皇の意向に添い、大聖年を迎えるため、過去を振り返って悔い改め、互いに和解してこそ、神のみ手にある希望と恵みにみちた未来へ向かうことができる、と強調している。

皆様、新年明けましておめでとうございます。

新しい年、一九九六年が参りました。オウム真理教の事件などを思い出させる一九九五年を後にして、共に新しいお恵みの時代の門出を祝いたいと思います。

一、二十世紀を振り返る

ヨハネ・パウロ二世教皇は『紀元二千年の到来』という使徒的勧告の中で、来る西暦二千年の大聖年の準備としてまず「反省の期間」を待つことを望まれました。そして今年は、その反省の期間の最後の年に当たります。そこでわたしたちは、相応しい反省の時を過ごし、「悔い改めと和解」の心を育てるよう努めなければなりません。

このことについて教皇様は「過去の誤りと不信仰、一貫性のなさ、行動を起こすときの緩慢さ」などについて反省するよう勧めておられます。また、「神の民が神の望まれた一致を損なってきたこと」を指摘され、このことについて「時には、双方の人々に過失がなかったわけではない」と言われます。そして、「注意深い識別と勇気ある真理のあかしのうちに行われる、開放的で敬意に満ちた対話、真心のこもった対話」こそ、わたしたちの基本的な在り方だと諭されます。現在、教会の一致を損なうキリスト教諸教会の存在を思うとき、わたしたちは「父よ、彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください」（ヨハネ17・21）と心を込めて祈らなければならないと思います。

また、「真理の奉仕に際しての不寛容、さらには暴力の行使を黙認したこと」も正しくないことでした。本来、「真理はやさしく、そして強く心にしみ込む真理そのものの力によらなければ義務を負わせ直接介入してくれれば戦前の例で明らかなように、更に一歩も二歩も踏み込んでくる可能性がないとは言えない。また皇室と神道の関係は現在でも各種儀式に見る如く存在している。戦前は軍部によってこの神道が利用され他の宗教が弾圧を受けた。昭和の初期キリスト教系の学校にいた筆者は現実に体験した。一旦権力を握れば、たとえ文民であっても、同じことが言えるのではないだろうか。その根底には日本人は無意識のうちに神道的な環境の中に暮らしていると考えられるからである。言い換えれば免疫性がある。

このように分析してみるとすべては我々自身にあるということである。宗教の原点は信仰であり、祈りである。ラテン語のFIDES、CREDO、VERITAS。聖書で信仰の歴史はアブラハムに始まると言われた。「あなたは生まれ故郷父の家を離れて、私が示す地に行きなさい」（創12・1）「信じる者は永遠の命を得、また裁かれることもない」（ヨハネ5・24）。宗教法人法がどんな展開をしようとも、復活されたイエス様に対する信仰が勝利をもたらすに違いない。

（浄水通教会）

今月のみことば

神は愛だからです

（一ヨハネ四・八）

茶山教会　堤　要吉神父

時の話題

島　義三

某新興宗教団体の暴力化に端を発して、長年政党間にくすぶっていた宗教法人の特定政党への政治献金問題に拍車がかかった。世論に先行して政府部内に宗教法人法改正の大合唱が湧き起こった。

早々にカトリック、日本聖公会、全日本仏教会、神社本庁、学識経験者十五人の委員によって構成された第二十二期宗教法人審議会が平成七年四月二十五日に設置された。各種報道を総合すると、十分な審議がなされないまま筋書き通りに会長一任を取り付け、官主導の形で報告書が文部大臣に提出されたという。

宗教法人法は宗教団体に法人格を付与して、免税、減税の特典を与えている。従ってそれなりの責任が宗教法人団体側にあることは否定できない。しかしながら憲法学者は本来信教の自由はノーサポート、ノーコントロールだと言っている。万一宗教法人がその本来の目的から逸脱した場合は、宗教法人法によらずとも他の法律で十分対応できると言われている。一旦国家が

宗教法人法改正の行方

直接介入してくれば戦前の例で明らかなように、更に一歩も二歩も踏み込んでくる可能性がないとは言えない。また皇室と神道の関係は現在でも各種儀式に見る如く存在している。戦前は軍部によってこの神道が利用され他の宗教が弾圧を受けた。昭和の初期キリスト教系の学校にいた筆者は現実に体験した。一旦権力を握れば、たとえ文民であっても、同じことが言えるのではないだろうか。その根底には日本人は無意識のうちに神道的な環境の中に暮らしていると考えられるからである。言い換えれば免疫性がある。

このように分析してみるとすべては我々自身にあるということである。宗教の原点は信仰であり、祈りである。ラテン語のFIDES、CREDO、VERITAS。聖書で信仰の歴史はアブラハムに始まると言われた。「あなたは生まれ故郷父の家を離れて、私が示す地に行きなさい」（創12・1）「信じる者は永遠の命を得、また裁かれることもない」（ヨハネ5・24）。宗教法人法がどんな展開をしようとも、復活されたイエス様に対する信仰が勝利をもたらすに違いない。

（浄水通教会）

ない」ことを忘れてはならないのです。そしてまた、多くのキリスト者の生活が、「世の人の宗教的無関心」について責任があることを忘れてはなりません。実際、神のことばが神学の魂として浸透し、キリスト者の生活の霊感となっているでしょうか。また、典礼が教会活動の「源泉と頂点」となり、普遍教会と部分教会において、交わりの教会論が生かされているでしょうか。わたしたちは十分考え合わせなければならないと思います。

教皇様はまた、「殉教者の血はキリスト者の種子」という言葉を引用されて、殉教者の顕彰を行うように勧められます。わたしたちの世紀においても殉教者は多く、彼らはあたかも「無名戦士」であると言われ、教会はとりわけ「結婚生活においてキリスト者の召命を生きた男女信者の英雄的な徳について認識を深める必要がある」と指摘されます。わたしたちも教皇様を通して示される神のみ心を大切にしなければならないと思います。

二、新しい出発

過去を振り返るのは新しく出発するためです。未来に希望があるからです。過去には望ましくないこともありました。しかし、未来は神のみ手にあります。お恵みの中にあります。わたしたちは全力をあげて神のお恵みに協力し、神のみ国の建設のために、力強く前進しなければなりません。そのための一つの区切りがこの新年の意味なのです。

神がいつも共におられ、共に働いてくださることを思い、このお恵みの新年を喜びをもって迎えましょう。新しい年を新しいお恵みの時代の門出とするよう心掛けましょう。このような希望の呼びかけこそ、新年における信仰のメッセージなのです。

この新しいお恵みの時代の門出にあたり、父と子と聖霊の祝福がすべての方々の上に豊かであるようお祈りいたします。

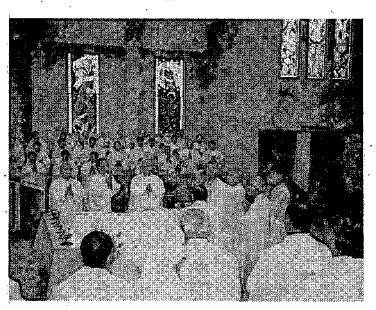
一九九六年元旦

福岡司教　松永久次郎

荘厳華麗な大神学院祭

十一月二十一日は聖マリアの奉献の祝日。この日に恒例の神学院祭が行われた。六人の司教と教区・宣教会・修道会からの約八十人の司祭団。それは見事な集合体である。

初めに、大神学生と神学校に関わる信徒、修道者を含むミサが荘厳に挙行された。主司式は司教職二十五周年を迎えた平山高明（大分）司教（＝写真）。説教は司祭職二十五周年の山根克則（東京教区）神父。司祭職を目指したきっかけから話し、神学生に対しては、「神のみ言葉を自分に刻みつけて、いつもキリストとのコンタクトを保ってほしい」と話した。



拝領祈願後の祝賀式典で、神学院院長高見三明神父が挨拶し、これまでの霊的・物的支援に感謝した。

平山司教は「これからも与えられる時間を大切にして神と人のために共に歩んで行きたい」と挨拶した。続いて司祭職二十周年、同十周年を迎えた司祭たちが紹介され、代表が挨拶した。尚、神学校後援会の新会長の挨拶と会計報告もあった。

会食後、先輩司祭たちと神学生たちは野球大会で汗を流して散会した。

福岡カトリック神学院生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院（〒810　福岡市中央区浄水通38　☎092-531-6821）までご連絡ください。

【入学条件】

①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）

②主任司祭の推薦が必要

※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

院長　森山　信三

福岡サン・スルピス大神学院入学案内

資　格　カトリック司祭になる意志を持っているカトリック男子
高等学校卒業以上の学歴（受洗後3年以上経過）

手続き　所属教区司教の推薦、所属小教区主任司祭か小神学校長推薦、洗礼・堅信等の書類提出

試　験　日時　1996年2月1日㈭・2日㈮
科目　国語・英語・ラテン語・カトリック要理・小論文・面接

福岡サン・スルピス大神学院
☎　092-871-4943
FAX　092-863-6329
院長　高見　三明

みちくさ

新しい一年、この一年も祝福されたものでありますように。また寒い時、暑い時があるだろうし、精神面にもうれしいこと、悲しいこともあるだろう。もちろん春が来て夏が来て、秋が来て、冬が来てということが「有るだろう」と仮定してのことである。めぐる季節と人の精神作用は相対的であるといってもよい。つまり、その時の環境に大きく影響されるということだ。「今日は寒いからやめておこう」「今日は暑いからできないね」とか、経験することである。したくても出来ない時があるかと思えば、したくなくてもせざるを得ない時がある▼季節や天候を含む自然現象は、人間の力でどうなるものではない。とするなら、神こそ自由にされるのである。神は自由である。私たち人類のことを考えて計画され、成就される。不備、不足は全くない。「私たち（三位一体）が完全であるようにあなたがたも完全であるように」とイエスが言われたように神は完全。しかし、人間にもそうであれと求められる神。人間は不足だらけだから、充足するように神に求める。こんな関わりが神と人間。ところが人間はわがまま。完全になるように与えられるものも受けずに勝手に動く。あわよくば、神になろうとまでする。そして神の自由な計画の中でつぶされていく。神にそう立ち向かえるものではない。人間は与えられるものを神の計画に合うよう最大限に用い、頑張ればいい。ただ謙虚さを忘れず生きていくようになったらいい。自分が神になるのではなく、神から求められる人になるように。吸う息がいやなものでも吐く息は感謝であるように。

【S】

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九六年　元旦（神の母聖マリアの祭日）

福岡教区長　松永久次郎司教
〈福岡地区〉
司教館　山元　眞
松井　忠之
山下　正
伊東　誠二
黒川　博
平田　三郎司教
今村　中浜　一男
大楠　下町　豊重
大牟田　平田　三好
小郡　牧山　勝美
久留米　山田　成章
三村　邦明
古賀　F・ハーン
笹丘　乾　盛夫
赤倉　稔
浄水通　T・ドワイヤー
大名町　青木　保
山川　辰幸
伊東　成晃
高宮　春山　勝美
片岡　仁志
茶山　堤　要吉
西新　平田　敬
箱崎　T・リシャール
光丘　J・バイヨ
二日市　H・キニュウ
本郷　堤　敏雄
吉塚　川上　惣一
老司　B・シュルツ
大神学院　G・カツァニーガ
高見　三明
J・ツルデル
Z・イエール
高木　善行
大山　悟
櫻井　尚明
牧山　強美
白浜　満
教区神学院　森山　信二
聖パウロ会　戸村　修
御受難会　百村　等
畠　基幸
M・ベッター
G・プレシュット
イエズス会　梶山　義夫
K・ウーリック
イエズス会　S・オチョア
塩谷　恵策
三宅　秀和
J・モラレス
A・セトアイン
カルメル会　友永　徳一
皿山F・C　S・ライル
司牧センター　M・コース
聖マリア病院　尹　汝沃
聖マリア短大　W・キッペス
〈北九州地区〉
飯塚・田川　深堀　勝人
黒崎　L・ベリオン
C・バスチ
小倉　岩永　義人
中村　彰
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑・直方　浦口　均
中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　A・ベルトラン
（門司港）　牧山　重光
湯川　平田　寛
行橋　浦　俊雄
若松　西田　邦洋
パリ・ミッション会本部　L・デシャンブ
E・モーゼ
徳山　登
〈佐賀地区〉
伊万里　C・ガッザルディ
唐津　V・チェリッザ
佐賀　M・タルディフ
多久　A・テンペリーニ
武雄・鹿島　L・マネルバ
鳥栖　R・マグリン
馬渡島　畠山　七郎
呼子　田川　清美
ロザリオの園　A・アレグリーニ
トラピスト　C・ミケレーナ
〈熊本地区〉
荒尾　K・オマホニ
大江・崎津　V・ヤングキャンプ
帯山　山頭原太郎
菊池　R・オウエンス
健軍　鵜野　泰年
島崎　M・コーフィールド
手取　W・カリー
人吉　M・マッコンネル
本渡　H・オカロル
水俣　T・フィッシャー
武蔵ヶ丘　P・ダイヤモンド
八代　J・モラハン
生命山　F・マッケイ
在イタリア　J・ノーリス
在アメリカ合衆国　F・ソットコルノラ
青木　悟　C・コデノッティ
渡辺　隆義

創立記念日を祝う
福岡カトリック神学院

無原罪の聖母の祭日（十二月八日）に福岡カトリック神学院で六十三回目の創立を記念した。

出席者は、教区長松永久次郎司教をはじめ、元同神学院校長、サン・スルピス大神学院の教授、聖パウロ修道会司祭・修道士・同小神学生、小教区主任司祭ら約四十人。

まず聖体賛美式（＝写真）が神学院聖堂で行われた。

その中で松永司教の話があった。「神はマリアに無原罪という特別の恵みを与え、ご自分のひとり子を託された。神学生も神から選ばれ、特別の恵みをいただいた。聖母との親交を深め、神学生も自分を聖母に委ねて生きるように」と司教は諭した。

晩の祈りの後、三階教室で祝賀会があった。森山信二院長は、「これまでの支援を感謝します。これからも祈りと援助を」と出席者に願った。



現在、同神学院神学生は中高生で九人。教区民は召命に応える神学生の数を憂いている。神のご計画に委ねながらも祈りと犠牲によって数が増すよう努力が求められる。

現実を見つめ未来に希望を
―教区青年錬成会―

十一月十九日、教区青年委員会・教区青少年司牧担当司祭団主催で教区青年錬成会が行われ、その一環として、元長崎市長本島等氏を双葉学園講堂に迎え、平和記念講演会を行った。参加者は青年と神学生、一般合わせて約二〇〇人。講演のテーマは「日本の一〇〇年」で、本島氏は石油に基づく世界の繁栄の歴史、平和を疎外する飢餓、貧困、人権軽視の問題、核の問題、憲法九条の先進性、軍縮の困難性など、多彩な方面から多くの資料を提供しながら戦争の愚かさ、平和の大切さを説き、青年に対しては、正邪・善悪の判断を持つこと、歴史を学ぶこと、世界市民としての自覚を持って平和の作り手となるよう訴えた（＝写真）。



講演後、青年たちは司教館とカトリック神学院で分科会と全体会を行った。分科会では講演の感想や平和について自分の体験、考えを分かち合った。全体会では平和とは何か、理想と現実のギャップの中で平和を作るために何ができるのかが話し合われた。その後、浄水通教会で平和祈願ミサをして散会した。説教の中で伊東成晃神父は、平和は行動することによってもたらされる、と熱心に語った。

担当　中村彰神父

規約説明会
―北九州地区信徒協―

北九州地区信徒使徒職協議会の研修会が、十一月二十三日に小倉教会の信徒会館で開かれた。これは毎年同日に行われているもの。今回は先ごろ発表された「福岡教区小教区委員会規約」（＝本紙十二月号に掲載）の説明を聞くことが目的で、講師は教区本部事務局の山元眞神父。

同神父は、「規約の説明と信徒の役割について」というテーマで講話をした。まず、規約作成の経緯を簡単に説明。各小教区によって組織が異なり、共通するものを作ることが非常に困難であったことが披歴された。また、規約そのものの説明に先立って、第二バチカン公会議における組織と法についての考え方、信徒と主任司祭の関係、信徒の役割などについて話した。

規約の説明の後、活発な意見交換がなされた。同神父は「この規約は規約としては不完全なものかもしれないが、各小教区で規約を作成する際の最低限度の骨子をまとめたものなので、そこを考慮して規約の調整をしていただきたい」と語っている。

聖書の舞台を旅して ③

古代の息吹き

聖地は様々な表情を見せてくれる。エルサレム旧市街の西の壁（嘆きの壁）前では、週に二回、ユダヤ教の成人式（バル・ミツバ）が行われる。

緊張した面持ちの少年、彼はきっと今日の主役に違いない。彼が無事、トーラー（立法の書）を読み終えると、集まっている人々の表情が一斉に和む。すぐ側でじっと見守っていた男性は、喜びを隠しきれないといった様子で、少年を肩にのせて弾み出した。



おそらく少年の父親だろう。そこに居合わせた私たちの心にも、何ともいえない温かさが広がった。

イスラエルの人口はおよそ五五〇万人。うち、ユダヤ人は約八割。彼らのほとんどはイスラエル生まれだが、こちらに移り住んだ人も多い。最近では、旧ソ連からかなりの移民があった。

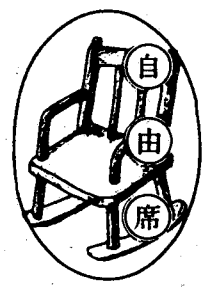
彼らは、この地に民族としてのアイデンティティーを見いだしてきた。神殿を失った後も、この地に寄せる思いは枯れることがなかった。離散を余儀なくされ、この地から物理的に切り離された人々は精神的な結び付きによって、民族としてのアイデンティティーを保とうとしてきた。

そして今、多様性にみちたこの地で、一人一人が、自分自身そしてイスラエルとこの地域全体双方をしっかりと見据えながら、真の和解と強調による確かな明日を築いていく。そのための力強い相手が今日また一人、大人の仲間入りを果たした。

古代と近代的なものが共存し、過去と未来が今という一点に生き生きと交錯するこの国。そこに満ち溢れる活力の根底に、長い苦難の歴史の中で培われた深い精神性が息づいているのを感じる。

大神学生　牧山美好

司牧センターとは



コース・マルセル神父

昨年の四月、福岡教区は博多区美野島に外国人司牧センターを開設しましたが、まだその存在を知らない方が多いと思いますので、簡単にご紹介します。

このセンターは、近年、急速に増え続ける外国人の司牧活動はもちろん、日本で生活する際の様々な悩みや相談事に、一緒に取り組むことにより、国籍を越えて共に生きることを目指しています。

センターの運営を任された私は、すでに移住労働者の支援活動をしていたグループと一緒に活動を始めました。オープンするやいなや、訪れる外国人の数は増える一方。これまでに受けた相談件数は二百五十件を越えています。相談の内容は小さなことから大きなことまで実に様々で、生活の根本である住居、仕事、健康に関することが多く、しかも一番難しい問題で、カトリック内外の人々や組織と互いに協力、連携しながらやっています。相談にくるのは大半がカトリック者です。

毎日曜日十時からはスペイン語のミサ、その後日本語教室があります。時には「超過滞在」や「資格外就労」のため長崎の大村収容所に収容された人を訪問し、共にミサを捧げることもあります。

「教会は移動する人々を温かく迎え入れ、彼らに奉仕する使命をもっています」

当センターだけでなく、すべての教会が外国人と共に歩んでいけたらと願っていますが、活動のための資金とスタッフの不足に悩んでいます。

皆様からの温かいご支援をよろしくお願いしたいと思います。

四旬節の典礼をふさわしく祝うために…
〔講　師〕國井健宏　上智大学神学部典礼学講師・御受難会司祭
〔テーマ〕キリストの神秘を祝う
〔日　時〕2月16日㈮～18日㈰　（後援会総会は18日15：00より）
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

みことばに生きたい
講座は満五歳

使徒言行録
聖霊の働きを実感

聖書講座の後期、通算十一回目は使徒言行録十五章からであった。

冒頭エルサレムの使徒会議のいきさつと決議が記されているが、人が救われたのは律法によるのではなく、神の恵みによるものであることを、使徒たちのその後の宣教活動の記述の随所に見ることができる。また、たびたび聖霊が使徒たちの働きに密接に関わっていることも心に残った。たとえば「聖霊と私たちは」「霊に禁じられたので」「霊に動かされて」「聖霊が告げた」など。

十九回では「映像で見る使徒言行録」ということで、使徒たちの進んだ航路や訪れた国、通った町などビデオで鑑賞した。その聖書の各箇所をナレーターの声で聞いていると今まで活字で何度も読んだパウロや使徒とその町の人たちとの会話が、急に人格をもって立ち上がり、情景となって手にとるように感じられるものであった。

使徒言行録の後半では、神はパウロを通してたびたび奇跡を行われており、主イエスを伝えるためには、困難はもとより死さえも恐れないパウロの信仰と行動には圧倒される思いであった。少なくとも物理的には交通機関やメディアの発達によって宣教が効率的になったはずの今の時代に身をおく者として、あらためて聖霊がどのような人をも通して、共にお働きになっておられることへの信頼を確実にしたい、と深く感じた。

最終回には恒例によって一定の出席回数を満たした者に松永司教様からの修了証が手渡された。

聖書特別講演
イスラエルの民の過越

十一月十九日、聖書週間の初日に福岡カテドラルセンターにおいて、サン・スルピス大神学院院長の高見三明神父様の特別講演が行われた。

テーマは「イスラエルの民の過越」で、先ず過越という言葉が示す三つのこと、①過越の起り―神がエジプトですべての初子を打たれたときイスラエルの民は過越の犠牲を屠って、その血を入り口の柱と鴨居に塗り、主がそこを過越されたこと②過越を記念する祭としての過越③エジプトからの解放・脱出について説明された。

そこからイスラエルの救いはシナイ契約によって神の民の誕生となったこと、また永遠の救いの前表であること。その経過の中で十戒や契約についても話された。また後代において過越がどのようにイスラエルの民に理解されていったかを聖書の箇所を引用し説明された。

終わりにキリストの過越と現代の信仰の関連について、徹夜祭、復活祭、洗礼、聖体祭儀などの考察を加えられた。

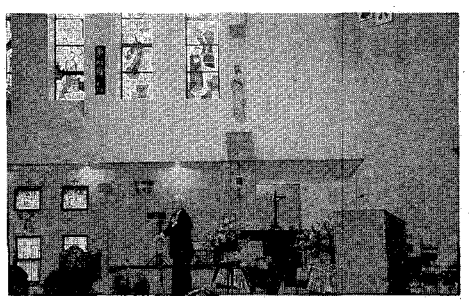
神父様の講演によって、キリストの過越に与かる私たちが永遠の死から永遠の生命へ解放され、またキリストを信じるすべての人が神の民として誕生することを、イスラエルの民の過越と重ねて考えながら、しばし不思議な感覚にとらわれ、また一方では、どのような世情にあっても神の救いのわざをいっそう信じ、希望せねばならないことを強く感じさせられた。

大名町教会　鈴木美子

高田三郎氏を迎えて
熱気あふれる聖歌研修会

十一月二十三日にカテドラルにて、福岡教区典礼委員会（委員長　森山信三神父）主催で「ミサを歌おう」と題して、聖歌研修会が開かれた。

講師は典礼刷新の当初から中心となって、日本のことばを生かした典礼聖歌を作曲された高田三郎先生で、司祭、修道者、信徒を合わせて二六四人が参加した。



典礼刷新は、単に典礼の現代化という側面からとらえてはならない。ミサのことばはすべて聖書に基づいており、聖歌も、聖書のことばをそのまま使うことが好ましい、との基本的立場から作曲を進めた経緯が語られた。そして、聖歌は典礼をただ美しく、感動的なものにするための飾りではなく、ことばの意味をよく理解し、それを味わい、そのよろこびと感謝の心を、神に捧げるものであることが強調された。

詩編のことばに表された信仰と、高田先生の深い信仰告白とが一体となって、聴衆を黙想へと誘い、聖歌が賛美の本質から出るものであることを、再認識させられた。

研修の結びとして、指導の成果を生かした歌唱ミサを共に捧げ、神奉仕の感動的共体験のうちに閉会した。

井上元之

ロザリオ後援会の活動
設立3周年を迎える

「社会福祉法人・聖母の騎士会」が経営する諸施設の運営を経済的に援助している支援団体「ロザリオ後援会」が設立三周年を記念し、援助活動の一環として、十一月十二日、佐賀・県医師会メディカルセンター大講堂で文化講演会を開催した。

講師は清心女子大学名誉学長・シスター渡辺和子先生。会場にはおよそ三五〇人が早くからつめかけ、「現代の忘れもの」と題する講演を熱心に聞き入った（＝**写真右下**）。

シスター渡辺は講演の中で「現代人は忙しさの中で、ていねいに生きることを忘れている。人は皆、自分の置かれている場所で一生懸命、自分の花を咲かせてほしい。また、変えられないものはそれを受容する潔さと、変えられるものは変えていく勇気と努力と祈りが大切です」と語った。

「ロザリオ後援会」は、佐賀県大和町の特別養護老人ホーム、ロザリオの園内に事務所を置き、現在登録会員は二七〇人。会長は陣内謙一氏（陣内泌尿器科院長）で、聖母の騎士会が経営する佐賀県、大分県など、九施設の支援に取り組んでいる。

この度の講演会（入場料千円）の収益金は騎士会施設の活動資金として寄贈される。

佐賀教会・牧山満安

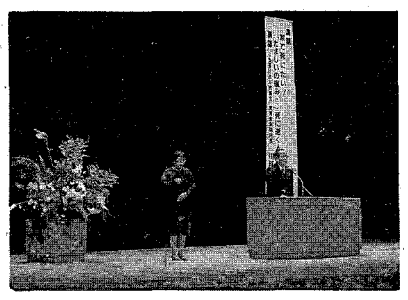


みこころホスピス
一周年記念講演会

イエズスの聖心病院「みこころホスピス」のホスピス病棟承認一周年を記念した講演会が、十一月十一日に熊本市民会館で行われた。講師は、在宅ホスピスケアの第一線で活躍中の川越厚・賛育会病院院長（東京都）で、「家で死にたい！魂の痛み・・死に逝く人のケア」と題して講演した。医療従事者や市民ら約一八〇〇人が会場を埋め尽くした。「魂の痛みは、死に逝く人が自らの死をはっきりと理解した時にあらわれる痛みである。特定の信仰を持つ人だけにあらわれる痛みではない。死に逝く自分と神との関係の修復や家族との和解などで痛みを和らげることができる」と在宅ホスピスの症例を通して話した。「ホスピスは末期がん治療のひとつの選択肢であり、自分の病状認識から始まる。患者本人の『家にいたい！』というはっきりした希望とそれを支える家族の愛情が在宅ホスピスの成立の条件」という。

主催した「みこころホスピス」ではこれまでに末期がん患者一五二人とその家族へのホスピスケアを実施。そのうち十二人が自宅で最期を迎えている。社会に開かれたホスピスケアの啓蒙運動や地域のホスピスネットワークづくりに取り組んでいる。

みこころホスピス　井田栄一



神道一口メモ⑪

森山敬三

天皇は、古代は臣連（おみむらじ）の専権により、中世は摂関政治や院政により、中世後半から近世までは武家の政権により、その主権はなかったが、権威だけはもち続けられた。その権威の行使として、官位叙任、改暦、改元のような儀礼的形式的事項に関することのみがある。大化の改新は唐の律令制より、明治憲法はプロシアの憲法より作られたものであり、本来の天皇は象徴的存在であった。

幼稚園のできごと

熊本信愛女学院幼稚園

大きな楠の深い緑に囲まれ雄々しくそびえる熊本城を前に、幼稚園の一日が始まっていく。

玄関に置いてある御像の前で、行き交う子どもたちがそれぞれに祈りを捧げる。「イエスさま、マリアさまおはようございます」から始まり、「イエスさま、マリアさまただいまぜんたいそうかいかって（から帰って）まいりました。おけがをしないようにおまもりくださいましてありがとうございました」と大声で祈り、笑顔で去っていく。

手を合わせたまま通りかかった私をじっと見つめている子どもがいる。「どうしたの」と聞くと、「おけがをしたときは、なんといったらいいの」と言う。「『おけがをしました』でいいのよ」と言いながら、祈りはありのままでよいことを、子どもに教えられたと思いである。

子どもにとって楽しい時間は何といってもお弁当と外あそびの時間であろう。たむろしている子どもたちから話し声が聞こえる。「かみなりってこわいね」「うん、でもぼくは、かみなりのそばでおべんとうたべたことあるよ」。聞いてみなくてはわからない考え方である。ないしょ話をしに来た子どもに耳を傾けると、そこに自分の耳を押し当て後ろ向きでささやくので、片耳をふさがれた園長先生は何も聞こえない。「なあに、何も聞こえないよ」と叫ぶ。しかし子どもは、ないしょ話は小さな声でいう原則を最後まで守り、満足げに立ち去ってしまった。自分の言いたいことが正確に伝わったかどうかなど全く心配していない。信頼と心の温まりを感じるとスキップするほどの歓びに満たされる子どもの心が眩しく感じられる。日々成長し続ける子どもの新しい命、輝く命に出会うすばらしさを、いつまでも感じ取れる心でありたいと思う。

St.佐藤ミチ子

神学院基金へのご芳志の御礼

故マリア鹿山スエ様の香典返しとして鹿山安次郎様より福岡サン・スルピス大神学院に多大のご芳志を賜り心からお礼申し上げます。

故人のご安息を心よりお祈り申し上げます。

平成八年一月

大神学院　高見　三明

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860　熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

吉田設計
株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810　福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役　ヨゼフ　吉田豊博

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810　福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役　マルガリタ・マリア　吉田由利子

会合と催し

1・2月の行事
※ゴチックは司教日程

1月
1日　神の母聖マリア（守るべき祝日）／世界平和の日
2日　聖バジリオ・聖グレゴリオ
7日　主の公現
8日　主の洗礼
9日　司祭新年の集い
13日　修女連・沖縄巡礼［～15日］
14日　福岡地区信徒協役員会
15日　成人の日・松永司教着座記念日
17日　聖アントニオ
18日　キリスト教一致祈祷週間［～25日］
21日　聖アグネスおとめ
22日　結婚準備セミナー【熊本】①［～2月13日］
24日　聖フランシスコ・サレジオ
25日　聖パウロの回心
26日　聖テモテ・聖テトス
28日　カトリック児童福祉の日（献金）
福岡ブロック「成人式ミサ」
30日　聖トマス・アクイナス
福岡地区短期キリスト教講座［～3月5日］
31日　聖ヨハネ・ボスコ

2月
1日　結婚準備セミナー【福岡】①［～24日］
2日　主の奉献
4日　出会いの集い
5日　日本26聖人
6日　聖アガタおとめ
司祭評議会・顧問会
10日　聖スコラスチカおとめ
11日　建国記念日
18日　教区信徒協役員会
小倉カトリック幼稚園創立50周年
21日　灰の水曜日
22日　聖ペトロ使徒座
25日　帯山教会堅信式
26日　今村信徒発見記念日

福岡黙想の家

▼12月27日(水)～5(金)幼きイエズス会黙想
▼6(土)～12(金)　―休館―
▼13(土)～15(月)チョイス
▼16(火)人生講座第4回〈夫婦のかかわり〉
▼28(日)～29(月)パリミッション会黙想
▼30(火)～31(水)ルーテル婦人会修養会

■アレグリーニ神父の「聖書を読む会」開催中　一般の方を対象に毎回テーマを決めて関連する聖書を読み、一緒に考えていこうという会です。もちろん、信者の方も大歓迎です。［日時］毎月第一木曜日（～4月）10時～11時30分／19時30分～21時（内容は午前と同じ）★1月は第2木曜日（11日）［講師］アレグリーニ［場所］カテドラル大名町教会1階ホール（駐車場あり）［問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092－541－6207　FAX522－5022

■第3回短期キリスト教講座　「生きるとは」本当の幸せとは何でしょう／自分を大切にするとはどんなことでしょう／自分を愛するとはどんなことでしょう／温かい家庭の基になるものは何でしょう／人は何のために生きているのでしょう／ともに考え、ともに学ぶため、この講座は、あなたをお待ちしています。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターあり［日時］1月30日～3月5日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分・19時～20時45分［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［受講料］全三〇〇〇円（1回一〇〇〇円）［日時・テーマ・講師］1月30日・躾と教育…思春期…・シスター村木敏子／2月6日・外国人から見た日本人とその生活・高籐エレーヌ氏／13日・共生と自立・畠山春秋氏／20日・みこころボランティアの心・酒部順子ほか2名／27日・日本の伝統的宗教・井手恵住職／3月5日・わたしとキリスト教・Fr.塩谷恵策［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会［申込み］当日会場にて［問合先］教区本部（深堀邦枝）☎092－522－5139（平日10時～16時）

■第13回「出会いの集い」　《新春ダンスパーティー》カナの会では結婚のための出会いを求めて、新春ダンスパーティーを企画しました。初心者の方、大歓迎です。どうぞ、お友達を誘ってご参加ください。［日時］2月4日(日)10時30分～16時30分（15時30分からフォークミサ）［会場］カテドラル大名町教会1階講堂（福岡市中央区大名2－7－7☎092－741－3687）［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会）［ミサ司式・お話］Fr.山元眞（教区本部）［参加費］一五〇〇円（昼食代含む）［対象］20歳以上の独身男女［申込・問合先］峯幸子☎092－861－0443／奥村浩子925－5841／安部良子512－4028（カテドラルへの問い合わせは当日以外はご遠慮下さい）［申込締切］1月29日(月)［主催］カトリック福岡司教区カナの会［後援］福岡地区信徒使徒職協議会・家庭委員会・青少年委員会

■福岡生と老い・死をみつめる会　①1月28日・ビデオ「道行」鑑賞と語り合い／金子真介師［大村市禅心寺②2月25日・川野直人氏（久山療育園園長）による講話と語り合い③3月31日・メモリアルサービスと語り合い④4月28日・総会と語り合い［問合先］大山美穂子☎FAX092－713－8523

■祈りの日（黙想会）感謝のある生活を求めてあなたとともに聖書の御言葉に触れて祈りの分かち合いと感謝の祭儀（ミサ）を捧げたいのです。どなたでもご自由にご参加下さい。［日時］第3の日曜日10時～16時［持参品］聖書・筆記用具・お弁当［場所と問合先］W・キッペス〒8300942－35－7271［内線252］

ミニ情報

■新刊案内「心のシルクロード～神父と僧侶の往復書簡」Fr.A・アレグリーニ／井手恵（さとし）著／佐賀新聞社／一三〇〇円／93年1月～95年4月まで佐賀新聞に掲載され好評を得た。［問合先］佐賀新聞社☎0952－28－2152

■手取教会のFAX番号が変更されました。　096－352－1515

日本カトリック研修センター・プログラム

◎国内聖地巡礼再会刷新コース［テーマ］信仰の遺産を求めてキリシタンの聖地長崎五島を訪ね、信仰の遺産に触れる。下五島の教会巡りや日本26聖人記念祭への参加、講演会等を予定。研修センター開設5周年を記念し、センター再会刷新コースとしての企画。［日時］2月1日(木)～6日(火)〈5泊6日〉［対象］誰でも・信者以外の方も可［費用］一五九〇〇〇円［定員］40名［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部☎052－831－5037　FAX831－5317

1月命日の司祭
†ジョゼフ・フレスノン神父（パリ外国宣教会）
一九二九年一月
元久留米教会主任
†ルドビコ・ガルニエ神父（パリ外国宣教会）
一九四一年一月十九日
元大江教会主任
†アウグスチン・ハルブ神父（パリ外国宣教会）
一九四五年一月十四日
元崎津教会主任
†グスターブ・ロー神父（パリ外国宣教会）
一九五〇年一月一日
元人吉教会主任
†ジャンマリ・マルタン神父（パリ外国宣教会）
一九七五年一月十八日
元大牟田教会主任
†ジェームズ・ドノフ神父（聖コロンバン会）
一九八五年一月二日
元菊池教会主任
†ヨセフ牧山藤房神父
一九九三年一月二日
福岡司教館

笑いかけ

ある日の夕食どきの、司祭と神学生（中二）の対話。

「謙虚について調べてみましたか」「ハーイ」「言ってごらん。どんな風に書く？」「いや」「何い？」「イエ、あのー、イヤ（嫌）という字ありますよね」「うん」「それの女へんをとってですね、言う…エート（声がだんだん細くなる）言べんをつける」「それから？」「キョは…ウソという字に口がないやつ…です」「虚は何へんですか」「……」「それで謙虚の意味は？」「自分をひくくする、それだけです。ア、高ぶってはいけない……」

夕食前の朗読で読めなかった漢字を、その場ですぐ教えず、辞書で調べるようにと宿題を出しておいた、その成果がこれである。

ここは小神学校とはいうものの、修道士志望者もいて、実質的には志願院であり、修道者志願者の募集と教育がこの修道院の大きな役目。その福岡修道院へ二度目の赴任となった。当然のことながら、孫ほども年の開きのある小学生や中学生、さらに学校、教師、家庭と密接なかかわりをもつことになる。

彼らと生活を共にすると、なんとなく気持ちが若返るような気分になることも事実だ

レベルを下げる？

が、毎日の言動を見ると、自分もこの年頃にはそうだったなあ、いや、もっとましだった、この頃の子どもはどうしてこうなんだろう、と苦笑したりイライラしたりする。早く一人前にしなければと、気短になったのだろうか。

「教育者というものは、上に立って、上から教えてやるという姿勢ではいけない。自分のレベルは下げることなく子どもたちと同じレベル、視点に立たなければならない」と、ある中学教師が言う。

なるほど、そう言えば、イエス・キリストこそ、神でありながら神であることにこだわらず、自分をむなしくして、人間と同じ姿になり、死に至るまで、へりくだって従う者となられたのである。

私たちにはこんなすばらしい模範がある。だが、これがなかなか実行できないでいる自分に気づかせられる。

教理の時間―「七つの秘跡を全部受けたら天国に行けるんですかあ？」「アホか、受ける順序によるッ」となってしまう。

意識して模範を示した積もりでも、それを模範ともなんとも感じてくれないもどかしさ。「一体おまえは何度言えば分かるんだ？」これはそのまま自分に返ってくる。人間と同じように泣き、苦しみ、弟子たちの足を洗ったイエスさまに、もっとなりたい。

聖パウロ会　百村　等神父

編集室から

「やれば出来る、頑張れ」というのがガンバリズムだそうだが、意識し、集中して事にあたれば、なんとかなる。「ゆっくり、リラックス」というのもあるのだから、その気になってそうする。忙しさがあって、ゆっくりがある。この人間的潮の干満で『つき』もやってこようというもの。これも神のなさる業。今年もいい年であるように。

今年もよろしくお願いいたします。

編集部一同

平成八年度
福岡聖家族寮
寮生募集
OLおよび女子学生
〒810　福岡市中央区今川1-2-24
☎092－751－2578
札拝会福岡修道院

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　**藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

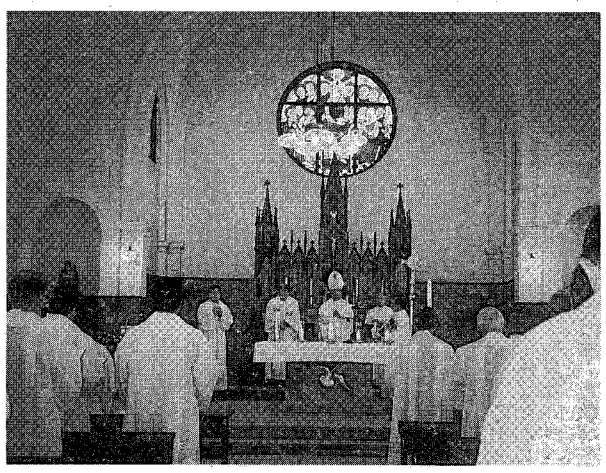
カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

教区司祭団 新年の集い

目標は盛りだくさん

一月九日、福岡教区に在住する司教、司祭の新年の集いが司教館にて行われた。新年祝賀会に先立って行われた松永久次郎司式の新年のミサには、平田三郎司教をはじめ約七十人の共同司式司祭、近隣の修道者、信徒が参加し、希望に満ちた新年を祝った。



"希望にみちた年にしよう"

「ガリラヤの風かおる丘で」の入祭の歌でミサが始まり、中村信哉神父の福音朗読後、松永司教の説教。

「キリストの祭壇を囲んで新年のミサをともにできることを感謝したい。新年を力強く歩むよう恵みを祈ろう。新年が始まったということは神が人を大切に思っておられるしるし、お見捨てにならないしるし。この時に各々自分たちの使命を悟り、実行していくよう努めよう。幸いに平和のうちにこの時を祝っているが、世界の各地が混沌とし、平和ではない。教皇様の意向に合わせて平和のために何らかの方法で貢献しよう。今日の福音はキリストがカファルナウムで宣教を始められ、権威あるものとして話されたことが述べられていた。司祭も文字にとらわれず、しかし教会の教えと祈りを支えにして神のみことばをのべ伝えてほしい。



また、紀元二千年を特別な年として準備できるようにしよう。特別な恵みも与えられよう。さらに、今年は第二バチカン公会議後三十年を数える。教皇様の意向を汲んで、宣教活動を高めよう。特に、教会一致と生命の福音を力強く述べよう。福岡教区でも何かができるはず。召し出しにも力を入れよう。小教区から多くの若い魂が召命に答えて育つようにして欲しい。いずれにしても、希望に満ちた一年を過ごそう」と語った。

教区司祭、修道会司祭代表の共同祈願でも、神の計画を見極め、神の栄光と人の救いがなされるよう唱えられた。

一つの祭壇でキリストの死と復活を記念し、新年を祝い恵みを願う司祭団の表情は輝いていた。

人事異動も示唆

ミサ後の司教館での祝賀会では、教区司教代理の青木保神父が司祭団を代表し、「新年を祝うのにいろいろと表現できるが、心は信仰と善意に満ちています。司教様、今年も宜しくお願いします」と力強く挨拶した。

松永司教はミサ中の話を繰り返し、また、教区に関係ある殉教者を顕彰し、研究していこう。そして、司祭一人ひとりが健康で過ごすようにと答えた。最後に司教は、今春に人事異動があることを予告し司祭たちの協力を求めた。

恒例により、平田三郎司教の乾杯の音頭で祝宴にはいった。この会合で、カルメル山の聖母修道院付のマリア会ヨセフ友永徳一神父が紹介された。友永神父は「新しい土地で頑張ります」と話した。

一同、祝宴の和やかなひとときを過ごした。

今月のみことば

前からも後ろからも私をかこみ手を私の上に置いてください。

（詩編139・5）

飯塚・田川教会　深堀勝人神父

時の話題

森山　敬三

福沢諭吉はその著『学問のすすめ』の中で、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」との有名な言葉を残している。

これは、人間の権利はすべて平等ということから来ている。人権は、人間が神にかたどられたものというキリスト教思想から出たものである。しかし、キリスト教国ではないわが国では、人権は一応形式的には重んじられているが、内容が分かっていないため、吹けば飛ぶような概念である。

実社会においては、どうしても上下の区別ができる。親と子、教師と生徒、上司と部下など…。目上の者は目下の者を支配しようとする。カトリック教会には、位階制度がある。教皇は司教に、司教は司祭に、司祭は信徒に、信徒は主を知らない者に、支配するのではなく、奉仕する義務がある。神にてまします主が奴隷の仕事である弟子の足をお洗いになった。これは良い模範であって聖木曜日の儀式のときだけのことではない。

上と下

天地の創造主が、我々の飲食できるパンとブドウ酒に変化されたことを思うとき、人間の上下など、ごくごく限られた範囲内のことと思われる。

信徒は、主を知らない者に奉仕すべきである。自分は聖寵をうけているので、彼らより上というような優越感を抱いていないだろうか。毎日ごミサにあずかり、ロザリオを唱え、慈善事業を熱心にしているから、自分はそれをしない人よりも上と思う。それが優越感からの自己満足であるなら、何の役に立とうか。そういう人に対して、イエス様はファリサイ派の人に仰せられたように、「蝮（まむし）の末よ」とお呼びになるであろう。また聖パウロは、愛がなければ、全財産を貧しい人々のために使いつくそうとも、わが身を死に引き渡そうとも、わたしに何の益もない、と言っている。私たちが日常生活をするにあたって、どのような意向をもって行っているか、それが問題である。

神と人とを愛するという意向、自分を離れて『神がお喜びになるように』との意向がなければ、我々のすることはすべて無である。

（箱崎教会）

新年司教ミサ

平和な世界は神の恵みと人間の努力でつくられる

カテドラル



ヨセフ松永久次郎司教は、一九九六年元旦、カテドラル大名町教会での新年のメッセージの中で、大聖年へ向けての準備、神の母聖マリアへの信頼、世界平和への努力を語られた。（＝写真）

来る二千年を大聖年とし、国際聖体大会をその年ローマで開催すると宣言されたパパ様は、特別の恵みを期待されています。「この世のことは全て、神様からの恵みと人間の真心からの協力で出来上がります。新しい年の恵みを正しく受け止め、活用し、実りをもたらすよう努める決心をしましょう」と大聖年への準備が強調された。

また、神の母聖マリアの日に当たり、いかなる時にも私たちの守り手である母マリアに自分を、自分の家族を、私たちの社会をゆだねることは非常に大事なことです、と聖母マリアへの信頼と尊敬を大切にする事を語った。特に、「戦争や貧困ばかりでなく、現代の文化自体が子供たちを犠牲者にしています」「平和な未来を子供たちにプレゼントしよう」と教皇メッセージの紹介と共感を促した。

最後に「失望が一番の悪です。神の恵みの中で未来は明るい。必ず恵みは用意されています。元旦のメッセージは希望です」と力強く語った。

新成人 恵みの中の祝福式

筑後ブロック青年会

一月十四日、久留米教会にて松永久次郎司教のもと、筑後地域の五教会司祭団、鳥栖教会、二日市教会司祭が共同司式をするミサの中で、二十二人の新成人が祝福を受けた（＝写真下）。参列した関係者は約二百人。松永司教は説教で、「今までは受ける一方だったが、これからは与えることの出来る人になってほしい」と語った。

祝賀式典では、担当司祭の川上惣一神父が「おかげ様の心を忘れないようにし、神と多くの人に尽くしていけるように」と述べた。ミサ後は聖母幼稚園のホールで祝賀会が催され、司教の励ましの言葉とブロック青年代表の平田慎一郎氏の挨拶があった。新成人が抱負を述べ、楽しい会話とゲームで一時を過ごした。



新成人の平田利絵さん（本郷教会）は次のように話している。「私たち新成人のためにミサを捧げて頂き、祝福をくださった松永司教様をはじめ多くの人に感謝したい。私たちがここまで成長できたのは、神様、両親、関わってくれた方々のおかげ。これからは恩返しの気持ちで頑張っていきたい。成人になったとはいえ、スタートラインに立ったばかりの未熟者だが、行動には自覚と責任を持ち、壁を乗り越えて前進したい。」

みちくさ

高速道路に木片が点々としていた。危ないと思いながら木片をまたいだり、よけたりしながら走行した。そうこうしているうちに、前方にトラックが見える。よく見ると荷台に木材が積んである。あれが落としていたのかと思ったとたん、また木片が落ちてきた。危ないから少し離れて走ろう。もしかして綱が切れて落ちてくるかも知れない。少し行くと、今度はワラが落ちていた。停車してワラを頑丈に結んでいる人たちがいた。積み過ぎ、積み方に問題がある▼私たちは時々、時間の浪費を考え、二回しなければならないものを一回だけにしてしまうことがある。結果的にはよくない。経験をしているからという甘えがそうさせるのか▼段階が必要。よく「初心にかえれ」という。初めてのことに関しては緊張し、何回も練習して事に臨む。しかし、慣れてくると、手でしていたことも足でするようになって、雑になる。「いつも初心者のような気持ちでやっています」という芸能人。私たちもそうでなければならない。見慣れたものでも、新しいものに向かう気持ちを大切にしたい。父母に対して、子どもに対して、友だちに対して、自分に対して▼信仰も同じ。信じたものを自然に表すためには、それなりの準備が必要である。一朝一夕にはできない。しかしこの信仰を表すためにいったいどれほど時間を必要とするのか。表す段階は疾うに過ぎているのに、姿が見えない。神様もよく忍耐しておられると思う。「もういいでしょう」。この言葉を聞きながら明日に延ばしている自分。イエス様のお計らいに信頼して、よく準備できていることを表せるように努力しよう。

【S】

歴史を見直す

昨年、戦後五十年に当たり、社会でも教会でもいろいろな集いや催しがなされた。自分自身、五十年という大切な節目をきちんと整理できたかどうか心もとない気がする。政治家は相も変わらず、先の戦争を肯定し、発言撤回、辞任を繰り返した。国会でも侵略したアジアの国々への謝罪と補償を明確にしない「不戦決議」が出された。元日本軍強制慰安婦には国と国の賠償はすでに済んでいるとして、謝罪も補償もせず、民間募金による「見舞金」活動がなされた。これは彼女たちにとっては二重の侮辱であった。在沖縄米兵による少女暴行事件によって、米軍基地使用の問題、日米地位協定の問題が浮き彫りにされ、日米安保の見直しに関心が高まった。また、教会でも司教団による「平和への決意」教書をはじめ、戦争体験者の証言を聞く会や戦時中のカトリック教会の対応を振り返る学習会、平和巡礼、平和祈願祭等が行われた。

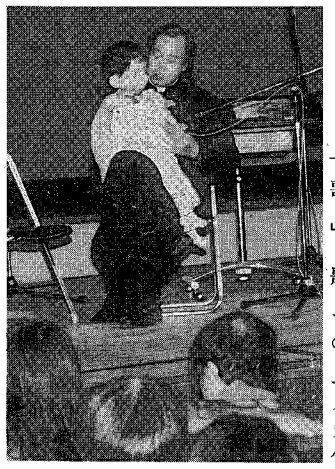
このような動きの中で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです」という一九八一年の教皇ヨハネ・パウロ二世の言葉がいつも心の中に響いていた。過去の歴史の背景となった思想や状況の認識を深めることである。歴史の見直しをすることによって、同じ過ちを二度と繰り返さないための知恵を得ることができるし、現在の社会の動きがどの方向に行っているのか、将来どのような社会を目指していこうとするのかといった展望を持つことができる。例えば、戦時中の日本の指導者はアジアの国国を侵略したが、これは欧米の支配からの解放であり、大東亜共栄圏を築くためといって、戦争を正当化した歴史があった。国民は正しい情報を知らされなかったし、カトリック教会も預言者の役割を忘った。そして現在、日本はアジアの国々を軍事力ではなく経済力によって支配している。フィリピンでは、フィリピンの軍隊を使って住民を追い出し、日本企業の工場を建てている。日本のODAは、現地の住民のためではなく、日本企業と現地の政府、資本家のために使われている。このことを私たちは知らされていないし、知る努力をしていない。また同じ過ちを犯している。平和のための学習や活動は、昨年で終わりではなく、これからも継続していくことが大切である。

小倉教会　中村彰神父

メッセージ"ことば"

福岡市民クリスマス

十二月十一日（月）午後六時三十分より、福岡市民会館で恒例の「福岡市民クリスマス」が行われ、約千人の市民が集まり、喜びを共にした。



今年は大楠教会の下町豊重神父が「まいごの羊をみつけるために」と題し、腹話術と紙芝居でわかりやすく語りかけ、「クリスマスは私たち人間がイエス様にプレゼントをする時です。それは私たちの温かい心、隣人を大切にする心です」そして「神様は私たちが正しい道を歩むように望んでいます。この神様の気持ちに応えて生きるよう努めましょう」と結んだ（＝写真）。

また、バプテスト教会所属の婦人たちのグループの美しい賛美の歌声が参加者の心を前半のテーマ、礼拝へ導いた。さらに、参加者全員も賛美歌を数曲歌って、クリスマスの雰囲気を盛り上げた。

プログラムの後半は元NHK歌のお姉さんで福音歌手の森祐理さんの「クリスマスを歌う」と題してのリサイタルで、クリスマスの曲を中心に十数曲を、クリスマスについての話や手話を用いた歌等を歌の合間に交え、参加者と対話しながら披露された。

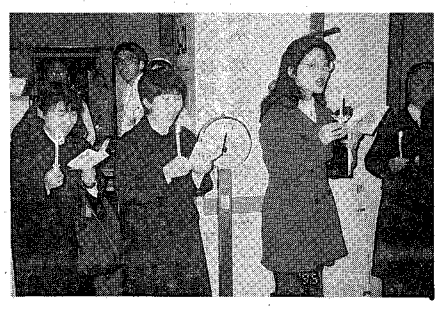
最後に、参加者全員による「きよしこの夜」で終了した。

実行委員　櫻井尚明神父

聖マリア病院の合同クリスマス

聖マリア病院（久留米市）では、毎年クリスマスを患者さん、地域の方々、関係法人職員、看護学生、久留米信愛女学院学生とシスターの皆さんが一緒になって、福岡市の大名町教会より移築された赤煉瓦造りの「雪の聖母聖堂」でお祝いしています。今回からは新築された老人保健施設「聖母の家」（お年寄りの自立を支援し家庭への復帰を目指す事を目的とする施設）の入所、通所の方々とともに、聖マリア医療福祉専門学校の介護学生も加わりました。

聖マリア病院の尹汝沃（ユン　ヨウヨク）神父様を中心に福岡教区内（筑後地域内外）教会の九人の神父様方や大勢の方のご協力を得て、二十五日の午後三時より三部構成のプログラムで、第一部はパイプオルガン、バイオリン演奏とコーラスのコンサート、第二部はミサ、第三部は神父様を中心に医師、看護職員、看護・介護学生、有志の皆さんが六つのグループに分かれて聖歌を歌いながら、照明をおとした病室に小さなクリスマスプレゼントをお届けするキャンドルサービスを行いました（＝写真）。



ずいぶん冷え込み雪もちらついた一日でしたが、聖堂にはカトリックの洗礼を受けた方もそうでない方も大勢が集まり御降誕を祝いました。多くの患者さんにとっておそらくはいつもの年とは違う「病院」でのクリスマスですが、それぞれの心にそれぞれの形で記憶に残るものとなったのではないかと思います。

聖マリア病院院長　井手道雄

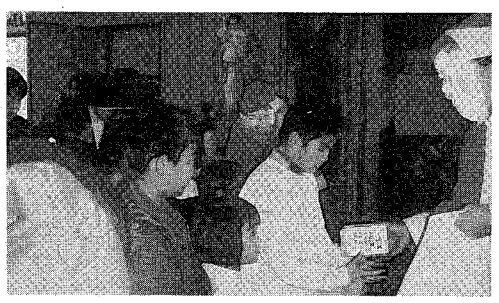
神と人間の距離がより近くなった日

―新田原のクリスマス―

十二月二十三日、新田原教会では子どもたちのクリスマス会が聖堂で行われた。

校区の子どもたちを呼んでのクリスマス会は約三百人を数え、一杯になった聖堂には喜びの声がこだましました。

第一部はキャンドルの集いで、ろうそくを持った侍者を伴う司祭（竹森勇神父）が厳かに入堂した。救い主に因んだ旧・新約聖書が読まれ、「クリスマスは世界中が一番歓喜する日、こうして共に救い主の誕生をお祝いできて嬉しい。目には見えない神が目に見えるかたちでお出でになり、全ての人の心に平和をもたらしてくださった記念日、神と人間の距離が近くなったように感じた一日でした。



大神学生　日高　弘

聖書の舞台を旅して ④

シナイ山に登って

前日バスの窓から見ただけで、大変な岩山だとは覚悟していましたが、実際に夜明け前にラクダにのって月の岩山を登り始めると、大変さがよくわかりました。道がごつごつしているので大きく揺れます。とうとうラクダが登れない所からは徒歩。各国語の聖歌が流れる中で、足元を照らす光の列が山頂に向かって移動していく様は、大変厳かな気持ちにしてくれました。

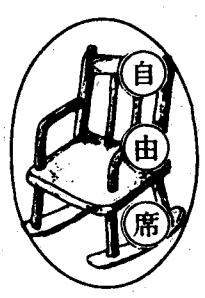
山頂に着くと、ギリシア正教の礼拝堂で、ちょうどマグダラの聖マリアの荘厳なミサがささげられていました。中に入って与かっていると、朗読の後で突然内陣から男の人が歩いて来て、ギリシア正教かどうかを尋ねました。「ローマカトリックです」と答えると、出口のほうを指さして「どうぞ」と言われてしまいました。外に出ると、登ってきた巡礼の人たちはそれぞれ自分たちの言葉で聖歌を歌っていました。私たちの巡礼団も予定通り山頂で集合し、モーセが見たであろう絶景にみとれていました（＝写真）。



エリアの泉まで下って高見三明神父様のミサに与かり、モーセの契約の土地で新しい契約をお祝いしました。麓でカタリナ修道院の聖堂に入ると、イコンの前で熱心に祈る巡礼者の真剣な姿がありました。祈りの大切さを身にしみて感じた一日でした。

大神学生　日高　弘

早春のデュエット



島　義三

公園に向かう小径に早春の微風が流れる、少し冷たい。

郁とした香りが残る。生けがきの向こうに白梅が一輪微かに揺れている。このリズムが良い。落椿のふわふわとした花弁が二つ三つ。無意識のうちによけて通る。

垣根沿いの狭い小道を、いつもの中年婦人が珍しく竹ぼうきで掃いている。軽く会釈をしながら通り過ぎようとすると、「お邪魔さまです」と挨拶された。「こちらこそ…」と心の中でつぶやいた。

薄雲が流れている。あの雲はどこへ行くのだろうか。北国か。大学を出たばかりの横浜の孫娘が札幌に就職して初めての越冬だ。この間の電話では、送った福岡教区報を見たので、車で函館のトラピスト修道院に行って来たと言っていた。いつもイエス様とデュエットでいて欲しい。

デュエットと言えば、神様は「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」（創2・18）と仰言ってアダムのためにイヴを造られた。この言葉の始まりかも知れないと想像してみる。

少し上り坂になってきた。不思議なほどリズミカルに歩けるのだ。雪山、湿原、沢、岩場、都会を八十四年間この足で歩いて来たのだから、きっと神様は私に高級車の代わりにこの長持ちする超電子機能を備えた足を与えてくださったのかも知れない。この足には税金がかからない。公害もない。車庫もいらない。人をはねる心配もない。ありがとうございます。ことしも神様とデュエットで。

浄水通教会

日本カトリック研修センター（出張コース）
「共同体のための聖書活用　7ステップ法」
会場：福岡黙想の家　（2泊3日）
日時：2月23日㈮午後4時～25日㈰午後1時半
対象：信徒、修道者、司祭　／　費用：2万円
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

かれています。彼らの顔は、現代においてもなお続いている貧困のさまざまな現実をしっかりと受けとめるようにと、私たちをつき動かします。

…福音は、困難な状態におかれた人々に対して、救い主が特に慈しみ深いことを明らかにしています。イエスは、彼らに神の国について語り、救いを求める人々の心身をいやされました。イエスは弟子たちに「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」（マタイ14:16）と言われます。

…私たちに何ができるでしょうか。彼らの今の状態をそのままにして、無力の中であきらめに身を任せるのでしょうか。これこそ、四旬節のはじめにあたって私が信者の一人ひとりに、そして教会全体に差し出したい問いなのです。

…飢餓は人間性をさいなむ大きな悲劇です。私たちは緊急にこの事実を認め、政府や国際的な救援計画の手が届かない人々のことを特に考慮し、飢餓によって死の危険にさらされている人々の苦しみを和らげるために設立されたさまざまな組織や運動体に、寛大で確固とした支援を提供する必要があります。

…本物のキリスト教的な連帯とは、単なる一時的な感情ではありません。連帯は、子どものころからの忍耐強く責任ある養成があって初めて、私たちのすべての行為と責任の範囲に影響を及ぼす基本的で人間的な態度となります。

…愛する兄弟姉妹の皆さん。私は、皆さんが司牧者の導きのもとに、個人としても共同体としても、ここに述べた事柄を深く思い巡らすことができるように、この四旬節の黙想を皆さんに託します。私は、あなた方の手元にあるわずかなパンと魚を増やすことができるように、意味のある実際的な措置を取るように強く勧めます。これは、さまざまな形態の飢餓に対する効果的な援助を提供するものとなり、回心と和解の季節であるこの四旬節という摂理に満ちた期間を生きる真の道となるでしょう。［訳：日本カトリック研究所］

†聖マリアの連願（連祷）について†

今後「聖マリアの連願（連祷）」を唱えるときには、《ロザリオの元后》と《平和の元后》の間に《家庭の元后》を挿入してくださるようにお願いいたします。教皇庁典礼秘跡省からの通達がありました。

日本カトリック研修センター・プログラム

◎カテキスタ初期養成の集い
―要理教師を志すあなたに！！

テーマ：家庭と信仰―日時：2月16日（金）16時～18日（日）13時／場所：日本カトリック研修センター／対象：教会学校リーダー・カテキスタおよび志望者／費用：20,000円（税別）テーマ：講師①教会とカテキスタ：Bp.島本要（長崎大司教）②信仰教育とその方法：Fr. 野下千年（日本カトリック研修センター所長）③子どもの信仰教育―クラスの運び方：Sr. 景山あき子（援助修道会会員）④子どもたちと賛美の歌を：新垣壬敏（白百合女子大教授・作曲家）

◎共同体のための聖書活用
―研修センター出張コース―

テーマ：7ステップ法による聖書の活用
7ステップは現在世界的に注目をあびているダイナミックな「聖書の読み方」。復活のキリストの現存を個人・グループ・教会共同体に強く反映させ、使徒職遂行の精神的基礎を据える。
日時：2月23日（金）16時～25日（日）13時／場所：**カトリック福岡黙想の家**／対象：信徒、修道者、司祭／指導：日本カトリック研修センタースタッフ・Fr.山元眞／費用：20,000円

☆問合先：日本カトリック研修センター研究企画部　〒466　名古屋市昭和区広路町隼人　30
TEL　052(831)5037　FAX　052(831)5317

◆編集部から◆

教区報編集部では、4月号からコンピューターによる編集を計画しています。コンピューター（マッキントッシュ／ページメーカーまたはクオークエキスプレス）の使える方、編集作業に参加してみませんか？事務局のFr. 山元まで（☎092-522-5139）ご連絡ください。お待ちしております。なお、これを機会に新しい企画を準備しています。小教区、諸団体などで行事予定等、掲載を希望される方は、郵送またはFAX（092-523-2152）で要項をお知らせください。締切は毎月20日です。なお、紙面の都合等ですべて掲載できないことがあります。その点はご了承ください。掲載については編集部にまかせていただきます。

CROSSROAD No.21/1996

くろすろんど II

わたしの情報は　みんなの情報

CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

2月

1日（木）福岡結婚準備セミナー①［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ19時］
2日（金）主の奉献
4日（日）出会いの集い［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ10時30分］
5日（月）日本26聖人殉教者
熊本結婚準備セミナー①［手取教会19時］
6日（火）◆司祭評議会［司教館別館10時30分］
◆教区顧問会［司教館本館15時］
福岡地区短期キリスト教講座②［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ10時／19時］
11日（日）ルルドの聖母　世界病者の日
14日（水）DARC女性ﾊｳｽ九州バレンタイン［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ17時30分］
†J. オマラ［荒尾1974年］
17日（土）†J. ボア［黒崎1957年］
18日（日）◆小倉カトリック幼稚園創立50周年記念行事［小倉カトリック幼稚園13時］
教区信徒協定例役員会［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ14時］
21日（水）灰の水曜日（大斎・小斎）
22日（木）†F. ベルトラン［門司港1940年］
23日（金）日本カトリック研修センター出張コース「共同体のための聖書活用」［黙想の家16時～25日］
†パウロ糸永武男［今村1992年］
25日（日）四旬節第1主日
◆帯山教会堅信式
典礼聖歌の集い［西新教会13時］
26日（月）今村信徒発見記念日
†F. ドルエ［八王寺1983年］
†G. オーブリ［大神学院1985年］
28日（水）ダルク「追悼と感謝のミサ」［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ19時］

◆　司教日程　†　司祭命日

＊［2月5日］日本26聖人殉教者

2月5日は、迫害を受けて長崎で殉教した日本26聖人殉教者の祝日です。この祝日は、全世界共通の教会暦では「聖パウロ三木と同志殉教者」という名称で「記念日」として2月6日に祝われます。しかし、日本にとってはとくにゆかりの深い殉教者の記念日であるため、26人が殉教した2月5日に日付を移し、特別に「祝日」として盛大に祝われます。そのため、本来2月5日に記念される聖アガタおとめ殉教者の記念日は、翌日の6日に移されます。［「毎日のミサ」2月号より］

3月

2日（土）†R. ミケレ［鹿島1987年］
†J. オブライエン［手取1990年］
5日（火）福岡地区短期キリスト教講座［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ10時／19時：最終回］
6日（水）†H. ジョリ［久留米1966年］
7日（木）松永司教誕生日
10日（日）典礼・聖歌と祈りの集い［黙想の家14時］
12日（水）†F.M. ヴェイヨン［唐津1973年］
16日（土）†L.M. ベリボ［箱崎1977年］
17日（日）◆助祭叙階式［ｶﾃﾄﾞﾗﾙ14時］　聖パトリック
19日（火）聖ヨセフ［松永司教霊名祝日］
†M. ボネ［新田原1959年］
†J. ベラス［水俣1990年］
20日（水）◆大阪大司教叙階式
25日（月）神のお告げ
26日（火）†J. ドイル［荒尾1962年］
†J. ムルグ［小倉1989年］
31日（日）受難の主日（枝の主日）　世界青年の日

◆　司教日程　†　司祭命日

＊［2月11日］世界病者の日

教皇ヨハネ・パウロ2世は、1984年のルルドの聖母の記念日（2月11日）に使徒的書簡を発表し、苦しみのキリスト教的意味について考察しました。そして翌年の2月11日には教皇庁医療使徒職評議会を開設し、さらに1993年からは2月11日を「世界病者の日」とすることを定め、毎年メッセージを発表しています。この日は、病者に対してふさわしい援助が提供され、病に苦しむ人々が自らの苦しみの意味を受け止めることができるよう助ける必要性があることを訴えること、また、ボランティア活動を支援し、医療にたずさわる人々の倫理的かつ霊的な養成を呼びかけることなどを目的としています。［ｶﾄﾘｯｸ中央協議会「毎日のミサ」1996年2月号より］

参加しませんか

◆アレグリーニ神父の「聖書を読む会」

一般の方を対象に、毎回テーマを決めて関連する聖書を読み、一緒に考えていこうという会です。もちろん、信者の方も大歓迎です。日時：毎月第1木曜日（4月まで）10時～11時30分／19時30分～21時（内容は午前と同じ）講師：Fr. アレグリーニ／場所：カトリック佐賀教会／会費：無料／問合先：カトリック佐賀教会☎0952-23-4754

◆結婚準備セミナー

【福岡】場所：カテドラル大名町教会
2月1日（木）3日（土）8日（木）10日（土）15日（木）17日（土）22日（木）24日（土）問合先：カトリック・ファミリーセンター☎092-541-6207

【熊本】場所：カトリック手取教会
2月5日（月）6日（火）12日（月）13日(火)19日（月）問合先：手取教会☎096-352-3030

◆第13回「出会いの集い」

《新春ダンスパーティー》



カナの会では結婚のための出会いを求めて、新春ダンスパーティーを企画いたしました。初心者の方、大歓迎です。どうぞ、お友達を誘ってご参加ください。
日時：2月4日（日）10時30分～16時30分（15時30分からフォークミサ）／会場：カテドラル大名町教会1階講堂［福岡市中央区大名2-7-7☎092-741-3687］／インストラクター：吉川信雄氏［光丘教会］／ミサ司式・お話：Fr. 山元眞［教区本部］／参加費：1,500円（昼食代含む）
対象：20歳以上の独身男女／申込・問合先：峯幸子☎092-861-0443／奥村浩子☎092-925-5841／安部良子☎092-512-4028（カテドラルへの問い合わせは当日以外はご遠慮下さい）／申込締切：1月29日（月）／主催：カトリック福岡司教区カナの会／後援：福岡地区信徒使徒職協議会・家庭委員会・青少年委員会

◆第3回短期キリスト教講座「生きるとは」

本当の幸せとは何でしょう／自分を大切にするとはどんなことでしょう／自分を愛するとはどんなことでしょう／温かい家庭の基になるものは何でしょう／人は何のために生きているのでしょう／ともに考え、ともに学ぶため、この講座は、あなたをお待ちしています。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターあり。日時：1月30日～3月5日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分・19時～20時45分／場所：カテドラル大名町教会1階講堂／受講料：全3,000円（1回1,000円）／日時・テーマ・講師：①1月30日・躾と教育－思春期－・Sr. 村木敏子②2月6日・外国人から見た日本人とその生活・エレーヌ・ドゥ・グロート高藤氏③2月13日・共生と自立…刑務官の体験から・畠山春秋④2月20日・ボランティアの現場から・みこころボランティアグループ⑤2月27日・日本の伝統的宗教・井手恵住職⑥3月5日・わたしとキリスト教・Fr. 塩谷恵策／主催：短期キリスト教講座福岡実行委員会／申込み：当日会場にて／問合先：教区本部（深堀）☎092-522-5139（平日10時～16時）

◆第4回お母さんの集い

《本田路津子さんの歌とメッセージ》

家事に、育児に、忙しいお母さん。少し手を休めて、幸せなひとときを共に過ごしませんか。本田路津子さんの〈清らかな歌〉と〈心にひびくお話〉が、貴女を神さまの愛の世界にいざなってくれるでしょう。どなたでもお気軽にご参加ください。心よりお待ちしています。日時：2月13日（火）10時30分～12時（受付10時15分～お早めにお越し下さい）場所：カトリック小倉教会／参加費：500円／申込締切：2月11日（日）【参加費をそえてFr. 中村彰まで】／問合先：Fr. 中村彰（小倉教会☎093-921-0093）

◆ダルク女性ハウス九州

《バレンタインTALK&LIVE》
－愛と癒しのオープンフェスター

心に決めた男性に女性から愛を告白できる日バレンタインデー。愛を求めてさまよう小羊のようにどこかによりどころを見出したい私たち…。心にたくさんの傷を負いながらも懸命に生きたいと願う私たち…。そんな女性、男性たちと集って心を通わせたい！ダルク女性ハウス九州がバレンタインデーに皆様と愛を分かち合いたいと企画したオープンフェスタです。『古賀バレエ研究所』のバレリーナ、古賀穂南美先生を迎えて,皆様と共に楽しみたいと思います.お忙しいこととは存じますが、皆様のお越しを心よりお待ちいたしております。＊古賀穂南美：バレリーナ、古典舞踊家／武蔵野音楽大学声楽科卒／お茶の水女子大学舞踊学科研究生／福岡市で古賀バレエ研究所を主催／エヴァ・カンピアーノ女史（元ウイーン大学教授）から『日本の娘』（古典舞踊家としての第一人者）といわれている。／日時：2月14日（水）17時30分～受付／場所：福岡カテドラルセンター大名町教会／参加費：2,000円（会場にて有料［300円］で軽食をご用意させていただきます）主催：DARC女性ハウス九州後援会／問合先：ダルク女性ハウス九州☎092-471-5140（九州ダルク内）

◆福岡／生と老い・死をみつめる会

①日時：2月25日（日）／川野直人氏（久山療育園園長）による講話と語り合い②日時：3月31日（日）／メモリアルサービスと語り合い／場所：カテドラル4階／問合先：大山美穂子☎FAX. 092-713-8523

◆九州ダルク《追悼と感謝のミサ》

テーマ：癒しと復活

ダルクが日本に設立されて11年が経ちました。この11年間にダルクに関った仲間の中で、約30人の若者たちがこの世を去りました。この度、九州ダルクでは、彼らの魂の安息を願って『癒しと復活』のテーマの元に追悼ミサをいたします。また、支援して下さる方々への感謝の気持ちも捧げます。この祈りの集いに参加していただければ幸いです。日時：2月28日（水）19時～21時（18時30分受付）場所：カテドラル大名町教会／参加費：無料（ミサの中で追悼献金をお願いします）／プログラム【追悼のミサ19時～20時50分】司式：Fr. 山元眞［教区本部事務局長］・ダルクの仲間の体験談・医療関係者（支援する会）の話・九州ダルク責任者の話・ダルク担当司祭の話：Fr. M. KAUSS（コース）／問合先：九州ダルク・デイケア・センター☎092-471-5140

福岡黙想の家

◎2月のスケジュール
3（土）～4（日）　援助修道会研修
6（火）人生講座⑤《情操教育とは？》
10（土）～11（日）きょうだい会
11（日）～12（月）聖母カテキスタ会
16（金）～18（日）後援会会員黙想会（國井神父指導）・総会
23（金）～25（日）日本カトリック研修センター（出張コース）
問合先：福岡黙想の家（宗像市名残　1056）
☎0940-32-3222　FAX　0940-32-3385

教皇メッセージ

◆四旬節（2月21日～）メッセージ

「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」
（マタイ14章16節）

愛する兄弟姉妹の皆さん
主は、四旬節の旅路をご自分に従って歩むようにと、もう一度私たちに呼びかけておられます。毎年、すべての信者は、個人としても共同体としても、洗礼による召し出しに再びこたえ、悔い改めの実を結ぶようにと招かれます。四旬節は、わたしたちのかかわっているあらゆる状況が福音にかなったものとなるように促し、回心を起こさせる、前向きで創造的な反省の旅路です。それは、信じる者の心を兄弟姉妹のために開かせ、彼らを神に導く愛の旅路なのです。イエスは、愛に生き愛を広めることを、弟子たちに求められました。
…私たちは、飢え、渇き、病み、見捨てられ、移住する人々に毎日出会っています。この四旬節の間、私たちは、このような人々の顔に刻み込まれた苦悩に、よりいっそう心をとめるようにと招

生命山カトリック別院

美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしてみませんか。

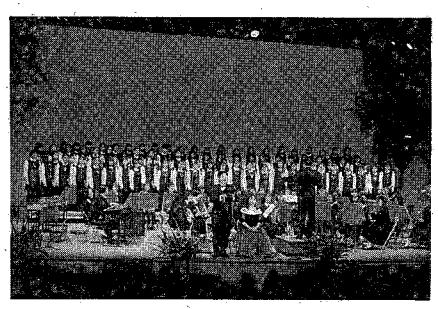
《黙想会》
日時：3月24日（日）17時～4月1日（月）朝ミサ後
場所：生命山カトリック別院
参加費：45,000円

《接心》
日時：3月19日（火）16時～21日（木）14時
参加費：10,000円
問合先：生命山カトリック別院
〒865-01熊本県玉名郡菊水町蚊浦1391-7
☎0968-85-3100　FAX　0968-85-3186
★昨年は聖ザベリオ宣教会の創立100周年にあたり、各地で記念行事が行われました。この記念すべき年の最後を飾るよろこばしい出来事として、同宣教会創立者、グイド・マリア・コンフォルティ司教の列福式が3月17日にローマで行われます。

信愛クリスマス

街がジングルベル一色になる季節。石橋文化ホール（久留米市）でもクリスマスを祝う行事が十二月十五日、十六日の二日間にわたり盛大に行われた。幼きイエズス修道会が設立母体である久留米信愛女学院の信愛クリスマスがそれである。毎年、幼稚園、中、高、短大生、教職員の約一九〇〇人が御降誕祭を祝っているが、今回は学院創立三十五周年記念にあたるため、華やかで素敵なクリスマスになった。

オペラに中・高生の合唱をからめたオラトリオ「メサイア」は、重厚で壮大なオープニングとなった（＝写真）。



園児たちのマーチングや合唱では、舞台せましと駆けめぐる姿に圧倒されそうなくらいのエネルギーを感じた。場内にサンタが登場すると「わーっ」と歓声があがり、あっという間に二重三重の園児の輪。そしてどこまでもあとをついていく子どもたち。もしこのサンタがイエス様だったら、われ先にと無邪気にかけよるのは私たち大人なのだろうと想像してしまう。

本学院短大教授たかしよいち原作のアニメ「おにがら」も上映され、フィナーレは幼きイエズス修道会創立者メール・アンティエ物語が創作新体操で演じられた。シスター方の目に光るものがあったのは、メール・アンティエに自分の姿をだぶらせて見ていたからかも知れない。

こうして、二日間の信愛クリスマスは無事終了した。外は、寒さが身にしみるほどの冷気であったが、会場をあとにする子どもたちの手には、いただいたプレゼントがしっかりと握りしめられ、主の御降誕をみんなで祝うことができたことの喜びは、会場を後にした皆さんの笑顔の中にしっかりと見て取れた。

久留米信愛女学院短大
山内隆寛

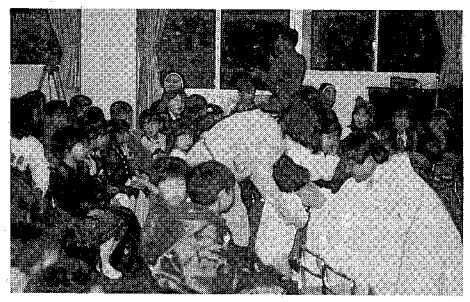
神道一口メモ ⑫

森山敬三

五節供は中国から伝わって徳川幕府によって定められたもの。人日（正月七日）七草粥を食べて健康を祈る。上巳（じょうし）（三月三日）曲水の宴や、罪を雛にきさせて流し雛、これが江戸時代の三段、五段の雛祭りとなった。端午（五月五日）男の子の節供。七夕（七月七日）乞巧尊（きこうでん）ともいい、女子が手芸の上達を祈る。重陽（九月九日）菊の節供、不老長寿を祈る。

X'masを共に祈る

聖心のウルスラ宣教女修道会経営の聖心ウルスラ幼稚園では、開園以来毎年、白ゆり会（卒園生対象の日曜学校）主催で、クリスマスのミサが捧げられています。今回も十二月二十四日午後七時より幼稚園大ホールで、山元眞神父様の司式により、卒園生親子、在園児親子、地域の人々と共に、主の降誕のミサが捧げられました。ミサの中で神父様は、「今日、皆さんの中にキリスト様はお生まれになりました。皆さんがお友だちや困っている人にする小さな愛の行いは、キリスト様にしていることです」と話され、参加者一人一人は、按手と祝福をいただき（＝写真）、喜びと感謝でいっぱいでした。



ミサの後、ステージいっぱいに造られた馬小屋と、修道院の聖堂に造られた馬小屋の前で、敬けんに祈る親子の姿がとても印象的でした。「クリスマスのイブに降誕のミサに与かり、親子で一緒に祈れることは最高のお恵みです」「毎年、慌ただしさの中で生活しているだけに、今まで何か大切なものを見失っていました。家族で祈るひと時がもてて、うれしい」と参加された父兄の声がありました。

『主は、一人一人の中にお生まれになった』。

私たちの宣教活動が出会う人々にキリストの愛を伝え、地域に開かれた宣教の場となりますように。

ウルスラ宣教女修道会

国際色ゆたかに

司牧センター クリスマス

美野島司牧センターのクリスマスには多くの人が集まりました。

第一部チャリティコンサート、第二部降誕ミサ、第三部パーティと時間も七―八時間に及びました。これらのほとんどをペルー人を中心とした外国人労働者たち自身が、企画、準備、実行したのです。

会場となったセンター二階の大ホールは二百人もの人々であふれんばかりでした。チャリティコンサートはメキシコ人の夫を亡くした、ある日本人の妻とその子どもたちを励まし支援するためのものでした。華やかな衣裳でメキシコ人のフラメンコ（＝写真）やペルー人のダンス、その後はペルー人と日本人の音楽グループの歌と演奏で、会場も一体となって楽しみました。

第二部のミサは一転して、静かに厳かに始まりました。手にろうそくを持ち、美しい「聖夜」のメロディと共にガブリエル神父さん、セトワイン神父さん、モラレス神父さんと私は祭壇に立ちました。国境を越え、信条を越えて共に主のご降誕の喜びを分かち合いました。歌も朗読もスペイン語と日本語の両方で行われました。

ミサの後は第三部、ペルー人女性たち手作りのペルー料理でたのしいパーティです。



幼稚園のできごと

八代白百合幼稚園

「藺草（いぐさ）」の生産地としては日本一、巨大な実と芳香、その味を誇る「晩白油（ばんぺいゆ）」の唯一の特産地、ここ八代に、当時の八代成美高等女学校（現八代白百合学園高等学校）の生徒が自分たちの弟妹を通園させたいとの要望によって、昭和三十年に本園が開設されて以来、現在までに一七三九人の卒園生を送り出しています。

毎年、十二月の第三日曜日は、恒例のクリスマス同窓会を開きます。卒園小学生を対象に、案内状を送りその卒園生の出席を皆で心待ちしながら、あれこれ準備に追われます。平成七年度は卒園児一四八人が出席し、各々に成長した小学生を迎えて、職員一同、驚きと喜びのひと時でした。会はクリスマスの聖歌、お祈り、聖書朗読、各種ゲーム等ですが、中には、幼稚園時代のクリスマス献金を覚えていて、工夫した箱や袋に入れて持参し、自主的に馬小屋のイエス様に捧げる小学生もいます。

今回は特に質問をしてみました。「小学校で何が一番楽しいですか？」。答えはさまざまで、「休み時間に思いっきり遊ぶのが一番楽しい」が目立っていました。「今、何が一番大切だと思いますか？」の問いには「勉強も大切だがそれより心を大切にしなければいけない」の答えがあり、その「心」については「『いじめ』がないことだと思います」と、きっぱり答えた友だちの発言に「うん」「うん」「そうだ」「そうだ」の賛同の声があちこちから力強くあがり、改めて、皆が馬小屋の幼いイエス様の前で、キリストの平和のメッセージをしっかり受けとめた次第でした。

来年の再会を楽しみにしながら帰っていく小学生を見送りつつ、福音の小さい芽生えのお恵みを深く感謝したことでした。

Sr. 田川悦子

福岡カトリック神学院生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院（〒810　福岡市中央区浄水通38　☎092－531－6821）までご連絡ください。

【入学条件】

①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）

②主任司祭の推薦が必要

※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

院長　森山　信三

福岡サン・スルピス大神学院入学案内

資　格　カトリック司祭になる意志を持っているカトリック男子 高等学校卒業以上の学歴（受洗後3年以上経過）

手続き　所属教区司教の推薦、所属小教区主任司祭が小神学校長推薦、洗礼・堅信等の書類提出

試　験　日時 1996年2月1日㈭・2日㈮ 科目　国語・英語・ラテン語・カトリック要理・小論文・面接

福岡サン・スルピス大神学校

☎　092－871－4943

FAX 092－863－6329

院長　高見　三明

カトリック神学院基金へのご寄付

一、故ペトロ平田房刀様の香典返しとして、フミヨ様より一、故ヨセフ白石一様の香典返しとして、よし様より一、故ヨゼフ片岡勇様の香典返しとして、チエ様より神学院に金一封をご寄付いただきました。

故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡カトリック神学院
森山信三

おわび

一月号2面の新年の挨拶の欄で、玉名教会と主任司祭M・ルイジ神父様の名前を載せていませんでしたので心よりおわび致します。

BOOK 読みま専科

★ちょっと聖書を（ルカ福音書を読む）

山本襄治著



ルカ福音書に基づいたやさしい聖書の話。「心のともしび」で放送されたものです。ルカ福音書は「慈悲の福音」罪びとに対するイエスの愛を表すエピソードが、数多く述べられています。

強い人に、弱い人に、調子のいいときに、悪いときに、それぞれの場面でイエスは救いのメッセージを語りかけてくださいます。

この本は世紀末の日本、わたしたちに多くの示唆を与えてくれるに違いありません。

女子パウロ会　一四〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石のオブジェ
理想の影の石
大御所の石他
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど


ご聖体の祝福を受ける病者と介護の人々　ーフランス・ルルドー

†††　世界病者の日　2月11日

マリアは病者介護の模範です

教皇ヨハネ・パウロ2世メッセージ

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九六年二月十一日の第四回「世界病者の日」に向けて、「マリアは病者介護の模範です」と題するメッセージをイタリア語で発表した。「世界病者の日」は、一九九二年に現教皇が制定したもので、全世界のカトリック信者が心身に苦しみを持つ人々の痛みを分かち、熟考し、祈ることを目的としている。これまで「世界病者の日」の記念式典はフランスのルルド、ポーランドのチェストコワ、そしてコートジボワールのヤムスクロで行われてきたが、第四回目の記念式典は、メキシコの「グアダルペの聖母聖堂」で行われる。

…「世界病者の日」の準備をするにあたって、わたしは、人間の苦しみの代表ともいえる病を肉体的にも精神的にも耐え忍んでいる人々にこのメッセージを送ります。また同様に、病者に兄弟的奉仕をすることで、救い主に完全に従おうと努めているすべて人にも、このメッセージを送ります。実に「キリストが父からつかわされたのは『貧しい人人に福音をもたらし、心の傷ついた人々をいやし』（ルカ4・18参照）、『失われたものを捜して救う』（ルカ19・10参照）ためです。同じく教会も、人間的弱さに苦しむすべての人を愛をもって包み、さらに貧しい人や苦しむ人のうちに、貧しく苦しんだその創立者の姿を認めます」（『教会憲章』8項）。…それぞれ異なった形で苦しみを経験してきている兄弟姉妹の皆さん、あなたがたは人類の苦しみと慈しみの母であるマリアの導きのうちに新しい福音宣教における特別な使命に呼ばれています。あなたがたは試練に満ちた日々の旅路にあって、歩みを共にしている医療関係者、家族、ボランティアの方々に支えられながら、この困難なあかしを続けています。…苦しんでいるすべての人の上に、わたしは、マリアの母としての助けがあるようにと祈ります。

＊全文希望の方は事務局まで
☎092－522－5139

お母さんの集い

小倉教会

「ヤングママの集い…いいな、福岡の人たちは。北九州にもあったらいいのに。自分たちでつくろうか。そうしよう！」

こんな会話から小倉教会のお母さんの集いは誕生しました。

月一回の例会。年三回の講演会。中村神父様を中心に、若いお母さんたちに安心して集える場を提供したいと、がむしゃらに頑張った一年でした。二年目にはいり、私たちスタッフにも少しばかり心のゆとりができました。

これからも若い元気な意見を自由に出し合って、魅力的な集いを作っていきたいと思っています。興味を抱かれた方、ぜひ「お母さんの集い」にご参加ください。

・第四回お母さんの集い
・日時　2月13日（火）
　10時30分～12時
・場所　カトリック小倉教会
・内容　本田路津子さんの歌とメッセージ
・参加費　500円
・問合先　中村神父（☎093－921－0093）


「お母さんの集い」のスタッフの皆さん

《くいず》

チッす。かにしマッす動」にまけ2うう。のりだ「よょ本あ本てるし7が1しなま

【前号のこたえ】
①飛行機のけむり
②しっぽのとげが多い
③恐竜の足のもようが多い
④ビルのまどが少ない
⑤手のかたち


花岡山
殉教祭
1996. 4. 14

編集後記

あっという間の一年も始まった。もう二月、歳もひとつ多くなる。しかし、天国で新しく生まれるための準備と考えれば早く歳をとってもいいのでは。しかし、まだまだ未練が多い。この世で幸せな時が続けばよい。この新聞紙も死聞紙にならないようにしなければ。

ー神父と僧侶の往復書簡ー

心のシルクロード





佐賀新聞に連載されていたA・アレグリーニ神父（佐賀・ロザリオの園）と井手恵住職（伊万里・浄土真宗西念寺）との往復書簡が本になりました！　A5判、232ページ、定価一三〇〇円（税込み）取り扱い／佐賀新聞社出版部
☎0952－28－2152

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

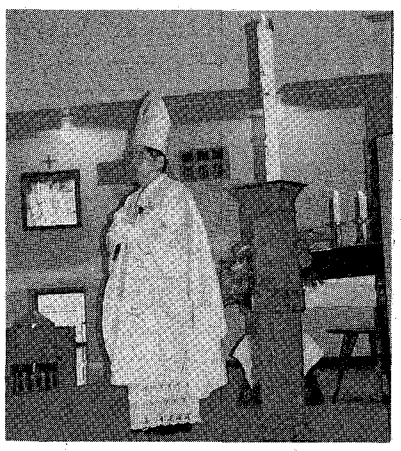
カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座 01760－6－20729
定価一部60円

四旬節教書

基本的なわざの実践を

「償いの業について」
断食・祈り・施しが伝統

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は、四旬節を迎える教区民に対し、四旬節教書「償いの業について」を贈り、この季節の償いの業への意識を促した。



灰の水曜日（二月二十一日）から始まった四旬節にあたり、教区長松永司教は、四旬節教書「償いの業について」を出された。

これは、第二バチカン公会議が、復活を祝う準備の期間として四旬節を過ごすよう促していることを考え、信者として特に大切な業を果たしていくようにとの心構えを、特別な思いで、具体的に司教が伝えたものである。

その内容は、「断食・苦行」「祈り」「施し・隣人への愛の業」「償いのこころとその実践」である。信者一人ひとりが、今一度生活のなかで、しかも見えるかたちで果たしてほしいという気持ちが如実に述べられている。

伝統的なこの三つの業は、いわば、信者生活の基本的な振り返ること、そして必ずメタノイヤ（回心）が前提とされているのである。

この「時」に当たって、私たち信徒一人ひとりに、個人として、共同体の構成員として、更には小教区、教区を超えた分野にまで及ぼすよう召されている信徒使徒職の使命を、これまで、どれだけ「心を尽くし」「力を尽くし」て果たそうと努めたかを、静かに反省している次第である。

昨今、世の「宗教的無関心」の結果として現れている社会の諸現象を見るにつけても、「神の協力者であるキリスト者」が、今こそ信者としての共同責任を感じ、神の支えと助力の下に、祈り、働くことが要請されている時ではないだろうか。

私たちが「一つの体」として、一致してその使命を遂行するために、共通認識を深め、具体的行動指針を見いだすために、司牧者と信徒とのより「親しい交わり」、特に、公式の対話の場を可能な限り醸成していくことが、緊急の課題だと思うのである。

時のしるしを読みとり、「今」こそ私にとっても、「回心の喜び」「新しい出発の喜び」の時としたい。

（古賀教会）

（教書全文は3面に掲載）

今月のみことば

十字架のことばは
私たちにとって神の力です
（一コリント1・18）

西新教会　平田　敬神父

時の話題

井上　元之

さる会合で、本年一九九六年は福岡教区信徒使徒職協議会が発足して二十五周年に当たることを教えられ、私の不明を恥ずかしく思ったのだった。

そう言えば今年は第二バチカン公会議の結実の一つとして、「教会の使命において、信徒が固有な、また絶対に必要な役割をもっていること」が再確認され、「信徒使徒職に関する教令」が発布されて三十一年目になる。更には、教皇書簡『紀元二〇〇〇年の到来』や、松永久次郎司教様の年頭メッセージにも教示されているように、大聖年を迎えるための、事前準備段階最後の年に当たっている。

このようなことを考えていると、時というものが、物理的に連続して流れる時間の経過としてだけでなく、「今」に濃縮され、熟成され、高揚されて質的に転換した「熟時」とも言うべき「時」があることに気づかされるのである。そして、「時」は私たちにとっていつも新しい出発の時であり、それにはいつも過去をされている信徒使徒職の使命を、これまで、どれだけ「心を尽くし」「力を尽くし」て果たそうと努めたかを、静かに反省している次第である。

昨今、世の「宗教的無関心」の結果として現れている社会の諸現象を見るにつけても、

時のしるし

創立五十周年を祝う
小倉カトリック幼稚園

小倉カトリック幼稚園は今年、創立五十周年を迎えた。戦後の廃墟の中で幼児教育を始め、これまで約七千人の卒園生を送り出した。大切な節目に当たり、これまでの歩みを感謝のうちに振り返り、これからの歩みを感謝のうちに始めるために、テーマを『感謝』、サブテーマを『愛を育み、愛に支えられて』とし、記念行事が催された。

行事の一環として、昨年の幼稚園夏休み期間中に園舎の工事が行われた。痛んでいた床や廊下などが改装された。また、靴箱、遊具棚などが新規購入された。

昨年十月には、園児・保護者・職員が一体となり、感謝バザーが行われた。ここでは特に、「五十周年の歩みの部屋」を設け、思いでに残る写真が展示された。

今年、一月には幼稚園の過去と現在、未来の橋渡し役として記念誌が発行された。



二月十六日には、園児・保護者と共に創立五十周年のお祝い式が行われた。お祝い式の後、山元眞神父による記念講演が行われた。『いじめの問題』をテーマに、その根本的な解決は家庭にあると話された。

そして、二月十八日には来賓を招いて記念式典・祝賀会が行われた。

式典の初めに、松永久次郎司教による園舎の祝別が行われた（＝写真）。来賓として末吉北九州市長も来られ、「この地域で長年幼児教育に貢献されたことに感謝したい」と祝辞を述べられた。祝賀会では会食をしながら、旧交を暖め合う光景が見られた。

園長の岩永義人神父は、神と関係者に感謝を表し、これからも幼稚園に対する理解と協力を願った。

殉教者をしのぶ
花岡山

花岡山殉教祭が四月十四日の午後二時に行われる。場所は熊本市の花岡山中腹にある「花岡山殉教者墓地」。

殉教者マリア加賀山みやの墓碑が近くにある。この付近は遺体が埋葬されている世界でも稀な殉教者の聖なる墓域である。この殉教者墓地で松永久次郎司教司式ミサが捧げられる。

異動

【宗教法人カトリック福岡司教区】▽教区顧問・評議員（佐賀教会主任）M・タルディフ（＝一月九日付）▽武雄教会主任（ミラノ外国宣教会甲府教会）A・ベッラ（＝一月十四日付）▽本郷教会主任（小倉教会主任）岩永義人▽大楠教会主任・高宮カトリック幼稚園副園長兼任（小倉教会助任）中村彰▽小倉教会主任・小倉カトリック幼稚園、宮の尾カトリック幼稚園園長兼任（湯川教会主任）平田寛▽湯川教会主任・湯川カトリック幼稚園、聖母園園長兼任（行橋教会主任）浦俊雄▽行橋教会主任（本郷教会主任）川上惣一▽門司教会主任（大楠教会主任）下町豊重▽大牟田教会主任・大牟田天使、吉野天使幼稚園園長兼任（福岡カトリック神学院院長）森山信三▽小倉教会助任・小倉カトリック幼稚園、宮の尾カトリック幼稚園副園長兼任（大牟田教会主任）平田三好▽福岡カトリック神学院院長（事務局長兼任）山元眞▽高宮カトリック幼稚園園長（教区会計兼任）松井忠之（＝四月一日付）

【学校法人福岡カトリック学園】門司聖母幼稚園園長（高宮カトリック幼稚園園長）下町豊重▽行橋カトリック幼稚園園長（吉野天使幼稚園園長）川上惣一（＝四月一日付）

【助祭叙階式】

このたび、福岡教区では、神の恩恵とご配慮の中で、沢山の方々のお祈りとご支援により、来る三月十七日（日）に助祭叙階式を挙行することになりました。

受階者は、牧山美好氏（糸島教会出身）と田中重治氏（西新教会出身）の二人です。

今後は新助祭が一層自己の使命を認識し、その重責を最後まで果たしていくことができますようにお祈りを賜りますようお願い申し上げます。

カトリック福岡司教区　教区長　ヨセフ　松永久次郎
☆日時　三月十七日（日）　午後二時
☆場所　福岡教区カテドラル（大名町教会）
☆司式　ヨセフ　松永久次郎司教

みちくさ

A君は母親を亡くした。体も弱く、父親では育てられないというので、施設に入れられた。そこは精神薄弱児の施設。数年たった。そこを出て社会で働いて生きていかねばならない彼に、「ここを出るまでに、この子にお金の大切さを教えてあげねばならない」とやっきになっていた職員が「ここに十円と百円と五百円玉があります。どれが一番大切ですか」と問う。彼は指さして、「これ」。それは十円玉だった。職員は五百円が最も大切であると教えた。何度も教えた後にあらためて聞いた。「一番大切なのは？」。彼は「これ」といって、やはり十円を指さす。あきれた職員は「何故？」と聞いた。彼は、「だって十円で大好きなお父さんと電話でお話しできるから」と答えたという。それを聞いた職員は目に涙をためて、「そうだったね」といったきり。A君は父親との連絡を電話でしていた。父親の電話の声をたよりに生きていたのである。A君にとって父親はいつまでも変わらない支柱であった。そして中をとりもつ十円玉はこの上ない彼の宝物なのである。金の価値観はそれぞれに異なる。ただ持っていればいいのではなく、どう使うかであろう▼年度の決算時期。神から頂いた多くの物心の恵みにどう応えてきただろうか。「私はあなたにこれだけのことをしてあげたよ」と言われる神の声に「お世話になりました。おかげさまでこんなになりました」と感謝の気持ちで決算書を差し出せるだろうか。最大の恵み、主のご復活も近づいてくる。この恵みを頂く前に、今一度神の恵みと自分の応えを照らし合わせよう。十円分の恵みであっても、粗雑にはできないはずである。

【S】

【奉仕者選任式】

三月十四日、サン・スルピス大神学院で選任式挙行。

☆**教会奉仕者**
一ノ瀬輝幸（長崎・飽の浦）
川口昭人（長崎・三浦町）
岡　秋美（長崎・黒　島）
上田　徹（大分・新田原）
山田良秋（長崎・浦　上）

☆**宣教奉仕者**
熊川幸徳（長崎・井持浦）
松永正勝（長崎・植　松）
小田哲也（長崎・浦　頭）
大瀬良直人（長崎・大　浦）

黙想会日程表（3月1日現在）

地区	教会名	日程	指導司祭	テーマ
福岡	糸島	3月24日	T・ドワイヤー 神父	回心とゆるしの秘跡
	今村	3月25日～27日	森山 信三 神父	キリストとともに
	大楠	3月24日	櫻井 尚明 神父	生活の中の信仰
	大牟田	3月10日	湯川 丈一 神父	回心
	小郡	3月23日～24日	牧山 勝美 神父	イエスとは誰か
	久留米	3月20日～22日	百村 等 神父	信仰生活（信仰・希望・愛）
	古賀	3月2日～3日	高見 三明 神父	四旬節の心
	笹丘	3月31日	T・ドワイヤー 神父	ゆるし
	浄水通	3月31日	戸村 修 神父	未定
	大名町	3月25日～27日	白浜 満 神父	ミサを知る
	高宮	3月10日	住田 省吾 神父	聖体について
	茶山	3月23日～24日	白浜 満 神父	地の塩・世の光
	西新	3月2日～4日	下町 豊重 神父	生活の中の信仰
	箱崎	四旬節の毎主日	主任司祭	ミサの福音のテーマ
	光丘	3月12日～14日	川添 猛 神父	キリストとその生きざまを中心にした共同体づくり
	二日市	3月15日～17日	牧山 強美 神父	信仰の喜びに生き　その証し人となろう
	本郷	3月21日～23日	櫻井 尚明 神父	信仰
	吉塚	3月16日～17日	百村 等 神父	信仰生活
	老司	3月15日～17日	カルメル 神父	「父よ、皆があなたにおいて一つになりますように」
北九州	飯塚	3月10日	未定	
	黒崎	3月8日～10日	崎浜 宏美 神父	青少年の信仰
	小倉	3月14日～16日	鵜野 泰年 神父	交わりの中で育つ信仰
	新田原	3月7日～9日	中野 裕明 神父	信仰生活
	田川	3月17日	未定	
	天神町	3月23日～26日	崎浜 宏美 神父	神様の不思議な摂理
	戸畑	3月3日～5日	川添 猛 神父	開かれた教会づくり
	水巻	3月15日～17日	中村 彰 神父	交わり
	門司	2月23日～25日	林 尚志 神父	教会：交わりの宣教共同体
	湯川	3月15日～17日	牧山 勝美 神父	共にいる
	豊津	3月29日～30日	百村 等 神父	信仰生活
	行橋	3月31日	百村 等 神父	信仰生活
	若松	3月18日～19日	山頭原太郎 神父	神との出会い
佐賀	伊万里	3月3日	牧山 強美 神父	いのちと愛
	唐津	未定		
	佐賀	3月24日	M・タルディフ 神父	回心とゆるしの秘跡
	多久	3月17日	L・マネルバ 神父	十字架の神秘
	武雄	3月31日	L・マネルバ 神父	十字架の神秘
	鹿島	3月17日	A・ベッラ 神父	復活に向けて
	鳥栖	3月9日～10日	ベルナルド 神父	過ぎ越しはミサとご聖体
	馬渡島	3月24日	畠山 七郎 神父	救い
	呼子	3月9日～10日	戸村 修 神父	未定
	松島	3月26日	百村 等 神父	信仰生活
熊本	荒尾	未定		
	大江	3月9日	ガラハ 神父	回心
	帯山	3月1日～3日	J・ハンマー 神父	キリスト教的生活の基本を考える
	菊池	未定		
	健軍	3月9日～10日	青山 玄 神父	キリシタン時代の教会と現代の教会
	崎津	3月10日	ガラハ 神父	回心
	島崎	未定		
	玉名	3月17日	杉本牧師	コロサイ人への手紙3・12～17
	手取	3月22日～24日	カルメル 神父	いのり
	人吉	未定		
	本渡	3月2日～3日	畠 基幸 神父	未定
	水俣	3月23日～24日	戸村 修 神父	未定
	武蔵ヶ丘	3月22日	鵜野 泰年 神父	宗教と信仰
	八代	3月23日～24日	山元 眞 神父	信者であること。うれしいこと？

主の復活にあずかるとは

「回心して福音を信じなさい」

この言葉は、四旬節のはじめ、頭に灰を受ける時に唱えられる祈りです。この祈りの言葉を聞いて、いつも思い出すのが「放蕩息子」のたとえ話です。なぜなら、「『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』。…何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くした…」(ルカ15・12～13)と述べられているように、彼の生き方が現代流で、恰好よさでは流行の最先端をいっているように思われるからです。

その反面、福音の教えに従って、一番回心を必要とする人に見えるからです。その「放蕩息子」が、実は私たちに例えられているのですから、本当に考えさせられます。

最近、人間の価値観が急激に変わってきています。そして、その基本となる善悪の判断基準も、内面的、いいかえれば良心的善悪から知的な損得に変わり、更に外面的な恰好よさ悪さに進んできています。しかし、いくら〝恰好よく生きよう〟としても、さほど長く続くものではありません。人間は誠実に生きてこそ、本当の生き甲斐を感じるものです。誠実に生きようと努めても、損得がからむ打算の世界では人間関係は思うようにいきません。打算を乗り越え、損得をお互いが度外視して、人と人とが心の触れ合いを感じる時、はじめて良心と愛が芽ばえます。良心と愛に芽ばえる時、人間だけの世界から神の世界に近づき、無意識の中に神と共に生き始めます。父親である神の愛情に触れた放蕩息子のように…。「お父さん、わたしは天に対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」(同15・18～19)。

私たちが〝福音を信じる〟というのはこのような生き方を始め、継続することです。この生き方の継続が、いわゆる回心です。この回心がキリストの死と復活にあやかる時、すなわち〝古い人を脱ぎ捨て新しい人を着るとき、私たちも放蕩息子のように父である神の懐にいだかれ〟心の平安と喜びのうちに主の復活を迎えることができるのではないでしょうか。

西新教会　平田敬神父

明日に向かって
―司祭評議会―

二月六日午前十時三十分から午後二時四十分まで、司教館別館5階会議室で今年度二回目の定例司祭評議会が開かれた。松永司教と十八名の司祭評議員が一同に会し、教区の諸問題など、司教から諮問された事項を検討した。

司祭研修会

教区内の全司祭を対象とした研修会が毎年開催されている。今年は六月十一日から十三日の二泊三日。今回は教区内の殉教者の足跡を辿る。

現在バチカンに列福が申請されている一八八人の殉教者の中に福岡教区内での殉教者が二十八人いる。小倉で殉教したディエゴ加賀山隼人以外はすべて熊本地区で殉教している。このことから、今回の司祭研修は、熊本で開かれることになった。

「教区割り」

第一回福音宣教推進全国会議（ナイスI）の後、「制度を考えるチーム」がカトリック中央協議会に設置された。その答申を受けて、司教団から「教区割り」について司祭に諮問されたもの。教区割りについては、地理的、経済的、人的側面からさらに検討する余地があること、信徒の考えも聞くことが必要であることなどが指摘された。

司祭の生涯養成

昨年の司祭評議会で「教区の未来を考える会」が設置され、同会から教区の諸問題が指摘されていた。今回は、その中の「司祭の生涯養成」について自由討議がなされた。

研修会などに参加する以外に、司祭同士のコミュニケーションによる養成も指摘された。今後、地域内での司祭の集まりがもたれるであろう。

センターへの協力

オブザーバーとして美野島司牧センター担当のM・コース神父が参加し、センターの活動状況の報告があった。経済的援助が求められる。

聖書の舞台を旅して（完）

私にとって、聖地巡礼は色あせない、生き生きとしたものになっている。

聖地に行って感じたことの一つに、イエス様をさがすのは大変だということがある。「一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日がくる」(ルカ21・6)との言葉どおり、今、エルサレムに、当時のまま残っているものはほとんどない。遺跡はいくつかある。例えば『嘆きの壁』である。他にも、今でも街の下から遺跡が発掘されている。というのも、彼らの建築方法は、前にあった建物を取り除かずに、その上に土を盛って新しいものを建てるため、イエス様の時代のエルサレムの街がそのまま埋まっているからである。

いずれにせよ、二千年も経つと、昔のままというものは本当に少ない。しかし、変わらないものがある。それは自然である。天候だけは今も変わらない。



「ああ、イエス様もこの暑さの中で宣教されたんだな」と感じ、イエス様の姿が偲ばれた。

ガリラヤ湖は、今も昔もほぼ変わっていないそうだが、朝早く夜明けを待っていたとき、イエス様が湖上を歩くというエピソードが、本当に身近に感じられた。それは貴重な体験であった。

みなさんに感謝しつつ、得たものをこれから生かし、分かち合っていきたいと思います。

サン・スルピス大神学生
田中重治

'96四旬節/聖週間黙想会ご案内

①3／8(金) 15:00～9日(土) 15:00　②9日(土) 16:00～10日(日) 16:00
③15日(金) 15:00～16日(土) 15:00　④16日(土) 16:00～17日(日) 16:00
⑤22日(金) 15:00～23日(土) 15:00　⑥29日(金) 15:00～30日(土) 15:00
⑦30日(土) 16:00～31日(日) 16:00　⑧4／4(木) 16:00～7日(日) 昼食まで

指導司祭：①④⑦⑧畠神父　②⑧マテオ神父　③⑤⑥ガブリエル神父

福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

一九九六年四旬節司教教書

「償いの業について」

十聖父と聖子と聖霊の御名によって、アーメン。

主キリストのご復活祭を準備する四旬節に入りました。ところで、第二バチカン公会議は四旬節について、「特に洗礼の記念と…償いとの二つによって、信者が神のことばをより熱心に聞き、また祈りに励むようにして復活秘義を祝う準備をさせるものである」(典礼憲章一〇九)と教えています。そこで今回は、四旬節は償いの季節であることを思い、「償いの業」について考えてみたいと思います。

さて断食、祈りそして施しは伝統的に、深い宗教的意味を持つものとされています(マタイ六章前半参照)。まことに、断食など苦行によって自らを律すること、祈りによって自分を神に方向づけること、そして施しによって隣人のために配慮することは、信仰から当然流れ出る行いです。そしてこの三つは償いの業としても、基本的なものなのです。

一、断食・苦行

断食によって、そして一般的には苦行によって、わたしたちは罪の償いの真心を表します。食物の節制など自分の本能の満足を自発的に抑制することで、自分が犯した罪について心から悔やんでいることを示すとともに、これらの苦行によって、自分の欲望の衝動を抑え、過去の過ちを繰り返すことのないよう自分を整えます。そしてまた、罪の残した傷痕ともいうべき悪い習慣を矯正しようと努めるのです。

苦行はまた、善の鍛練にもなります。わたしたちはたとい善意を持っていても、日頃自分をよく鍛えておかなければ、いざ実践となったとき、善を行うことに困難を感じることが少なくないものです。自分自身に怠惰の傾向があり、また善を行うことには困難がつきものだからです。わたしたちは種々の意味で弱い存在なのです。聖パウロも「(わたしは)自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです」(Iコリント九・二七)と書いています。

苦行の一番普通の形は、食事を控えることです。カトリック教会でも、一日ただ一回の食事で済ます大斉、そして肉食を控える小斉など、食事の回数・内容を節制する苦行の習慣がずっと守られています。今日、美容のため、健康を保つためのダイエットはごく普通のことになりましたが、罪の償いのため、神への真心を示すためのダイエットと言えば、世の人々の嘲笑の的になるかもしれません。しかし信者は、信仰に基づく節制で、倫理的な意味で自分の身を整え、神に真心を示すことを真剣に考えるべきなのです。弱い人間であるわたしたちは、通常何らかの苦行で身を鍛えておかなければ、自分の身を正しく処することが不可能、または困難になるものなのです。

二、祈り

わたしたちが「魂を神に挙げて神から必要なお恵みを願う」祈りは、神に対する人間の勤めとしては基本的なものです。償いの業においても祈りは中心的な役割を果たします。罪によって破壊された本来の秩序を立て直して神に立ち帰り、お詫びのまことを示すことに償いのこころがあるからです。また、償いのために断食(苦行)という場合も、また施しなど隣人愛の業を実行する場合も、祈りと共に、または祈りの心を込めてなされなければ、その本来の意味は全うされないことを弁えなければなりません。

しかし祈りについては、種々の機会に説明され、督励されていますので、ここでは特別に取り上げないことにいたします。ただ償いの季節である四旬節が特別に「祈りの季節」、特別の意味で「神との親しみを取り戻し、これを深める季節」でなければならないことを、ここに特記しておきたいと思います。

三、施し・隣人への愛の業

施しは昔から、ほとんどすべての宗教において、大切な意味を持つものと考えられています。わたしたち人間が神の前にお互いに兄弟であることを認め、そのことを証しするためには、周りの人に、特に困った状態にある隣人に、自分たちの持ち物を分かち合うことが当然求められるからです。罪によって神に背き、兄弟の交わりを傷つけた者が、償いの証しとして隣人に特別の愛を示すことは、まことに正しく相応しいことでもあります。

わたしたちは、「飢え死にしそうな人に食物を与えよ。彼に食物を供しないならば、君が彼を殺したのだ」とか、「施しを全面的に拒絶する者は泥棒である」などという教父たちの言葉をいつも心に留め、その教えを正しく実践しなければならないのです。

もちろん、隣人に物を与えること自体が最も大切なことではなく、真の隣人愛こそ尊いのです。周りの兄弟たちに対して愛の心を持ち、温かい微笑みを贈り、親切な励ましの言葉をかけることなども、大切な愛の行いです。しかし必要な状況においては、何か自分の物を提供して隣人に施しを行い、その愛を証ししなければなりません。兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたの誰かが、彼らに、『安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい』と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。…行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです」(ヤコブ二・一五～一七)と言うヤコブの言葉を思い合わせる必要があるのです。

四旬節には、外国ならびに国内の必要のために、カリタス・ジャパンの四旬節献金が呼びかけられます。福岡教区の信者の皆さんも、いつもの寛大さをもって、これに積極的に答えて下さい。と同時に、福岡教区立の「美野島司牧センター」でも、福岡地区の滞日外国人のための諸活動を推進するため、多額の支援を必要としていますので、そのためにも心を配って欲しいと思います。近くに住んでいる人々の必要に、わたしたちは先ず配慮しなければならないからです。

四、償いのこころとその実践

教会の長年の伝統的習慣を思いますとき、現代においては償いの精神は薄れ、その実践も疎かになってしまったようです。しかし公会議は、「多くの点で過ちを犯すわれわれは皆、絶えず神のあわれみを必要とし、日々『われらの罪をゆるしたまえ』と祈らなければならない」(教会憲章四〇)と教えています。わたしたちは皆罪人なのです。神の赦しを願い、償いの真を示さなければならない存在なのです。現在でも、灰の水曜日と聖金曜日には大斉・小斉の義務、毎金曜日には原則として小斉の義務があります(教会法第一二四九条～第一二五三条)。わたしたちはこの掟を正しく守らなければなりません。

まことにカトリックの霊性は、ある意味で回心する罪人の霊性です。償いのこころはカトリックの霊性の本質的要素だと言えます。聖アロイジオ・ゴンザガのように、神の恵みによって一生の間汚れのない清さを保ったとされる方でも、常に模範的な償いの生活を送ったと伝えられています。また、アルスの聖ビアンネー師は、生前から聖徳の誉れ高い方でしたが、「たとい奇跡を行うほどの人であっても、もし償いの苦行を実行していないなら、その人の聖徳を信用してはいけない」と教えたと言われています。聖人たちの教えと生活の模範は、罪人であるわたしたちに、償いの必要性とその重要性を教えるものです。

ところで、わたしたちは食事の節制などで貯えたものを、困っている周りの人々に寛大に分かち与えて、善き隣人を造らなければなりません。「わたしは言っておくが、不正にまみれた富で友だちを作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる」(ルカ一六・九)というキリストのみ言葉は、ここにも当てはまると思います。わたしたちは、キリストの復活を準備するこの季節に、キリストが愛される隣人に尽くすことによって、キリストに尽くさねばならないと思います。

福岡教区の信者の皆さんがこの度の四旬節をより尊く過ごされ、キリストの復活のお恵みにより豊かに与かられるよう、お祈りいたします。

一九九六年三月

福岡教区長　司教　ヨセフ　松永久次郎

本との出合い　人との出会い　神との出会い
聖パウロ書院
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・カセット・CD
福岡市中央区大名2-7-7　カトリック大名町教会1F
平日／AM10時～PM6時
日曜／AM10時～PM4時（水曜日定休日）
TEL／092(741)4588　FAX／092(716)4142

典礼センター　ピエタ
師イエズス修道女会　〒810 福岡市中央区浄水通37
Tel・FAX　092-526-9176
祭服、ストラ、聖器具、聖像、ベール、カード、他
平日　AM. 10:00～PM. 6:00
定休日　水曜日　祭日
日曜日　AM. 10:00～PM. 1:00
祈りのオアシス
どなたでも御自由に聖堂で、聖体訪問ができます。

「平和」を祈って沖縄へ
―自分の目で見、耳で聞き　足で歩いた三日間―

教区修女連有志一行四十人は、戦後五十年記念行事の一環として一月十三日～十五日沖縄に祈りの巡礼を行った（＝写真）。

初夏を思わせる日差しに迎えられた一行は、直ちにガラビ壕（全長五百メートル、千人の傷病兵を収容した野戦病院壕）に入った。岩石を上り降りして進む一行の足は、緊張ですくみがち、ロザリオの祈りだけが洞窟に響く。何十メートルが進んだ所で一斉に電灯を消した。文字通り真っ暗闇。五十年前の阿鼻叫喚が聞こえるようで胸が締め付けられ、聖歌と祈りの声も震えた。続いて、南部戦跡をいくつか回って沖縄戦の現実に触れた。夕食を済ませてからは、ひめゆり部隊生存者の体験談に涙を誘われ、重い一日を終えた。

二日目は基地めぐり。想像を絶する広大な基地、居並ぶ軍用機、倉庫群、弾薬庫（二千坪）などを目にして、「基地は軍隊である」といわれる所以も納得できた。湯水のように使われる「思いやり分担金」にも怒りを覚えた。基地と共存せざるを得ない沖縄の複雑な現実に心を痛める私たちをいたわるかのように、収穫を待つさとうきび畑がどこまでも広がっているのが印象的であった。

三日目の平和祈願ミサの中で、平和の作り手・使者となるために熱い祈りを捧げた。沖縄出発を前にして、安里教会を訪問し、石神忠真郎司教様より平和のメッセージをいただけたことは、巡礼のしめくくりともなり嬉しかった。

すばらしいガイドに恵まれたこと、具体的体験を通して心底まで揺すぶられ、内面の促しによって新しい生き方に目覚めさせられたことなど全てに感謝！「ヌチドゥタカラ」を合言葉に再出発を！

修女連会長 Sr. 黒木紗耶子



チョイス・ウイークエンド
今年が本当の成人式

「少し自分のことを見直してみませんか」「ほんとうの関わりって何かを一緒に探してみませんか」。このような呼び掛けに応えて集まった若者十六人とお世話するスタッフ八人の合計二十四人で一月十三日から十五日までの三日間、第五回福岡チョイス・ウイークエンドが開かれた。

十六人は熊本と福岡からの青年男女で、期待と不安の入り交じった面持ちで、会場の福岡黙想の家（宗像市）に到着。先に参加経験のある青年たちの出迎えを受けて、少し落ち着いたところで「ウイークエンド」に入った。



スタッフは、司祭、シスター各一人、二組の夫婦、男女青年二人の八人。

二泊三日を共に過ごし、分かち合いを重ねていくうちにストレス、不安、寂しさに気づき、同時に、自分を取り巻く人々の不安や寂しさにもだんだん気づいていく。そして、その気づきを通して、自分が受けている恵みの豊かさを実感する。

三人の大神学生と二人の若い司祭も参加したが、それぞれ立場も環境も異なった青年たちがお互いを心を込めて聴き、聴いてもらう体験を通して多くのことに気づき、新しい歩みを始めた。

参加者の声＝「自分と周囲の人、そして出来事を積極的な気持ちで見、受け止める自信のようなものが生まれました」「ありのままの自分を受け止めることが出来、ほんとうに自分の祈りが出来るようになりました」「今日が自分にとって、成人式」。

出会いの集い
『新春ダンスパーティー』に参加して

「人は皆、幸福になるために生きている」と言われています。これに関連して私は幸福な結婚について考えてしまいます。結婚は生涯のものだからです。一生を通して、順境の時も、逆境の時も、共に愛と忠実を尽くすことができるなら、人生最高の幸福と言えるでしょう。

カナの会の方から、二月四日に行われた「出会いの集い」（＝写真）のお誘いをいただいた時、結婚は一種の賭けだとしても、短い時間に一生の伴侶を見極めるのは大変な作業だという気がして、躊躇しておりました。でも、それは会に参加することでその心配はなくなってしまいました。

レクレーション係の吉川さんの話で、「人はそれぞれ固有の波長を持っている。その波長は、虚飾で身を包んでいる間は出てこないものだ」というのがありました。自分の波長とぴったり合う相手を見つけるには、まず自分が裸にならなければならないのでしょう。そのための配慮なのか、事前に全員の年齢も職業も一切知らされないまま、出会いの場を提供されたのです。長い人生を共にする相手を選ぶのに大切なことは、先入観や偏見を持つことなく、お互いがありのままの姿を受け入れられるかどうかということだと思います。



教会の結婚観に基づいたカナの会の活動は意味深いものと思われました。会の方々に心から感謝いたします。

鹿児島教区　外山映子

タレントを生かし
恒例の演芸会

サン・スルピス大神学生

二月四日、日本二十六聖人殉教者のお祝いの前晩に、恒例の演芸会が大神学院で催されました。直接的にお世話になった神学院の神父様方をはじめ、シスター方や神学校の職員の皆さん、外部から来られている講師の先生方をお招きし、神学生一同、一年間のことを感じさせられました。



演芸会のひとコマ

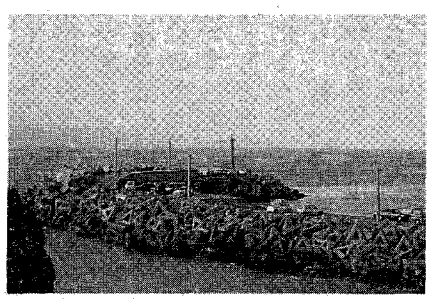
ちなみに、ラテン語科（一～二年生）はコミカルに笑いをとりながら、いじめについて考える内容を演じ、哲学科（三～四年生）は古代ギリシアを舞台とした歴史物語のようでありながら哲学的なものを演じ、神学科（五～八年生）は家族関係に一考をうながすような劇を演じました。神学生の演技におなかを抱えて笑うこともあれば、ハンカチを濡らすこともあり、舞台に引き込まれながら、和やかな雰囲気の中で過ごしました。

ところで、現在大神学生は総勢四十二人で、その内訳は長崎教区三十三人、大分教区が三人、鹿児島教区一人、そして福岡教区が五人となっています。神学生の数が本当に減少してきています。司祭召命の道を頑張っている私たちのため、そして後に続く多くの司祭召命が芽生えるよう、皆様お祈りください。

神学科生　田中重治

クルシリヨへのお誘い
〝新たな恵み〟

日頃生ぬるい生活をしている私は、何か活力を得たい気持ちと、宣教するように言われてもどうすればよいか分からないので、少しでも助けになればと思って、クルシリヨ（信徒錬成会）に参加することにした。けれども話が苦手だし、車椅子で四日間も外泊したことなどなく、大丈夫だろうか心配だった。その不安は二日目にはすっかり消えていた。講師のユーモアたっぷりの話に大笑いし、体験談に感激し、知らなかったことが分かり、更に美味しい食事に舌鼓を打った。最初に感じたことは多くの人の祈りや犠牲によって生かされていることだった。そして、共に分かち合える仲間との交わりによって、またありのままの自分を素直に表すことによって恵みを受けるのだと感じた。



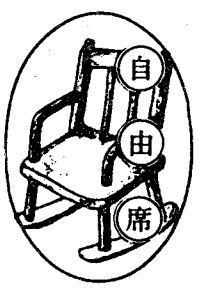
三日目には参加者皆（老若男女）家族のような親しみが満ちあふれていた。八十過ぎた父は私のことが心配で、母と一緒に参加してくれた。

クルシリヨについて説明するのは禁じられているので人に聞かれても困ってしまう。特に若い人たちに参加していただき、教会活動の活性化を促してほしいと思う。そのために二日間でも参加できる配慮がほしい。子どもの頃あまり分からず受けた堅信式を受けなおしたような気がした。心から「神に感謝」と叫びながら黙想の家を後にした。

第三十三回生

大楠教会　安部藤任

私たちのM神父



前川ヨシ子

お若くて背の高いイタリア人のメネガッツォ・ルイジ神父様が玉名教会に来られて一年になる。

「おお○○さーん」と大きなゼスチャーで出迎えてくださる神父様は、大変魅力的である。

その魅力の虜になったのはまず子どもたちで、腰をおろしておられるその膝に争って座り、肩にもたれかかる。大人たちには聖書の勉強を週に一回していただく。「聖書とはこんなにして読むものか」と目を見張る思いで聞かせていただいている。

大変に清潔好きである。司祭館や信徒会館など、余分なものはすべて処分し、あらゆる所を磨き上げた。物に埋まっていた信徒会館は、広々とした集会場に変じて、我が家の整理整頓の学習となった。また庭木も手入れして、ちょっとした日本庭園が出来上がった。「この教会は、来る度にきれいになっていますね」とは、時々来られるスピノラ会のシスターの言葉。日本の古い文化に造詣が深く、裏千家茶道の師範の免許をお持ちとか。文化の違いを埋めようと懸命な努力をなさっていることが伺われる。

信徒一人ひとりの長所（特技）を見抜かれて、教会活動への参加を求められる。「受胎告知」の模写製作をすることになった時、ある未信者いわく、「製作する気にさせてしまわれる神父様は、かなりの知能犯だ」。

すべての人の参加活動を呼び求められる司牧者の下に集うことは、私どもにとって、この上ない喜びである。

玉名教会

いつでも、誰でも、自由に利用できる
ボランティア活動の拠点
あなたを必要としている人に、あなたの心と共に
力と時間をさいて下さい。
熊本クリスチャン・ボランティアセンター
熊本市水道町1-5　カトリック手取教会別館内
TEL 096-325-4471

bottle shop
OHGUSU
(有)大楠酒店
ミサワインも取り扱っています
代表取締役　青木　彰
TEL 092(531)4718㈹　FAX 092(521)6453
〒815 福岡市南区大楠2丁目4－8

開かれた教会を感じつつ



「私は今、開かれた教会を感じながら神の道を伝えています」と話してくれたのは佐賀教会のアレグリーニ・アレグリーノ神父。

本紙でも以前佐賀で「人生講座」を一般の人向けに行っていることを紹介した。現在アレグリーニ神父は、佐賀新聞社の文化センターでの講座に講師として招かれ、月の第一・第三土曜日に『詩編を味わう』という題で一般の人向けに講演している。この講演は、三月で終わる（四月には『ヨブの書』の講演が予定されている）が、参加者は「心温まる話」と評価している。

アレグリーニ神父は「詩編を人に味わってもらおうと準備するが、自分自身も味わえるし、教会の祈り（詩編の綴り）を新しい気持ちで唱えられます。参加者には詩編を味わってほしいと同時に、神様のことを考えられるようになってほしい。そして、キリスト教を知ることに結びつけば…。今、教会がいろんなチャンスをいただいて、社会で神を知らせる場所が提供されていることを感じています。開かれた教会造りに頑張りたいと思います」と熱っぽく語っている。

尚、「心のシルクロード」と題したアレグリーニ神父と浄土宗井手恵住職の往復書簡の書物も本紙先月号で紹介したが、神父の信仰への熱意が伝わり、感動を覚えずにはいられない著書となっている。

福を共に願いました。説教の中で中村彰神父は、自分の二十歳の頃を振り返り、自分の道を求めていたこと、青年会の活動を通して司祭と親しく接し、生涯を捧げて奉仕する司祭職に魅力を感じたこと、自分の可能性に挑戦するために召命の道を志したことを話されました。その中で、社会人としてだけではなく、キリスト者としても自分の夢を持つこと、自分の可能性に挑戦することの大切さを説かれました。

説教後、新成人は信仰宣言と洗礼の約束を更新し、キリスト者としての決意を新たにして神の祝福を受けました。また、一同で新成人のために共同祈願を捧げました。

ミサ後、主任司祭の岩永神父よりキリストを証しする者としての自覚を持って生きるようお祝いの言葉があり、最後に新成人の杉本氏より、教会から離れることなく、信仰の道を歩んで行きたいとの挨拶がありました。その後、子ども・青年・大人で一緒に餅つきをして、楽しいひと時を過ごしました。

成人式

福岡ブロック

「今日こそ神が造られた日」と歌いながら、松永久次郎司教と六人の近隣教会司祭が、新成人が待つ中を入堂した。

一月二十八日はカテドラル大名町教会で福岡ブロック成人式が行われた日。親族、関係者約七十人が見守る中、十人が祝福を受けた。

松永司教は説教で、「人生の中で価値ある成人の日は、信仰の道についても価値ある日です。福音の真福八端にあるように、キリストの教えは『幸せ』の教え。周りの幸せも思いながら、自分の幸せをつかんでほしい。そのために無理しても役に立つ自分、恵みを生かせる自分であってほしい。若い時は準備の時。未来のために今をよく生きるように。また神の子どもとして自発的な信仰を培い、親孝行も実行していくように」と語った。新成人は、「大人としての信仰を育て、社会で信者の姿を表現できるように」と参列者とともに祈った。

ミサ後、ブロック青年会が音楽や料理、ゲームを準備した一階フロアで祝賀会が催された。「受けることより与えることのできる人となるように」との司教の挨拶の後、新成人に記念品が渡された。新成人は祝福の言葉を受け終始笑顔であった。

今年こそは、と力を結集して臨んだ青年会は、成功したことを互いにほめ合い、援助してくれた方々に感謝した。「今年成人した人も、そうでない人も、こんな舞台裏の青年会に一度は来てほしい」と希望している。

ブロック会長　原田さち子



▲福岡ブロック　▼小倉教会



小倉教会

一月十四日、小倉教会で新成人の祝福ミサが行われました。今年は参加者が多く、五人の新成人が参列し、神の祝

神道一口メモ ㊦

森山敬三

テレビの気象情報に小寒とか大寒とかいわれるが、これは二十四節気のことで、一年の季節を立春から大寒まで二四に分けたもの。節気から次の節気まで約十五日である。もと紀元年の中国で用いられたものであり、それは持統天皇の時代の元嘉暦（六九二年）からとりいれられた。

季節の変わり目を知る目安となり、その日は古来、宮中や民間で各種の宗教行事が行われた。

幼稚園のできごと

飯塚聖母幼稚園

飯塚市役所を前に官庁街に所在する六十年の歴史をもつ飯塚聖母幼稚園です。平成六年三月より旧園舎とさよならをし、二階建ての新園舎で子どもたちと共に元気一杯に過ごしております。広い園庭に恵まれ、子どもたちは毎日サッカー、縄跳び、つり輪、巧技台やカラーボックスを組み合わせた遊びを展開しています。

本園はスクールバスがなく、遠方から来る子どもたちは西鉄バス、JRバスを利用したり、父母の車で送り迎え、降園時は近くの子どもはコース別に、先生と徒歩で帰宅します。年小、年中、年長と手をつないで、縦関係のつながりができます。自由遊びの時には一緒に遊ぶ姿が見られます。

今、園全体で郵便ごっこをしていますが、たくさんのお友だちが手紙を書き、それを年長さんが当番で配達します。〝はい、郵便です〟〝ありがとうございます〟と郵便屋さんと小さいクラスとの会話がなごやかに聞こえます。

また、園庭には大きな桜の木が二本あり、春にはみごとな桜の花がみられます。その他にツツジ、あじさい、ふじなど季節ごとの花が楽しめます。秋には初めて柿がなり、みかんも初めて実りました。甘いか酸っぱいか、食べるまでの楽しみです。ひと房ずつでも、全園児で食べられそうです。

にわとり、あひる、小鳥、うさぎ、かめもいます。この動物たちは子どもたちと一緒に園庭で自由に遊んでいます。時々生んでくれるウコッケイの卵は子どもたちへのプレゼントで順番待ちのものです。子どもたちは動物にえさをやったり、体に触ったり、だっこしたり。動物にたいする優しさを体験しています。

園児減少の中で、にぎやかさは相も変わらず、神の愛に包まれている幼稚園です。

幼稚園教諭

初のチャリティーバザー
―快適なホスピス建設を―

イエズスの聖心病院では、二月十一日、隣接する信愛幼稚園を会場に、初のチャリティーバザーが行われた。

聖心病院では、三年前からホスピスプログラムが導入され、県下初のホスピス病棟認可施設となっている。

百六十余人の癌終末期の方が入院されている。



当日は、ルルドの聖母出現の記念日で、病者の日でもあった。意識的にこの日を選んだのではなかったが、特別の天候に恵まれ、関係者はホスピスチャリティーのこの日を不思議な日と呼んでいる。

今回のバザーの収益金はホスピスの空調整備に用いられるとのこと。来る四月二十六日には同じ目的で、本田路津子先生のご協力で、チャリティーコンサートが予定されている。

みこころホスピス
チャリティーバザー
実行委員会

方を看取る中、一人の患者さんが「シスター、人生最後を迎える場所としてはあまりにも貧しい。後の人たちのためによろしく頼みます」と言い残して逝かれた。この言葉がボランティアを動かす力となり、〝快適なホスピス建設を目指して〟をキャッチフレーズに、県下の教会、修道会、地域へと呼びかけたところ、大勢の人出で盛大なバザーとなった。

BOOK 読みは専科

★悲しみを見つめて

ペトロ・ネメシェギ著



人は悲しみを見つめることを避ける習性をもっている。

著者は、多種多様な引用をもちいながら、悲しみの意義を展開しています。

「悲しむ人は幸い」と呼びかけられたイエスのことばも興味深く説いてくれます。

四旬節を迎えた今、タイミング良く出版されたこの本をぜひ一読されることをおすすめしたい！

サンパウロ刊　五八〇円

◇　◇　◇

★あなたに知らせたかった この話

ルイス・カンガス著



神を信じて生きる人の、深い知恵と強さと温かさが鮮やかにわかりやすく語られている信仰体験談。

人生みなハッピーエンド。キリスト教の「エンド」はズバリこれである。だから苦難の中にも希望と強さと明るさがある。本書は信仰を生きた人のエピソードの数々がみな身近なことで、美しく、つづられている。落ちこみがちな私たちの心をパッと開いてくれるステキな本。

著者　イエズス会司祭
女子パウロ会　一四〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

3・4月の行事

※ゴチックは司教日程

3月

1日 久留米信愛女学院高等学校卒業式
3日 学士会ミサ
5日 司教霊名祝い[浄水通]、福岡地区短期キリスト教講座[最終回]
6日 福岡雙葉幼稚園落成式
7日 松永久次郎司教誕生日典礼・聖歌と祈りの集い[黙想の家]
14日 宣教奉仕者・教会奉仕者選任式[大神学院]
16日 召命を祈る徹夜祈祷会[大神学院]
17日 助祭叙階式[カテドラル]
熊本地区典礼研修会[健軍]
19日 聖ヨセフ
20日 大阪・司教叙階式
24日 田川カトリック幼稚園落成式
25日 神のお告げ
28日 海の星保育園落成式
31日 受難の主日(枝の主日)
世界青年の日

4月

4日 聖木曜日(主の晩さん)
聖香油ミサ[カテドラル]
5日 聖金曜日(主の受難)[大斎・小斎]聖地献金
聖土曜日(復活徹夜祭)
6日 復活の主日
7日 聖霊によるはげましと力を求める黙想会'96[カテドラル]
8日 司教座聖堂献堂記念日[10周年]
13日 **花岡山殉教祭** カテドラル献金日
14日 **カトリック愛苦会修道院落成式**
15日 **唐津教会堅信式**
21日 **教区顧問会**[司教館]
23日 聖マルコ福音記者
25日 召命祈願日
28日 労働問題全国フォーラム[カテドラル]

福岡黙想の家

▼3月1日(金)～3日(日)聖地旅行のクラス会
▼8日(金)～9日(土)四旬節の黙想①Fr.畠
▼9日(土)～10日(日)四旬節の黙想②Fr.マテオ
▼10日(日)典礼・聖歌の集い
▼12日(火)人生講座第6回「いじめについて」野島一彦
▼13日(水)～15日(金)泰星学園卒業生黙想会
▼15日(金)～16日(土)四旬節の黙想③Fr.ガブリエル
▼16日(土)～17日(日)四旬節の黙想④Fr.畠
▼17日(日)～20日(水)サダナI黙想錬成会
▼22日(金)～23日(土)四旬節の黙想⑤Fr.ガブリエル
▼24日(日)～27日(水)オブレート会黙想
▼29日(金)～30日(土)四旬節の黙想⑥Fr.ガブリエル
▼30日(土)～31日(日)四旬節の黙想⑦Fr.畠

■**決算・予算** 44期決算書等と45期予算書を送付いたしますので、ご協力をよろしくお願いします。四旬節献金もよろしくお願いします。(教区会計・Fr.松井忠之)

■**第3回短期キリスト教講座「生きるとは」開催中** カトリックを紹介する講座です。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターがつきます。[日時]3月5日(火)昼の部10時～11時45分夜の部19時～20時45分[場所]カテドラル大名町教会一階ホール[参加費]一〇〇〇円[テーマ]わたしとキリスト教[講師]Fr.塩谷恵策[問合先]教区事務所☎092－522－5139[主催]短期キリスト教講座福岡実行委員会

■**典礼・聖歌と祈りの集い** [日時]3月10日(日)14時～17時[場所]福岡黙想の家[聖歌指導]深堀純[お話し]Fr.畠基幸[会費]一〇〇〇円[主催]福岡典礼聖歌研究会[問合先]福岡黙想の家☎0940－32－3222、FAX32－3385

■**宣教奉仕者・教会奉仕者選任式** [日時]3月14日(火)10時30分～[司会]松永司教[場所]福岡サン・スルピス大神学院

■**召命を祈る徹夜祈祷会** [日時]3月16日(土)19時～17日(日)6時30分[テーマ]神に捕らえられる[場所]福岡サン・スルピス大神学院[参加費]一〇〇〇円[主催]福岡・召命を祈る会／ロザリオ、聖書などをご持参ください。[問合先]Fr.森山信三(カトリック神学院)☎092－531－6821／FAX524－7373

■**助祭叙階式** 糸島教会出身の牧山美好教会奉仕者、西新教会出身の田中重治教会奉仕者が助祭に叙階されます[日時]3月17日(日)14時～[場所]カテドラル大名町教会

■**熊本地区典礼研修会** [日時]3月17日(日)13時[場所]健軍教会[テーマ]ミサへの参加[講師]Fr.オカロール[対象]全信徒[主催]熊本地区信徒使徒職協議会

■**SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティアグループ春のガレージセール** [日時]3月23日(土)11時～13時[場所]SE・COの部屋1階ガレージ(福岡市南区塩原～聖心ウルスラ幼稚園裏、高木橋たもと)[問合先]龍☎092－581－6838／山下☎574－3787／Sr.富山☎512－0033 創作・手作りグループ[日時]第二・第四水曜日11時～[問合先]山下☎092－574－3787

■**聖香油ミサ** 聖木曜日は司祭職と御聖体の秘跡制定の記念日。午前中、教区内のすべての司祭がカテドラルに集まり、司教を中心として聖香油ミサが捧げられる。[日時]4月4日(木)11時[場所]カテドラル大名町教会

■**聖霊によるはげましと力を求める黙想会'96** [日時]4日8日から毎週月曜日10時～12時[場所]カテドラル大名町教会[テーマ]よろこび[参加費]自由献金[主催]福岡地区祈りの集い

■**ロザリオへのさそい** ごいっしょにロザリオの祈りをしませんか。日本人、外国人、信者であるなしに関係なく、どなたでもご自由にご参加下さい。[日時]毎水曜日11時30分～12時[場所]美野島司牧センター聖堂[問合先]同センター☎092－431－1419

■**福岡司教座聖堂(カテドラル)献堂記念日・献金** 司教座聖堂が献堂されて今年は10周年。献堂記念日は4月13日だが、聖堂、センターが建築されて十年になり、維持管理に多大な費用が必要となっている。特に鐘楼の改装のために信者の献金による協力が求められている。14日のミサ献金はカテドラルのために使われる。

■**花岡山殉教祭** 熊本市の花岡山中腹に加賀山マリア(みや)殉教碑が建てられている。この碑が建立されている所は遺体が実際に埋葬されている世界でも稀な殉教者の聖なる墓域とされている。この殉教者の墓の前で毎年司教司式ミサが捧げられていたが、今年は墓碑近くに新規購入された「花岡山殉教墓地」でミサが捧げられる(**一面参照**)。雨天現地決行。[問合先]島崎教会☎0963－52－5610

■**第35回クルシリヨ** [日時]5月2日(木)～5日(日)[場所]福岡黙想の家☎0940－32－3222[指導]Fr.下町豊重(大楠教会)[参加費]12000円(宿泊・食事・用品代として当日受付にて)[携行品]ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具[申込先]教会配布の用紙を4月20日まで左記事務局に送る[連絡先]〒813福岡市東区舞松原5－23－9大谷真造(クルシリヨ事務局)☎092－661－0120

■**典礼研修会** 5月19日(日)13時受付[場所]カテドラル大名町教会[講師]Fr.白浜満(福岡サン・スルピス大神学院)[対象]各小教区、福岡地区典礼担当者・一般信徒[問合先]Fr.森山信三(カトリック神学院)☎092－531－6821

■**視覚障害者向けにテープ版の会報** カトリック障害者連絡協議会は会報「わ」を発行している。この度、視覚障害者だけでなく、活字を読みにくい方を対象に会報のテープ版が発行される。60分テープ1本です。[申込先]カトリック障害者連絡協議会〒167杉並区井草2－35－1カソック内☎03－3394－5700FAX6045

神がくださる小さな木陰に

身を休め、思いにふける。

「私はだれ…」。古より今に至るまで人は常に自己を問い自分なりの答えを見いだしてきた。そしてこれからも人は自分なりに自己を問い続けていくことだろう。

なぜ、人は自分に光を当て、自己を明らかにしようとするのか。自分自身を知らないからだろうか。自分に欠如するところがあるからだろうか。確かに自分を知ることによって人は自分が置かれている状況を知るし、それによって次に何をすべきなのか、という自分の生き方が見えてくる。自分と他者の問合いが見えてくるし、そのことで関わりの在り方を知ることができる。自己を問うことは他者と共に生きようとする人にとって、決して止むことなき不可欠の行為なのだろうか。

そもそも自己を問う力はどのようなものなのか。知らない自分を知り、不足する自分を満たそうとするのは、水が高きより低きに流れるが如きものかもしれない。人は生来常に真理に向かい、探求し、見いだし、それに憩うことで自己充足するような生き方をなす存在であるように思える。

回心

自己を問う力は「意識的に」真理に一致して生きようとするものに芽生えがゆるされた本質的力だといえよう。

四旬節に入ると、「回心」という言葉をしばしば耳にする。それは文字通り、それまでの自己中心の生き方から神が示される価値観に基づいた生き方をすることであり、「道・真理・命」である神に心を向け直して生きることである。確かに回心は「苦・痛」を伴う。従って、力んでしまう。しかし本来の自己に戻る行為である回心は「力んで」なすことではなく、むしろ力を抜いて自然体でなされていくものではないだろうか。

それでは、人はいつ本来の自己に戻り得るのか。ルカ福音に示される放蕩息子(ルカ15・11～32)は父の愛に基づいた時、父の元へ帰った。神の愛に包まれる時、人は本来の自己に戻り、真理に憩おうとする力が自分の心の奥底からわき上って来る。「私は誰…」という自己への問いは、神の愛に包まれていることに気づいた時に、おのずと明示されることであろう。

サン・スルピス大神学院
大山　悟神父

3月命日の司祭

†ルッチ・ミケレ神父(ミラノ外国宣教会)
一九八七年三月二日
元鹿島教会主任
†ジョー・オブライエン神父(聖コロンバン会)
一九九〇年三月二日
元手取教会
†ユウゼーヌ・ジョリ神父(パリ外国宣教会)
一九九六年三月六日
元久留米教会主任
†フランソワ・マリ・ヴェイヨン神父(パリ外国宣教会)
一九七三年三月十二日
元唐津教会主任
†ルイ・マリ・ベリボ神父(聖ドミニコ宣教会)
一九七七年三月十六日
元箱崎教会主任
†ジョージ・ベラス神父(聖コロンバン会)
一九九〇年三月十九日
元水俣教会主任
†マキシム・ボネ神父(パリ外国宣教会)
一九五九年三月十九日
元新田原教会主任
†ジェームス・ドイル神父(聖コロンバン会)
一九六二年三月二十六日
元荒尾教会主任
†ジャン・ムルグ神父(パリ外国宣教会)
一九八九年三月二十六日
元小倉教会主任

編集室から

今年度もご協力ありがとうございました。おかげさまで上から読んでも下から読んでも、いい、「しんぶんし」だったと思います。新年度もスタッフ一同、皆様のご期待に添うことができるよう頑張りたいと思います。

尚、編集長が下町豊重神父から山元眞神父(教区本部)に替わります。一層のご支援を宜しくお願い致します。

○新年度のメンバー紹介をいたします。

編集長　山元　眞神父
編集員　百村　等神父
編集員　井久保　雅美

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

188人の殉教者、今世紀中に列福か

福岡教区内の28人も対象

4月14日に熊本・花岡山で殉教祭

一九八六年から始まった「ペトロ岐部神父と一八七人の殉教者」の列福調査が今年の一月二十四日に終わり、二月十四日に申請書類が白柳誠一枢機卿と平山高明大分司教により、バチカンの列聖省に提出された。今回の列福対象となるのは一六〇〇年代に全国各地で殉教した一八八人で、その中には、小倉、熊本、八代、天草で殉教した二八人も含まれている。熊本、八代では毎年殉教祭が行われており、復活祭後の四月十四日には「花岡山殉教祭」が開かれる。今世紀中に列福式が行われるよう、今後は列福運動の推進と祈りが求められる。

教皇ヨハネ・パウロ二世は一九九四年十一月十日付で出した使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』の中で、各教会が「可能な限り殉教者の証を保存すべきです」と述べている。現在、日本の教会は二十一世紀に向けて自らの歴史を振り返りながら、信仰を雄々しく証した殉教者たちの再発見をし、福音宣教について真剣に考えている。

日本司教団は、教皇の望みに従い、十七世紀の殉教者の代表的な一八八人を選び、彼らの列福を教皇に嘆願した。この願いの達成には、信者の祈りと協力が不可欠である。

殉教者の特徴

今回の列福対象となった殉教者には次のような特徴がある。

①殉教の地が東北、関東、関西、中国、九州の各地に及んでいる。

②信徒、修道者、司祭、町民、農民、武士など、いろいろな人々である。

③幼児から老人にいたるまでの男女の殉教者で、健常者、身体障害者などが含まれている。

殉教者の列福調査は「日本カトリック殉教者列福調査委員会」（委員長・白柳誠一枢機卿）によって進められてきたが、上述のように、今回の列福対象者の特徴は、地理的にも内容的にも広範に亘っており、「信徒の時代」と呼ばれる現代社会にあって、二十一世紀に向けて信仰と宣教のあり方を見直す日本の教会にとって勇気と希望を与えるものとなっている。

小冊子とカード

同委員会では、昨年の十月に列福対象の殉教者を説明した小冊子『愛の証―ペトロ岐部と一八七殉教者』と白柳枢機卿作成の「列福を求める祈り」のカードを発行。全国の信者がこれを利用して殉教者を知り、列福を祈り求めてほしいと願っている。小冊子とカードは各小教区、または教区本部事務局にある。

教区の殉教者

福岡教区では、二八人が列福の対象になっている。

八代の殉教者は、徳川時代の最初の殉教者。長崎の日本26聖人殉教後最初の殉教者でもある。熊本の大名加藤清正の迫害を受けた信者は、イエスの使徒たちと同じように「人間よりも神に従うべし」と大名に答えたという。彼らは、武士、慈悲役、夫婦、子供であり、12歳のトメ三石は身体障害者だった。殉教者たちの遺骨は昨年一月日本に帰国し、長崎に眠っている。現在、八代教会の庭に記念碑が建っており、毎年十二月の第一日曜日に殉教記念祭が行われている。

天草の殉教者アダム荒川は有馬領の荒川城（現有馬吉川）に生まれ、若い頃に何等かの過ちを犯し、処刑を命じられた。しかし、有馬のコレジオの院長モラ神父のとりなしで赦され、その日からアダムは剃髪（ていはつ）して生涯を教会に捧げた。アダムの殉教には信者の立ち会いが許されず、小川が潮入りで袋湾に注ぐ場所で斬首され、その遺体は湾外の海中に沈められた。本渡市の殉教公園にあるキリスト像の前にアダム荒川の記念碑が建立されている。殉教記念祭は年間最終主日・王であるキリストの祭日に行われる。

小倉の殉教者ディエゴ加賀山隼人には三人の娘がいた。長女マリアみやは、小笠原玄也と結婚。小笠原は細川家の親戚でもあったので処刑を免れたが、家族ともども十三年間の監禁生活を強いられた。そのような状況にあっても、子供たちの信仰を立派に育てた。一六三六年一月

殉教者	数	殉教日時	殉教地
ジョアン南	1	1603.12.8	熊本
シモン竹田、その家族	5	12.9	八代
慈悲役、その子供	5	1609.2.4	八代
アダム荒川	1	1614.6.5	富岡（天草）
ディエゴ加賀山隼人	1	1619.10.14	小倉
小笠原玄也、その家族	15	1636.1.30	熊本



今月のみことば

わたしを愛する人は
わたしのことばを守る。
（ヨハネ14・23）

吉塚教会　B・シュルツ神父

時の話題

人材不足

宰川ゆかり

教会の事務を担当しているYさんが、事務の仕事を辞めることになった。「辞めるのは仕方ないけど、じゃー誰が後を引き継ぐの？」即答できない現実がここにある。―人材不足―なのである。

ある人が「天草は信仰の街だね」と言っていた。確かにキリスト教伝来後、多くの苦難を乗り越え蒔かれた信仰の種は、しっかり大地に根をおろし、今もその成長を続けている。しかし、それと同時に、計り知れない未来への不安と切なる願いもある。

春…。新天地へ向かい、あどけない新卒者たちは、就職あるいは進学のために、住み慣れた土地を離れてゆく。希望に燃えたその顔は、まばゆいばかりに輝いている。「信仰の街、天草出身」であることをいつも忘れないでいてほしいと願う。そして、何十年も前、このようにして出ていった人々の中には、やがて奥さんや、かわいい子供たちを連れて戻って来る。すると、司祭の声も負けてしまうほどのにぎやかな子供たちの声が、聖堂いっぱいに響き渡る。本渡教会のミサは実ににぎやかなのである。

子供たちとその親の世代、そのまた親の世代の姿が教会にはある。しかし、青年という世代の姿は少ない。田舎の小さな教会の典型的な姿である。また、青年会や壮年会に分かれて活動できるほど、人材がないため、皆が青年会であり、皆が壮年会となる。それゆえ、何でも全員で…という一致団結の精神は強い。この時、この小さな教会は、まさに「神の家族」になる。

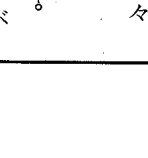
考えてみれば、神の家族は世界中に散在している。私たちは、実に巨大な家族である。今年もまた、この巨大な家族が喜びのうちに、新しい兄弟姉妹を迎える時が来た。一人でも多くの新しい兄弟姉妹と主のご復活の喜びを共にできたらと思う。すでに受洗の恵みを頂いた私たちは特にこの時期、新しい兄弟姉妹のために祈らなければならない。

（本渡教会信徒）

神の民の奉仕者誕生

大阪・司教叙階式／福岡・助祭叙階式

各地で神の民の奉仕者である司祭、助祭の叙階式が行われているが、三月二十日大阪教区カテドラル玉造教会で池長潤協働大司教（＝写真）の叙階式が挙行された。池長協働大司教は一九三七年神戸市に生まれ、六甲高校在学中に受洗。イエズス会に入会後六八年に司祭叙階。イエズス会の修練長を歴任後、八七年から六年間イエズス会日本管区長を務めた。大阪教区の協働司教には昨年十二月二十一日に任命されている。



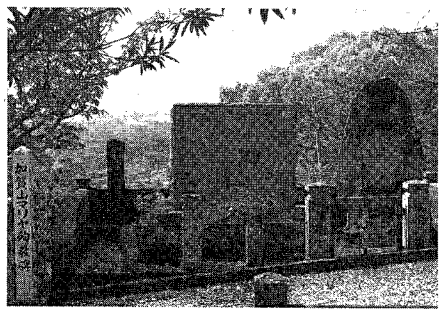
―― 司祭異動 ――

▼高宮主任（札幌教区）シーベル・テオドール▼浦和教区へ（高宮主任）春山勝美▼長崎教区へ（高宮助任）片岡仁志＝フランシスコ会▼人吉主任（八代主任代行）モロイ・マイケル▼大阪教区へ（人吉主任）フィッシャー・トーマス＝聖コロンバン会

花岡山殉教祭

―殉教者の墓前で―

小倉の殉教者ディエゴ加賀山隼人には三人の娘がいた。長女マリアみやは、小笠原玄也と結婚。小笠原は細川家の親戚でもあったので処刑を免れたが、家族ともども十三年間の監禁生活を強いられた。そのような状況にあっても、子供たちの信仰を立派に育てた。一六三六年一月三十日、熊本・花岡山のふもとにある禅定院において玄也、みや、八人の子供と四人の召し使いが殉教を遂げた。死ぬ前に、彼らが親戚や友人に送った遺書は現在も残されており、読む者に深い感銘を与えている。


「キリストの証人ここに眠る」と記された殉教碑

「花岡山殉教祭」は例年島崎教会の主催で行われていたが、今年から熊本市内五教会合同で行われる。花岡山は殉教者の遺体が実際に埋葬されている世界でもまれな墓域で、教区は昨年、殉教墓地の周辺の土地を顕彰用地として新しく購入。現在、熊本市内五教会が顕彰用地として整備を進めている。四月十四日午後二時から松永久次郎司教司式のミサが現地で行われる。

（詳細は四面参照）

協働司教は、補佐司教と異なり継承権を有するので、将来は安田久雄現大司教の後継者となる。

これに先立つ三月十七日、福岡カテドラル大名町教会では二人の助祭叙階式が行われた。今回、助祭に叙階されたのは、糸島教会出身の牧山美好神学生と西新教会出身の田中重治神学生。来春の司祭叙階に向けて準備が続く。

世界召命祈願日（4月28日）

みちくさ

復活徹夜祭で新しい兄弟、姉妹が生まれた。主の過越の「記念」がこの方たちの中でまさに「現実」となる。死から生への復活。再生。できることならもう一度生まれ変わりたい、と人は思う。そのことを意識して体験できる。幼児洗礼の者にとっては何ともうらやましいかぎりである▼旧信者と新信者という区別がなされており、時には差別的な響きさえ感じられるが、神の前では「旧い」も「新しい」もないのではないか。みんな「神の子」なのである。本人も、回りの者も「新米ですから…」と言ってはならない▼洗礼志願者と共に受洗の準備をしていく過程で、さまざまな新しい気づきがある。神がその人々に働きかける様は「驚き」以外のなにものでもない。そして、それは賛美に変わっていく。「神のなさることは、すべて時宜にかなって美しく、素晴らしい！」と叫んでしまう。一人ひとりにいちばん合った方法で神はその人に近づき、その思いをまっとうされる。それを見せていただけるのは何ともいえない喜びである▼神の民は少しずつ増えていく。それは単に個人の救いが実現されているだけではない。神はその人々を通して「じわじわと」救いの輪を拡げていく。今年受洗した方々から恵みの波紋が拡がる。

世界召命祈願日　4月28日

「すべてのキリスト者は、福音を告げ知らせ、救いを伝えるために、神から選ばれています」

教皇ヨハネ・パウロ2世、メッセージを発表

ヨハネ・パウロ二世教皇は「世界召命祈願日」にあたり、全世界の司教団と全信徒に向けてメッセージを発表した。

教皇は、司祭、修道者の「召命」について述べる前に、キリスト者としての召命についてその使命を思い起こさせている。「神のたまものであるキリスト者の召命は、すべての人が受け継ぐはずのものです。結婚していても叙階されていても、司祭であっても修道者であっても、すべてのキリスト者は、福音を告げ知らせ、救いを伝えるために神によって選ばれています。」

そのことを前提とした上で、教会の内部にある特定の任務を持った個々の召命について述べる。「司祭職や修道生活への召命、宣教活動や観想生活への召命は、特別な恵みの実りであり、道徳的・霊的に献身することをも必要としています。」

これらの特別な召命には、尊敬、承諾、自分自身の存在を全面的に差し出す決意、絶え間ない祈りが必要であるが、それを支える教会共同体の協力が不可欠であることも指摘している。「だれをいつ招くかは神がご存知なのだから、待つよりほかにすることは何もない」というのは間違いであり、教会共同体は典礼の充実やみ言葉によく耳を傾ける環境づくりをとおして、若者が重大な決断をくだすことができるように協力しなければならない。

さらに共同体は、貧しい人々への奉仕に開かれたものであることによって、謙虚さと自己犠牲の生き方の素晴らしさを若者に示すことができる。

また、司教たちに対しては、教区の召命促進のための司牧センターを支え、導き、調整するよう奨めている。司祭に向けては、生涯を完全に主に捧げる生き方の模範となり「神が招いておられる少年少女たちを励ますというデリケートな任務がある」ことを思い起こさせている。要理教育にあたるカテキスタにも、「教会における特別な召命の価値と重要性を説明する務めがゆだねられている」と教える。最後に青年たちに「どうか生涯を寛大に主にささげてください。神は皆さんに多くのことを期待しておられるのです」と励ましている。

福岡　司祭数の減少は明らか…　教区

召命祈願日の催し

「召命を共に祈る会」では、四月二十八日の世界召命祈願日に「集い」を計画している。九時に浄水通教会で召命祈願ミサを行い、その後、福岡カトリック神学院を開放して、召命に関する展示などを行う。ミサには福岡市内の神学生、修道志願生が参加する予定。昼食は各自持参。当日のミサ前に弁当を注文することも可能。問い合わせはカトリック神学院まで。☎092・531・6821

なお、福岡市内では15年前から女性の有志による「小羊会」と呼ばれる会がある。毎月第三木曜日午後一時三十分から礼拝会修道院に集まり、司祭、修道者の召命のために祈っている。

表1　教区内司祭の年代（1996年4月1日現在）

年代	教区司祭	宣教・修道司祭	計
30	9 (7)	4 (1)	13 (8)
40	6 (3)	10 (3)	16 (6)
50	4 (4)	8 (4)	12 (8)
60	12 (10)	22 (15)	34 (25)
70	6 (5)	16 (11)	22 (16)
80	2 (1)	4 (0)	6 (1)
計	38 (30)	64 (34)	103 (64)

表2　教区内司祭の年代（2006年4月1日）

30	4	?	4?
40	10	4	14
50	6	10	16
60	4	8	12
70	12	22	34
80	6	16	22
90	2	4	6
計	44	64?	108?

表1は、現在福岡教区内にいる全司祭を年代別にまとめたものである。カッコ内は小教区で司牧している司祭数。もっとも多い年代が60代で34人。60代以上は62人で全体の約60％。表2は10年後に予想される統計である。もっとも多い年代は当然70代になる。60代以上の司祭は74人で全体の約70％を占める。

ことはもっとも大切なことであるが、それは、ただ与えて下さいと祈ることではなくて、召命育成のために、何を、どのようにしたらよいのかを教えていただくように祈ることだと思う。『二十一世紀の教会』に奉仕する司祭になるために何が今必要なのかを考えながら養成にあたりたい。」

典礼　ミサのこころ①　『道』

日本には、『…道』という名がついている伝統文化が数多く見られます。茶道、華道、書道、柔道、剣道など、枚挙に暇がありません。ところでこのような『…道』ということばがつく伝統文化に共通していることは、多くの場合、ある師匠の門下に通って、その道を学ぶということです。またそれぞれの道には、基本的な『型』があり、それを繰り返し稽古します。そのときに大切なことは『型』を踏み行いながら、そこに『魂』を打ち込んでいくということです。このことを茶道の裏千家家元・千宗室は『型に血を入れる』と表現しています。このように具体的な手順（型）に魂（血）を打ち込むことの繰り返しによって、その『道の真髄』に迫ることができるものです。

ところで私たちの師であるキリストも『道』ということばを用いて、次のように仰せになっています。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」（ヨハネ14・6）。ミサは、キリストの生（受肉）、死、復活、昇天を再現する『道』であり、キリストご自身がミサに参加する人を、真理のことばで照らし、命のパンで養いながら、天の御父のもとに導いてくださる『過越の道（神秘）』であるということができます。この道としてのミサにも、『型』に相当するもの、すなわち典礼法規があります。これは私たちがそれを踏み行うことによって、キリストの心に迫り、キリストと一致するための手順のようなものです。またミサのこのような手順（型）は信仰の表現であり、生きた信仰教育（カテケジス）でもあります。そこで私たちは、『魂』を打ち込んでミサにあずかることができるように、次回から、ミサの具体的な『型』とそこに込められている典礼的な意味を、ミサ典礼書の順に添って、いっしょに見ていきたいと思います。

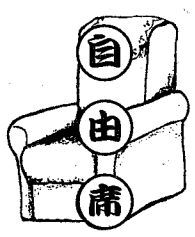
（福岡聖スルピス大神学院　白浜　満神父）

現在、福岡サン・スルピス大神学院には5人の神学生がいる。その内、3人は来春司祭叙階の予定。彼らが卒業すると、今のままで行けば、その後は9年間で3人の司祭しか誕生しない計算になる。新しく若い宣教司祭が来日することもあまり期待できない状況の中にあって、この数は非常に厳しいもの。しかも、現在教区内で働く司祭がずっと健康であることが前提となっている。

福岡カトリック神学院には現在10人の神学生がいるが、今後は中・高生からの召命育成だけではなく、広く青年層にも呼びかけていくことが求められる。

この四月から新しく神学院の院長になった山元眞神父は司祭召命について次のように語っている。「司祭召命のために祈ることはもっとも大切なことであるが、それは、ただ与えて下さいと祈ることではなくて、召命育成のために、何を、どのようにしたらよいのかを教えていただくように祈ることだと思う。『二十一世紀の教会』に奉仕する司祭になるために何が今必要なのかを考えながら養成にあたりたい。」

いと珍しき堅信



去る二月二十五日、私たち十一人は堅信を受けた。堅信なんてそんなに珍しいことではないではないか、と思われる方もいるだろうが、おそらく私たちの堅信は、福岡教区で類のないものであったろう。なんと、司教様との教理問答において、誰一人完答することができなかったのだ。当然私たちも試験勉強はしていたのだが、本番で答えられず、冷や汗ものであった。結局、司教様の広い心によって（はずだ！）、「両方とも中途半端な終わり方にする訳にはいかない」と。十一人それぞれのもてる限りの力を出し、感謝の気持ちを表した。結果はアンコールがくるほどの大成功。私たちも何とか名誉を回復できた気がした。

だが、私たちはまだ教理問答の答えを出していない。もう面と向かって答える機会はないだろう。だから私たちは、信仰活動を通して自分の信仰心の成長を見せることで、教理問答の答えにさせてもらうことにする。きっと司教様や天の神様も、それを願っておられるのだろうから―。



（帯山教会・高二　久保謙一郎）

†ダミアノ浦口實神父様

戸畑教会主任・浦口均神父様の実兄。厳律シトー会（トラピスト）当別修道院にて三月十七日帰天。享年78歳。

†マリア畠雪枝様

福岡黙想の家院長・畠基幸神父様の母堂。京都にて三月十七日帰天。享年73歳。

†シスター・ルチア若松静子様

援助修道会黒崎第一修道院修道女。北九州にて三月二十六日帰天。享年67歳。

カテケジス①

青少年の信仰教育についての不安をよく耳にする。ほとんどの小教区で土曜日や日曜日に教会学校が開かれているが、参加者も少なく、どのようにしたら子供たちがもっと集まるのか、何を、どのように教えたらよいのか、というような問題が山積している。たとえばカリキュラムの問題にしても、各小教区はそれぞれ状況が異なっており、すべての小教区に当てはまる方法や内容はありえないようにみえる。子供の数もまちまちだし、教会学校のスタッフもほとんどがボランティアで、カテキスタの養成を専門的に受けているわけではないので、不安は募るばかりであろう。

そのような諸問題を現場のスタッフとまず分かち合ってみたい。そのために、月一回、神学院で「集い」をもつことを企画した。そこではおそらく、要理教育（カテケジス）のことだけではなく、親子のかかわり、学校での問題なども分かち合われると思う。まず、子供たちの生活現場の状況を知ることが、よりふさわしいカテケジスの方法を見つけることになろう。

さまざまな対策を講じながら、そこで考え、気づいたことを教区報のこの欄で紹介していきたい。

下記の要項で、教会学校リーダーの集いをできるだけ定期的に開くことにする。対象は、小教区や学校で宗教教育に携わっている皆さん。子供の信仰教育で悩んでおられる方も歓迎。

いろいろな教材なども検討し、同時に神学院のライブラリーも充実させていきたいと考えている。そういった意味での神学院の環境整備にも協力していただければ幸いに思う。

21世紀の教会を担っていくのは、今の若者たちである。彼らに与えられた尊い使命は、単に教会内部で信仰を守っていくことだけではなく、福音を現代社会の人々に伝えることでもある。カテケジスによって伝えられる真理は永遠に変わることはないが、その伝え方は時代とともに変わっていく。その方法を考え、実行していくのが、私たちの大切な使命にほかならない、と思う。

【教会学校リーダーの集い】
日時：毎月第3日曜日13時30分～15時30分
場所：福岡カトリック神学院
問合先：同上☎092-531-6821（山元神父）
会費：毎回500円（資料代等）

ご復活おめでとうございます
＊個人黙想随時受付（9:30～17:00）＊労働作業奉仕歓迎
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

信徒協・修女連

発足25周年

合同記念祭は11月23日

1971～1996

今年は教区信徒使徒職協議会（会長・田丸鋭・佐賀教会）と教区修道女連盟（会長・シスター佐藤節子・礼拝会福岡修道院）が発足して二十五年になる。

教区報で振り返ってみると、一九七一年は信徒使徒職の年といってもよいくらいに毎月「信徒協」に関するニュースが掲載されており、発足までの道のりをつぶさにみることができる。北九州地区での動きがもっともり三地区の準備が具体化していった。

この年、まず北九州、福岡、熊本、佐賀の四地区に信徒使徒職協議会が設立され、十一月二十一日の「王であるキリスト」の祭日に教区信徒使徒職協議会が発会した。発会式は福岡サン・スルピス大神学院で開かれ、野外ミサが行われた。参加者は一三〇〇人。当時の教区報12月号には「愛の実践こそ真の使徒職」という大見出しで大会が特集されている。

一方、福岡教区修道女連盟は一九七一年六月二十七日に総会を福岡雙葉学園で開き、修道女一三〇人が参加して発足した。教区内の修道女全員が司教のもとで一致協力し、教会への奉仕をめざすことが目的として掲げられている。

三月九日カテドラル大名町教会において、記念行事のための第一回企画準備委員会が開かれ、以下のことが検討された。

信徒協・修女連の活動への信徒の理解を深め、今後の活動への指針を求めるために十一月二十三日（勤労感謝の日）午前十時からカテドラル大名町教会において記念祭を行う。内容は、感謝ミサ、講演、修道女による国内外宣教活動の発表など。会場に信徒協及び修道会を紹介するパネルを展示する。各地区で記念行事を企画し、実施する。年度内に記念誌を発行する。なお、修女連では通信『きーとふ』で特集する。これらの案はさらに検討され、今後、具体的なことが決まる。


25年前に大神学院で行われた教区信徒協発足ミサ

佐賀

4月から 新講座

アレグリーニ神父と ヨブ記を読む

佐賀新聞文化セミナーでは、人間の苦しみや悩みを扱った旧約聖書の「ヨブ記」の講座が四月から始まる。講師は昨年出版された『心のシルクロード』の著者、アレグリーニ・アレグリーノ神父（佐賀・ロザリオの園付き）。

講座は六カ月コースで、毎月第一、三木曜日午後三時半から五時まで佐賀玉屋教室で。受講料は三カ月六回で七千二百円（消費税別、新入会は入会金二千円）。

問い合わせ、申し込みは佐賀新聞文化セミナー玉屋教室、電話0952-28-0317へ。

熊本

ミサを生かすのは こころ —典礼研修会—

三月十七日、健軍教会で「熊本典礼研修会」が開かれた。昨年に続いて二回目。主催は熊本地区信徒使徒職協議会。手取教会のオカロル神父を講師に招き、ミサを生活に生かすための心得を学んだ。オカロル神父はミサを生かすのは「こころ」であることを強調。最終的には信仰が必要であり、それがなければ、ミサはただのショーにすぎないと説いた。ミサ式次第に沿って動作と言葉の説明があり、研修会の終わりに実際にミサをした。天草方面をはじめ熊本県内各地から約百人が参加した。（取材協力・八代教会・長濱聰）

聖マリアの連祷に

『家庭の元后』の呼称を付け加える

昨年十二月三十一日付けの教皇庁典礼秘跡省からの通達により、聖マリアの連祷を唱えるときには、今後、「ロザリオの元后」と「平和の元后」の間に、「家庭の元后」を挿入することになった。しかし、一昨年カトリック中央協議会から発行した『ロザリオの祈り』の付録として収められている口語体の「聖マリアの連願」や、それをそのまま取り入れた、サンパウロから昨年新しく発行された『カトリックの祈り』の中の「聖マリアの連願」にはすでに「家庭生活の喜び」という呼称が入れられている。これについては、現行どおり唱えられる。

教区ハンドブック'96

福岡教区関係の情報をお手元に！

信徒の心得、行事予定入りカレンダー、教会や修道院、事業所等の情報を集めた小冊子が復活祭に発行される。二年前から毎年作成されているが、その存在はまだよく知られていない。年を追って様々な行事が増える傾向にあるが、予定が重なることもしばしば。小教区などで行事を計画する際にぜひ手元に置いて参照していただきたい。B6判。非売品（献金をお願いします）。各小教区にあります。

（教区本部事務局）

4月13日 カテドラルを支える献金を

この復活祭を期に、ご聖体の宣教クララ会・佐賀修道院が閉鎖される。一九七七年八月以来、約十九年間にわたり佐賀地区内の教会と幼稚園で宣教活動に従事してきた。ミラノ外国宣教会にとっても重要な助け手の役割を果たしていた。

聖母奉献修道会・福岡修道院が三月二十三日付けで設立された。同修道会は一九四八年に大阪教区の招きでカナダから来日。学校教育を主として青少年のキリスト教教育を使命とする使徒職を続けている。本部は兵庫県姫路市。福岡では笹丘カトリック幼稚園（聖アウグスチノ会経営）で幼児教育と福音宣教に当たる。今回は三人のシスターが来福した。院長はシスター・セリン・テレズ。住所は〒810福岡市中央区笹丘1-17-51、電話番号はFAX兼用で092-713-3271。

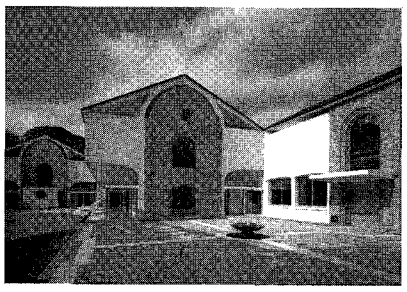
さようなら
ご聖体の宣教クララ会

いらっしゃい
聖母奉献修道会

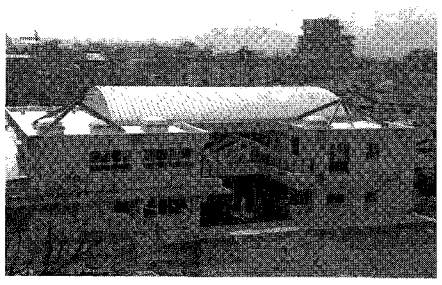
新園舎落成

福岡／田川

福岡雙葉小学校附属雙葉幼稚園（学校法人福岡雙葉学園＝園長・シスター加藤正子・園児数二五二）と田川カトリック幼稚園（学校法人福岡カトリック学園＝園長・深堀勝人神父・園児数二一二）の新園舎が相次いで落成。松永久次郎司教により園舎の祝別・落成式がそれぞれ三月六日と二十四日に行われた。雙葉幼稚園新園舎は建坪約五二〇坪、鉄筋コンクリート造・地下一階、地上二階建。田川カトリック幼稚園は建坪約三六〇坪、鉄筋コンクリート三階建。同幼稚園はこの四月に宗教法人カトリック福岡司教区から学校法人「福岡カトリック学園」に移行した。


福岡雙葉小学校附属雙葉幼稚園▲

▼田川カトリック幼稚園



先日、三月一日の「世界祈祷日」に関する祈りと集会の打ち合わせをするために、唐津市の三つのプロテスタント教会の牧師と、カトリック教会の司祭の集まりがありました。四人が顔を合わせるのは、その時が初めてで、自己紹介をしながら、それぞれの悩みや希望を話し合うことによって、教会一致の問題に対しても関心が高められ、心も開かれました。

カトリックとプロテスタントにおいて、われわれの先祖が確かに争ったが…もう十分ですライン

イタリアンスパゲッティから キリスト教一致懇談会へ

ラインに立って、今年からまず牧師と司祭のレベルで、何回も集まることにしました。そこでまず最初に、三月十一日にカトリック教会において、イタリアのスパゲッティ会をやりましょう、ということになりました。

人に満たないわずかな数ですが、私たちがキリストの愛とその教えに燃えて、一つの和となったら、一般市民に対してもりっぱな証となり、必ず効果もあり、これよりもよい宣教はないと思います。

まずは、教会の指導者間で互いの理解と一致を深め、次に信徒のレベルでも集いの機会を広げていくのです。すでに三月一日の「世界祈祷日」には、各教会の信徒が一つの教会に集い、共にお祈りを捧げ、霊的な恵みを分かち合うことができました。キリスト教徒が宗派の垣根を越えて、神の恵みを共に味わうことは、本当にすばらしいことなのです。

イタリアンスパゲッティ…この小さな試みから、今年の唐津市における教会一致運動の第一歩がスタートします。神様がこのささやかな真心をご支援下さり、この動きを、より市民的なレベルへと導いて下さいますように。（唐津教会　V・チェリッツァ神父）

神学的な議論にとらわれず、宣教や愛徳、慈善事業、道徳、教育など、お互いの共通点を尊重し、それぞれの教会の環境において、皆で協力していきたいものです。唐津市の人口八万人に対して、クリスチャンは一千三…。この集まりにおいて、唐津市のキリスト教会の指導者が、エキュメニズム（教会一致運動）に関して、多くの点で意見の一致をみたのは、たいへん有意義なことでした。今後はより仲良くしていこう、というスタート

BOOK 読みは専科

★マテオ・生熊来吉
—小さき人々と共に歩いた生涯—



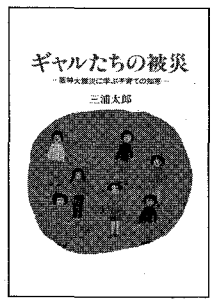
「土呂久・松尾等功鉱害の被害者を守る会」副会長として、宮崎県高千穂町の土呂久公害の被害者救済に尽くし、平成五年十一月二十三日、七十二歳で亡くなった生熊来吉・元福岡歯科大教授をしのぶ追悼文集。

土呂久の被害者やカトリック信者の仲間、学生時代の友人ら約六十人が、生熊さんをしのんで追悼文を寄せ、笹丘教会所属の吉田豊博さんが編さんに当たった。

葦書房（非売品）
［問合先］吉田設計事務所
☎092・711・0550

◇　◇　◇

★ギャルたちの被災
—阪神大震災に学ぶ子育ての知恵—



三浦太郎著

大震災は、人間の姿を浮き彫りにして見せる。神戸在住の著者の目に映った街と人々の有様。それは息子をたくましく、自立心に富む人間に育て上げたいと願っている親にとって、多くの貴重な教訓を与えてくれるものであった。どんなときにも前向きに生きるユニークなエッセイ。

目次の一部

地震で何が変わるか、友の死、ギャルたちの被災。

著者は英知大学文学部助教授（文化人類学専攻）。

女子パウロ会　一六〇〇円

ジャパンスマイル㈱
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 石 理 影 の 大 御 そ 石 他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

4月

4日（木）聖木曜日（主の晩さん）
聖香油ミサ［カテドラル11時］
5日（金）聖金曜日（主の受難）［大斎・小斎］
聖地献金
†F.ブレンゲ［佐賀1946］
6日（土）聖土曜日（復活徹夜祭）
司教ミサ［カテドラル19時］
7日（日）復活の主日
†C.シュミッツ［黙想の家1988］
8日（月）聖霊によるはげましと力を受ける
黙想会'96［カテドラル毎月曜10時］
（～5月20日）■
12日（金）†パウロ大野正恒［泰星学園1985］
13日（土）司教座聖堂献堂記念日［10周年］■
14日（日）白衣の主日
花岡山殉教祭［熊本14時］■
カテドラル献金日
15日（月）**カトリック愛苦会修道院落成式［10時］**
熊本結婚準備セミナー①（～5月14日）■
†J.ドレル［直方1984］
18日（木）小羊会［福岡礼拝会13時30分］
21日（日）**唐津教会堅信式**
教会学校リーダーの集い
［福岡カトリック神学院13時30分］
23日（火）**教区顧問会［司教館本館14時］**
25日（木）聖マルコ福音記者
†A.レウトル［新田原1944］
26日（金）みこころホスピスチャリティーコンサート
［熊本18時30分開演］■
28日（日）召命祈願日
召命祈願ミサ［浄水通9時］＊2面参照
福岡生と老い・死をみつめる会
［カテドラル14時］■
労働問題全国フォーラム［カテドラル］
29日（土）みどりの日
シエナの聖カタリナおとめ教会博士

5月　聖母月

1日（水）労働者聖ヨセフ
2日（木）聖アタナシオ司教教会博士
第35回クルシリヨ［黙想の家～5日］■
3日（金）憲法記念日
聖フィリッポ・聖ヤコブ使徒
4日（土）国民の休日
修女連総会・奉献生活についての研修会
［カテドラル10時］
5日（日）こどもの日
†F.ルマリエ［八代1945］
9日（木）福岡結婚準備セミナー①（～6月6日）■
10日（金）聖書講座①［カテドラル19時］■
11日（土）†F.チリ司教［福岡教区長1930］
12日（日）世界広報の日（指定献金）
広報研修会［司教館別館5階13時30分］
13日（月）北九州教会学校リーダー研修会
［小倉教会9時45分受付］■
14日（火）聖マチア使徒
15日（水）†ヨハネ棚町正刀［茶山1968］
16日（木）小羊会［福岡礼拝会13時30分］
17日（金）聖書講座［カテドラル19時］②
19日（日）主の昇天
典礼研修会［カテドラル13時］■
教会学校リーダーの集い
［福岡カトリック神学院13時30分］
24日（金）扶助者聖マリア
聖書講座［カテドラル19時］③
26日（日）聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14時］
仏教者とキリスト者の集い［福岡14時］■
29日（水）司祭候補者認可式［大神学院16時30分］
30日（木）聖ジャンヌ・ダーク
31日（金）聖母の訪問
聖書講座［カテドラル19時］④

■印は本面に詳細説明あり

福岡黙想の家4月

◇3日（水）ミカエル会
◇4日（木）～7日（日）聖週間黙想会
◇13日（土）～14日（日）木曜会
◇17日（水）親業訓練講座《無料》
②24日③27日④5月1日⑤11日⑥22日⑦29日
◇19日（金）日本聖公会婦人会研修
19日～20日（土）一般婦人対象黙想会（マテオ神父）
◇28日（日）～30日（火）バプテスト折尾教会修養会
［問合先］黙想の家　☎　0940・　32・3222
FAX　32・3385

生命山カトリック別院

■「光龍会」仏教者とキリスト者の集い　この集いは仏教者とキリスト者が一緒に集って相互の信仰、信仰体験について尊敬をもって聞き合い、分かち合うことを目的として約10年前より福岡で行われてまいりました。

［日時］5月26日（日）14時～17時30分［場所］福岡市中央区大名2-10-1シャンボール大名A-1202（中央区役所前）大名町教会より徒歩3～5分［講師］古川泰龍師（浄土真宗シュバイツアー寺住職）／フランコ神父［内容］歎異抄（親鸞聖人）・聖書に基づく話［問合先］生命山カトリック別院　☎　0968-85-3100

主催：日本カトリック研修センター

募集

新しい賛美の歌'96

テーマ「子供のための賛美の歌」

◎詞のみ、または詞と曲を募集します。

こんな歌を！！
◇祈る心を育てる歌
・朝に夕に・食事の時に・日曜学校の集いに　etc.…
◇みことばと教理の理解をたすける歌
・父である神様・神の子イエス様・聖霊の光・聖体
・神様のゆるし・クリスマス・主の復活　etc.…
◇愛し合う力がわいてくる歌
・いたわりの心・正しい行い・仲良し・平和・勇気　etc.…

★締切　1996年7月20日　★発表　1996年9月15日

○問合先：日本カトリック研修センター・研究企画部
☎ 052・831・5037

バチカン・システィーナ礼拝堂合唱団

福岡公演　7月5日（金）19時　開演
場所：アクロス福岡シンフォニーホール
チケットA：7500円／B：6000円／C：4500円
チケット問合先：九州労音☎0952・26・2351

■聖霊によるはげましと力を受ける黙想会'96　［日時］4月8日から毎週月曜日10時～12時（5月20日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］福岡地区祈りの集い①神の愛／牧山勝美神父・マテオ神父・ガブリエル神父②救いのみわざ／マルコ神父・マテオ神父・ガブリエル神父③新しい生命／畠基幸神父・マテオ神父・ガブリエル神父④神の賜物の受領／ドワイヤ神父・マテオ神父・ガブリエル神父⑤聖霊の満たし／マッケイ神父・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父⑥聖霊のうちでの成長／オカロル神父・マテオ神父・ガブリエル神父⑦《ミサ》キリストの証人／松永久次郎司教・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父・友永徳一神父・ガブリエル神父［申込・問合先］司教館・ブラザー床島藤吾☎092・522・5139

■福岡司教座聖堂（カテドラル）献堂記念日・献金　司教座聖堂が献堂されて今年は10周年。献堂記念日は4月13日だが、聖堂センターが建築されて十年になり、維持管理に多大な費用が必要となっている。特に鐘楼の改装のために信者の献金による協力が求められている。各小教区の14日のミサ献金はカテドラルのために使われる。

■花岡山殉教祭　熊本市の花岡山中腹に加賀山マリア（みや）殉教碑が建てられている。この碑が建立されている所は遺体が実際に埋葬されている世界でも稀な殉教者の聖なる墓域とされている。［日時］4月14日（日）14時野外ミサ。雨天現地決行。［場所］熊本市花岡山・加賀山マリア殉教碑の前［問合先］島崎教会☎096・352・5610

■第50回熊本結婚準備セミナー　［日時］4月15日～5月14日毎月曜・火曜日（4月29日と5月6日を除く全8回）19時～21時20分［場所］手取教会☎096・352・3030FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■みこころホスピスチャリティーコンサート　［日時］4月26日（金）18時30分開演［場所］産文大ホール［出演］本田路津子［曲目］耳をすましてごらん、秋でもないのに、他・日本の民謡［出演協力］日本民謡協会、熊本翠豊会［主催］みこころホスピス後援会［協力］日本民謡協会、熊本翠豊会、みこころボランティア［前売り券］100円（学生500円）［当日券］1500円（学生700円）［チケット取扱い所］カトリック教会案内所・イエズスの聖心病院［問合先］みこころホスピス後援会☎096・352・7181

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］4月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］総会とビデオ鑑賞（タイトル・永元さんの絵）［問合先］大山美穂子☎FAX092・713・8523

■第35回クルシリヨ　［日時］5月2日（木）19時～5日（日）16時［場所］福岡黙想の家☎092・541・6207FAX940・32・3222［指導］加賀山豊重神父（門司教会）［参加費］12000円（宿泊・食事・用品代として当日受付に［携行品］ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具［申込先］教会配布の用紙を4月20日まで左記事務局に送る［連絡先］〒8133福岡市東区舞松原5―23―9大谷真造（クルシリヨ事務局）☎092・661・0120

■第64回福岡結婚準備セミナー　［日時］5月9日～6月6日毎木曜・土曜日（5月23日を除く全8回）19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［問合先］教区本部事務局に氏名、カテドラル教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①コリントの教会へ②序文とコリントの教会の分裂・同上③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■北九州教会学校リーダー研修会　［日時］5月13日（月）10時15分～14時30分（受付9時45分）［場所］小倉教会・会館2階集会室［講師］高橋進（健康教育センターディレクター）［内容］レクレーションの実技研修ほか［会費］1000円（弁当注文別代金500円）［申込締切］4月28日［問合先］天神町教会・シスター館林☎FAX093・671・3252

■典礼研修会　5月19日（日）13時受付［場所］カテドラル大名町教会［講師］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］各小教区、福岡地区典礼担当者・一般信徒［問合先］森山信三神父（大牟田教会）☎0944・52・4871

■20代・30代の若い夫婦の集い―「家庭こそ心のオアシス」　［日時］6月2日（日）10時30分（ミサ）～16時／ベビーシッター付［場所］手取教会［会費］一家族1000円［主催］熊本市内5教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）前期　［日時］5月10日から毎週金曜日19時～20時45分（7月12日まで）［場所］カテドラル大名町教会［受講料］前期500円［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①コリントの教会へ②序文とコリントの教会の分裂③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）後期　［日時］10月4日から毎週金曜日19時～20時45分（12月13日まで）［場所］カテドラル大名町教会［受講料］後期500円［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①コリントの教会へ②序文とコリントの教会の分裂③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■生命の電話相談員養成講座　［日時］10月5日から毎週土曜日9時～12時（12月14日まで）［場所］福岡カトリック神学院［受講料］2000円［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①生命の電話相談員の役割・松永久次郎司教②傾聴の技術・ロジャーズ③自己理解・ジョハリの窓④自己開示・同上⑤自己受容・同上⑥カウンセリングの基礎・ロジャーズ⑦カウンセリングの実際・ロジャーズ⑧ロールプレイ・ロジャーズ⑨ロールプレイ・ロジャーズ⑩ロールプレイ・ロジャーズ

■聖書講座―福音書の手紙（前、後書）前期　［日時］5月10日から毎週金曜日19時～20時45分（7月12日まで）［場所］カテドラル大名町教会［受講料］前期500円［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①ヨハネ福音書の解説・牧山勝美神父②序文とヨハネ福音書の分裂③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■聖書講座―福音書の手紙（前、後書）後期　［日時］10月4日から毎週金曜日19時～20時45分（12月13日まで）［場所］カテドラル大名町教会［受講料］後期500円［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①ヨハネ福音書の解説・牧山勝美神父②序文とヨハネ福音書の分裂③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■聖霊によるはげましと力を受ける黙想会'96　［日時］4月8日から毎週月曜日10時～12時（5月20日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］福岡地区祈りの集い①神の愛／牧山勝美神父・マテオ神父・ガブリエル神父②救いのみわざ／マルコ神父・マテオ神父・ガブリエル神父③新しい生命／畠基幸神父・マテオ神父・ガブリエル神父④神の賜物の受領／ドワイヤ神父・マテオ神父・ガブリエル神父⑤聖霊の満たし／マッケイ神父・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父⑥聖霊のうちでの成長／オカロル神父・マテオ神父・ガブリエル神父⑦《ミサ》キリストの証人／松永久次郎司教・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父・友永徳一神父・ガブリエル神父［申込・問合先］司教館・ブラザー床島藤吾☎092・522・5139

■福岡司教座聖堂（カテドラル）献堂記念日・献金　司教座聖堂が献堂されて今年は10周年。献堂記念日は4月13日だが、聖堂センターが建築されて十年になり、維持管理に多大な費用が必要となっている。特に鐘楼の改装のために信者の献金による協力が求められている。各小教区の14日のミサ献金はカテドラルのために使われる。

■花岡山殉教祭　熊本市の花岡山中腹に加賀山マリア（みや）殉教碑が建てられている。この碑が建立されている所は遺体が実際に埋葬されている世界でも稀な殉教者の聖なる墓域とされている。［日時］4月14日（日）14時野外ミサ。雨天現地決行。［場所］熊本市花岡山・加賀山マリア殉教碑の前［問合先］島崎教会☎096・352・5610

■第50回熊本結婚準備セミナー　［日時］4月15日～5月14日毎月曜・火曜日（4月29日と5月6日を除く全8回）19時～21時20分［場所］手取教会☎096・352・3030FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■みこころホスピスチャリティーコンサート　［日時］4月26日（金）18時30分開演［場所］産文大ホール［出演］本田路津子［曲目］耳をすましてごらん、秋でもないのに、他・日本の民謡［出演協力］日本民謡協会、熊本翠豊会［主催］みこころホスピス後援会［協力］日本民謡協会、熊本翠豊会、みこころボランティア［前売り券］100円（学生500円）［当日券］1500円（学生700円）［チケット取扱い所］カトリック教会案内所・イエズスの聖心病院［問合先］みこころホスピス後援会☎096・352・7181

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］4月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］総会とビデオ鑑賞（タイトル・永元さんの絵）［問合先］大山美穂子☎FAX092・713・8523

■第35回クルシリヨ　［日時］5月2日（木）19時～5日（日）16時［場所］福岡黙想の家☎092・541・6207FAX940・32・3222［指導］加賀山豊重神父（門司教会）［参加費］12000円（宿泊・食事・用品代として当日受付に［携行品］ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具［申込先］教会配布の用紙を4月20日まで左記事務局に送る［連絡先］〒8133福岡市東区舞松原5―23―9大谷真造（クルシリヨ事務局）☎092・661・0120

■第64回福岡結婚準備セミナー　［日時］5月9日～6月6日毎木曜・土曜日（5月23日を除く全8回）19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［問合先］教区本部事務局に氏名、カテドラル教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①コリントの教会へ②序文とコリントの教会の分裂③十字架につけられたキリスト、神の啓示・松永久次郎司教④奉仕者の役割・同上⑤キリスト者の生活の実際的教訓・同上⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■北九州教会学校リーダー研修会　［日時］5月13日（月）10時15分～14時30分（受付9時45分）［場所］小倉教会・会館2階集会室［講師］高橋進（健康教育センターディレクター）［内容］レクレーションの実技研修ほか［会費］1000円（弁当注文別代金500円）［申込締切］4月28日［問合先］天神町教会・シスター館林☎FAX093・671・3252

■典礼研修会　5月19日（日）13時受付［場所］カテドラル大名町教会［講師］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［対象］各小教区、福岡地区典礼担当者・一般信徒［問合先］森山信三神父（大牟田教会）☎0944・52・4871

■20代・30代の若い夫婦の集い―「家庭こそ心のオアシス」　［日時］6月2日（日）10時30分（ミサ）～16時／ベビーシッター付［場所］手取教会［会費］一家族1000円［主催］熊本市内5教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

日本カトリック研修センター・プログラム

◎生活の中で読む聖書1　［日時］4月19日（金）16時～21日（日）13時30分［内容］教会を体験する分かち合い［対象］信徒、修道者、司祭［定員］30名［費用］20000円

◎集会司式者養成コース　［日時］5月23日（木）16時～26日（日）13時30分［内容］日曜日の集会祭儀の司式［対象］信徒、修道者、司祭［定員］35名［費用］30000円［問合先］〒466名古屋市昭和区広路町隼人30日本カトリック研修センター研究企画部☎052・831・5037FAX831・5317

編集後記

今月号からコンピューターを使って編集をしています。

発送は大変な作業ですが、福岡地区婦人会の皆さんが手伝ってくださいます。感謝！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

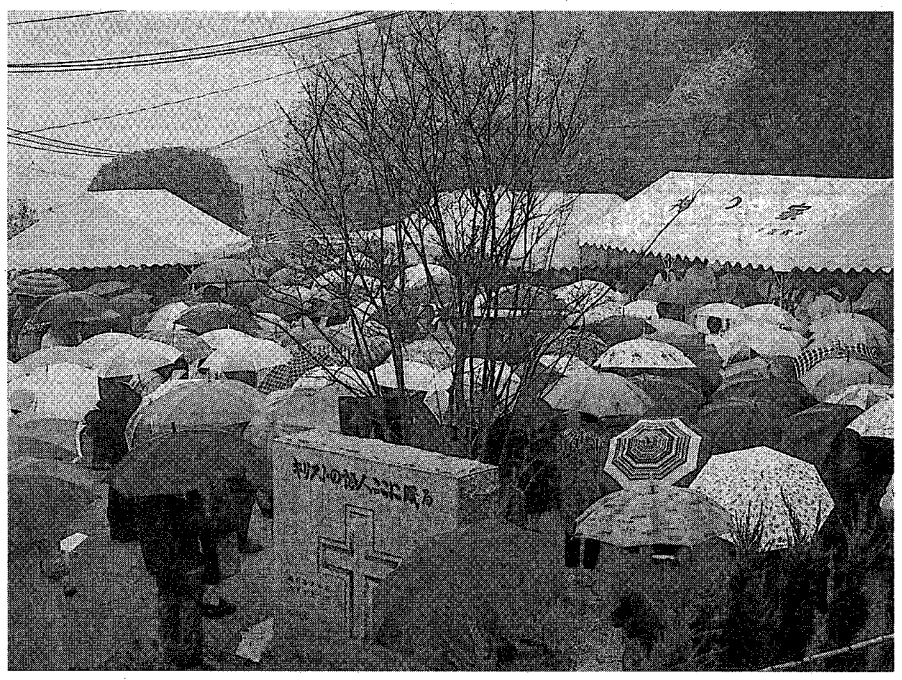
今月のみことば

互いに重荷を担いなさい。
そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。
（ガラテヤ6・2）
古賀教会　乾　盛夫　神父

熊本

花岡山で殉教祭
雨の中、300人が集う

復活節第二主日ののの四月十四日、熊本市の花岡山で殉教祭が開かれた。花岡山の殉教者墓地には、現在、列福が申請されている小笠原玄也、加賀山マリアみや外、十三人の墓がある。殉教者の墓があるのは、全国でもここだけ。悪天候にもかかわらず、熊本県内外から約三百人の信者が参加し、殉教者の遺徳を偲び、列福の早期実現のために祈りを捧げた。



降りしきる雨の中、殉教祭に集まった信者。手前は移設された殉教碑。

熊本・花岡山殉教祭が、小笠原玄也、加賀山マリアみや外、十三名の殉教者墓地広場にて、四月十四日午後二時より、雨の中、地元熊本及び教区の各県下より信徒約三百人が参列し、厳かに挙行された。

式典は松永久次郎司教の司式で執り行われた。先ず、十五名の殉教者の眠る墓地に、花がしずしずと、供えられた。引き続き、昨年十月、新たに教区の所有地となった殉教広場の祝別式が行われた。当日の式典の中心をなす殉教ミサ典礼。ミサは、司教及び地元の主任司祭たちを合わせ、十一人の聖職者による共同司式で捧げられた。ミサの中で、松永司教は、熱のこもった説教を行われた。降りしきる雨の中で、ややもすれば注意散漫になりがちな会衆の心に、司教の熱意が伝わった。それは殉教者の遺徳を偲ばせ、その意義を説き明かしするにふさわしいものとなった。

説教の要点は次の通りである。「本日は、ひどい雨の殉教祭となりましたが、私どもの信仰が、今、ためされているようにも思えます。さて、この花岡山の墓地に葬られた十五人の殉教者たちの列福申請の手続きはすでに終了しております。早ければ、今世紀中か、遅くとも来世紀の初頭には列福が実現するものと思われます。ところで、小笠原玄也、その妻マリアみや、そして九人の子女たちと四人の侍女たち、この一族は禁教令の中で、迫害の時代を生き抜いた人たちであります。ちなみに申しますと、禁教令が出されたのが、一六一二年、一族の殉教は一六三六年であります。この間の二五年を、少なくとも、玄也と妻マリアみやは、キリシタンとして生き抜きました。そのため、玄也は武士としての地位を追われ、一族はどん底の生活を余儀なくされ、貧しさに甘んじました。それは、来るべき殉教にそなえての日々だったことでしょう。玄也の長女くりがしたためた遺言書によりますと、私がキリシタンでありつづけましたのは、周囲から強制されたものではなく、まったく私の意志によるものです、と述べています。そして続けて、私がここまでこれましたのは、神様のお導きによるもので、とても感謝しております、とも書いています。この一途な信仰に、私どもは深い感銘を覚えるものであります…」



傘をさして侍者をする子供たち

雨の降り続く中、式典は滞りなく進行し、予定通り午後四時に無事終了した。

これまで、雨天の折は島崎教会の聖堂に会場を移していたが、今年からこの慣習を改め、天候にかかわらず、現地で挙行されることとなった。今回は雨の中での式典となったが、雨傘の下で、熱心に与る参列者の姿が多く見られ、この光景がたいへん印象に残る殉教祭であった。

（取材協力・島崎教会・高木光行）

世界広報の日―5月12日

女性の役割を生かすメディア

今年の世界広報の日のテーマは「女性の役割を生かすメディア」です。このテーマは女性のために正義と平等を促進するばかりでなく、女性に与えられた特別な恵みがますます認められるために、コミュニケーション・メディアには重大な使命があることを認めているものです。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、「世界広報の日」のメッセージを、この言葉で始められ、女性は、生命に本来備っている価値を認める責任と生命の伝達の神秘に親密に関る特別な能力を持っている。また、女性には、対人関係に要求される深い洞察力が備わっていると一九八八年と昨年出された使徒的書簡「女性の尊厳と使命」「女性への手紙」に続いて指摘され、女性自身がメディアの制作の場で、その責任ある立場で、もっと特性を生かした働きが与えられるようになるべきである。

また、コミュニケーション・メディアは、急務である女性の平等を達成させる力を持っていることが強調されている。

メディアに関る人々が、しばしば、言葉を奪われ、辺境に追いやられた人々のよき代弁者になれるように、彼らが現代の世界の女性に関する二つの重要な問題についてもかけがえのない立場にあると指摘されている。

第一は、人類は、妻であり母として選ばれた女性たちに、その生存を担ってもらっているのに、母性に報いるのでなく、しばしば不利な立場に追いやっていること。

第二は、女性の真の解放は、もはや当然の正義の問題であり同時に社会福祉の問題でもあるということである。

社会が効率と生産性の基準によってのみ組織される時、生命と愛の価値の双方で、特別な恵みと資格をいただいている女性は、その矛盾を明らかにし、人間化のプロセスに関ることで、社会組織を変えていけます。女性自身がメディアの中でその特質を専門的活動に向け、音楽や教育番組を促進させることもできます。また、メディア産業の中で識別ある消費者として、特に家庭教育に携われます。

祈り、貧しい人々、病人、文字が読めない人、若者、お年寄り、障害のある人々に全てを捧げている多くの修道女たち、彼女たちの中にはコミュニケーション・メディアに従事している人々もいます。メディアは、このような社会の真のヒロインにも焦点をあてるべきです。また、女性に与えられたすべての賜物が、神の偉大さを示しているという理解が必要です。

それは、神が、愛と命、善と恵を与える方、神こそが、女性の尊厳と平等、女性の特別な資質の源だからです、と結ばれている。

私たちが「世界広報の日」にあたり、TVや雑誌等による子供への悪い影響を指摘するばかりでなく、賢い消費者として見る目を養い、スポンサーに対しての指摘や正しい本の紹介なども手掛ける知恵と勇気を持つために、女性同士の対話、カトリック雑誌の積極的購読なども勧める時代を迎えていると言えるだろう。

司祭の卵・今年は4コ
教区・3人／聖パウロ会・1人

福岡教区には司祭の養成機関として、福岡聖スルピス大神学院、福岡カトリック神学院、聖パウロ小神学校がある。将来の司祭を目指して入学した新入生はそれぞれ5人、3人、1人。総勢41＋10＋7人。58人の神学生がまた新たな気持ちで司祭職に向かって歩き始めた。



校訓　礼節

福岡聖スルピス大神学院に入学した五人の神学生はいずれも長崎カトリック神学院卒で、福岡教区の新入生はいない。福岡カトリック神学院には、三人が入学した。門田祐希君（新田原）、石川裕之君（大牟田教会）、藤川和也君（新田原＝**写真左から。**）三人は福岡市立の平尾中学校に通う。

体力の向上を目指して日夜、研さんを積んでいる。

聖パウロ小神学校

福岡における聖パウロ会は一九五〇年、小笹の木造平屋の修道院から始まった。現在の志願院（小神学校）は一九五四年に完成したものである。福岡設立の動機は、九州第一の都市であり、長崎に近く募集しやすいこと。志願者が四十人をこえる時期もあったが、現在は福岡・大分教区からの七人（中・高生）だけ。

今年の新入会員は湯川教会から上村剛君（中一）一人。昭和五十八年五月二十一日生れ。入会時のあいさつにいわく、「院長さまや先輩たちの言うことをよくきいて、りっぱな修道院になります」

現在、神学院には中学生が五人、高校生が五人いる。高校生はそれぞれの能力に応じて四つの高校に通っている。出身小教区は新田原三人、鳥栖二人、笹原丘、浄水通、本郷、小倉、大牟田がそれぞれ一人。将来、教会に奉仕するために、信仰、学識、人格、体力の向上を目指して日夜、研さんを積んでいる。

カテドラル献堂10周年
テレホンカード発売中！
二種類のテレカを発売中。
カテドラル維持のため。
一枚一〇〇〇円
［問合先］カテドラル☎092・741・3687

広報の集い
日時：5月12日
13時30分～16時
場所：司教館別館
5階会議室
問合先：福岡カトリック神学院
☎092-531-6821

みちくさ

青葉若葉の季節である。みどりの日のある四月が若草もえる季節なら、五月は新緑の色増す季節。若葉が匂いを放ち、風さえ薫る▼小笹、浄水通地区は動植物園を含む南公園があるため、中央区にありながら年じゅう緑に囲まれている。こういう所に住んでいると、さほど緑に感動を覚えない。自然に対して鈍感になるのだろう。気をつけるのは青信号ぐらいのものだ▼信号といえばこんな話も。新一年生につき添っていたお母さんがさとす。「信号が青になってから渡りなさい」「だってあれは緑だよ。青じゃないよ」「ン？　たしかに」。これは教育上問題ありと、信号を言葉どおり青色に直すよう訴えでた。結果、大金を投じて訴え通りにした自治体がある、とかないとか…▼だが、これは双方の無知か勘違い。こういう手合いが「みどりの黒髪なんて、どう考えてもおかしい」などと言い出すのである。青とは藍や群青など緑色の感じを含む寒色系の総称で、草木の葉の色をさす。青木とは常緑の木のこと。緑は青と黄色の中間の色で、新芽・若葉のみずみずしさを表す。青二才、みどり児という語でもわかるように、共に未熟の意味がある。緑は色彩学ではお金のたまる色だそうで、それで手提げ金庫は緑色になっているとか▼聖母月『あお葉わか葉に風かおりて……』わかくさ萌ゆる春の野辺に』と歌う。が、聖母の衣の色は図像学では赤青白と決まっており、緑はない。典礼色は五月下旬から年間の緑色になる。これは希望を表す。ずっと以前には青色もあったらしい。なぜ消えてしまったのだろう。（H）

典礼　ミサのこころ②『集う』

中学校の音楽の時間によく歌った唱歌に『一人の小さな手』という歌がありました。「一人の小さな手、何もできないけど、それでもみんなが、みんなが手を合わせれば、何かできる。」…みんなが集まって協力し合うところに、思いもよらないすばらしい力が生まれてくることを教える美しい歌詞です。

ところでこの歌詞は、私たちが『ミサに集う』ことによって、そこに生じるすばらしい力（神秘）を表現するためにも、当てはめることができるのではないでしょうか。キリストは次のように仰せになっています。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもまたその中にいるのである」（マタイ18・20）。キリストのこの約束は、主の過越を祝うために「キリストを代理する司祭を座長として、一つに集まった神の民の集会である」ミサにおいて、もっともすぐれた方法で実現します（『ミサ典礼書総則』7参照）。ですから、キリストの御名のもとに行動する司祭を中心として、信者が『集う』ことが、ミサを始める根本的な『型』であるということができると思います（＝会衆が参加するミサ）。

ミサを司式する司祭を囲んで一つに集まる時、私たちのこの集いは、単なる人間の集いではなく、『復活されたキリストを中心とする神秘的な集い』に変えられます。もちろん司祭が一人でミサをしても、キリストはそこにおいでになってくださいますが、むしろそれは例外的に許されているミサの『型』であると言わなければなりません。ですから、たとえみんなが、ミサの中で特別な奉仕を任されないとしても、『ミサのために集う』こと自体が、その集いの中で救いのわざを行うキリストを招くためのすばらしい典礼奉仕であることを意識し、一人でも多くの人が手を取り合って、ミサに集う心構えを大切にしたいと思います。

（福岡聖スルピス大神学院　白浜　満神父）

カテケジス②

4月21日に開かれた第1回目の「リーダーの集い」には福岡市内と筑後地区の7教会から約20名の教会学校リーダーが集まった。この春から新しいスタッフに代わったのをきっかけに主任司祭と一緒に参加した教会もあった。

カトリック神学院を見学した後、聖堂で始めの祈りをし、教室で「集い」を持った。始めに山元神父が「カテキズム」「カテキスタ」など、言葉の意味の説明をした。カテキスタ（要理教師）の役目は「信仰を伝えること」。たとえば、「ナザレのイエスは復活して今も生きておられる」という原福音を伝えるためには、そのことが起こったのだ、と知識の面で強調するだけでは片手落ちで、カテキスタ自身がそのことを体験していなければならない。そこにカテキスタの難しさがある。使徒たちから伝えられた信仰は、使徒たちが実際に体験したことであった。カテキスタの役割は「自分の信仰」を伝えることだといってもよい。

今回は取り立ててテーマが決まっていなかったので、カテキスタとしての現場での体験を自己紹介を交えて語り合った。

共通した悩みをみんなもっている。子どもたちが教会に来ない。限られた時間の中で、何を優先的に伝えたらよいかわからない。せめて教区レベルでの共通のテキストはできないのか。カテキスタに任せっきりにしないで、もっと司祭もかかわってほしい。など、悩みや、要望は枚挙にいとまがない。ともかく、悩みながらも、いろいろと工夫をしてカテキスタはがんばっている。それを無駄にしないためにも教会学校の授業？　をする度に気づいたことを必ず一冊のノートにメモしておく。それが将来宝となるし、次のスタッフに交代する時にそれを渡せば、きっと役に立つだろう。

次回の「集い」は19日。テーマは「何を伝えるか」。

【リーダーの集い】
日時：毎月第3日曜日
13時30分～15時30分
場所：福岡カトリック神学院
問合先：同上☎092-531-6821（山元神父）
会費：毎回500円（資料代等）

福岡教区教勢（1995.1.1～12.31）

福岡教区教勢統計（1995年度）　*司祭・修道者・神学生の数は含まれません。

地区名	小教区名	在籍信徒数 男	女	合計	転入 '95	'94	'93	転出 '95	'94	'93	洗礼 幼児	成人洗礼 '95	'94	'93	求道者 '95	'94	'93	不明	死亡	結婚 信者	混宗	異宗	他宗	ミサ参加者 主日	復活	降誕祭
福岡地区	糸島	130	137	267	13	19	17	6	2	14	7	1	1	1	3	3	2	0	0	0	0	0	0	110	200	250
	今村	455	527	982	6	8	6	8	15	7	3	6	7	16	2	2	6	0	13	2	0	13	0	750	900	950
	大楠	135	184	319	23	14	5	11	20	7	4	4	9	5	1	1	5	63	4	1	0	8	3	150	180	200
	大牟田	70	130	200	2	18	0	8	11	2	2	1	2	3	4	1	3	24	1	0	0	2	20	80	190	210
	小郡	161	205	366	3	4	6	7	12	2	2	0	0	1	1	3	2	25	2	1	1	0	0	120	200	300
	久留米	538	720	1,258	36	46	26	41	28	30	9	11	2	4	3	8	4	0	7	0	0	9	22	500	700	900
	古賀	377	466	843	38	51	52	25	27	18	9	2	5	13	0	6	0	0	7	0	0	3	2	264	493	600
福岡県総人口	笹丘	342	464	806	34	36	21	20	24	21	9	11	4	9	20	20	7	3	2	1	0	2	2	350	550	800
4,939,419人	浄水通	181	293	474	32	24	14	17	9	24	10	11	13	16	3	20	22	21	3	4	0	18	67	265	350	1,150
	大名町	639	879	1,518	58	85	75	105	86	62	11	24	22	25	29	38	51	92	13	4	0	31	47	500	800	3,000
県総信徒数	高宮	179	262	441	19	22	25	13	19	18	13	9	3	4	5	6	3	62	2	0	0	8	5	90	200	400
23,799人	茶山	258	300	558	7	23	16	12	14	24	1	1	1	2	4	7	3	0	5	0	0	4	0	248	313	290
比率　0.48%	西新	556	663	1,219	53	48	65	43	55	24	11	7	6	12	8	9	9	19	4	0	0	6	0	400	500	650
	箱崎	125	173	298	22	7	11	18	34	21	5	3	1	1	0	4	0	0	1	0	0	1	0	100	180	250
	光丘	586	636	1,222	68	44	64	48	35	44	4	5	9	7	12	10	12	9	3	1	0	6	0	370	500	600
	二日市	194	255	449	11	33	27	12	15	11	5	4	5	0	6	7	9	10	2	0	0	1	0	250	290	500
	本郷	333	345	678	11	6	3	4	6	1	11	1	1	1	4	4	2	14	5	1	0	2	1	370	550	600
	吉塚	302	401	703	30	24	15	18	9	16	6	5	1	2	8	7	7	0	2	3	0	4	0	250	400	500
	老司	246	297	543	26	23	17	23	65	24	5	5	3	1	8	6	5	11	4	2	0	2	4	130	310	452
	小計	5,807	7,337	13,144	492	535	465	439	486	370	127	111	95	123	121	162	152	353	80	20	1	120	173	5,297	7,806	12,602
北九州地区	飯塚	108	146	254	8	7	16	14	6	10	2	3	0	3	1	5	3	0	3	1	0	2	3	80	160	190
	黒崎	407	683	1,090	11	9	20	13	6	31	6	3	12	10	13	17	12	0	10	1	0	4	6	400	500	900
	小倉	1,124	1,492	2,616	135	32	53	79	63	47	15	9	13	21	14	12	22	317	15	2	0	12	16	550	800	2,000
	新田原	894	970	1,864	26	19	19	34	19	27	12	1	2	2	5	0	1	0	6	0	0	11	2	800	1,500	1,500
	田川	59	90	149	2	6	0	2	5	0	1	0	1	1	0	0	1	26	2	0	0	0	1	30	65	90
	天神町	140	202	342	42	9	10	4	4	2	1	1	0	0	2	1	2	10	3	0	0	3	1	95	163	190
	戸畑	334	430	764	9	13	7	22	3	8	5	0	0	21	5	2	6	0	3	0	0	4	6	180	300	550
	直方	72	77	149	10	0	2	2	2	5	4	0	2	4	1	0	2	20	0	0	0	1	0	40	100	120
	水巻	323	393	716	13	25	29	8	8	9	8	2	5	2	0	0	0	0	2	0	0	10	0	200	300	400
	門司	220	304	524	10	10	6	26	4	9	2	5	0	1	5	11	2	0	1	0	0	2	0	235	280	390
	湯川	556	647	1,203	45	15	8	17	18	9	8	3	10	1	5	4	9	17	11	2	0	12	4	400	650	800
	行橋	311	340	651	16	16	11	24	23	11	9	7	3	0	0	6	6	1	5	0	0	5	3	250	300	450
	若松	155	178	333	1	4	4	10	10	0	7	4	1	2	10	8	2	0	4	0	0	1	2	70	190	200
	小計	4,703	5,952	10,655	328	165	185	255	171	168	80	38	49	68	61	66	68	391	65	6	0	67	44	3,330	5,308	7,780
福岡県	合計	10,510	13,289	23,799	820	700	650	694	657	538	207	149	144	191	182	228	220	744	145	26	1	187	217	8,627	13,114	20,382
佐賀地区	伊万里	109	132	241	10	14	3	10	7	1	5	4	1	1	4	12	6	3	2	0	0	2	0	65	130	150
	鹿島	22	27	49	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	10	35	60
佐賀県総人口	唐津	178	223	401	14	18	5	10	7	16	9	11	9	2	0	0	0	0	4	1	0	9	2	120	150	240
884,843人	佐賀	254	410	664	19	16	20	20	42	26	7	21	25	13	18	2	10	4	20	1	0	6	18	160	400	550
	多久	56	60	116	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	1	3	0	0	0	0	0	30	40	70
県総信徒数	武雄	32	48	80	3	1	4	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	20	50	90
2,622人	鳥栖	140	212	352	10	12	14	9	3	13	10	5	8	5	6	9	8	3	3	2	1	0	0	110	250	280
比率　0.3%	馬渡島	183	163	346	2	1	2	6	10	10	6	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	185	330	350
	呼子	193	180	373	2	8	12	7	9	13	9	0	0	1	1	1	0	0	4	0	0	2	0	350	380	400
佐賀県	合計	1,167	1,455	2,622	62	71	60	63	78	79	47	42	46	26	30	26	25	13	36	4	1	19	20	1,050	1,765	2,190
熊本地区	荒尾	41	103	144	3	2	8	0	8	12	3	6	2	3	8	12	10	0	2	0	0	1	0	50	65	70
	大江	134	183	317	2	11	5	2	3	9	4	2	3	0	0	0	2	0	7	0	0	2	10	120	150	240
	帯山	114	157	271	9	0	11	17	0	15	2	3	0	2	0	0	9	5	2	1	0	0	0	80	300	300
	菊池	22	55	77	2	3	6	7	0	1	0	0	0	1	0	0	0	31	2	0	0	0	0	30	40	80
	健軍	184	260	444	12	18	16	19	17	38	3	8	5	6	4	8	4	0	6	0	0	6	0	150	200	250
熊本県総人口	崎津	102	134	236	6	2	0	9	7	20	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	60	140	160
1,861,337人	島崎	127	217	344	4	3	6	4	12	7	1	9	4	2	10	10	5	0	12	0	0	2	1	180	280	320
	玉名	44	60	104	0	0	4	0	3	2	1	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	50	110	240
県総信徒数	手取	528	760	1,288	49	39	46	56	39	32	5	37	47	38	23	27	29	7	34	1	0	16	29	400	500	600
4,188人	人吉	70	133	203	4	4	6	2	3	4	0	0	1	1	0	1	0	2	1	0	0	4	5	70	96	210
比率　0.2%	本渡	52	101	153	7	13	56	6	9	20	2	3	1	5	2	1	2	0	3	0	0	0	3	30	70	130
	水俣	38	61	99	0	2	2	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	28	46	87
	武蔵ケ丘	147	218	365	73	77	8	40	58	4	2	1	9	4	0	3	15	27	1	0	0	2	0	160	220	350
	八代	45	98	143	1	4	2	4	1	19	1	2	1	2	8	4	6	0	4	0	0	2	5	80	120	300
熊本県	合計	1,648	2,540	4,188	172	178	176	167	160	185	29	71	73	65	55	66	84	77	76	2	0	36	54	1,488	2,337	3,337
教区	総計	13,325	17,284	30,609	1,054	949	886	924	895	802	283	262	263	282	267	320	329	834	257	32	2	242	291	11,165	17,216	25,909

教勢を読む

NICEの影響が見られる？

福音宣教が叫ばれている今日、また、教会の使命からしても当然、求道者、受洗者の数が気になるところ。NICE（福音宣教推進全国会議）前後の頃には、求道者は四百人いたが、その後は減少している。成人の受洗者数は横ばいだが、幼児の受洗者は減少の一途をたどっている。出生率の低下とも関係があるだろう。

教区神学生は目立って減っていないが、修道者志願者数は減っている。

降誕祭のミサ参加者数は昨年に比べて減っているが、これは、昨年が日曜日に掛かっていたので多かったと考えられる。

この統計には、左記のデータは含まれていない。

【司祭】・・・・・一〇一人
【教区】
【宣教／修道会】　六三人
【修道者】・・・・四七〇人
【教区神学生】・・・一五人

信徒三〇〇人あたりに一人の司祭がいる割合になる。司祭の高齢化が進んでいるとはいえ、信徒と司祭が一丸となって福音宣教に取り組めば希望は大いにあると考えられる。

世界召命祈願日の教皇メッセージの中でも述べられているように、教会共同体の活性化が司祭、修道者の召命促進に寄与していることは明かである。「来て、見なさい」と言える共同体作りが求められる。

使徒的熱意に燃える若者達へ！
男子召命黙想会
日時：6月22日（土）～23日（日）　対象：青年男子（年齢不問）
指導：ローナン神父（御受難会管区長）　費用：無　料
申込：畠　神父（電話0940－32－3222）
福岡黙想の家　〒811－41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

紀元2000年をめざして

準備が始まる

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九四年十一月十日付で、使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』〈テルツィオ・ミレニオ・アドヴェニエンテ〉（邦訳・カトリック中央協議会発行）を出し、全世界の信者に向けて、紀元二〇〇〇年を聖年とし、しかも特別な意味をもち、どの聖年よりも重要であるとの意味合いから「大聖年」として迎えることを宣言した。今後、大聖年に向けての準備が徐々に始まる。

教皇はこの大聖年を迎えるにあたり、反省と回心、祈りと学びによって準備していくことを勧めている。

先の使徒的書簡に示されている紀元二〇〇〇年の大聖年の意味をわかりやすくまとめた小冊子が発行された。無料で手に入れることができるので、各小教区の主任司祭に尋ねていただきたい。今後、この教皇の使徒的書簡を日本の教会に適応させ、日本カトリック司教協議会としてどのように取り組んでいくかが検討される。

「大聖年」への取り組みとしては、バチカンに大聖年中央委員会が、日本司教団としては大聖年準備特別委員会（委員長・白柳誠一枢機卿）がある。

大聖年中央委員会は今年から三年にわたって毎年九月に次年のテーマについての解説書を出していき、一九九九年には二〇〇〇年大聖年のための総合的な解説書を出す予定である。

ちなみに、年次テーマは
一九九七年＝キリスト
一九九八年＝聖霊
一九九九年＝父である神
となっている。

日本司教団の大聖年準備特別委員会では、上記のバチカンが出す文書を参考にしながら、日本としての歩みの検討を続けていくことになっている。その準備の方向性は今年二月の社会司教委員会で次のように決定している。

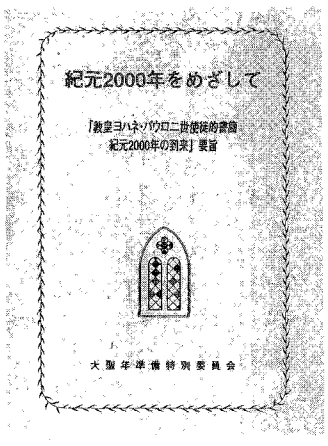
「一九九九年の『福音宣教四五〇年』の動きに合わせて、二十一世紀以降の世界が抑圧のないものとなるよう、教会が『社会とともに歩む』姿勢を打ち出す」

中央協議会の諸委員会でも準備が進められている。たとえば、家庭委員会では、上記特別委員会に対して、一八八殉教者の列福実現への一層の努力を要請し、日本における殉教者・遺跡等についてまとめた本の出版を提案している。

福岡教区では、四月二十三日に開かれた教区顧問会でこの問題が取り上げられ、殉教者の顕彰や信徒の生涯養成などを徹底していく方針が出されたが、今後、信徒や教区内の諸団体の意見を聞きながら、さらなる検討が進められていく。



使徒的書簡の邦訳▶



◀使徒的書簡の要旨

カテドラル献堂10周年

各小教区でカテドラルを支える献金と祈り

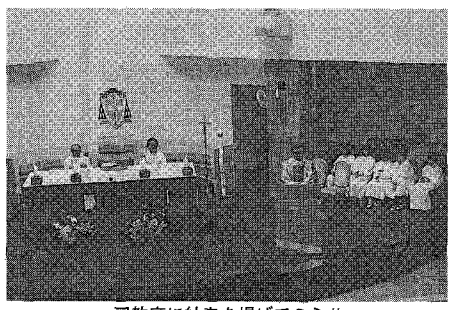
現在のカテドラル（司教座聖堂）が献堂されて十年になる。記念日翌日の四月十四日に献堂十周年の記念ミサが行われた。

教区長の松永久次郎司教が所用で不在だったため、教区本部の松井忠之神父（教区会計）がカテドラル付き司祭（主任・山川辰幸神父・助任・伊東成晃神父）とともに感謝のミサを捧げた。松井神父は説教の中で、カテドラルは教区の中心であり、司教を中心とした教区共同体を表すもの。多くの信者の協力で献堂されたが十年の年月が経ち、建物も痛みが目立ってきた。今後とも信徒の皆さんのご協力をお願いする、と述べた。

司教座の上には松永司教の紋章が掲げられ、司教と共にミサを捧げる意味が表現されていた。

カテドラル大名町教会の信者は、建設当時の苦労を思い起こしながら、感謝の祈りを捧げ、ミサ後には喜びを表す紅白まんじゅうが一人一人に配られた。

聖堂およびカテドラルセンターの維持管理には多大な費用が必要となっている。特に鐘楼は改装が必要で、そのためにこの日は教区内の全小教区にカテドラルを支える献金が呼びかけられた。


司教座に紋章を掲げてのミサ

二修道女、ネパール王国に派遣

福音の光修道会

福音の光修道会（本部・広島県廿日市市・総長・望月教子）は、この四月に初めて海外宣教のために会員をネパールに派遣した。派遣されたのは、本部修道院のシスター川岡俊子さんと福岡修道院のシスター青木光子さん。

同修道会は、聖パウロの「すべての人のすべてとなる」という言葉を会の宣教目的にすることを望み、召命減少、会員の老齢化の困難の中からも、聖霊の呼びかけに応えるために、今回の派遣を全員一致で決定した。

派遣式は、本部修道院で三月三十日に行なわれた。

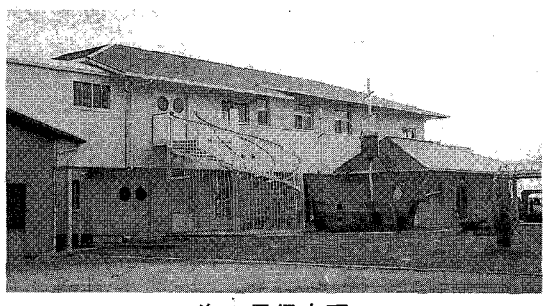
福岡修道院（福岡市博多区・院長・佐藤倭文子）でも出発前日の四月十三日に派遣のミサが行なわれ、そのミサにおいて、「すべての人に福音を宣べ伝えよ」とのイエスの聖心の愛に導かれて、福音の使徒としての自覚と熱意をもって、主において豊かな実を結びますようにとの祈りが捧げられた。

派遣先のネパール・ポカラ市では、廿日市市の非政府組織（NGO）が現地に開設を予定している託児所で職員として働くことになっている。当面は民家を借りて開所するが、年内に日本人ボランティアの宿泊施設を備えた施設がつくられる。

新築落成

カトリック愛苦会

三井郡大刀洗町の社会福祉法人希望の丘（理事長・萩原栄三郎神父）は「海の星保育園」を新築、三月二十八日に松永久次郎福岡教区長により、祝別、落成式が行なわれた。海の星保育園（園長・シスター萩原美代子）はこの三月まで、今村教会に隣接していた清心保育園から改名したもの。清心保育園は一昨年の九月に宗教法人カトリック福岡司教区から社会福祉法人希望の丘に移管された。昨年から、老人ホーム「聖母園」に隣接して新園舎が建築されていた。園舎は建坪389、88㎡ベーベー。鉄筋コンクリート二階建。二階はショートステイに使用されるように造られている。高齢者のための老人ホームとの複合施設となっているのが特徴。園名も制服も従来のものと替わり、職員も新しい気持ちで新年度をスタートした。


▲海の星保育園

愛苦会修道院▼



カトリック愛苦会（在俗会・院長・永田キミヨ）は四月十五日に修道院を移転、新築した。約二十年間使ってきた修道院が老朽化し、今回の新築となった。松永久次郎司教によって祝別された建物は、鉄筋二階建て、建坪（床面積）1270、69㎡ベーベー。修室は高齢の会員を考慮して広く造られている。聖堂にはスタンドグラスがはめられ、守護の天使の大窓が目立つ。

カトリック愛苦会は一八八四年（明治一七年）に創立された在俗会で、現在は十二人の会員と一人の志願者がいる。

社会福祉法人希望の丘が経営する老人ホーム「聖母園」と「海の星保育園」での福音宣教を目指して修道生活を送る。今村教会にも隣接しており、小教区での要理教育、典礼奉仕にもあたっている。

今回の新築、移転で住所は「大字今573」から「大字今726」に変更された。電話番号は従来のものと変わらない。


主よ、あなたこそ、永遠に高くいます方（詩編92・9）

おわび

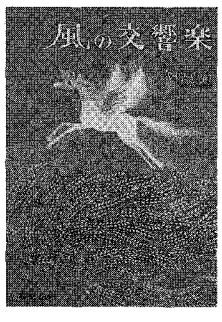
教区報四月号三面「新園舎落成」の記事の中で、福岡雙葉小学校附属雙葉幼稚園の園長を、シスター加藤正子とお知らせしましたが、シスター金森美子の誤りでした。関係者各位にご迷惑をおかけいたしました。お詫びして訂正いたします。なお、同様の誤りが教区ハンドブック'96にもございます。訂正をお願いいたします。

聖パウロ書院閉店日のお知らせ

5月7日（火）～10日（金）
17日（金）
29日（水）～31日（金）
毎週水曜日は定休日です

BOOK 読みは専科

★風の交響楽
光原百合著



さやかに澄んだ鈴の音は、心のまっすぐな人にしか聞こえない。人の世のほまれを捨てた森番のミッシェルおじさんは、天からの光の弦をはじく。優しさもせつなさも、生きるための大きな恵み。現代を生きる人々に贈る十七編の大人のためのファンタジー集。

目次
春●序の歌―ゆるされるならば、神さまの言うとおり
夏●ひかりあれ―雪の花、悲しみは海に、銀鈴砂の音
秋●影―白い翼、散らない桜の木
冬●交響楽「あなた」に
女子パウロ会　一五〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 石理影の大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家5月

◇1日（水）親業訓練講座④《無料》⑤11日⑥22日⑦29日
◇2日（木）～5日（日）クルシリヨ
◇5日（日）～10日（金）ザベリオ会黙想
◇11日（土）後援会奉仕の日／13時～15時［軽作業］
◇15日（水）ミカエル会
◇17日（金）～18日（土）週末黙想会：Fr.ガブリエル指導
対象：一般信徒［参加者募集中］
◇18日（土）～19日（日）徹夜祈祷会：Fr.東条指導
◇25日（土）～26日（日）聖霊降臨
祈り会（申込受付中：司教館Br.床島）
＊6月25日（火）Fr.鈴木忠一司祭叙階25周年記念ミサ
［問合先］黙想の家　☎　0940・32・3222
FAX　32・3385

生命山カトリック別院

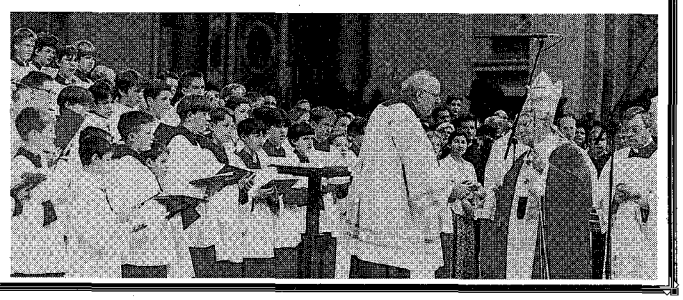
■「光龍会」仏教者とキリスト者の集い　この集いは仏教者とキリスト者が一緒に集って相互の信仰、信仰体験について尊敬をもって聞き合い、分かち合うことを目的として約10年前より福岡で行われてまいりました。

［日時］5月26日（日）14時～17時30分［場所］福岡市中央区大名2-10-1シャンボール大名A-1202（中央区役所前）大名町教会より徒歩3～5分［講師］古川泰龍師（浄土真宗シュバイツアー寺住職）／フランコ神父［内容］歎異抄（親鸞聖人）・聖書に基づく話［問合先］生命山カトリック別院　☎　0968-85-3100

バチカン・システィーナ礼拝堂合唱団

福岡公演　7月5日（金）19時　開演
場所：アクロス福岡シンフォニーホール
チケットA：7500円／B：6000円／C：4500円
チケット問合先：九州労音☎0952・26・2351
［信徒の方には1000円の割引がございます］

ローマ法王庁直属の聖歌隊の「祈りの歌声」を、福岡で聞けることは、この上ない喜びです。グレゴリオ聖歌から、現在の典礼聖歌に脈々と受け継がれてきた教会の音楽的遺産に触れるよい機会になるでしょう。祈りのうちに聴かれることをお勧めいたします。　教区長　ヨセフ　松永久次郎司教



会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

5月　聖母月

1日（水）労働者聖ヨセフ
2日（木）**第35回クルシリヨ［黙想の家～5日］**
3日（金）憲法記念日
聖フィリッポ・聖ヤコブ使徒
4日（土）国民の休日
修女連総会・奉献生活についての研修会
［カテドラル10時］
5日（日）こどもの日
＋F.ルマリエ［八代1945］
6日（月）聖霊によるはげましと力を受ける黙想会'96
［カテドラル毎月曜10時］（～20日）■
7日（火）熊本結婚準備セミナー⑥（～14日）■
9日（木）福岡結婚準備セミナー①（～6月6日）■
10日（金）聖書講座①［カテドラル19時］■
11日（土）聖霊による7週間の黙想会［手取毎土曜14時］（～6月23日）■
＋F.チリ司教［福岡教区長1930］
12日（日）世界広報の日（指定献金）
広報の集い［司教館別館5階13時30分］■
福岡地区信徒協代表者会［カテドラル］
熊本地区信徒協役員会
13日（月）北九州教会学校リーダー研修会
［小倉教会9時45分受付］■
14日（火）聖マチア使徒
15日（水）＋ヨハネ棚町正刀［茶山1968］
17日（金）聖書講座②［カテドラル19時］
19日（日）主の昇天
典礼研修会［カテドラル13時30分］■
21日（火）**教区顧問会［司教館本館14時］**
24日（金）扶助者聖マリア
聖書講座③［カテドラル19時］
26日（日）聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14時］
仏教者とキリスト者の集い［福岡14時］■
29日（水）**司祭候補者認可式［大神学院16時30分］**
31日（金）聖母の訪問
聖書講座④［カテドラル19時］

6月　みこころの月

1日（土）聖ユスチノ殉教者
福岡結婚準備セミナー⑦（～6月6日）■
2日（日）三位一体の主日
二日市教会堅信式
5日（水）聖ボニファチオ殉教者
7日（金）**聖書講座⑤［カテドラル19時］**■
9日（日）キリストの聖体
11日（火）聖バルナバ使徒
教区内全司祭研修会［熊本～13日］
13日（木）聖アントニオ・パドバ
14日（金）イエスのみ心
聖書講座⑥［カテドラル19時］
16日（日）福岡教区信徒協役員会［カテドラル14時］
17日（月）**定例司教総会（～22日）**
21日（金）聖書講座⑦［カテドラル19時］
＋ドミニコ深堀仙右衛門［福岡教区長1985］
＋トマス平田好［門司港1938］
23日（日）聖ペトロ使徒座への献金
武蔵ケ丘教会堅信式
典礼・聖歌と祈りの集い［黙想の家14時］
24日（月）洗礼者聖ヨハネの誕生
28日（金）聖イレネオ司教殉教者
聖書講座⑧［カテドラル19時］
29日（土）聖ペトロ・聖パウロ使徒
30日（日）**天神町教会堅信式**

■印は本面に詳細説明あり

【主の昇天の祭日】
主の昇天の出来事は、使徒言行録1・1-11の記述によれば復活後40日目に起こりました。これに基づいて、典礼暦の中では伝統的に復活の主日から40日目の木曜日（今年は5月16日）に祝ってきました。しかし、第2バチカン公会議後に行われた典礼暦の改定によって、主の昇天を祝うために週日に集まることが難しい状況を考慮して、復活節第7主日に移して祝うことができるようになりました。そのため日本でもこの規則を採用して、5月19日に主の昇天を記念します。
（中央協議会発行「毎日のミサ」より）

■聖霊によるはげましと力を受ける黙想会'96［日時］毎週月曜日10時～12時（5月20日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］福岡地区祈りの集い［プログラム］⑤聖霊の満たし／マッケイ神父・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父⑥聖霊のうちでの成長／オカロル神父・マテオ神父・ガブリエル神父⑦《ミサ》**キリストの証人／松永久次郎司教**・畠基幸神父・ライル神父・マテオ神父・友永徳一神父・ガブリエル神父［申込・問合先］司教館・ブラザー床島藤吾☎092・522・5139

■聖霊による7週間の黙想会［日時］5月11日から毎週土曜日14時～16時（6月15日まで）［場所］手取教会信徒会館2階ホール［参加費］1000円［主催］熊本市内5教会［後援］熊本地区信徒使徒職協議会［テーマ］①神の愛／マテオ神父②救いのみわざ／畠基幸神父③新しい生命／ターディフ神父④神の賜物／マッケイ神父⑤聖霊のみたし／マッケイ神父⑥成長／オカロール神父⑦**「主と同じ姿に造り変えられる」6月23日（日）14時30分・ミサ／松永久次郎司教**［問合先］手取教会・日向／松岡☎096・352・3030

■第64回福岡結婚準備セミナー［日時］5月9日～6月6日毎木曜・土曜日（5月23日を除く全8回）19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎　092・541・6207
FAX552・5022

■第50回熊本結婚準備セミナー［日時］5月14日まで毎週月曜・火曜日（5月6日を除く）19時～21時20分［場所］手取教会［問合先］手取教会☎096・352・3030FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）前期［日時］5月10日から毎週金曜日19時～20時45分（7月12日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］前期5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせ下さい。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139

■聖歌研修会［日時］6月2日（日）13時［場所］西新教会

■20代30代の若い夫婦の集い―「家庭こそ心のオアシス」［日時］6月2日（日）10時30分（ミサ）～16時／ベビーシッター付［場所］手取教会［会費］一家族1000円［主催］熊本市内5教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

■第5回お母さんの集い［日時］6月3日（月）10時30分～12時30分［場所］小倉教会［講師］森山信三神父（大牟田教会）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

■SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ・第6回バザー［日時］6月16日（日）11時～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園［問合先］樋口☎0946・24・9128／森0928・585・9888／武田552・4250／シスター高取512・0033

■典礼研修会　5月19日（日）13時30分～17時30分（13時受付）［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］ミサにおけることばとしるし［講師］白浜満神父（福岡聖スルピス大神学院）［会費］500円［対象］各小教区、福岡地区典礼担当者・一般信徒［問合先］森山信三神父（大牟田教会）☎0944・52・4871

■小羊会　司祭、修道者の召命を求めて祈る信徒の会です。［日時］5月23日（木）13時30分～16時（14時～ミサ）［場所］福岡礼拝会［問合先］同上☎092・751・2578

■あつまりませんか　女子青年黙想会［日時］5月26日（日）10時～16時（ミサ14時30分）［場所］戸畑ノートルダム修道院［指導］平田寛神父［会費］1000円（含む昼食・茶菓代）［申込締切］5月19日［主催］北九州地区女子修道会［問合先］シスター塩路☎093・621・5670

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］5月27日（月）14時～15時30分［訪問先］奈多創生園［問合先］大山美穂子☎FAX092・713・8523
村尾嘉道〒607・6992

■九州ダルク一周年記念フォーラム［日時］6月1日（土）10時30分～16時［場所］福岡市立心身障害福祉センター［資料代］500円［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092・471・5140

編集後記

「いつも喜んでいなさい」と聖パウロが言っている。希望のないところに希望を持つのが信仰。「緑」「青？」は希望の色だとか…。「青葉若葉の季節」です。信仰のうちに出来上がった。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

紀元2000年を目指して
信徒の生涯養成と殉教者の顕彰
クルシリヨ・研修会などを通して

紀元2000年を大聖年として迎える準備が進められている。バチカンの大聖年中央委員会は大聖年を準備するにあたって年次テーマを決定。一九九七年＝キリスト、一九九八年＝聖霊、1999年＝父である神。これに沿って日本の教会、各教区で具体的な準備が始まる。福岡教区では、信徒の生涯養成や教区内の殉教者の顕彰などを徹底していく方針が前回の顧問会で決定された。クルシリヨ（信徒錬成会）はその流れの中で開催され、六月十一日からは司祭の研修会が熊本地区の殉教地で行われる。

クルシリヨ

「カーン、カーン」「ガラーン、ガラーン」澄み切った青空に高く低く鳴り響く鐘の音。福岡黙想の家に着いて最初に耳に入るこの音は、参加者たちの脳裏にいつまでも残るようである。

黙想の家の一番高い丘で、澄み切った青空を背景にくっきりと浮かぶ鐘楼。この鐘は「パウロとマリアの鐘」と名付けられているとか。この見事な環境の中で、五月の連休期間の三日から五日まで、クルシリヨが始まった。

「聖霊来てください。信じる人の心を満たし、あなたの愛の火をもやしてください。神よ、あなたの愛のいぶきを送って、すべてを造り、地のおもてを新たにしてください。」と祈る準備の祈りが聞こえてくる。

心から回心し、「キリストに捧げる決心」を通して、使徒的活動と善行を行うこと、霊的に向上していくことを願うこのクルシリヨは、兄弟愛に満たされた雰囲気に包まれて語り合い、祈りに支えられて、楽しい時間を過ごす信徒の練成会とも言える。

規則によって内容は明かせないが、今回参加された二十名のクルシリスタたちの感想から、多かった言葉を拾ってみた。

「感謝、感動、涙を、愛情を、暖かさを、たくさんたくさん、いっぱい。すばらしい体験をさせていただいて、ありがとう。カトリシズムの腕（かいな）の大きさを感じさせられました。クルシリヨは、『苦しみます』ではなく、『楽しみます』でした、と実感しました」。

第35回という区切りのよい今回のクルシリヨ。松永司教様も大いに力を入れておられる。教区の一大イベントとしての実践を諮るクルシリヨを、聖職者をはじめ信徒たちも、生涯養成の一環として関心を持ち、参加することが望まれる。（取材協力　佐賀教会　田丸　鋭）



クルシリヨで秘跡について講演する松永司教

研修会・講座

大聖年を迎えるにあたって、信仰の見直しと回心が求められているが、そのための助けとして、すでに各地区で開かれている研修会や聖書講座、キリスト教講座などに参加することが勧められる。開催予定等は本紙四面で随時紹介されているが、多くの場合、参加者は決まっており、増える兆しは見えない。参加した人からは好評を得ており、とにかく参加してみてはどうだろうか。

また、地区レベル、教区レベルだけではなく、多くの場合、定期的に開かれている各小教区での聖書講座、研究会に参加することも勧められる。すでに洗礼を受けて信者になっていても、求道者対象のキリスト教研究会などに参加することは、自分の信仰の見直し、回心に役立つのではなかろうか。

司祭研修会

例年開かれている教区内の全司祭を対象とした研修会が六月十一日から十三日にわたって熊本で開かれる。テーマは「殉教者の足跡を訪ねて」。

講師にシスター片岡千鶴子教授（長崎純心大学学長）と山口達夫氏（八代市役所図書館副館長）を呼び、教区内の殉教者、特に熊本地区で殉教した先達について学ぶ。一日目に熊本、特に花岡山で殉教した小笠原玄也とその一族について学び、二日目に殉教地である花岡山を訪れる。

その後、八代に移動し、現地の殉教史に詳しい山口氏の講演を聞く。八代教会にはすでに殉教碑が建てられており、そこで殉教者の列福を求めてミサが捧げられる。夜は、再び熊本市内に戻り、懇親会が開かれ、司祭同士、互いの親交を深める。

最終日は全体でのプログラムは組まれていないが、殉教者アダム荒川の殉教地である天草を訪れるなど、オプションの一日となっている。

現在ローマに申請されている一八八人の殉教者の列福は日本の教会全体の願いであり、福岡教区でも、大聖年の準備の一環として位置づけられている。

今月のみことば

最も小さな者の一人にしたのは私にしてくれたことなのである。
（マタイ25・40）
呼子教会　田川　清美　神父

時の話題

いじめ（一）

間瀬　雅夫

今日の日本の子どもたちを取り巻いている最も大きな問題の一つは「いじめ」である。これについてわれわれはどのように考え、対処すればよいのか、二回にわたって記してみたい。

一、恐ろしい現実

過去十年間にいじめが主な原因とみられる子どもたちの自殺が、少なくとも四十六件もあげられている。また、自殺に至らなくても、暴行や虐待などの身体的苦しみを負わされ、さらに無視や悪口、蔑視などで精神的苦痛を味わわされている子どもたちは、その何倍にものぼると言われている。

昨年六月に福岡県教職員組合が小・中学校のクラス担任を対象に行ったアンケート調査では、いじめは全体で二十五・三%もあり、年齢が上がるにしたがってその割合も増えている（西日本新聞一九九六年四月一八日）。

二、苦しみの声

いじめられ、ついに自殺に至った子どもたちの声は、その苦しさを生々しく伝えている。

「僕はもう我慢ができなくなりました。…生きているのがこわいのです。あいつらは僕の人生そのものを奪っていきました。生きていくのがいやになりましたので、死なせてください。それからお父さん、自転車買ってくださって本当にありがとうございました。」（四月二八日NHK21プロジェクト特集「教育の問題」より）と。

三、私たちは何をなすべきか

心にも体にも深傷を負い、死を最後の逃れ場と考えている子供たちに、まず私たちがなすべきことは、偉そうな言葉による指導やお説教や、「頑張れ！」の言葉でもない。

その子をしっかりと受け止め、抱きしめ、その苦しみの深みにまで降りて共感し、共に涙することではないだろうか。あのイエスのように、血の通った温かい心を持つことだと思う。（久留米教会信徒）

●●●●●●●●●●●●●●●
終身助祭制度
日本の教会への導入準備中

日本の司教団は、一九九五年の定例司教総会で、終身助祭制度を導入することを決議し、その許可を教皇に申請した。現在の助祭は、司祭叙階直前の段階で、その後若干の時間をおいて司祭に叙階されるが、終身助祭は司祭を目指さずに、生涯を通して助祭として教会に奉仕する。そのため、終身助祭と呼ばれ、現在の過渡的な助祭と区別される。

五月二十日、カトリック中央協議会の「終身助祭制度検討特別委員会」から終身助祭制度についての信徒向けの小冊子が発行された（＝写真）。著者はイエズス会の山本襄治神父。終身助祭制度は、導入検討はすでに済んでおり、現在は導入の準備段階に入っている。そのため、広く信者の理解を得るために今回の小冊子は発行された。希望者は各小教区主任司祭に申し込めば無料で手に入れることができる。

同小冊子は第二バチカン公会議による終身助祭制度の再興について触れながら、聖書からの説明、教会との関連、その身分、これからの教会のあり方と終身助祭の位置や使命について説明している。

最後の10ページには、終身助祭制度検討特別委員会編による「終身助祭―何でもQ&A」が掲載され、終身助祭についての基本的疑問に解答を与えてる。以下、その中から抜粋する。

Q2　**終身助祭にはどのような人がなれるのですか。**

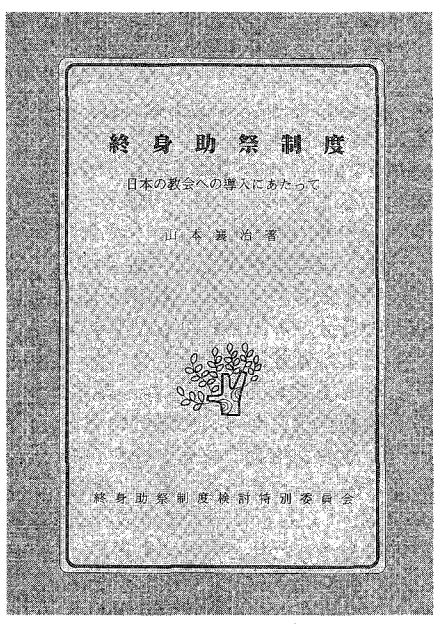
A2　終身助祭が教会における奉仕職であることをわきまえ、確かな召命感をもっていることがまず必要です。しかし、本人の望みだけで終身助祭になれるのではなく、家庭や教会がその望みを受け入れることが必須条件です。すなわち家族の理解と協力や所属している小教区教会の司祭および信徒たちの評価や推薦が必要です。いずれにせよ、共同体の中での大切な奉仕職ですので、神の恵みの領域であることを忘れてはなりません。…

Q　**妻帯終身助祭の家族（特に妻）への配慮は何でしょうか。**

A　終身助祭になったからといって、夫・父親としての責任と義務が免除されるものではありません。むしろ以前に増して、その責任は重大なものとなるでしょう。

終身助祭職は教会の公的奉仕職であるゆえに、ときには家族の協力や理解、犠牲や祈りを、特に必要とすることもあり得るでしょうから、日頃の家族の親しい関係が何よりも大切です。

…司祭と協力して奉仕していく上でも、家庭が大切な場になるでしょう。



終身助祭制度を紹介する小冊子

聖書講座開催中（4面）

みちくさ

聖母月が終わって、聖心の月を迎えた。時の流れとともに、ロザリオの月、死者の記念の月もやがて訪れる。これらは古い平凡な信心の習慣ではあるが、今日のわたしたちの信仰生活にとっても、大切な意味を持つと思う▼伝統的な小教区で育った信者は、聖母月の行事を一生忘れることはないであろう。五月は花咲く春のころ、大自然が聖母マリアを称えているかのようでもあるので、幼い心に深い印象を与えるのかも知れない▼日本人の宗教心の表れは、盆と正月、そしてお彼岸の行事などに特に集中している感じがするが、祖先を想う心と重なって、美しくかつ根強いものがある。四季の流れの中で繰り返して行われる信心行事には、特別の力があるものである▼思えば迫害の時代、隠れキリシタンたちはナタラ、悲しみの節、ハツクアなど教会の暦を守って、正統信仰を護り続けたのだとのことである。イスラエルの過越祭も、もともと、牧畜と農業に関わるもの、結局、季節の流れに関わるものであったのである▼今日のカトリック信者の共同体は、季節の移り変わりや社会の年中行事などを、信仰生活や宗教教育などに、効果的に活用するよう努めているであろうか▼現在、カトリック教会は教皇様のお導きのもと、西暦二千年の大聖年を前にその準備に懸命である。わたしたちの教区もこの動きに積極的に参加すべきであろう。（M）

典礼　ミサのこころ③『切る』

皆が一堂に集うと、入祭の歌を歌いながら司祭の入堂を待ちます。この入祭の時、わたしたちは「司祭を待つ」というよりも、むしろ司祭とともに働かれる「復活されたキリストを迎える」という意識を忘れないようにしたいものです。そのためにミサのはじめに切る十字架のしるしを大切にしたいと思います。このことによってわたしたちは、自分自身がキリストへの信仰に生きる者であるという自覚を、自分自身の心にも切り込むことができます。

ところで、十字架上で命をさざげられたキリストの脇腹を一人の兵士が槍で突き刺すと、その切り傷から「すぐ血と水とが流れ出た」（ヨハネ19・34）と言われています。多くの聖書注解者たちは、この出来事を象徴的に解釈して、水を洗礼、血をミサのシンボルととらえています。なぜならキリストの十字架上の死によって人類の救いのわざが成就し、そこから洗礼の恵み、聖体の恵みをはじめとするあらゆる恵みが流れ出たからです。ですから「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」と唱えながら、額から胸、左肩から右肩へ向かって十字架のしるしを切りながら、父と子と聖霊の交わりの中で永遠に生きる幸福を目指してすべてのことを父と子と聖霊のみ名のもとに行う決意を、わたしたちの心に切り込みたいと思います。

（福岡聖スルピス大神学院　白浜　満神父）

移住労働者問題

初めての全国フォーラム・福岡で開催

外国人労働者問題を多方面から検討

四月二十八、二十九日の両日、福岡カテドラルセンターで第一回目の移住（外国人）労働者問題の全国フォーラムが開催され、予想をはるかに越えて四百人以上の人々が全国から集まった（＝写真）。この中にはかなりの数の外国人の参加者もあって、何人ものボランティア通訳者が活躍した。

初日の全体会は、基調報告（「日本の出入国管理政策を問う」―青柳行信氏の裁判を通して見えてくるもの―と題して地元福岡から発表）に始まり、あと海外（タイ、韓国）からの三人のゲストによる講演が行われ、移住労働者の受け入れ、送り出し双方の観点から、それぞれの国の現状と取り組みが話された。在日韓国人のチャンゴの演奏をしばし楽しんだ後に、熊本、東京、大阪からの三つの報告（在住外国人へのアンケート調査結果、入管法改定の動き、阪神・淡路大震災と外国人のその後）があった。夜の交流会では、おいしい各国料理を舌鼓を打ちながら、フィリピン、ペルー、メキシコの民族音楽と舞踏を観賞した。

二日目は午前中が分科会で、労働、医療、国際結婚、入管問題など、幅広く十一のテーマに分かれて密度の濃い話し合いが熱心に行われた。午後の全体会において、格調高いフォーラム宣言が採択されて、すべてのプログラムを終えた。

ところで、今、日本には一〇〇を越える支援団体が移住労働者問題と取り組んでいる。これらの諸組織は意見や情報を交換しあい、協力関係がしだいに緊密になってきている。この点で、特に関東で九一年に始まったフォーラムが果たしてきた役割は大きい。内容、規模ともに年々充実してきており、今年つ



いに主催の実行委員会が全国規模となった。すなわち今年のフォーラムが、「全国フォーラム」となっての第一回目であることと、それが今までフォーラムが一度も開かれたことのないこの九州の福岡で行われたことの意義は大きい。移住労働者問題に取り組む団体、個人のネットワークが日本全土に拡大したことで、協力関係と活動はいちだんと発展、充実するであろう。

今回のフォーラムの事務局は美野島司牧センターに置かれた。開催までの半年間、地元では、今までそれほどつながりのなかった福岡の「移住労働者と共に生きるネットワーク」、北九州の「外国人労働者と共に歩む会」、熊本の「コムスタカ」が一体となって当センターで準備した。フォーラムの内容と資料の準備、全国に向けての情宣活動、電話による問い合わせ、マスコミ各社の取材対応など、開催日が近づくにつれ忙しさを増したこの大仕事に、みんな夢中で取り組んだ。開設して二年にしかならない美野島司牧センターが、第一回全国フォーラムの事務局をになって、集約、発信地となり得たことは、本当に驚きである。

五月十九日付のカトリック新聞にローマ教皇のすばらしいメッセージが掲載された。「違法状態にあるからといって、移住者の人間としての尊厳を無視することは許されません。教会は、その国にとどまることが認められていない人々のことをいつも心に留め、その話に耳を傾け、彼らが国の法律上どのような立場に置かれていても、必要な生活手段を供給するよう努め、正式に滞在許可を得ることができるように協力を心がけます。」

国境を越えて移住する人々の流れの大きな原因の一つに経済格差がある。経済大国となった日本でも、八〇年代後半から、アジア地域や南米など外国からの移住労働者が急増した。しかし政府の、身勝手で後ろ向きの政策の中、移住労働者は労働、住居、医療、教育、法律など生活のあらゆる現場で人権侵害の状況に置かれてきた。合法、非合法を問わず、移住（外国人）労働者は定着傾向を示しているが、バブル経済の崩壊以後、あからさまな排外政策も加わって、彼らの置かれた状況はいちだんと厳しくなっている。

教皇メッセージを実践すべく、フォーラムを通して学んだことをこれからの活動に生かしていくことが期待される。今、フォーラム報告集が準備されている。（取材協力　箱崎教会　堀スミ子）

教皇も連帯と協力を訴える

今年の「カトリック国際協力の日」（九月八日）に向けて、教皇メッセージがすでに出されているが、その翻訳がすでに各教区の滞日外国人担当者に配布されている。日本カトリック国際協力委員会によって翻訳された。今年のテーマは「違法状態にある移住者と教会」。その中で教皇は、違法状態にある移住者を兄弟姉妹として受け入れる義務が教会あると語り、そのために信徒の連帯と協力を求めている。

「愛する兄弟姉妹の皆さん、世界は今、移住に伴う複雑な諸問題への対応を迫られています。その中でも、違法状態にある移住者のことは、無視できない大きな問題の一つです。…違法入国は防ぐべきですが、その根本的な解決のためには、政治的安定を促進し、低開発を改善するための国際協力を通して、社会的、経済的不均衡を克服していく必要があります。…教会はキリストの立場に立って、違法状態にある移住者のことを考えます。」

リーダーたちもお勉強

―北九州で教会学校リーダー研修会―

五月十三日、小倉カトリック教会において、北九州教会学校リーダー研修会があった（＝写真）。今回はレクリエーションを実技指導とあって、教会学校のリーダーをはじめ、神父やシスターを含む総勢四十二名程が参加した。

まず各教会学校の現状や、レクリエーションをどのように取り入れているかの報告があり、また問題点などが挙げられた。

昼食後、健康センターディレクターである講師高橋氏より、各教会のレクリエーション活動の中での問題点について、アドバイスがあった。その後講義の中で、リーダーに必要な能力が三つあることが指摘された。第一は、「やる気」で、何のためにやっているのかという目的達成への意欲と情熱が大切だということ。次に、グループの状況を把握し、その状況に対応しうることが大切。例えば、ゲームがうまく行っているのかいないのかなど、他人に気を配るということだ。第三はプログラムの展開の仕方で、全体の雰囲気を和らげるゲームから始まり、二、三人のグループになるゲームをしてお互いを知り、最後はみんなが一つになるということである。

講義の後、高橋氏をリーダーに、レクリエーションの実技指導があり、実際に体を動かしてゲームをすることによって笑顔も見られ、みんなが心から打ち解けたような気持ちになり、非常に楽しく充実した研修会となった。（取材協力　新田原教会　大水美智子）



カテケジス③

5月19日に開かれた第2回目のテーマは「何を伝えるか」。信仰宣言に沿って教理を説明していくことが、一番オーソドックスなやり方である、ということに意見が一致。参考文献として「教会学校リーダーの手引き」を使用。約10年前に信仰教育委員会から出されたものであるが、まだまだ充分に使えるもの。リーダーと子どもとのかかわり方、典礼、遊び、視聴覚教育から教会学校の運営の仕方、教会委員会や家庭とのかかわりにまで触れられている。集いの参加者からは、「こんなにいい本があったとは知らなかった」という声も出た。

会は、参加者も少なかったせいか、自然と分かち合いのかたちになり、リーダー各自の貴重な経験や、幼児期の体験などが披歴された。

「何を伝えるか」というより「どのように伝えるか」ということが問題になった。教会学校のリーダーは、最近は成人洗礼の方が多く、信者としての幼児、青少年期の体験がないことから苦労していること、また、幼児洗礼を受けた方でも、自分が受けた信仰教育の方法では今の子どもたちにうまく伝えることができないこと、など苦労話がたくさん出た。結局、「今どきの子どもたち」の話しになり、とにかく、今の子どもたちを知り、そして彼らを批判、非難するのではなく、まず受け入れることの必要に気づかされた。

とかく、過去の方法にとらわれ、その方法自体に対する信仰みたいなものがあって、なかなか方法を変えようとしない。今の子どもを知ったら、今までの方法は変えざるを得ない。

次回の「集い」は6月16日13時30分～15時30分、福岡カトリック神学院にて。テーマは「初聖体」。

問合先：同上☎092-531-6821（山元神父）会費：毎回500円（資料代等）。

7・8月の集いは休みます。

ご案内とお知らせ

- 一般黙想会：6月21日（金）15：00～22日（土）15：00〈畠神父〉
- 御受難会・召命黙想会6月22日（土）14：00受付〈ローナン神父〉無料
- 6月の「祈りの日」は18日（火）のみとなります。詳細はお問い合わせ下さい。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

修道生活の刷新を願って

修女連一日研修会

シノドス（世界司教会議）で話し合われた修道生活・奉献生活とはどんな生活スタイルなのか。そして、その展望は？

五月四日、福岡カテドラル大名町教会において、教区修女連主催による恒例の一日研修「修道生活について」（シノドスを受けて）が行われ、一六三人のシスターが熱意にもえて参加した。講師は遠路はるばるイタリアから来日された、聖家族男子修道会総長ピエル・カブラ師、通訳担当は東西宗教交流センター生命山司祭フランコ師。名コンビの両者はほほえましいことばのプレイキャッチで、聴衆を魅了し、全体を通してとても興味深く、有意義な研修であった。

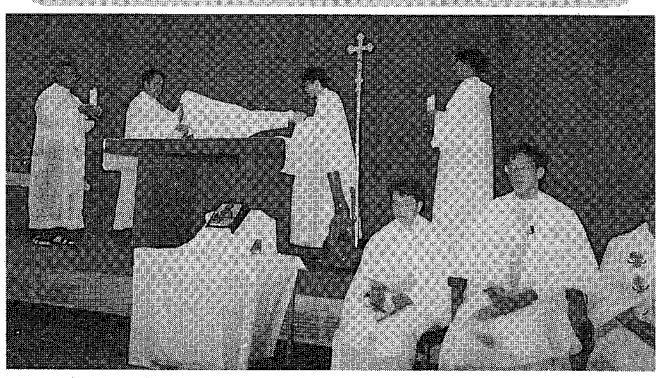
第一講話においては、一九九四年十月のシノドス開催に先立つ、前四年間の準備経過報告と、そのこぼれ話、主に公会議後の修道生活の見直し、解放の神学の台頭、交わり霊性の誕生、あの伝統を重んじるシノドスに異彩を放った修道女の参与、そこで展開された種々の意見発表、それをさわやかにまとめられた教皇様…。教皇はより深い霊性をもつ奉献生活の重要性を強調し、より広い世界を目指して新しいスタイルの修道生活を披露し、奨励された。

第二講話においては、使徒的勧告を通して聖別、奉献に触れ、修道生活、奉献生活を高く評価され、神からいただいた恵みはすべてそれに応える使命があることを力説、そして修道生活は教会のためのもの、自己のカリスマを生かして教区の中で役立てること、将来に向かって創造的忠実であること、自己の存在を通して、共同体を通して、カリスマを生かして活動することなど。

まとめとして、神秘である修道生活、兄弟的交わりである修道生活を証しする。修道生活の世界の中での使命を生きる…。これが要約であり、現代社会、世界は修道者にチャレンジし、修道者は世界にチャレンジする大きな課題をかかえて、共に明日に向かって新しい歩みを続けるのである。

福岡教区修道女連盟は今年設立25周年を迎える。教区の中で、修道女のカリスマがより生かされるための方策が、十一月二十三日の記念日に向けて練られている。（取材協力　礼拝会福岡修道院　シスター松本鶴子）

司祭勉強会　2000年の典礼書を目指して



五月二十一日から二十二日にかけて、長崎カトリックセンターにて司祭対象の「ミサ典礼書勉強会」が行われ（＝写真）、全国から約八十人の司祭が集まった。主催は九州地区典礼担当司祭会議（代表白浜満神父）。福岡教区からは、講師の白浜満神父（聖スルピス大神学院）を含め、八人の司祭が参加した。

日本カトリック司教協議会の典礼委員会は紀元二〇〇〇年に新しいミサ典礼書を出す予定であるが、今回の勉強会はそのために全国の司祭たちの意見、提案を聞くためのもの。以前から、ミサ典礼書の用語改訂作業が進められているが、今回はミサの構造について広く司祭の意見を求めた。

二日目には、この勉強会だけに使われる実験的なミサがささげられた。「主は、みなさんとともに。」を「主は、みなさんとともにありますように。」と変えたり、あわれみの賛歌のあとに平和のあいさつを行ったりした。また、構造上の工夫として、ミサの中で、祭壇の準備、ろうそくや花の準備を取り入れた。朗読者は朗読聖書を捧持したり、主の祈りの後に唱えられる「副文」を簡単なものする工夫がなされた。

東京から、典礼委員会の南雲正晴神父（フランシスコ会）、名古屋から市瀬英昭（神言会）神父、トラピストの高橋重幸神父も参加した。基調講演は二回行われ、開催とみことばの祭儀、感謝の典礼と閉祭について白浜満神父が担当した。それぞれの講演の後、十のグループで分科会。初日にはインドの土着ミサのスライドが上映され、インドの楽器、シタールを使った典礼音楽に、参加者は感銘を受けた。

この勉強会で何かが決まったわけではないが、司祭たちが出した意見と提案は、新しいミサ典礼書に生かされるだろう。（取材協力　百村等神父）

広報の集い・女性とメディア

五月十二日、司教館別館五階会議室において、「広報の集い」が開かれた。この集いは、世界広報の日にあたって開催されたもの。小教区の広報担当や広報に興味のある十二人が参加。今年のテーマである「女性の役割を生かすメディア」について分かち合いの時がもたれた。

初めに、今年の教皇メッセージについて思うところを出し合ったが、わかりにくかった、という意見が大半を占めた。その後、テーマを広く考え、女性とメディアについて語り合ったが、その過程で子どもとメディアの関り方が取りざたされた。テレビ、マンガの影響を強く受けている子どもたちに、しっかりとした価値観を伝える使命が大人にあることを再確認。特に母親の役割が大切であること、悪影響を及ぼす番組、出版物に対しては積極的に抗議する必要があり、女性にはそれができる！という声。教区報の配布は「ぜひ、手渡しで！」という意見も出た。



バチカン・システィーナ礼拝堂合唱団

福岡公演　7月5日（金）19時　開演
場所：アクロス福岡シンフォニーホール
チケットA：7500円／B：6000円／C：4500円
チケット問合先：九州労音☎0952・26・2351
［信徒の方には1000円の割引がございます］

ローマ法王庁直属の聖歌隊の「祈りの歌声」を、福岡で聞けることは、この上ない喜びです。グレゴリオ聖歌から、現在の典礼聖歌に脈々と受け継がれてきた教会の音楽的遺産に触れるよい機会になるでしょう。祈りのうちに聴かれることを、お勧めいたします。　教区長　ヨセフ　松永久次郎司教

思いがけない訪問者

梅雨明けを告げるかのような雷鳴がとどろき、激しい風と共にどしゃぶりの雨が降り出しました。まぶしい稲妻は真夜中の暗闇を貫いています。

「この頃の天気予報はよくあたるな」と思いながら、ちらりと時計を見ました。「23時50分か、そろそろ休もう。今日もまた、平凡な一日が終わったということだな。」

二階にあがって横になり、羊を数え始めました。一匹、二匹…

突然、玄関の呼び鈴がなりました。「また酔っぱらいか、そのうちやめるだろう。」ところが、なかなかなり止みません。「しつこいな」と気持ちは火山が噴火、爆発する寸前のようになってきました。しかし、病人のための緊急な連絡だったら、と思い直して降りて行きました。玄関のドアを開けると、ホームレス風の男が立っています。

「夜中に誠に申し訳ありませんが、私はこういう者で、どこかで泊まらせて頂けないでしょうか」と言いながら、その「人」は名刺を差し出しました。多くの人の手に触れられたためか、名刺は汚れ、雨に濡れています。よく見ると、その名刺には住所がなく、名前もほとんど消えていました。もっとよく見るために、照明に近づけました。

「うそ！」蜃気楼のように目の前にゆらぐ名前は「イエス」。頭にきました。振り向きざま「ナザレ出身か」と、嘲笑いながら言いました。

「すみません」と、繰り返し男は頭を下げました。

「いい加減にしなさいよ。こんな時間に、くだらない冗談で笑うとでも思いますか。早く帰って頭を冷やしなさい」。

私の声は、氷山なみの暖かさ（！）に満ちていました。その「人」の寂しそうな表情を見た時、優しそうな目元にドキッとしましたが、その瞬間に姿が消えました。私は確実にドアを閉め鍵をかけました。その時「刑務所の扉の音みたいだ」とふと思いました。

二階に行く階段を上がりながら、走馬灯のように、次から次へといろんな言葉が頭に浮かんできました。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」「狐には穴があり空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない」「神は自分の民の所へ来たがその民は受け入れなかった」。

「関係がない」。何となく不愉快な思いがした。頭の中で小さな声がささやいてきました。

「誰に対して怒っているのか」と。その声を黙らせるために必死に他の事を考えようとしましたが、なかなか…。

「もう、わかったよ」と溜息をつきながら、再び階段を降りて玄関を開け、その「人」を呼び戻そうと大きな声で叫んだ途端に、目が覚めました。

「何だ、夢か」。ほっとしました。単に夢だった。安心して深く息を吸い込み休もうとしました。しかし、日が昇るまで目をあけたまま眠りの訪れをじっと待ち続けました。

（水巻教会・ベリヨン神父）

参加者募集

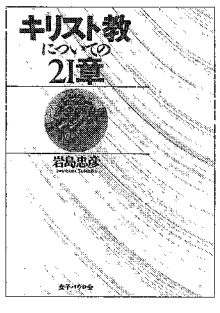
オブレート会　サマーキャンプ

テーマ　未来へ…。
期　間　8月8日（木）午後2時集合～11日（日）午後解散
場　所　カトリック古賀教会内　福岡県粕屋郡古賀町花見東2-23-1
対　象　小学生高学年（5、6年）・中学生の男子カトリック信徒（高校生、大学生、社会人の方々も）
参加費　6,000円　　申込締切　7月15日（月）

■お申込み・お問合わせ―
〒780　高知市新本町1-7-31　ボランティア・ビューロー
Bro.八木信彦　☎0888-24-4329　オブレート会召命係

★キリスト教についての21章

岩島忠彦著



神父が語る「生き方」としてのキリスト教。誰もが探し求める心の豊かさをキリストのことばに従って語った一冊。キリスト教は生き方です。山を登る人が携帯する磁石がどのような場所にあっても同じ方向を指すように、キリスト教は、ある明確な方向性を指し示しながら、人間の生のあらゆる事柄にかかわってくるものです。本書は、生活の重荷に疲れ、その矛盾に悩んで、光を求め続ける人びとの貴重な道しるべになるにちがいありません。

女子パウロ会　一二〇〇円

◇　◇　◇

★マザー・テレサと幸福への道

最高の幸せとは？　その生き方とは？

アイリーン・イーガン
キャサリーン・イーガン共著
猪原英雄訳



…何人かは、骨だけになった手がマザー・テレサの両手に包まれた時、微笑み返しました。「この人たちは私たちの宝です。一人ひとりは苦しみに身を変えたイエスなのです」とマザー・テレサはおっしゃいました。…

内容の一部です。

山上の説教でイエスが語られた真福八端と、マザー・テレサの霊性の中に興味ある出来事を豊富に紹介している。

サンパウロ　一一〇〇円

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産　管理・仲介・売買・建設　一般建築
〒810　福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役　マルガリタ・マリア　吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計　企画・設計・監理
〒810　福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役　ヨゼフ　吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　石理石
　　影石
　　御大の
　　そ他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860　熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　6月

◇3日（月）～7日（金）大分・鹿児島・那覇3教区合同黙想会
◇7日（金）～9日（日）ユースフルライフ・カウンセリング ワークショップ
◇11日（火）～13日（木）高松教区宿泊
◇12日（水）ミカエル会
◇14日（金）～16日（日）幼きイエズス修道会研修
◇16日（日）～17日（月）聖母カテキスタ会
◇21日（金）～22日（土）御受難会主催一般黙想会［参加者募集中］
◇22日（土）～23日（日）御受難会・召命黙想会［参加者募集中］
◇23日（日）典礼・聖歌と祈りの集い
◇24日（月）～26日（水）御受難修道会共同体の日
◆25日（火）御受難修道会・鈴木忠一神父叙階25周年記念ミサ／祝賀会
◇29日（土）～30日（日）援助修道会研修

［問合先］黙想の家　☎　0940・　32・3222
FAX　32・3385

生命山カトリック別院

■生命山での黙想会・研修会

①［日時］7月21日（日）～26日（金）［指導］クラウディオ神父［参加費］35000円（講話は26日までですが、その後個人で黙想を続けることができます）

②［日時］8月18日（日）～26日（月）［指導］フランコ神父［参加費］45000円［場所］生命山カトリック別院（①、②とも最終日のミサ後、希望者に長崎巡礼を計画しております。費用は実費）

［申込・問合先］熊本県玉名郡菊水町蟇浦1391-7
☎0968-85-3100

韓国語によるミサのお知らせ

毎月2回、韓国人の神父による韓国語のミサを行っております。在日しておられる方、また、韓国に興味のある方など、どなたでも参加できます。何か、ご質問がありましたら、尹　汝沃（ユン・ヨウヨク）神父までご連絡ください。

日時：毎月第1、第3日曜日　10：30～
場所：聖パウロ修道会　福岡修道院
〒810　福岡市中央区小笹4-11-11
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
連絡先：尹　汝沃（ユン・ヨウヨク）神父
〒830　久留米市津福本町404-10
第1高須賀ビル203号
☎　0942-33-6274（司祭館）
FAX. 0942-34-3115（聖マリア病院）

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

6月　みこころの月

1日（土）聖ユスチノ殉教者
福岡結婚準備セミナー⑦（～6月6日）■
2日（日）三位一体の主日
二日市教会堅信式
5日（水）聖ボニファチオ殉教者
7日（金）**聖書講座⑤［カテドラル19時］■**
9日（日）キリストの聖体
健軍教会堅信式
11日（火）聖バルナバ使徒
教区内全司祭研修会［熊本～13日］
13日（木）聖アントニオ・パドバ
14日（金）イエスのみ心
聖書講座⑥［カテドラル19時］
16日（日）福岡教区信徒協役員会［カテドラル14時］
17日（月）**定例司教総会（～22日）**
21日（金）聖書講座⑦［カテドラル19時］
＋ドミニコ深堀仙右衛門［福岡教区長1985］
＋トマス平田好［門司港1938］
23日（日）聖ペトロ使徒座への献金
武蔵ケ丘教会堅信式
典礼・聖歌と祈りの集い［黙想の家14時］
24日（月）洗礼者聖ヨハネの誕生
28日（金）聖イレネオ司教殉教者
聖書講座⑧［カテドラル19時］
29日（土）聖ペトロ・聖パウロ使徒
30日（日）**天神町教会堅信式**

7月

3日（水）聖トマ使徒
＋フランシスコ・X平田正喜［老司1994］
6日（土）聖マリア・ゴレッティ
7日（日）**佐賀教会堅信式**
11日（木）聖ベネディクト修道院長
12日（金）聖書講座⑨［カテドラル19時］■
15日（月）聖ボナベントゥラ
16日（火）カルメル山の聖母
19日（金）聖書講座前期最終回［カテドラル19時］
20日（土）熊本サマーキャンプ（～22日）
＋ヤコブ平田勇［西新1980］
＋W.シュルツ［吉塚1987］
21日（日）福岡地区典礼を考える集い［カテドラル14時］
22日（月）聖マリア・マグダラ
25日（木）聖ヤコブ使徒
＋J.ラグレブ［門司天使1982］
＋J.ブルトン［呼子1957］
26日（金）聖ヨアキムと聖アンナ
28日（日）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（月）聖マルタ
31日（水）聖イグナチオ・ロヨラ
＋ヨハネ平田惣五郎［浄水通1989］

■印は本面に詳細説明あり

召命学校

対象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日時：7月29日（月）15時～31日（水）昼食
場所：福岡カトリック神学院
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
定員：30人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX. 092-524-7373

召命錬成会

対象：小学校4～6年生男子（原則として）
日時：7月20日（土）16時～22日（月）10時30分
場所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

■聖霊による7週間の黙想会［日時］6月15日まで毎週土曜日14時～16時［場所］手取教会信徒会館2階ホール［参加費］1000円［主催］熊本市内5教会［後援］熊本地区信徒使徒職協議会［テーマ］①神の愛／マテオ神父②救いのみわざ／畠基幸神父③新しい生命／ターディフ神父④神の賜物／マッケイ神父⑤聖霊のみたし／マッケイ神父⑥成長／オカロール神父⑦「主と同じ姿に造り変えられる」6月23日（日）14時30分・ミサ／松永久次郎司教［問合先］手取教会・日向／松岡☎0966・352・3030

■第64回福岡結婚準備セミナー［日時］6月6日毎木曜・土曜日まで19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207FAX552・5022

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）前期［日時］7月12日まで毎週金曜日19時～20時45分［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］1回毎800円［申込方法］当日受付にて［問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］⑤キリスト者の生活の実際的教訓・松永久次郎司教⑥結婚と独身・高見三明神父⑦偶像に供えた食物、パウロの権利・白浜満神父⑧偶像の神殿での食事、供え物・高見三明神父⑨主の晩餐・森山信三神父⑩霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父

■九州ダルク一周年記念フォーラム［日時］6月1日（土）10時30分～16時［場所］福岡市立心身障害福祉センター［資料代］500円［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092・471・5140

■聖歌研修会［日時］6月2日（日）13時［場所］西新教会

■20代30代の若い夫婦の集い―「家庭こそ心のオアシス」［日時］6月2日（日）10時30分（ミサ）～16時／ベビーシッター付［場所］手取教会［会費］一家族1000円［主催］熊本市内5教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

■ふくおか・ユースデイ（青年親睦会）［日時］6月2日（日）13時30分～（大名町教会ロビー13時集合）［場所］司教館別館5階会議室［参加費］自由献金［問合先］伊東成晃神父（大名町教会）☎092・741・3687

■第5回お母さんの集い［日時］6月3日（月）10時30分～12時30分［場所］小倉教会［講師］森山信三神父（大牟田教会）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

■青年の祈りの集い［日時］毎月第2・第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導司祭］伊東成晃神父（大名町教会）［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■SE・CO～奉仕と分かち合いのボランティア・グループ・第6回バザー［日時］6月16日（日）11時～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園［問合先］樋口☎0946・24・9128／森092・585・9888／武田552・4250／シスター高取512・0033

■小羊会　司祭、修道者の召命を求めて祈る信徒の会です。［日時］6月20日（木）13時30分～16時（14時～ミサ）［場所］福岡礼拝会［問合先］同上☎092・751・2578

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］6月30日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］生・老・病・死［講師］井手恵師（伊万里西念寺住職）［問合先］大山美穂子☎FAX092・713・8523

■ロザリオへのおさそい［日時］毎水曜日11時30分～12時［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■九州ダルク・チャリティーピアノコンサート―薬物依存症者の回復施設ダルク支援のために［日時］7月13日（土）13時30分（受付）14時開演［場所］聖心ウルスラ幼稚園［ピアノ演奏］林恵子［参加費］1500円（中高生300円小学生以下無料）［主催］九州ダルク・九州女性ハウス［協賛］九州ダルク支援する会［後援］カトリック福岡司教区［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092・471・5140

■第9回信徒の霊性研修合宿［日時］8月2日（金）15時～4日（日）12時［場所］天城山荘（静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島2860☎0558・85・0625）［テーマ］思い込み、無関心、対立、不和の中の私［対象］カトリック信者・求道者［会費］22000円［定員］100人（定員になりしだい締め切り）［申込方法］官製ハガキに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、所属教会を明記のうえ、左記にお申し込みください［申込先］〒107東京都港区赤坂8-12-42聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係☎03・3479・3603（シスター清家・牧山）

日本カトリック研修センター・プログラム

■会計実務研修会［日時］7月3日（水）13時～5日（金）12時［場所］日本カトリック研修センター［内容］財産目録・収支計算書・貸借対照表の作り方（最終日の午後は個別相談に応じます）［講師］杉山栄子（真和経理協会所長、カトリック中央協議会法人会計顧問）［対象］教区、小教区および修道会などの会計担当者［参加費］A25000円（個室利用）B24500円（ツイン利用）C24000円（3人以上同室）［定員］60人（先着30人まで個室、他はツインまたは和室など4人となる）［締切］6月22日（土）［申込・問合先］日本カトリック研修センター総務部☎0552・831・5037FAX0552・831・5317

30日間聖書セミナーの旅

［日時］7月28日（日）～8月26日（月）〈30日間〉［テーマ］救いの歴史を歩む［企画］カトリック司教協議会聖書委員会［旅行代金］650000円［申込・問合先］パックスインターナショナル☎03・3561・0755FAX03・3561・0759

編集後記

編集作業を途中で止めて「小羊会」のミサに参加した。教区報の案内で知ったから、と一人のご婦人が参加していた。うれしかった。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月のみことば

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

（ルカ18・14b）

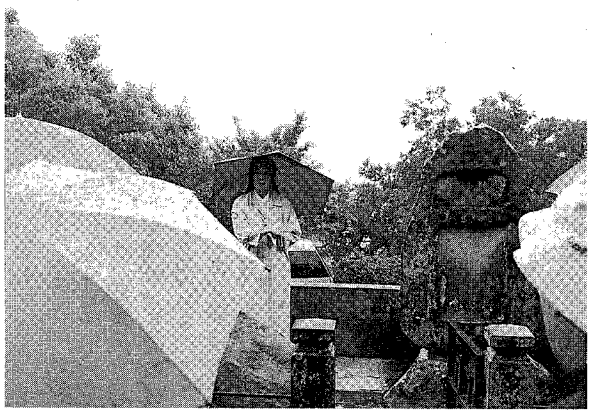
聖マリア病院　尹　汝沃　神父

花岡山を聖地に！
殉教者の墓のもとへ
教区内司祭・福岡地区婦人会・教区大神学生

福岡教区では、信徒の生涯養成や教区内の殉教者の顕彰などを徹底していく方針が出されているが、六月には、主に三つの団体が熊本の殉教地を訪れた。毎年行われている教区内の全司祭を対象とした研修会が熊本市内の花岡山と八代の殉教地で行われ、福岡地区婦人会主催のバス巡礼も花岡山で行われた。教区大神学生は毎年夏季休暇の初めに練成会を行っているが、今回は熊本地区で殉教者の足跡を辿りながら、各自の司祭召命を考えた。

教区内司祭研修会

九十六年度の司祭研修会が六月十一日から十三日まで開かれた。対象は福岡教区内の全司祭で、参加者は四十九人。今年は「殉教者の足跡を訪ねて」というテーマで熊本市内の花岡山と八代教会で研修を行った。講師は長崎純心大学学長のシスター片岡千鶴子（長崎純心聖母会）と八代市役所図書館副館長の山口達夫氏（八代教会求道者）。


雨の中、殉教者の墓前で説明するシスター片岡

初日はホテルニューオータニ熊本で二回にわたってシスター片岡の講義を聞いた。シスターは、「殉教者の精神」や「小笠原玄也一家の殉教」について関係資料を基に興味深く話した。

二日目は降りしきる雨の中、六台の車に分乗し、ホテルから車で十五分の所にある花岡山殉教墓地を訪問。祈りを捧げ、墓の由来についての講師の話を聞いた。その後、小笠原玄也、みや、八人の子供と四人の召し使いが殉教を遂げたといわれる花岡山の麓にある禅定院を訪れ、大型バスに乗り換えて八代教会に向かった。八代教会では山口達夫氏の講演を聞く。八代では十一人が殉教している。神の教えを守って様々な試練に耐え、死を恐れぬ彼らの雄々しさと婦人たちの健気な姿は万人の胸を打った。教会から約一キロメートル離れた殉教地と推定される場所に行くことはできなかったが、八代教会の信徒と共にミサを捧げた。

福岡地区婦人会

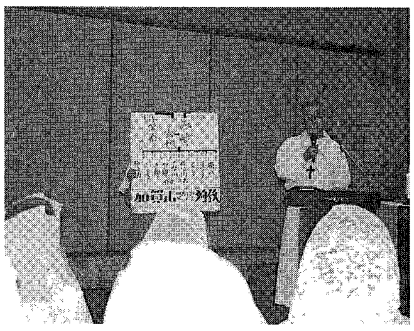
福岡地区婦人会（会長＝山口紀子）のバス巡礼が六月二十日に行われた。このバス巡礼は毎年行われているもので昨年は長崎県出津へ、一昨年は福岡カルメル会と糸島教会の平田三郎司教訪問が実施された。今年は熊本の花岡山へ中型バス三台で百十五人が参加。先祖の殉教者の遺徳を偲びつつ、召命を祈るのが目的。


花岡山で祈りを捧げる巡礼者

六月二日の二日市教会での堅信式の際、地区婦人会が花岡山に行く計画を知った教区長松永久次郎司教は、花岡山を聖地として守っていかなければならないことを説明。基金を作って、整地などをしていきたい旨を同教会に所属している地区婦人会長に話した。「巡礼だったら、そして百人も参加者がいるのだったら、弁当を食べずにその分を寄付してください！」。会長は「ダメ！（笑い）」と答えたが、巡礼当日の墓参の折り、鵜野泰年神父（健軍教会主任）が、司教の意向を再度説明、花岡山で献金を募り、約十三万円が集まった。

花岡山でロザリオの祈りを唱え、健軍教会へ。健軍教会では鵜野神父司式でミサが捧げられた。ミサの中で、説教を兼ねて、同教会信徒の藤田弘さんが加賀山みやの系図などを使って殉教の歴史を説明した（＝写真）。

健軍教会では、この五月に発足した熊本市内五教会の婦人会の役員と交流を行い、親睦を深めた。最後に、鵜野神父のバイオリン演奏でアベマリアを聞き、帰路につく。会長の山口さんは「一人の欠席者もなく、予定通り無事に巡礼を終えることができた。先祖の信仰に触れることができ、参加者一同、深い感銘を受けている。熊本地区の方々にたいへんお世話になり、感謝している。」と語った。（取材協力　二日市教会　山口紀子）



教区大神学生

福岡サン・スルピス大神学院に所属している五人の教区大神学生も七月一日から二泊三日で熊本で中村彰神父（大楠教会主任）の指導で練成会をした。

健軍教会を拠点に、花岡山、八代まで足を延ばし、殉教者の足跡を辿った。

カテドラルで合同堅信式
29人が受堅

五月二十六日の聖霊降臨祭にカテドラルで合同堅信式が挙行された。受堅者は、福岡市内の大名町、西新、大楠、老司、箱崎の五教会から集まった二十九人（男性六人・女性二十三人）。

カテドラルでの合同堅信式は今年で三回目。復活祭前後に受洗した成人が対象。成人洗礼の時にかぎって主任司祭は堅信の秘跡を授けられるが、本来の執行者は司教。教会の誕生を祝う聖霊降臨の祭日に司教である教区長を中心に祭壇を囲み、神の民がカテドラルに集う中で堅信の秘跡が授けられることに意義がある。

今年の受堅者数は昨年の半数であったが、複数の小教区の信者と司祭が共に集う様は、さながら教会の誕生を感じさせるものであった。

藤渕神学生
助祭・司祭候補者に認可される

五月二十九日、福岡サン・スルピス大神学院で助祭・司祭候補者認可式があった。松永久次郎司教司式で午後四時三十分から始まった認可式の中で、長崎教区出身の岩本繁幸、竹内英次神学生と共に、福岡教区（小倉教会出身）の神学科一年、藤渕邦大（くにひろ）神学生が助祭・司祭の候補者として教会から正式に認可された。なお、この認可を受けてからスータンを着衣することができる。

人事

笹丘教会助任P・マックストラビック▽若松小教区管理者［小倉教会主任］平田寛▽浄水通小教区管理者［福岡カトリック神学院院長］山元眞▽教区典礼委員会委員長［大名町教会助任］伊東成晃▽教区正義と平和協議会担当［大楠教会主任］中村彰

召命錬成会

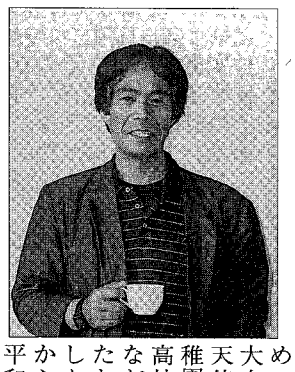
対象：小学校4～6年生男子（原則として）
日時：7月20日（土）16時～22日（月）10時30分
場所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面筆記用具、着替え、保険証コピー
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

召命学校

対象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日時：7月29日（月）15時～31日（水）昼食
場所：福岡カトリック神学院
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
定員：30人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX 092-524-7373

ミカエル西田邦洋神父帰天

六月四日、若松教会主任司祭、ミカエル西田邦洋神父が心臓不整脈のため午後三時四十三分、北九州市八幡西区の産業医科大学附属病院で帰天。享年五十四歳。五日に通夜が、六日に葬儀ミサと告別式がカテドラル大名町教会で松永久次郎司教主司式で執り行われた。



西田神父は一九四一年に韓国のソウルで生れ、受洗。福岡泰星中学、福岡サン・スルピス大神学院を経て一九六八年九月に司祭叙階。久留米、小倉教会の助任、大牟田教会主任を経て一九九四年四月から若松教会主任を務めていた。また、大牟田天使、吉野天使、若松天使幼稚園の園長を歴任。高校生会、JOCなどを通して若者たちの司牧に尽力した。一九八九年からは教区正義と平和委員会の委員長も務めた。

葬儀ミサには折から合同黙想会中であった鹿児島・大分教区の司祭団と平山高明大分教区長も参列した。

時の話題

いじめ（二）

間瀬　雅夫

前回に続いて、いじめの問題を考えてみたい。時あたかも、文部省が全国的な規模で調査を行った（一九九四年十二月から一月）結果の記事が新聞、テレビに報道された（一九九六年五月二三日）。

その記事には、いじめの実態が数字で示され、被害者、加害者の気分や保護者や担任の認識、その原因や対策等が記されていた。

一、いじめは重大な人権侵害

いじめは、人間が「幸せに生きる権利」や「教育を受ける権利」を保証している憲法に反する重大な人権侵害であることを、保護者も教師もはっきりと子どもたちに知らせなければならない。

しかし残念なことに、「いじめは絶対に許されないことだ」との見解に賛意を示す教師は、小学校七三％、中学校六七％、高校五四％にとどまるという。人権意識の高揚と、悪に対するイエスの教えに反する行為である。

二、イエスの教えに反する行為

イエスが人々に教えられた中心は、「神の国」ということである。真理と、正義と、自由と、愛に基づく真の平和こそイエスがこの地上にもたらそうとされたものである。

しかし、いじめを傍観することは、正義を行うことを怠り、いじめの側にたつことであり、いじめることは「愛しなさい」（ヨハネ13・34他）と教えるイエスに反することである。私たちは、「呪われた者ども、わたしから離れ去れ」（マタイ25・41以下）と言われないようにしたい。

三、神の心ですべての人を愛すること

「神はお造りになったものをすべて愛しておられる」（知恵の書11・24以下）。この神は、すべての人に「あなたが存在することは、わたしの喜びである」と言われるのである。いじめではなく、愛こそ私たちの生きる道である。

（久留米教会信徒）

みちくさ

この世の中、右を向いても、左を向いても「真っ暗やみ」じゃござんせんか。こんな言い回しが、ずいぶん前に流行ったことがある。まわりを見回しても何もいいことがない。とかくこの世は住みにくい。世知辛い世の中を表現したものである▼テレビ、ラジオ、新聞などのニュースでは連日溢れるほどの情報が提供されている。そのほとんどが暗いものといっても過言ではないだろう。ほほえましい、たのしい、心がわくわくするニュースは乏しい。そんなニュースはないのではなく、報道されていないに過ぎない、のではないか。ものは見方である。暗い面があれば明るい面もある。陰があれば日向がある。陰の中にいて、陰の方からだけ見ていれば、すべてが暗く見えてしまう▼子どもたちと関わりながら、いろいろと考えさせられる。周りの声に同調して、つい「今どきの子どもたちは！」と愚痴ってしまう。そうなると、すべてを「今どきの子ども」で済ませてしまう。陰湿ないじめや登校拒否。素直に「はい」と言えない子どもたち。何かしら、子どもたちがみんなそのように見えてくるから不思議だ。怖く、寂しいことである。ところが、「今どきの子ども」だから素晴らしい面もある。キラッと光る時がある。周りが暗いだけに、その時は眩しいくらい。めったにないことであれば、なおさら「ニュース」にしてはどうか▼「暗いと不平を言うよりも、すすんで明かりをつけましょう」は心の灯運動のキャッチフレーズだが、一人ひとりが小さな灯をともしていけば、キット世界は明るくなる、はず。（Y）

平和祈願ミサ

8月11日に全小教区で カテドラルでは…《平和を祈る集い》 講演会とミサ・インターナショナル

八月六日の主の変容の祝日から聖母被昇天祭の十五日までは、毎年、「平和旬間」に定められている。

例年のように、今年も平和旬間中の主日、十一日に教区内の全小教区で平和祈願ミサが捧げられる。昨年は戦後50周年を記念して各地区で催し物が計画されていたが、今年は福岡地区で地区正義と平和協議会と福岡教区の共催で「平和を祈る集い」が開かれる。この集いは福岡地区内の全小教区信者を対象としたもので、昨年に引き続いて行われるもの。メインテーマは「平和への決意～過去・現在・未来をみつめながら」。

二部構成で、第一部は講演会。講師は東京教区正義と平和委員会のメンバーでフィリピン人元「従軍慰安婦」を支援する会事務局長の高嶋たつ江さん。「従軍慰安婦」問題は今、という演題で平和について考える。地区婦人会の協力でベビーシッターもつく。午後一時から。

第二部は平和祈願ミサ。午後二時から聖歌の練習など、ミサの準備をし、二時三十分から平和のための祈りがささげられる。松永久次郎司教主司式。毎週カテドラルで行われている英語ミサの参加者や美野島司牧センターで行われているスペイン語ミサのメンバーを中心に参加を呼びかけ、外国語を交えた典礼になる。当日の献金は大洪水による食料不足が深刻化している北朝鮮を支援するために使われる。

六月三十日に「平和を祈る集い」準備会が開かれ、上記以外のことで大要、次のことが決まった。

①第一部に関しては、地区正義と平和協議会が責任をもつ。

②会場の準備や片付けは地区信徒協に協力を呼びかける。地区婦人会にも、受付やベビーシッターをお願いする。

③各小教区から協賛金として5000円以上の献金を求める。

④駐車場のスペースに限りがあるので、できるだけ公共交通機関を利用するよう呼びかける。駐車する場合は、車の鍵を担当者に預けておく。

⑤祈願ミサのために聖歌隊を編成する。

⑥典礼での聖書朗読、共同祈願、聖歌などの役割分担を外国人と共にする。

⑦福岡地区の各小教区の侍者会にも参加を求める。侍者服を持参する。侍者の席は司祭団に近いところに設ける。

⑧教区の大神学生、小神学生にも参加を呼びかける。

⑨「和解の奉献文」を使用。

⑩福岡市内の小教区は当日のミサ時間をできるかぎり調整し、多くの信者が参加できるように便宜をはかる。

⑪ミサ後に冷たい飲料水を販売する。担当は教区青年会福岡ブロック。

福岡地区の信者、修道者、司祭が子供たち、侍者を含めて一人でも多く参加し、外国人と共に平和を祈ることが求められている。

福岡地区《平和を祈る集い》
平和への決意～過去・現在・未来をみつめながら

第1部【講演】
［日時］8月11日（日）13時～14時
［場所］カテドラル1階講堂
［講師］高嶋たつ江：東京教区正義と平和委員会（フィリピン人元「従軍慰安婦」を支援する会事務局長）
［演題］「従軍慰安婦」問題は今～フィリピン人元「慰安婦」を支援する会に関って
［主催］福岡地区正義と平和協議会
★ベビーシッターあり
…… 14時からミサ準備 ……

第2部【平和祈願ミサ】
［日時］8月11日（日）14時30分～16時
［場所］カテドラル聖堂
［主司式］松永久次郎司教／地区司祭共同司式
［典礼］在日・滞日外国人とともに数カ国語でミサが捧げられる
★ミサ献金は北朝鮮支援のため
☆☆公共交通機関をご利用ください☆☆

典礼　ミサのこころ④『ともに』

ミサのはじめに十字架のしるしを切りながら、わたしたちは父と子と聖霊の交わりの神秘に招き入れられて行きます。このことを確認するかのように司祭は、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」とあいさつし、「また司祭とともに」と会衆が答えます。

開祭のはじめに交わされるこのことばは、「主は皆さんとともに」…「また司祭とともに」という簡潔な対話句になって、ミサの中でとくに重要な瞬間、すなわち福音朗読（＝ことばの典礼の頂点）の前、感謝の祈り（＝感謝の典礼の中心）の前、そして閉祭の派遣の祝福の前で繰り返されます。この対話句を唱えるたびに、わたしたちは、ミサの集会に主キリストが現存しておられ、ミサのあらゆる行為が「キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに」行われる救いのわざ（祈り）であることを思い起こす必要があります。そしてキリストのうちに「皆一つの体となるために洗礼を受けた」（一コリ12・13）私たちも一つの霊で結ばれ、頭であるキリストによって行われる救いのわざに参与（奉仕）する者となります。

キリストの神秘体である教会全体が、その魂である聖霊の交わりの中で、頭であるキリストを通して、父である神にささげる祈りが「典礼」と呼ばれています。また「典礼」は、「キリストを仲介者として、父と子と聖霊の交わりに、すべての人を招き入れる救いの場である」ということもできます。

ですから、典礼にあずかることは、自分だけではなく隣人とともに幸せになるために、キリストの救いのわざに奉仕することなのです。

（福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父）

安田久雄大阪大司教から
阪神淡路大震災援助金へのお礼
救援金募集は終了


安田久雄大阪大司教

大阪教区安田久雄大司教（阪神淡路大震災大阪教区救援本部長）は五月十日、「阪神淡路大震災救援金についてのご報告とお礼」を発表した（大阪カトリック時報六月号掲載）。

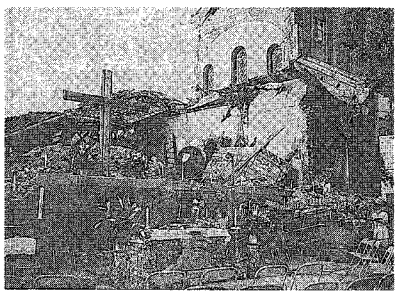
この中で安田久雄大司教は、「ご支援いただいたすべての皆様」に感謝を述べ、合わせて団体別収入明細、用途別支出明細を報告すると共に、今後とも救援活動は続くものの、救援金募集の終了を表明している。四月の小教区、学校、修道会あてに送付すべきところ、それが不可能なため、「感謝の気持ちを伝えていただきたい」と安田大司教は五月二十日、各教区司教、教区事務局長にあてて、「…ご報告とお礼」掲載の教区報と共に、大要次のような感謝の手紙を送った。

「阪神淡路大震災に際しては、教区をあげてのご支援を賜り、感謝のことばもございません。……ご支援くださったすべての方々のお名前をご報告できず、また、救援金というかたち以外でお助けいただいたことに対してもご報告できないことをたいへん心苦しく思っております。その点も含めて貴教区の皆様に私どもの感謝をお伝えいただければ幸いです。

救援活動も続き、復興はこれからです。すべてを自力でやれるとは思っておりません。今後もご支援いただかなければならない状態ですが、とりあえず緊急救援の段階を脱することができました。

大震災は、教会が日ごろからだれの隣人であるかを問われるできごとでした。その意味で改めてキリストのいのちを生きることの大切さを思い知らされました。教区共同体の「新生」に取り組んでまいります。それにお寄せくださったご援助につきましては、別の機会にご報告申し上げる所存です。

ほんとうにありがとうございました。」


下山手教会：倒壊した聖堂と辛くも残った司祭館

大阪教区安田久雄大司教（阪神淡路大震災大阪教区救援本部長）は五月十日、「阪神淡路大震災救援金についてのご報告とお礼」を発表した（大阪カトリック時報六月号掲載）。

この中で安田久雄大司教は、「ご支援いただいたすべての皆様」に感謝を述べ、合わせて団体別収入明細、用途別支出明細を報告すると共に、今後とも救援活動は続くものの、救援金募集の終了を表明している。四月三十日現在の収支報告によれば、寄せられた救援金は約九億五千二百万円、そのうち約八億円が男女修道会、社会福祉事業、教育事業施設等に援助費として分配された。

この「報告とお礼」をすべての小教区、学校、修道会あてに送付すべきところ、それが不可能なため、「感謝の気持ちを伝えていただきたい」と安田大司教は五月二十日、各教区司教、教区事務局長にあてて、「…ご報告とお礼」掲載の教区報と共に、大要次のような感謝の手紙を送った。

「阪神淡路大震災に際しては、教区をあげてのご支援を賜り、感謝のことばもございません。……ご支援くださったすべての方々のお名前をご報告できず、また、救援金というかたち以外でお助けいただいたことに対してもご報告できないことをたいへん心苦しく思っております。その点も含めて貴教区の皆様に私どもの感謝をお伝えいただければ幸いです。

救援活動も続き、復興はこれからです。すべてを自力でやれるとは思っておりません。今後もご支援いただかなければならない状態ですが、とりあえず緊急救援の段階を脱することができました。

大震災は、教会が日ごろからだれの隣人であるかを問われるできごとでした。その意味で改めてキリストのいのちを生きることの大切さを思い知らされました。教区共同体の「新生」に取り組んでまいります。それにお寄せくださったご援助につきましては、別の機会にご報告申し上げる所存です。

ほんとうにありがとうございました。」

大地の恵み・労働の実り



北九州地区の新田原教会（主任・竹森勇一神父）では、春と秋に畑にできた作物を信者の有志が集まって収穫し、それを福岡サンスルピス大神学院や福岡カトリック神学院、司教館、カルメル会などに届けている。六月には主任司祭自らが「じゃがいもはいいけれど、お米がいい」とのことだった。

カテケジス④

6月16日に開かれた「リーダーの集い」第3回目のテーマは「初聖体」。参加者は20名あまり。司祭、シスターの参加もある。初聖体式の準備のプロセス、対象者の名簿の整理、呼びかけ、当事者と保護者の集い、準備のプログラム、ゆるしの秘跡と初聖体式の式次第などの資料がたくさん配付され、その説明を受けた。

準備の内容は、おもに「祈り」と「秘跡」。秘跡では洗礼、ゆるし、聖体の三つを扱う。洗礼の説明には、幼児洗礼式の写真などを使い、どのように洗礼式が行われたのかを見せる。ゆるしの秘跡では、子どもたちの日常生活でのゆるされた体験、ゆるした体験から、神のゆるしに結び付ける。聖体の説明は最後の晩さんとミサの説明になる。ミサの構成やミサに用いられるさまざまなシンボルの説明など。これも、絵や写真、ビデオを使うことができる。

初聖体の準備の中で、聖書（み言葉も食べ物であること）の説明も必要であろう。初聖体の記念品として聖書を贈ることもよいが、準備の段階で聖書を贈ることも考えられる。

初聖体式の当日にはぜひ代父母を招待したいものである。

次回から「教会学校リーダーの集い」は毎月第一日曜日13時30分～15時30分に変更される。その日は神学院に隣接する浄水通教会で子どものミサ、その後に同教会学校のリーダー会がある。これは他小教区のリーダーにも開放される。時間がゆるせば、9時から始まる子どものミサ、それに続くリーダー会に参加してから午後のリーダーの集いに参加されてはどうだろうか。

テーマは「子どもとともにささげるミサ」なので、浄水通教会での子どもミサにぜひ参加してみていただきたい。なお、8月の「集い」は休み。

6月から神学院の中・高生が伴奏（ギター・オルガン）を担当している。

問合先：神学院☎092-531-6821（山元神父）**会費：**毎回500円（資料代等）。

ご案内　◎7月19日（金）15：00～20日（土）15：00まで　畠神父指導　ー参加申込受付中ー

おしらせ　◎7月23日（火）～9月10日（火）まで　祈りの日は夏休みです

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災　＊消防設備　設計・施工　＊電気工事　保守点検　〒810 福岡市中央区六本松3－11－33　代表取締役　ヨハネ　土本政実　☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289　※求人　信者の方を求む！詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち　草苑（SOU-EN）　ご葬儀　木下株式会社　TEL092－526－5656　福岡市中央区平和3丁目1-5

隣人愛で一つになろう
北朝鮮に援助の手を

カトリック中央協議会の社会福祉委員会・カリタスジャパン担当の野村純一司教（名古屋教区長）は、六月十日に全国の教区ニュース担当者に宛てて、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の洪水被害者援助を呼びかけるよう依頼した。

カリタスジャパンは、六月五日に緊急援助部会を招集し、その中で北朝鮮の洪水被災地の状況報告を受けて募金活動を継続することを決定した。

視察団の報告によれば、北朝鮮の食料不足は、昨年八月の大雨洪水のために耕作地が甚大な被害を被り、農作物に与えた影響は国民の需要量の三分の二にあたる。このため、国民の食生活が困窮し、この状態が今後三カ月も続くと、深刻な事態が予想される緊急事態となる。実際、北朝鮮の災害復旧対策委員会からは米穀類の援助要請がカリタスジャパンになされている。

緊急事態とは、国連食料農業機関（ＦＡＯ）が定める穀物在庫水準の安全水準を下回ること『飢餓』をいう。

このような深刻な状況に対して、カリタスジャパンは人道的な援助の立場から、再度募金を呼びかけることを決定した。

カリタスジャパンは昨年十月の募金要請、また本年三月の日本キリスト教協議会との共同スローガン『隣人愛で一つになろう』を掲げて共同の募金を呼びかけてきたが、複雑な国際的な緊張関係にある北朝鮮の政情のために、食料不足による困窮の現状が理解されなかったことも反映され、現在まで寄せられた額は五十三万円弱。カリタスジャパンは「一般災害援助」献金から六百万円を援助してきたが、今後は北朝鮮支援に対する募金からの援助にたよるしかないのが現状。

教皇ヨハネ・パウロ二世は今年の四旬節メッセージで「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」（マタイ14～16章）という主イエスのみ言葉を引用され、人間性をさいなむ大きな悲劇である飢餓に対してキリスト教的な連帯をもって立ち向かいましょう、と呼びかけられた。

今回は、再度の募金呼びかけであるが、前回の要請についてはほとんど知られておらず、それが前回の募金額に如実に表れている。今回の呼びかけは、正確には「朝鮮民主主義人民共和国洪水被災者・食料（米穀）援助のための募金継続のお願い」となっている。

各小教区での積極的な募金活動の取り組みが期待される。

募金の振込は左記に。

郵便振替００１７０-５-９５９７９カリタスジャパン（通信欄に北朝鮮支援と明記のこと）

障害者に関する文書発表
《障害の重荷をともに担える日をめざして》

日本カトリック司教協議会社会司教委員会は、障害者に関する文書「障害の重荷をともに担える日をめざして」を三月に発表した。この文書は、教会が障害のある人を中心にした視点に立って、人間の生きる意味をあらためて考え、教会や社会のあり方をよりよいものにすることを願ってまとめられたもの。この文書は、障害者問題に関心のある人々の大きな反響を呼んでいる。まえがきにある本文書の目的を引用する。

「国連は、人類のおよそ十人に一人がさまざまな障害を持っていると報告しています。わたしたちの教会も、障害のない人だけの集まりでは決してありません。障害のある人とない人がともに集う信仰共同体です。しかし残念ながら、まだまだ障害の重荷を担い合うキリストの真の共同体とはなっていません。そこでこの文書では、キリストによって集められ、キリストに従う者として、重荷を負う人の叫びにこたえられた父なる神の光を求めつつ、障害の意味をあらためて問い直し、その中で、どうすれば障害のある人の叫びに誠実に応じることができるのか、どうすれば障害のある人とない人が支え合い、ともに生きていくことができるのかを探ってみたいと思います。」

この文書はカトリック中央協議会発行、Ｂ６判23ページ、定価一００円（税込み）。教区本部事務局にある。できれば小教区でまとめて注文していただければ幸いである。

九州ダルク　チャリティー・ピアノコンサート

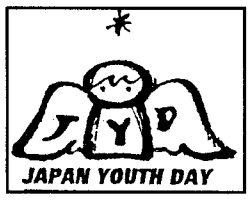
薬物依存症者の回復施設「九州ダルク」（責任者　茂木常房）が発足して一年になる。美野島司牧センター内にある同施設は、慢性的な資金不足に悩まされているが、昨年に引き続いて第二回目のチャリティー・ピアノコンサートが七月十三日に福岡市南区の聖心ウルスラ幼稚園で開かれることになった。

ピアノ演奏は全盲のピアニスト、林恵子さん。三重県生れの林さんは、筑波大学附属盲学校音楽科を経て、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。現在、子供たちのピアノ指導のかたわら、全国各地のダルクのためにチャリティー・コンサートに出演している。ピアノを祈りに変える人、といわれている。曲の合間にやさしく語りかけるメッセージは、聴く者の心を温かく包み込む。各地のカトリック教会、学校、神学校、合同クリスマス会、韓国などで公演活動をしている。

ダルクは、薬物依存からの回復を図るセンターのことであるが、林さんはこのダルクについての理解が深く、演奏の間にはさまれるトークの時間で薬物依存に対する適切な理解が得られるはず。また、今回はコンサートの中で、最近帰天した九州ダルクのメンバーの追悼の祈りも捧げられる。

最近、覚せい剤使用者が低年齢化していることが取りざたされている。高校生が逮捕された事件も耳新しい。このコンサートは、九州ダルクと九州女性ハウス運営の資金作りの一助となるものであるが、参加することによって、薬物依存についての理解が深まり、ダルクの必要性が認識されれば、このコンサートの目的は達成されたことになろう。なお、このコンサートではピアノ演奏の外に、ダルクの仲間や支援者の話しも用意されている。子供たちに聞いてもらえるのもよい。詳細は四面参照。

ジャパン・ユース・デイ1996



ジャパン・ユース・デイ（ＪＹＤ）は、カトリック青年の出会いと交流を目的とした全国大会です。新世紀の教会を担っていく青年たちのチャレンジに、どうぞご協力下さい。

開催期間：1996年9月12日～16日
開催場所：国立婦人教育会館［埼玉県］
内　　容：青年の多様性を生かした各種クラブ活動、ミサ、講演、フェスティバル等

皆様へのお願い

ＪＹＤの準備は大勢の青年スタッフのボランティアと、ご寄付により進んでおります。一般寄付の部の目標額は、600万円です。５月末現在300万円余りのご援助を頂いておりますが、まだまだ不足しています。明日の教会のために、ぜひご援助をお願い申し上げます。

ＪＹＤ実行委員長（会長：三末篤実司教）

振込み先のご案内
郵便振替番号：00120-1-151827
加入者名：ジャパンユースデイ
一口　2000円：何口でも

ＪＹＤに関するお問合わせ先：ＪＹＤ事務局
〒160東京都新宿区若葉1-22-12　サレジオ会管区長館内
TEL./FAX　03-3352-0068
http://www.twics.com./~jyd/jydhome.html

ご会葬御礼

故ミカエル西田邦洋神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させていただきましたのでご諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉の上お礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

一九九六年六月

福岡教区長　松永　久次郎

神学院基金への寄付の御礼

故ミカエル西田邦洋神父の香典返しとして教区長松永司教様より多額の寄付を福岡カトリック神学院における司祭養成のためにいただき、心よりお礼申し上げます。

故人のご安息を心よりお祈り致します。

一九九六年六月

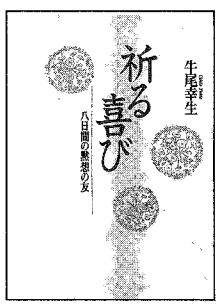
福岡カトリック神学院　院長　山元　眞

FAX番号訂正
宮崎カリタス修道女会福岡修道院［旧］092・531・5798［新］092・531・7942

『日本26聖人殉教400年祭　in　京都』
記念タオル1セット（タオル・ハンドタオル・ミニハンカチ）
限定40セット　　1セット1300円（送料込み）
紀元2000年へ向かっての宣教意欲の躍動感あふれるイメージと、京都から長崎へのつながりがモチーフになっている。
申込・問合先：教区本部事務局　092-522-5139［深堀邦枝］

BOOK 読みま専科

★祈る喜び
―八日間の黙想の友―
牛尾幸生著



聖書を深く味わいながら、イエスを知り、わたしを知り、大きな喜びを知る。そしてわたしにかかわるあらゆる問題が整ってくる。

イエスを知るには、頭で理解するだけでは足りない。共に住み、共にくつろいで、出会いを経験して初めて分かる。だから、イエスはわたしたちをまず、ご自分のそばに、共にいるように招かれる。

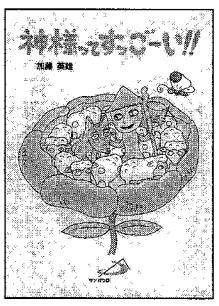
つまり、黙想の真の指導者は神ご自身である。

祈りのセンス、キリストのセンスを身につけたいと願う人のための黙想書。

女子パウロ会　一二〇〇円

◇　◇　◇

★神様ってすっごーい！！
加藤英雄著



キリスト教入門書として、中学生から大人まで著者のユニークな語りかける文章に親しみを感じる。三十二節の短いたとえ話や実例を用いながら、聖書の引用が、さらに説得力を深めてくれる。

この本を読んでいくうちに、人生のありがたさ、生かされている人間と重ね合わせて神様のことを考えると、ずばりタイトルどおり、ほんとに『神様ってすっごーい！！』と思われるに違いありません。

サンパウロ　一〇〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛石理石／石影の／大御そ他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
ＴＥＬ096－352－2417

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

7月

3日（水）聖トマ使徒
　＋フランシスコ・X平田正喜［老司1994］
5日（金）6日（土）　聖マリア・ゴレッティ
7日（日）**佐賀教会堅信式**
11日（木）聖ベネディクト修道院長
12日（金）聖書講座⑨［カテドラル19時］■
14日（日）福岡地区典礼を考える集い［カテドラル14時］
15日（月）聖ボナベントゥラ
16日（火）**カルメル山の聖母**　■
19日（金）聖書講座前期最終回［カテドラル19時］
20日（土）熊本サマーキャンプ（～22日）
　＋ヤコブ平田勇［西新1980］
　＋W.シュルツ［吉塚1987］
22日（月）聖マリア・マグダラ
25日（木）聖ヤコブ使徒
　＋J.ラグレブ［門司天使1982］
　＋J.ブルトン［呼子1957］
26日（金）聖ヨアキムと聖アンナ
28日（日）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（月）聖マルタ
31日（水）聖イグナチオ・ロヨラ
　＋ヨハネ平田惣五郎［浄水通1989］

8月

1日（木）聖アルフォンソ
4日（日）和田墓地清掃（8時～）終了後ミサ
　＋M.ボヌカズ［田川1991］
6日（火）主の変容
　平和旬間（～15日）
　＋E.ベノア［門司港1962］
8日（木）聖ドミニコ司祭
　＋P.マルケシーニ［待労病院1980］
10日（木）聖ラウレンシオ
11日（日）**平和を祈る集い［カテドラル13時］**　■
12日（月）＋A.ブルトン司教［福岡教区長1954］
　＋J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（火）教区和田墓地開放（～15日）
14日（水）聖マキシミリアノ・マリア・コルベ殉教者
　＋ミカエル木村義巳［馬渡島1967］
　熊本カトリック納骨堂ミサ（18時）
15日（木）聖母の被昇天・平和旬間最終日
　教区和田墓地　ミサ14時
　北九州カトリック納骨堂［湯川］ミサ14時
　佐賀金立町教会墓地ミサ
18日（日）**聖体大会［健軍13時～］**
19日（月）＋ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
21日（水）聖ピオ十世教皇
22日（木）天の元后聖マリア
24日（土）聖バルトロマイ使徒
25日（日）**呼子教会堅信式**
27日（火）聖モニカ
　福岡地区婦人会感謝ミサ［カテドラル10時］
28日（水）聖アウグスチヌス
29日（木）洗礼者聖ヨハネの殉教
　福岡結婚準備セミナー①（～9月26日）■

■印は本面に詳細説明あり

★　9月休刊　★
9月の行事予定は7月20日までにお知らせください

【平和旬間…8月6日～15日】

1982年6月に開催された定例司教総会は、「平和旬間」を日本のカトリック教会の行事として定め、毎年行うことにしました。

その趣旨は「福音の精神に根ざし、キリストの教える真理・自由・愛・正義に支えられた社会の実現に努力する」ことにあります。

教皇ヨハネ・パウロ2世は広島で「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。

わたしたちが戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。

各教区ではそれぞれに平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。平和への祈りをこめてできるだけ参加しましょう。

福岡黙想の家　7月

◇10日（水）ミカエル会
◇13日（土）～14日（日）インマヌエル会
◇19日（金）～20日（土）御受難会主催一般黙想会
　［参加者募集中］
◇20日（土）～21日（日）聖書研究会（泰星／Fr.塩谷）
◇22日（月）～23日（火）笹丘教会学校　夏期練成会
◇24日（水）古賀教会学校1日練成会
◇29日（月）～8月7日（水）修道女のための8日間の黙想会

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 32・3385

生命山カトリック別院

■生命山での黙想会・研修会

①［日時］7月21日（日）～26日（金）［指導］クラウディオ神父［参加費］35000円（講話は26日までですが、その後個人で黙想を続けることができます）

②［日時］8月18日（日）～26日（月）［指導］フランコ神父［参加費］45000円［場所］生命山カトリック別院

（①、②とも最終日のミサ後、希望者に長崎巡礼を計画しております。費用は実費）

［申込・問合先］熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7
☎0968-85-3100

韓国語によるミサのお知らせ

毎月2回、韓国人の神父による韓国語のミサを行っております。在日しておられる方、また、韓国に興味のある方など、どなたでも参加できます。何か、ご質問がありましたら、尹　汝沃（ユン・ヨウヨク）神父までご連絡ください。

日時：毎月第1、第3日曜日　10：30～
場所：聖パウロ修道会　福岡修道院
　〒810　福岡市中央区小笹4-11-11
　☎092-531-0924　F 092-524-6169
連絡先：尹　汝沃（ユン・ヨウヨク）神父
　〒830　久留米市津福本町404-10
　第1高須賀ビル203号
　☎　0942-33-6274（司祭館）
　FAX　0942-34-3115（聖マリア病院）

平和を祈る集い・平和祈願ミサ

日時：8月11日（日）
講演会：「従軍慰安婦」問題は今
　～フィリピン人元「慰安婦」を支援する会に関って
講師：高嶋たつ江　13時［カテドラル講堂］
ミサ：14時30分［カテドラル聖堂］　※詳細2面

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）前期［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］1回800円［申込方法］当日受付にて［問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［日時・内容・講師］⑨7月12日・主の晩餐・森山信三神父⑩7月19日霊の賜物、神秘体・牧山勝美神父（いずれも19時～20時45分）

■青年の祈りの集い［日時］毎月第2・第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導司祭］伊東成晃神父（大名町教会）［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■九州ダルク・チャリティーピアノコンサート―薬物依存症者の回復施設ダルク支援のために［日時］7月13日（土）13時30分（受付）14時開演［場所］聖心ウルスラ幼稚園［ピアノ演奏］林恵子［参加費］1500円（中高生300円小学生以下無料）［主催］九州ダルク・九州女性ハウス［協賛］九州ダルク支援する会［後援］カトリック福岡司教区［問合先］九州ダルク・デイケアセンター☎092・471・5140

■典礼を考える集い［日時］7月14日（日）14時［場所］カテドラル3階会議室［内容］①式次第「共にささげるミサ」に基づく典礼の研究②教区行事への協力態勢の検討③典礼研修会の企画［対象］福岡地区各小教区の典礼担当者［問合先］森山信三神父☎0944・52・4871（大牟田教会）

■カルメル山の聖母マリアの祭日へのご案内［日時］7月16日（火）［場所］カルメル山の聖母修道院［内容］①10時30分～荘厳ミサ・共同司式（松永久次郎司教司式）②13時～聖体礼拝・講話（カルメロ神父―大分カルメル会修道院）③15時～教会の祈り・聖母マリアの連祷他［問合先］カルメル山の聖母修道院☎FAX0092・807・7361＊参加される方は前もってお知らせください。

■小羊会　司祭、修道者の召命を求めて祈る信徒の会です。［日時］7月25日（木）13時30分～16時（14時～ミサ）［場所］福岡礼拝会［問合先］同上☎092・751・2578

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］7月28日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］痴呆のお年寄と共に生きる［講師］樋口かをる（社団法人呆け老人をかかえる家族の会福岡県支部代表）［問合先］大山美穂子☎092・713・8523

■ロザリオへのおさそい［日時］毎水曜日11時30分～12時［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■第9回信徒の霊性研修合宿［日時］8月2日（金）15時～4日（日）12時［場所］天城山荘（静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島2860☎05588・5・0625）［テーマ］思い込み、無関心、対立、不和の中の私［対象］カトリック信者・求道者［会費］22000円［定員］100人（定員になりしだい締め切り）［申込方法］官製ハガキに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、所属教会を明記のうえ、左記にお申し込みください［申込先］〒107東京都港区赤坂8-12-42聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係☎03・3479・3603（シスター清家・牧山）

■平和巡礼―「ヒロシマで平和を祈ろう」①8月5日（月）集合②6日（火）原爆犠牲者慰霊8時～世界平和記念聖堂［問合先］幟町カトリック教会平和行事実行委員会（斉藤眞仁神父）☎082・221・0621FAX082・221・8486

■第65回福岡結婚準備セミナー［日時］8月29日毎木曜・土曜日19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207FAX552・5022

■教会学校リーダーの集い［日時］9月1日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［テーマ］子どもとともにささげるミサ［講師］山元眞神父［会費］500円（資料代として）［問合先］神学院☎092・531・6821

■聖歌研修会［日時］9月8日（日）13時［場所］光丘教会

■福岡地区研修会［日時］9月16日（月）［主催］福岡地区信徒協　＊詳細は次号にて

■第9回聖霊による刷新九州大会［日時］9月21日（土）13時～23日（月）15時［場所］志賀島国民休暇村［テーマ］心に喜びを［特別講師］松永久次郎司教［講師］パウロ神父（ドミニコ会渋谷教会主任）・秋元伸介（名古屋南山教会所属）［主催］聖霊による刷新九州大会奉仕会［参加費］25000円（中学生以上）［定員］180人［申込締切］7月31日（水）定員になりしだい締め切り［持参品］聖書・歌集「主に賛美」（会場でも販売）・洗面用具・着替え・寝間着・司祭はアルバとストラ［問合先］ブラザー床島籐吾（司教館☎092・522・5139FAX523・2152）長井信子（久留米☎0942・35・7143FAX34・9866）

■典礼・聖歌と祈りの集い［日時］9月29日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［お話］畠基幸神父［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222FAX32・3385

参加者募集

オブレート会　サマーキャンプ

テーマ　未来へ…。
期　間　8月8日（木）午後2時集合～11日（日）午後解散
場　所　カトリック古賀教会内　福岡県粕屋郡古賀町花見東2-23-1
対　象　小学生高学年（5、6年）・中学生の男子カトリック信徒（高校生、大学生、社会人の方々も）
参加費　6,000円　　申込締切　7月15日（月）

■お申込み・お問合わせ―
〒780　高知市新本町1-7-31　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ﾋﾞｭｰﾛｰ
Bro.八木信彦　☎0888-24-4329　ｵﾌﾞﾚｰﾄ会召命係

編集後記

あっという間に七月になってしまった！　という感じ。今年も、もう半年が過ぎてしまった。まだ半年しか過ぎていない、と感じる方もいるだろう。時間の感じ方はさまざま。忙しい、忙しいといいながら、心を亡くしつつ生きている。そうしたら、忘れっぽくなる。これも「心を亡くす」と書く。早く来い来い夏休み。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

紀元2000年に向けて

一九九六年は「反省と行動の年」

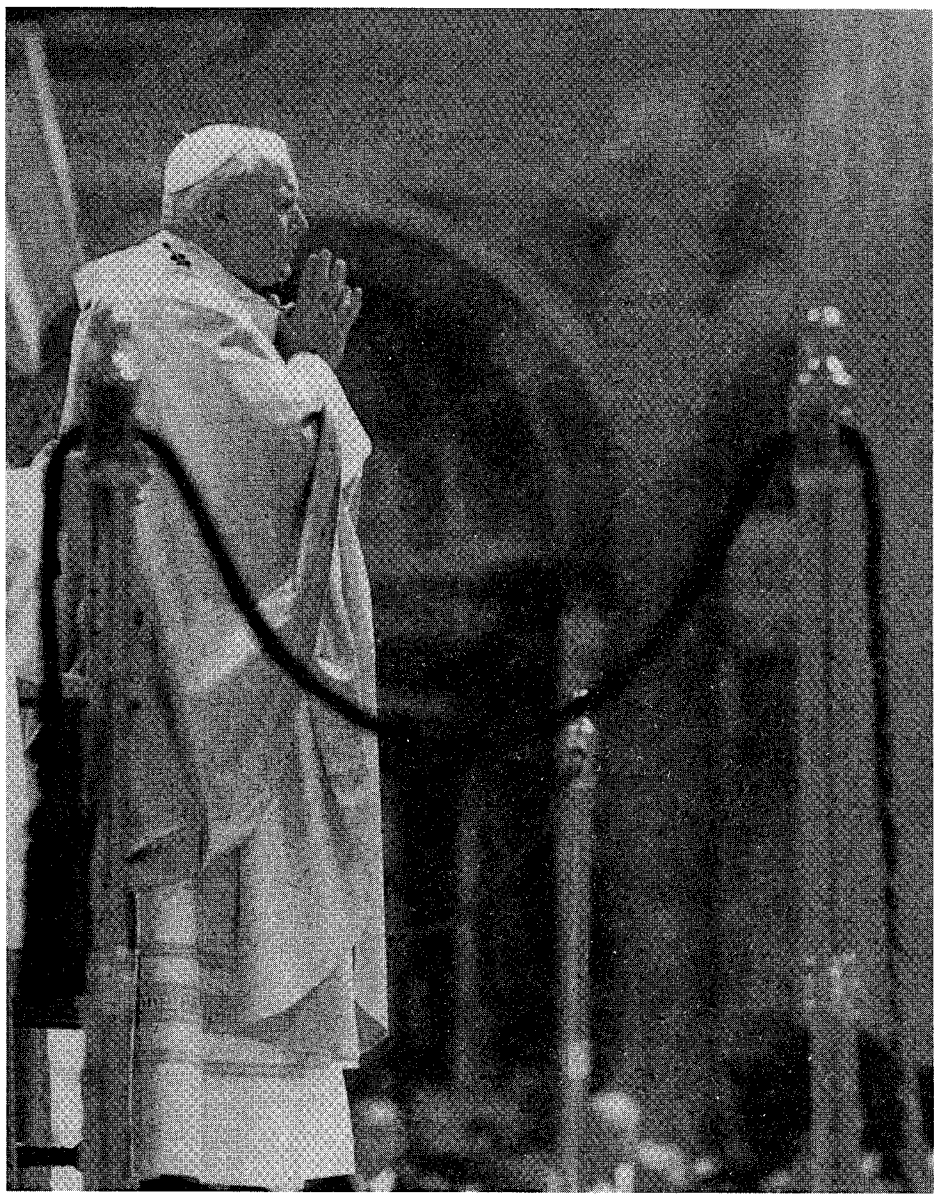
教皇メッセージにもっと関心を

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九四年十一月、紀元二〇〇〇年を「大聖年」として定め、悔い改めを呼びかけることを宣言。この大聖年に向けて、反省・回心・祈りと学びによって準備するよう、呼びかけ、勧めている。また、二〇〇〇年までの数年の期間を二段階に分け、最後の三年間を本格的な準備に当てることにしている。今年は、一九九四年から一九九六年までの第一段階の最後の年に当たっており、「反省と行動」が求められている。紀元二〇〇〇年に向けて準備を呼びかける教皇のメッセージにもっと関心をもつ必要がある。

一、聖年とは

聖年とは、本来は、旧約聖書の「ヨベルの年」（レビ記25章参照）にさかのぼる五十年毎の自由と解放の年のことをいう。教会は、聖書にある五十年毎の安息の年、聖なる年を取り入れ、一三〇〇年、ボニファチオ八世教皇によって聖年と定められた。最初は百年毎であったが、後に五十年毎になり、人が一生に一回でもその機会に恵まれるようにと、一四七〇年、パウロ二世教皇により、二十五年毎に催されるようになった。

また、一九九四年から一九九六年までの第一段階の最後の年に当たっており、「反省と行動」が求められている。紀元二〇〇〇年に向けて準備を呼びかける教皇のメッセージにもっと関心をもつ必要がある。



一、聖年とは

聖年とは、本来は、旧約聖書の「ヨベルの年」（レビ記25章参照）にさかのぼる五十年毎の自由と解放の年のことをいう。教会は、聖書にある五十年毎の安息の年、聖なる年を取り入れ、一三〇〇年、ボニファチオ八世教皇によって聖年と定められた。最初は百年毎であったが、後に五十年毎になり、人が一生に一回でもその機会に恵まれるようにと、一四七〇年、パウロ二世教皇により、二十五年毎に催されるようになった。

また、一九九四年から一九九六年までの第一段階の最後の年に当たっており、「反省と行動」が求められている。紀元二〇〇〇年に向けて準備を呼びかける教皇のメッセージにもっと関心をもつ必要がある。

二、大聖年の準備

数年後に迎えようとしている紀元二〇〇〇年は、キリストの誕生から数えての二千年であり、キリスト者ばかりでなく、間接的に全人類にとって、とくに重要な大聖年となる。

教皇は全信者に、紀元二〇〇〇年の大聖年に向けて、反省・回心・祈りと学びによって準備するよう、呼びかけ、勧めている。そして、準備にあたって次のことを強調している。

「新しい千年期のために最良の準備は、第二バチカン公会議の教えをできるかぎり忠実に個人と全教会の生活に適用すること」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡「紀元二〇〇〇年の到来」第三章20参照）

そのために、準備の期間を大きく二段階に分け、第二の段階は本格的な準備の期間として、さらに三つの時期に分けている。

第一の段階は一九九四年から一九九六年で、普遍教会における反省と行動の時とされている。この期間に、何よりも大聖年の意味を理解し、その呼びかけに従って生きることが求められる。具体的には、とくに過去の誤りと不信仰、一貫性のなさ、取るべき行動を怠ったことなどを悔い改めることが準備になる。さらには、教会の分裂、不一致、不寛容や暴力の黙認、宗教的無関心、生命の軽視や倫理面での混乱などの現代の影ともいえることがらについて反省することが示されている。

今年一九九六年は、第一段階の最後の年である。まず、大聖年についての教皇の考えと信者への呼びかけが示されている書簡「紀元二〇〇〇年の到来」を理解したい。そして、教区や、小教区、各種団体で、さらなる具体的な準備が進められることが求められる。

三、日本の教会としての準備

一九九九年はザビエル渡来四五〇年にあたる。この機会に、日本の教会の福音宣教の歩みを振り返り、過去の歴史の反省と次の世紀への積極的なかかわりが検討されていく。また、バチカンにすでに申請されている一八八人の殉教者列福もこの流れの中にあり、各地区での殉教者の顕彰も「大聖年」の具体的な準備となる。

四、日本26聖人殉教四〇〇年祭

一九九七年は長崎で26聖人が殉教して四百年にあたる。長崎では同四〇〇年祭実行委員会を組織し、準備が進められている。紀元二〇〇〇年の「大聖年」の準備の一環として、また、新しい福音宣教の実現を意識して、以下のような事項が企画されている。

◎記念期間―
一九九六年十二月八日午後三時の西坂公園「開会ミサ」から一九九七年十二月八日午後三時の浦上教会での「閉会」ミサまで

◎記念式典―
・一九九七年二月三日午前十時「叙階式」（浦上教会）
・一九九七年二月五日午前十時「教皇特使、西坂巡礼・献花」
・同日午後二時「教皇特使による荘厳ミサ」（県総合体育館）

◎記念行事予定―
・殉教カテケジスー信徒を対象に「殉教」のテーマで行う。信仰を深めるためのもの。（期日、場所は未定）
・シンポジウムー一九九七年五月一日～二十日に県立美術館で行われる船越保武氏の作品展に合わせて、一般向けに殉教者を紹介する。市民会館ホールを予定。期日は未定。共に純心大学主催。
・スペイン巡礼ー一九九七年七月五日～十九日、ペトロ・バプチスタ神父ゆかりの地などを訪問する。
・26聖人殉教者のオペラ公演
・その他ー26聖人を保護者とする教会への巡礼、記念写真集の発行、シンボルマークの作成

五、26聖人の福岡での足跡を辿る

カテドラル大名町教会の教会報「かはる」編集部では、殉教四〇〇周年に向けて、聖人たちの福岡（博多）での足取りを追っている。同教会報で四回にわたって連載中。現代の信徒の生き方を探っている。

今月のみことば

勇気を出しなさい。
私は既に世に勝っている。
（ヨハネ16・33）

御受難会　畠　基幸　神父

時の話題

キリストの平和

鵜野　泰年

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。」（ヨハネ14・27）

八月十五日は終戦記念日ですが、カトリック教会では、聖母の被昇天の祝日。日本の習慣としては、亡くなられた先祖を供養するお盆。人それぞれに、八月十五日は大切な日であると思うのです。

今年は戦後五十一年。終戦記念日に限らず、平和について考えることは、良いことであり大切なことです。なのに、なぜ世界のあちこちで、未だに戦争があるのでしょうか。戦後五十一年といいますが、世界は未だ戦中五十一年の状態です。大きな戦争はないにしても、それらしい小競り合いは絶えず起こっています。人間は争いなしには生きていけないのでしょうか。

世界中の人で、平和を願っていない人は一人もいません。皮肉なことに、平和を願っている人々が互いに戦争をしているのです。それは何故？

それはキリストの平和を願わずに、自分の平和を人に要求しているからではないでしょうか。平和は神が与えて下さるものであり、人間がつくれるものではない。人間が人間の平和をつくろうとすると、自分の押しつけになるし、戦争反対と言いながら火炎瓶が飛び交うのです。だから、ほんとうに大切なものは、人間の平和ではなく主の平和だと思うのです。

熊本市の花岡山の中腹に、加賀山みやとその家族十五人の殉教者の墓があります。三百五十年前、激しい迫害の中で、かれらは信仰を証ししながら死んでいきました。この世の財産、この世の地位を約束されても、それを辞退し、あくまで魂の救いと、主の平和を求め続け、そのために命を捧げたのです。

主の平和を実現する人、義のために迫害される人は幸いである。天の国はその人のものである。

一見、敗北者のように見えた殉教者たちの姿こそ、主の平和を実現した人の姿ではないでしょうか。

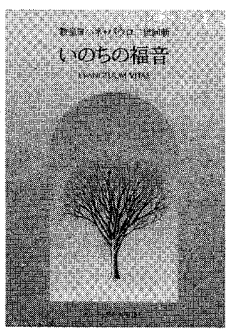
「わたしは、世が与えるような平和ではなく、わたしの平和をあなたがたに与える。」主よ、あなたの平和をわたしたちに。

（健軍教会主任）

『いのちの福音』翻訳発行

かねてから翻訳が待望されていた教皇ヨハネ・パウロ二世の回勅「エバンジェリウム・ビテ」の日本語版、『いのちの福音』（＝写真）がカトリック中央協議会から七月十五日に発行された。この回勅は、その題名からも分かるように、現代の「いのち」に関する諸問題に対しての教皇の見解を明らかにしたもの。教皇は本回勅で「いのち」の尊さの根拠を説き明かし、人工妊娠中絶や安楽死など現代の重要な問題に対して確固たる見解を示している。

定価千五百円。問合せは同協議会出版部（☎03・5632・4429）



人事

教区事務局長［ローマ留学］
青木悟

みちくさ

六月初め、信じられないような光景に出くわした。お昼どき、西新中央商店街を歩いていた時である。割烹着の女性が大声で叫びながら小走りにかけてくる。「お忘れものですよー。奥さあん、忘れものー」道行く人々は立ち止まり、店員さんたちも表にとび出してきた。忘れものの正体を見た途端、みな唖然とし、次いで爆笑が起こった。だが、笑い事ではない。なんとその女性は、両手で赤ちゃんを支えていたのである▼振り返ると何秒か前にすれちがった女性が歩いていた。日傘をさし、手には荷物、左右に二人の子どもを連れて。忘れものは無事もどった。衆人環視の中であの母親、どんなに照れくさかったことだろう。最後まで見届けるにしのびず、足早にその場を去った。三十歳位で三人の子持ちとは感心、と心でゆるしてあげながら…▼だが、だんだん腹が立ってきた。母親がパチンコに夢中になっている間に、幼児が電車にはねられたというニュースを見た直後だったからか。その月半ばには又、母親がパチンコや買い物の間に、路上に止めた車の中で男児二人が脱水症で死亡の記事。その後の報道によると、昨年四月以降、親がパチンコ中の子どもの事故が全国で三十件にのぼるという。七月十日には性懲りもなく、両親がパチンコの間に女児が行方不明で捜索中と▼一体どうなっているのだろう。今や夏盛り、親たちが海水浴の間に子どもが車で熱射病で死亡、なんて記事、絶対見たくない。声を大にして叫びたい。「世の親たちよ、もっと責任あるおとなになってくれ」（H）

大聖年へ着実に前進
―九九六年度定例司教総会

一九九六年度定例司教総会が、去る六月十七日～二十一日の五日間にわたり、東京の日本カトリック会館において行われた。三月に叙階された池長潤大阪教区協働大司教が初めて参加した今回の総会では、大聖年の準備、外国援助の基本方針、新要理書の編さん、日韓合同歴史研究など、多岐にわたる議題が審議された。

今回のおもな審議事項は次のとおり。

(1)日韓合同の歴史研究の在り方について、以下のことが承認された。

①両国の司教たちが歴史認識の違いを自分たちの問題として受け止め、率先して取り組む

②日韓の歴史学者の交流を推進し、資料に基づいた共同研究を奨励する。

③日本側の担当者は岡田武夫司教とし、濱尾文郎、森一弘司教が協力する。

(2)「教区割り」については、教区間の統廃合ではなく、東京、大阪、長崎の各教会管区ごとに協力態勢を具体的に推進していく方向を選択する。

(3)大聖年への準備については、次の事項が承認された。

①教皇の使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』に示されている大聖年の意味を深く理解し、生活の中で生きることをもっとも重要な姿勢とする。

②日本の教会として次のことを推進していく。

(イ)教皇が大聖年に向けて全信者に呼びかけている反省、回心、祈り、学びによる準備を進める。

(ロ)一九九九年のザビエル渡来四五〇周年を機に日本の福音宣教の歩みを振り返り、過去の歴史の反省と次の世紀への積極的かかわりを模索していく。

(ハ)最優先課題として、日本の教会の全信者がこの姿勢を自分のものとして生きていくことができるように配慮する。

また、大聖年行事の日時や開催場所の確定、大聖年に関する司教団メッセージの作成準備は大聖年準備特別委員会に一任し、一九九九年の「キリスト教伝来四五〇年（ザビエル渡来四五〇年）」（仮称）の正式呼称を「ザビエル渡来四五〇年」とすることも確認された。

(4)各方面からその発行が待望されている「日本のための新しい要理書」については、次のことが承認された。

①糸永真一司教を委員長、深堀敏、岡田武夫二司教を委員とする。『新要理書編さん特別委員会』を新たに設置。

②「カトリック教会のカテキズム」（日本語版は未発行）に準拠して教会の教えを簡潔に提示し、日本人の伝統や現代的特性などを考慮した成人信者一般を対象としたものとする、などの編集方針。

(5)外国援助については、一九八五年に承認された『日本の教会の基本方針』では対処できない条件が多発し、抜本的・総合的見直しが必要となったため、カリタスジャパンで新しい草案を作成し、改めて司教総会で審議し直すことになった。

いつものことながら大きな議題で、簡単に結論を出せるものではない。あらかじめ諸委員会で時間をかけて検討され、まとめられた議題は、叩き台の形で総会に提出され、司教たちによって徹底的に議論される。出席者たちにとっては、緊張の連続であり、たいへんな重労働だという。しかし、こうした積み重ねがあってこそ、日本の教会は着実に、一歩一歩前進するのである。

司教総会等、カトリック中央協議会で開かれている各種委員会の議事録が『会報』という小冊子の形で毎月発行されている。購読希望の方は左記へ。

〒135 東京都江東区潮見2・10・10カトリック中央協議会 ☎03・5632・4411

典礼　ミサのこころ⑤『省みる』

開祭のはじめのあいさつが終わると、司祭は集まった会衆を、回心の祈りへと招きます。この時私たちは、ゴルゴダの丘でイエスとともに十字架にかけられて、回心した犯罪人の姿を思い浮かべたいと思います。

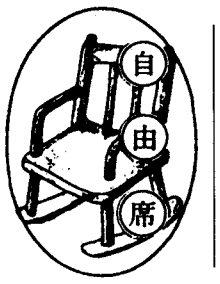
「十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスよ、あなたのののしった。…すると、もう一人の方がたしなめた。『お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。』そして、『イエスよ、あなたの御國においでになるときには、わたしを思い出してください』と言った。するとイエスは、『はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる』と言われた」（ルカ23・39～43）。

犯罪人の一人は、神の裁きを意識しながら自己を省み、素直に自分の罪を認めました。そして何も悪いことはしていないのに十字架にかけられているイエスに向かって、心からあわれみを求めました。自己を省みるのは、自分の罪に対する神の裁きを過剰に意識するためではなく、すべてを無償で与えられる神の広大無辺な愛とあわれみに自己を委ねるためです。また隣人とともに神に立ち返る心を新たにするためです。イエスさまは十字架上で、私たちの罪の償いのためにも、身代わりとなって命をささげてくださいました。

その記念であり、再現であるミサのはじめに、私たちも十字架上で回心したこの罪人の心を、自分の心とするように努めましょう。そして神と兄弟たちの前で自分の罪を告白し、「あわれみの賛歌」を唱え（歌い）ながら、私たちを神の国に招いてくださる主の慈しみ深さを賛美したいと思います。

（福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父）

「永遠の生命」を読んで



一九九五年は、第三代福岡教区長深堀仙右衛門司教が亡くなられて十年になる。又、彼が創設された福音の光修道院の創立四十年にも当る。そこで同修道院が、深堀司教の追想録の発刊を企画され、一九九六年その発行を見るに至った。

その内容は、大別三部になり、第一部は、聖職者、修道者の追想文。第三部は、信徒の追想文。その間に第二部として、同司教の珠玉の語録が集められている。これは、編集の任に当たられた森山敬三氏（箱崎教会信徒）が、同司教の膨大な日誌から抜粋されたものと聞く。

そこには、人間の真の生き方が綿々と綴られていた。信徒の生き方、神学生の生き方、修道者の生き方、司祭の生き方、教会の在り方、等々。

今、社会は、バブルがはじけ、環境汚染、景気低迷、犯罪多発等混迷の時代で、人々は不安材料でいっぱいだ。そのせいか、緩やかで静かな、いわゆるアダージョのクラシック音楽に、過去に例を見ないほどの人気があるそうだ。この一年間に、アダージョ・カラヤンなるCDが、日本で四十万枚、スペインでは五十万枚も売れているそうだ。他の国々でもその傾向にあるという。

この傾向は、混迷の世の中にあって、人々が、静かな曲を聞きつつ沈思黙考し、不変なるものを求めていることを示しているのではなかろうか。

今般発刊された「永遠の生命」の深堀司教語録は、この混迷の世相の中に、最適の回答を与えるものである。

同司教にお世話になった福岡教区民はもちろん、同司教を御存知ない方々も、そして、カトリック者ばかりでなく、アダージョ・カラヤンをお聞きになる方々にも、ぜひ御一読をお勧めしたい本である。

（二日市教会所属　畠山春秋）

聖心病院での出会いの中で

私はイエスの聖心の月に熊本の聖心病院の中にあるみこころホスピスでパストラルケアの研修をさせていただく機会にめぐまれました。

パストラルケアという言葉は、まだなじみの浅い言葉だと思いますが、「羊飼いが羊を親身になって世話するように、病める方々や、その家族を精神的、霊的にケアするということ、ひとことで言えば、『心のケア』ということができる」と説明されています。

生命（いのち）との出会いの場である看護に長年関わってきた私は、このパストラルケアの必要を日毎に強く感じるようになりました。

みこころホスピスでの二週間は毎日が新たな発見と、新たな出会いの連続でした。神様の恵みは日常の中に秘められている、ということに新鮮な驚きを覚えながら、大切なものに目覚めさせられた思いでした。

ある患者さんの言葉がいつまでも私の心に残っています。「私は病気したおかげで、みこころホスピスを知りました。癌という病気におかされなければ、みこころホスピスを知ることはなかったでしょう。ここに来て本当に良かったですよ。本物の幸せをもらいましたから…。」

なんとすごい言葉でしょう！

「みこころホスピスは、何もない所なのよ」と気を遣いながら、私に関わって下さったシスターに、私は次のように分かち合いました。「心がある。こんなにも大きな愛がある。これがホスピス病棟ですね」と。

ここで働く方々の熱い思いが一丸となって、このようなすばらしいみこころホスピスを築いておられることを、強く感じました。と同時に教会の中で生かされていることも感じさせられました。本物は地味で目立たない所でひそかに輝いているのですね。

このような体験の時を許して下さった私の修道会の上長への感謝と、このような『場』を与えて下さった聖心病院のシスター方、ドクター方、スタッフの皆様への言葉に尽くせぬ感謝の思いを、研修日最後の日の夕べに、健軍教会の永久聖体礼拝の場で、祈りを捧げられたことは、熊本出身の私にとって大きな喜びでした。すべての恵みに感謝して。

（姫路聖フランシスコ病院修道女会 シスター川口 百合子）

いじめからの復活

八年前、長女は小学6年生。いじめが原因で口のきけない子になっていました。思いあまって叩いたのが、カトリック教会の門でした。応対して下さった神父様は、彼女にとって、まさにイエス様。深い愛で包んでくださり、彼女をとりこにしました。

神父様の「教会に来ますか」という問いに、何のためらいもなくコクンとうなずいたのです。教会に通い出した彼女はみるみる元気になり、別人のように明るくなりました。

一年後、自らの希望で受洗をし、私たち家族も教会に導き、全員をクリスチャンにしました。彼女がいじめに耐えたのは中学卒業までの実に五年間。しかし、神様の愛の中に生きた彼女の心は平和でした。どんなに辛くても登校拒否もせず、自殺もしなかったのは、イエス様という大きな愛を持った方に出会ったからでしょう。いじめ、それは許されないことです。しかし神様は、いじめを通して、私たちにご自分を示してくださいました。「憎むべきいじめ」にも感謝です。

「重荷を負うものは私のもとに来なさい。休ませてあげよう」この言葉が、重荷を負うすべての人々の上に実現しますように。

（小倉教会　福吉三代子）

イエズスの聖心病院 みこころホスピス

〒860 熊本市上林町3番56号 ☎096・352・7181

カテケジス⑤

本紙7月号に次回のリーダー研修会を9月1日（日）に開くことをお知らせしていたが、都合により、翌週の8日に変更する。お詫びして訂正したい。

その日は神学院に隣接する浄水通教会で子どものミサ、その後に同教会学校のリーダー会がある。これは他小教区のリーダーにも開放される。時間がゆるせば、9時から始まる子どものミサ、それに続くリーダー会に顔を出されてから午後のリーダーの集いに参加されてはどうだろうか。

「子どものミサ」は多くの小教区で行われていると思う。しかし、それは単に典礼の役割分担を子どもたちにさせているだけではないだろうか。場当たり的な準備でミサに臨んでも、結果は子どもたちに「ヤラセ」を強いているだけになってしまうでしょう。子どもたちが喜んでミサに参加するためには、相応の準備が必要と考えられる。歌、朗読、先唱、奉納行列、共同祈願等の役割分担が考えられるが、それぞれは良く準備されていなければならない。準備をするときに十分なカテケジスが出来るであろう。

例えば、歌は曲目を選択するときから、子どもと一緒に準備する。歌はできるだけ暗記してもらう。朗読は、個人的に依頼するよりも、クラスとして担当してもらい、みんなで準備し、そのクラスを代表して一人の子どもが朗読するようにする。奉納行列もきちんとリハーサルをする。

各役割は、子どもたちがいやいやながらするのではなく、その役割を実行するのが楽しく、待ち遠しい気持ちになるように指導することが大切である。また、子どもにまかせて、大人が傍観者になるようであってはならない。「大人とともに」捧げることが大切である。大人も何かの役割を一緒にもつ。

問合先：神学院☎092-531-6821（山元神父）　会費：毎回500円（資料代等）

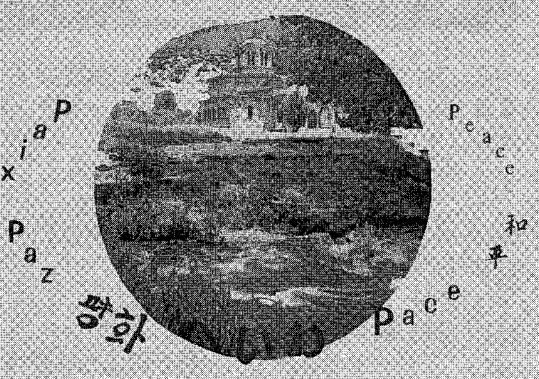
祈りと作業奉仕の日
◎9月28日（土）午前中；作業／午後～ミサ・黙想会
たくさんの方々の参加をお待ち致します。
※28日（土）の昼食が必要な方はお申込み下さい。
福岡黙想の家 後援会
福岡黙想の家 〒811-41 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

《平和を祈る集い》

平和への決意 ― 過去・現在・未来をみつめながら



8月11日（日）午後1時～4時

☆プログラム☆

第1部［講　演］　13：00～　カテドラル1階講堂

講演会：「従軍慰安婦」問題は今 ∞∞フィリピン人元「慰安婦」を支援する会に関って

講　師：高嶋たつ江 ∞∞東京教区正義と平和委員会（フィリピン人元「従軍慰安婦」を支援する会事務局長）

14：00～ ミサ準備（聖歌の練習等）

第2部［平和祈願ミサ］　14：30～　カテドラル聖堂

主司式：松永久次郎司教／福岡地区司祭共同司式

：英語ミサとスペイン語ミサグループといっしょに

説　教：山元　眞 ＜福岡カトリック神学院院長＞

福岡地区の司祭、修道者、信徒のみなさん、子供たち、侍者のみなさん・・・・・

カテドラルに集まって平和のために祈り、平和への決意を新たにいたしましょう！！！

主催：第1部 福岡地区正義と平和協議
　　第2部 福岡教区・福岡地区

ビリングス・メソッド研修会

いのちと性の尊厳を守るために

自然の恵みと素晴らしさが見直されているこのごろ、家族計画においても、いのちの尊厳とその誕生を握る性の尊さにかなった自然な方法、ビリングス・メソッド（排卵法）が全世界に静かなブームを呼んでいる。

また反面、低年齢化する中絶の増加・性犯罪・不倫による家庭崩壊…などで、悲惨な現象が多発している。尊いいのちに対して、死の文化が忍びよっている。そこで、世界の学者で構成されているバチカンの「生命学士院」は会議を開いた。この会議で一致したことは、生命の尊厳とそのいのちの誕生の鍵を握る、自然な家族計画「ビリングス・メソッド」の普及の急務についてであった。

ビリングス・メソッドの開発者であるビリングス医学博士夫妻は、現在まで、世界の一〇〇カ国程から招かれ、ビリングス・メソッドの普及に奉仕してきた。そのため、この自然な家族計画は、世界のすみずみまでゆきわたり、「ビリングス・メソッド指導者養成センター」が多くの国に設立され、影響を及ぼしている。

ビリングス医学博士夫妻の日本への初来日は七年前。その時NHKは夫人とのインタビューを朝のワイドニュースで流し、各新聞社は記事を載せ、反響を呼んだ。また、セミナー参加者はこの素晴らしい自然の仕組みに驚き、静かにではあるが、確実に普及してきた。

この方法は月経の不順な人、授乳期間中の人、更年期の人、不妊の女性にも役立っている。近代的、科学的なこの方法は簡単で信頼に足り、無害で、夫婦の対話・思いやり・信頼を深め、子どもの性教育にも、明るい健康な家庭づくりの力にもなっている。

このビリングス医学博士夫妻が中国での研修会の帰りに、七年ぶりに再来日し、久留米、長崎で研修会を開く。高校生以上の男女の参加が望まれる。

研修会にあたっては、カトリックファミリーセンターが企画しているが、教区長の松永久次郎司教は同センターに以下のすいせんの言葉を送った。

「この秋の十月、ビリングス医学博士御夫妻が再来日され、『自然の恵み　ビリングス・メソッド』の研修会を開かれます。キリスト者は神のみ旨に基づいて家庭生活を営み、子どもを産み育てるように努めています。『ビリングス・メソッド（排卵法）を知ることは、神の賜物であるいのちと性の尊厳を守り、自然な家族計画を行うためにもたいへん役に立ちます。男女を問わず、高校三年生以上の若い方々も大勢参加され、このビリングス・メソッドがより多くの人に知られ、普及していくことを期待しています。」

研修会の内容は以下の通り。

①受胎は素晴らしい賜物　②すべての子どもは望まれて生まれるべき　③セックスと常識　④青少年と性　⑤ビリングス・メソッドを生かしている夫婦の愛の絆　⑥ビリングス・メソッドをどう教えたらよいか　⑦ビリングス・メソッドにおける最新の見解　⑧基本的不妊様式　⑨ストレスと排卵法について　⑩ビリングス・メソッドをどう教えたらよいか　⑪不妊症治療としてのビリングス・メソッド　⑫ピルと女性の不妊症　⑬ピル・IUDからの解放　⑭解剖と生理（ホルモンと女性の不妊症）　⑮リンパ・ノデと排卵法　⑯授乳期・閉経前期における自然な受胎計画　⑰自然な家族計画―21世紀に向かって　⑱その他

■講演会　［日時］10月24日（木）17時～19時　［場所］聖マリア学院短期大学（久留米市津福本町422）［参加費］2000円　［連絡先］井手信科医・短大教授）☎0942・35・7271

■長崎研修会　［日時］10月26日（土）9時～17時・27日（日）9時～16時　［場所］長崎カトリックセンター　［連絡先］西村千鶴子☎0958・45・4859　＊詳細は上記の連絡先か、左記、明るい家庭を築く会まで

［主催］明るい家庭を築く会／ファミリーセンター内〒8152　福岡市南区皿山4・14・27　☎092・541・6207　FAX552・5022

（取材協力ファミリーセンター　S・Mライル神父）

25周年の準備進む

教区信徒使徒職協議会・修女連

教区信徒使徒職協議会（会長＝田丸鋭・佐賀教会）と教区修道女連盟（会長＝シスター佐藤節子・礼拝会福岡修道院）は発足25周年合同記念祭を準備しているが、大綱が以下のように決まった。

記念祭は十一月二十三日（土）勤労感謝の日の十時から十六時にカテドラル大名町教会で福岡教区信徒、修道者、司祭、司教を対象として開かれる。内容は平山高明大分教区長による講演（テーマは未定）、信徒および修道者の生活の証し。

証しをするのは熊本地区信徒一人と修道女四人。修道女の証しは以下のシスターが行う。聖母訪問会シスター亀崎善江（新田原聖母病院内科医師―東チモールでの体験）、マリアの宣教者フランシスコ修道会熊本第一修道院シスター福永順子（介護看護主任―アフリカの宣教の体験）、カノッサ修道女会シスターアイーダ（大牟田明光学園英語教師―フィリピン人の世話をして）、幼きイエズス修道会大阪本部修道院管区修道院シスター黒木紗耶子（管区長補佐―修道者としても）以上の四人が二十分づつ発表する。

また、松永司教司式の記念ミサが捧げられる。カテドラルの一階ロビーに信徒協および修女連の諸活動展示コーナーを設け信徒協と修女連の活動を紹介。信徒協のあゆみを紹介する記念誌も年度内完成を目指して作業が進んでいる。

九月にはすべての事項が決定され、今後、広く教区内の信者に参加の呼びかけがなされていく。

確実な実り

聖霊による黙想会

五月十一日から二十三日まで、熊本市内の五教会主催による「聖霊による七週間の黙想会」（代表者オカロール神父）が手取教会で行われた。マテオ神父、島神父、タルディフ神父、マッケイ神父、オカロール神父が講話を担当し、二十三日、松永久次郎司教司式のミサで締めくくった。

参加者は延べ百人（内六人は鹿児島、宮崎から）、最終日はほかに大勢の参加者があった。

最終日以外は毎土曜日午後二時に教会の信徒会館に集まって祈り、講話を聞き、小グループで分かち合った。その後参加者たちは、各自その週のテーマに従って、聖書とテキストに導かれながら黙想を続け、五週目には、特別な聖霊の満たしの祈りを行った。

一人ひとり聖霊の恵と力を受けたことは確実だが、今回の大きな恵みは、松永司教が最終日に派遣のミサをささげ、励ましのことばをくださったことであろう。［写真＝黙想会場ステージ］

（取材協力手取教会　日向常子）



追憶の書発刊

深堀仙右衛門を偲んで

福岡教区第三代教区長深堀仙右衛門司教の十三回目の命日祭（来年）を前に、追悼の書が六月に出版された。深堀司教は福音の光修道会の創立者。同修道会が生前より聖徳の誉れ高かった深堀司教を偲んで追悼集の出版を企画。箱崎教会信徒の森山敬三氏の協力を得て完成した。

司教の霊的日記が摂理的に残っていたため、その一部が語録の形でまとめられている。深い黙想書として貴重な記録といってもよい。福音の光修道会の院長、シスター佐藤倭文子は「この書が早く完成したのは、森山敬三氏の恩師、故深堀司教に対する深い尊敬と信仰の結実だと考えております。とくに語録の編集にあたっては、独特な書体の書き写しから始まり、終始集中され、完成に至るまでのご努力は祈りなしには考えられないことでした。存在によって人々に霊的感化を与えられた司教様を偲び、森山氏および関係者の皆様に深い感謝を申し上げます」と述べている。

同書のタイトルは「永遠の生命―偲・ドミニコ深堀仙右衛門司教―」福音の光修道会編。三四〇〇円（送料共）。申し込みは左記へ。

〒816福岡市博多区光丘町2・3・44　福音の光修道会　☎092・581・1663　FAX581・4609

カルメル会で感謝の祈り

カルメル山の聖母修道院

七月十七日のカルメル山の聖母の記念日に、福岡のカルメル会で感謝の祈りの集いが開かれた。福岡のカルメル会は、「カルメル山の聖母」に捧げられた修道院。教区のため、とくに司祭、修道者の召命のために祈っているが、この日は、いつも支えられている教区の信者のために感謝を表すのが目的。

この日は教区長の松永久次郎司教をはじめ、約四十人の信徒が祈りと講話に参加。互いに感謝の気持ちを表した。

女子跣足カルメル会は16世紀にアビラの聖テレジアによる改革で生れた観想修道会で、全国に八カ所ある。福岡の修道院は終戦後の一九五一年に神学校のために祈ることを目的として設立された。福岡サン・スルピス大神学院の前にあった修道院は三年前に福岡市西区今宿に移転している。

来年は幼きイエスの聖テレジア帰天百周年にあたる。カルメル会では世界的にいろいろな企画が準備されている。福岡カルメル会では、今年の十月から月一回、日曜日の午後に祈りの集いを持つ。第一回目は十月十三日、午後一時半から。東京上野毛修道院の星野正道神父の講話、沈黙の祈りと晩課がある。修道院は多数の信徒の参加を待っている。

花岡山基金に協力

福岡地区婦人会

福岡地区婦人会（会長＝山口紀子・二日市教会）は七月十一日に教区長松永久次郎司教を訪れ、六月二十日に花岡山に巡礼をした際に募った献金、一五九、六九六円を花岡山基金にと、同司教に手渡した。

教区には花岡山殉教墓地整備のために基金が設置されており、信徒からの同基金への献金はこれが初めて。

BOOK 読みは専科

★やわらかな生き方 ―ゆれる心のなかで―

平田栄一著



著書に、「今を生きることば」女子パウロ会発行があるが、その続編として書かれた。

内容にふさわしい聖書の個所を挿入し、読者が自分に当てはめて考えてみるように、特に大切な部分には付点を打ち、強調している。ある時は祈れるように、ある時は自分を厳しく見つめ直し、軌道修正するように優しく導く。

著者は、短い一つひとつのテーマの中で、「やわらかな生き方」のヒントをより簡潔に指し示している。

サンパウロ　九六〇円

◇　◇　◇

★聖パウロ ―その心の遍歴―

和田幹男著



聖パウロの伝記。いま、キリスト者であることはパウロの存在なしに考えられなかったという著者自身の感謝の思いが、律法から福音へという問題や異教世界への宣教の問題などに特別な焦点をあてて日本人聖書学者の確かな目でパウロの苦難にみちた生涯を捕らえ、平易な文章で、学問的にきちっとした書です。多くの写真や地図が添えられていますので、パウロがたどった当時の描写や人間関係、そして、キリストへの熱意を読みとることができるでしょう。

女子パウロ会　三〇〇〇円

ジャパンスマイル㈱
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材　石理　石他
素材　影の
　　大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　8・9月

◇7月29日（月）～8月7日（水）修道女の為の8日間の黙想
◇8日（木）～17日（土）幼きイエズス修道会黙想
◇18日（日）～24日（土）サレジオ会黙想
◇25日（日）～29日（木）高松教区司祭黙想会
◇9月1日（日）～6日（金）オブレート会黙想
◇8日（日）～13日（金）レデンプトール会黙想
◇13日（金）～16日（月）サダナ。黙想練成会
◇14日（土）～15日（日）きょうだい会
◇15日（日）～16日（月）聖母カテキスタ会
◇17日（火）～25日（水）修道女の為の8日間の黙想
◇27日（金）～28日（土）御受難会主催一般黙想会
◇28日（土）～29日（日）黙想の家後援会／祈りと作業奉仕の日
◇29日（日）～10月4日（金）コロンバン会黙想

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

■黙想会　［日時］8月18日（日）～26日（月）［指導］フランコ神父［参加費］45000円［場所］生命山カトリック別院　最終日のミサ後、希望者に長崎巡礼を計画しております。（費用は実費）

■研修会［日時］9月14日（土）16時～16日（月）14時［テーマ］日本の宗教における霊的遺産［参加費］10000円［場所］生命山カトリック別院［申込・問合先］熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7　☎0968・85・3100

韓国語によるミサのお知らせ

毎月2回、韓国人の神父による韓国語のミサを行っております。在日しておられる方、また、韓国に興味のある方など、どなたでも参加できます。

日時：毎月第1、第3日曜日　10：30～
場所：聖パウロ修道会　福岡修道院
☎092・531・0924　FAX 092・524・6169
問合先：尹　汝沃（ユン・ヨウヨク）神父
☎ 0942・33・6274（司祭館）
FAX 0942・34・3115（聖マリア病院）

平和を祈る集い・平和祈願ミサ

日時：8月11日（日）13時［カテドラル講堂］
講演会：「従軍慰安婦」問題は今
～フィリピン人元「慰安婦」を支援する会に関って
講師：高嶋たつ江
ミサ：14時30分［カテドラル聖堂］　松永久次郎司教司式

和田共同墓地

納骨堂開放
8月13日（火）
～15日（木）
10時～15時
死者のためのミサ
8月15日14時

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

8月

1日（木）聖アルフォンソ
4日（日）和田墓地清掃（8時～）終了後ミサ
＋M.ボヌカズ［田川1991］
6日（火）主の変容
平和旬間（～15日）
＋E.ベノア［門司港1962］
8日（木）聖ドミニコ司祭
＋P.マルケシーニ［待労病院1980］
10日（木）聖ラウレンシオ
11日（日）**平和を祈る集い［カテドラル13時］** ■
12日（月）＋A.ブルトン司教［福岡教区長1954］
＋J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（火）教区和田墓地開放（～15日）
14日（水）聖マキシミリアノ・マリア・コルベ殉教者
＋ミカエル木村義巳［馬渡島1967］
熊本カトリック納骨堂ミサ（18時）
15日（木）聖母の被昇天・平和旬間最終日
教区和田墓地　ミサ14時
北九州カトリック納骨堂［湯川］ミサ14時
佐賀金立町教会墓地ミサ
18日（日）**聖体大会［健軍13時～14時］**
19日（月）＋ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
21日（水）聖ピオ十世教皇
22日（木）天の元后聖マリア
24日（土）聖バルトロマイ使徒
27日（火）聖モニカ
福岡地区婦人会感謝ミサ［カテドラル10時］
28日（水）聖アウグスチヌス
29日（木）洗礼者聖ヨハネの殉教
福岡結婚準備セミナー①（～9月26日）■

■印は本面に詳細説明あり

★　今月号は8月・9月の合併号です　★

9月

1日（日）**呼子教会堅信式・田川教会献堂式**
2日（月）熊本結婚準備セミナー①（～10月1日）■
3日（火）聖グレゴリオⅠ世
司祭評議会［司教館10時30分］
＋P.コトレル［熊本地区1928］
8日（日）カトリック国際協力の日《献金》
13日（金）聖ヨハネ・クリゾストモ
14日（土）十字架称賛
15日（日）敬老の日
＋A.ヒューゼ［福岡司教館1944］
16日（月）聖コルネリオ・聖チプリアノ
福岡地区研修会（信徒協主催）
17日（火）＋P.オジョニ［ロザリオの園1982］
20日（金）聖アンデレ金と同志殉教者
聖書講座⑪［カテドラル19時］■
21日（土）聖マタイ使徒福音記者
23日（月）秋分の日
27日（金）聖ビンセンシオ・ア・パウロ
聖書講座⑫［カテドラル19時］
28日（土）聖トマス西と15殉教者
29日（日）＋Y.ヴィオン［福岡司教館1969］
30日（月）聖ヒエロニモ

【平和旬間…8月6日～15日】

1982年6月に開催された定例司教総会は、「平和旬間」を日本のカトリック教会の行事として定め、毎年行うことにしました。

その趣旨は「福音の精神に根ざし、キリストの教える真理・自由・愛・正義に支えられた社会の実現に努力する」ことにあります。

教皇ヨハネ・パウロ2世は広島で「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。

わたしたちが戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。

各教区ではそれぞれに平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。平和への祈りをこめてできるだけ参加しましょう。

■ロザリオへのおさそい　［日時］毎水曜日11時30分～12時［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■青年の祈りの集い　［日時］毎月第2・第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導司祭］伊東成晃神父（大名町教会）［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■北九州カルメル在俗者会黙想会　［日時］8月24日（土）16時～27日（火）13時30分（なるべく通して参加のこと）［場所］大分カルメル会黙想の家［テーマ］永遠の幸せを求めて［講師］ニコラ神父（カルメル会）［申込］8月11日（日）まで（定員になり次第締切）［参加費］17000円（当日納入）［申込・問合先］中野清江☎0933・931・0190（16時～21時）

■第65回福岡結婚準備セミナー　［日時］8月29日～9月26日毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■第51回熊本結婚準備セミナー　［日時］9月2日～10月1日毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■教会学校リーダーの集い　［日時］9月8日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［テーマ］子どもとともにささげるミサ［講師］山元眞神父［会費］500円（資料代として）［問合先］神学院☎092・531・6821

■聖歌研修会　［日時］9月8日（日）13時［場所］光丘教会

■福岡地区研修会　［日時］9月16日（月）10時～16時［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］紀元2000年の大聖年に向かって［内容］講話・ミサ［講師］松永久次郎司教［参加費］500円（昼食代別途）［主催］福岡地区信徒協［申込］各教会に案内を送付［問合先］井上元之

■聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）後期　［日時］9月20日から毎週金曜日19時～20時45分（11月22日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］後期5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］⑪最高の道である愛、預言の賜物・牧山勝美神父⑫キリストの復活、結び・同上⑬後書の解説と序文・白浜満神父⑭パウロの誠実さと配慮・松永久次郎司教⑮パウロの奉仕、霊の奉仕・同上⑯キリストの栄光を現すパウロの堅実さ・平田寛神父⑰生ける神の神殿、パウロの歓び・同上⑱エルサレムの教会への募金・中浜一男⑲敵対者との対決、パウロの苦り・同上⑳パウロに恵まれた協力者・秘体験、結び・川上惣一神父

■第9回聖霊による刷新九州大会　［日時］9月21日（土）13時～23日（月）15時［場所］賀島国民休暇村［テーマ］心に喜びを［特別講師］松永久次郎司教［講師］パウロ神父（ドミニコ会渋谷教会主任）・秋元伸介（名古屋南山教会所属）［主催］聖霊による刷新九州大会奉仕会［参加費］25000円（中学生以上）［定員］1800人［申込締切］定員になりしだい締め切り［持参品］聖書・歌集［主に賛美］（会場でも販売）・洗面用具・着替え・寝間着・司祭はアルバとストラ［問合先］ブラザー床島籐吾（司教館☎092・522・5139 FAX 522・2152）長井信子（久留米☎0942・35・7143 FAX 34・9866）

■小羊会　司祭、修道者の召命を求めて祈る信徒の会です。［日時］9月26日（木）13時30分～16時（14時～山元眞神父司式ミサ）［場所］福岡礼拝会［問合先］同上☎092・751・2578　＊8月は休会

■SE・CO96年度総会　［日時］9月27日（金）10時30分～14時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院会議室［内容］山元眞神父のお話・報告・昼食・会員の希望事項［参加費］1000円［申込］9月10日までに左記へ
龍☎092・581・6832／山下574・3787／武田552・4250／白壁552・1879／シスター高取512・0033

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］9月29日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］充実した生き方［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（佐賀ロザリオの園）［参加費］500円［問合先］大山美穂子☎FAX 092・713・8523　＊8月は休会

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］9月29日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［お話］畠基幸神父［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX 32・3352

■第6回お母さんの集い　［日時］10月7日（月）10時30分～12時50分［場所］小倉教会［講師］バスチ神父（黒崎教会）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］平田三好神父（小倉教会）☎093・921・0093

日本カトリック研修センター・プログラム

◎カテキスタ養成コース（前期）　［日時］9月2日（月）16時～11日（水）13時30分［場所］研修センター［テーマ］子どもたちの信仰生活のコンパニオンを育てる［内容］小中学生のための基本的、実際的信仰教育法・信仰教育者の使命・基本的知識、技能の習得［主任講師］マートル・パワー女史（カナダ司教協議会子ども信仰教育専門委員）―通訳付き―［対象］信徒、修道者、司祭［定員］45人［参加費］120000円

◎典礼研修コース　［日時］9月20日（金）16時～23日（月）13時30分［場所］研修センター［テーマ］ミサを準備するとは［内容］ミサの準備とは何だろうか。当日のミサの「福音」とミサの準備との関係、その具体的展開。典礼音楽およびオルガン奉仕などについて学ぶ［対象］信徒、修道者、司祭［定員］45人［参加費］30000円［申込・問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人306☎052・831・5037 FAX 831・5317

編集後記

暑中お見舞い申し上げます

編集スタッフ一同

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月のみことば

主は恵み深く、慈しみはとこしえに
主の真実は代々に及ぶ。
（詩編100・5）

イエズス会　A・セトアイン　神父

紀元2000年・大聖年の準備

回心から希望へ

一人ひとりがそれぞれの場で、積極的に

司祭評議会でも検討

去る九月三日午前十時半より本年度第一回の司祭評議会が司教館別館で行われた。出席者は松永久次郎司教はじめ十七人であった。

反省・回心・祈りと学びによって、喜びと希望に満ちた大聖年を迎えよう―大聖年準備特別委員会は去る九月十四日、教会に属するすべての人に向けて、「紀元二〇〇〇年を迎えるにあたって」と題する書簡をおくった。これは教皇ヨハネ・パウロ二世が二年前に発表した使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』に沿うもので、聖年という特別な恵みを豊かに受けるために、過去の過ちを反省し、悔い改め、和解することが大切であると述べている。

特に、大聖年への準備の間に日本二十六聖人殉教四〇〇年、ザビエル渡来四五〇年を迎える日本の教会にとっては大切な期間で、大イベントのあるなしに関わりなく、一人ひとりがそれぞれの場で、積極的に準備に取り組むように求められている（**2面に全文掲載**）。

大聖年準備特別委員会の書簡に先だって、九月三日に定例の司祭評議会が開催され、そこでも、教区内での大聖年のための準備事項などが検討された。

議事は次の通り

①来年度の教区内行事の内容・日程が提案され、承認された。（**3面に掲載**）

あったが、病気などにより顧問数名が欠席のため重要事項の検討は次回に持ち越された。

②「西暦二〇〇〇年の大聖年」の教区としての取り組みについて。殉教者の足跡を検証しながら、福岡教区の将来に向けての意味とは何かを話し合った。

西暦二〇〇〇年までに日本26聖人殉教四〇〇年、ザビエル渡来四五〇年が祝われる。両者共に福岡教区内を通過している（小倉～武雄）が、具体的にどこを通ったのか、まずその足跡を確かめることが望ましい。京都や長崎教区では具体的な行事が決まっているが、その点福岡教区は取り組みがなされていない。最初に禁教令が出た箱崎、日本で初めて真の宗教的な殉教者（一六〇五年）を出した八代をもつ福岡教区としては、殉教者の資料をまとめるなど、検証が大切な事項であろう。巡礼の組織など考えられるが、具体的には次回に検討することとなった。

③聖体奉仕者について

現在ミサ中の聖体拝領のみならず、病人訪問や通夜なども行われている地区もあるが、その役割の範囲はどこまでかが話し合われた。いずれ規則を定めることになろうが、具体的には司祭の慎重な判断に基づいて、必要に応じて行うこととした。

④家庭の司牧について

日本の習慣を取り入れ、儀式を通して妊婦や岩田帯の祝福などが検討されたが、このから二泊三日で開催。参加者は三十二人（**＝写真**）。浄水通教会所属の片岡裕壱君は参加した感想を次のようにのべている。

「初めて会った人ともすぐに仲良くなれた。学年がちがってもみんなで楽しくすごせるんだと思った。いっしょに食事したり、遊んだり、お祈りできたことがとてもよかった。神学生が、いろいろゲームやクイズを出してくれたこと、お世話してくれたことも心に残っている。神父様は初めての人にもみんな同じように話しかけてくれた。神父様が神学生に協力している姿をみて、スゴイナーと思った。寝る時間になっても、なかなか皆ねむらないので、とうとう神父様が大きい声で叱った。ビクッとした。召命学校に来てよかったです。」

司祭、修道者の召命の芽を育てていきたいものである。

⑤司祭の不足による小教区の統廃合について

具体的な提案が司教より求められたが、地域性があるので難しい点がある。地区の司祭団で話し合う必要があろう。そのための委員会を作ることも考えられる。廃止・統合という語にはマイナスイメージもあり、慎重に事を進める必要がある。

点については、ライル神父に検討を依頼した。



求む！　未来の宣教師

召命練成会・召命学校／開かれる

司祭の不足が叫ばれているが、福岡教区内にある二つの小神学校（聖パウロ小神学校・福岡カトリック神学院）では、夏休みを利用して毎年、司祭、修道者の召命を考える集いを開いている。対象は小学四年生から六年生の男子。

聖パウロ小神学校主催の集いは「召命練成会」と呼ばれ、今年は七月二十日から二十二日まで開かれ、参加者は七人。日常志願者が生活しているのと同じプログラムで過ごした。いわば「一日志願生」。夜はキャンプファイヤー。最終日は召命祈願のミサで締めくくった。「楽しかった」という感想。四年生の時から三年連続で参加している子供もいた。同神学校には現在五人の学生が将来の司祭、修道者を目指して励んでいる。

「召命学校」は福岡カトリック神学院の主催。七月二十九日

洗礼の恵みをよく理解するように

福岡地区信徒使徒職協議会研修会

一九九六年度福岡地区信徒使徒職協議会（地区信徒協）の研修会が九月十六日、カテドラル大名町教会において開かれた（**＝写真**）。

この研修会は、毎年開かれているもので、信徒の養成を兼ねた集いになっている。参加者は司祭、修道者、信徒ら二一三人。例年になく多くの参加者があり、「紀元二〇〇〇年の大聖年に向かって」というテーマへの関心の強さが感じられた。

開会にあたって、地区信徒協会長の井上元之氏（古賀教会）が大聖年の深い意味と私たちに今何が求められているかを考え、実り多い一日となるようにとの挨拶があり、続いて教区信徒協顧問の平田敬神父（西新教会主任）から、信徒協がこれまで一つひとつ積み重ねて来て今年で発足二十五周年となる意味合いを考え松永司教の講話に耳を傾けて欲しいと述べた。

第一講話は、『紀元二〇〇〇年の大聖年に向かって』と題した内容で、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的書簡である『紀元二〇〇〇年の到来』をもとに、詳しく、そして分かりやすく話された。

ここで印象に残ったのは、神の存在を考えずに地上の仕組みだけで生きていくのではなく、信仰心を日々の生活の根幹に、と呼びかけられたことであった。また、恵みの年を前にして反省と回心の必要性に触れ、キリストを知るために人生の根本は何かを悟るもの、それは聖書に立ち返ることが大切であることも述べられた。

使徒的書簡によれば、一九九七年から準備の第二段階に入ることになっており、来年はイエス・キリストの年、九八年は聖霊の年、九九年は御父の年であることに言及し、洗礼の恵みをよく理解すること、そして、堅信はキリスト者として生きる責任を持つ意味であることなどを強調された。



第二講話では「福音的証しの一側面について」を取り上げ、この「福音」についてどう考えていけば良いのかの指針を解説された。福音的目標の達成のために行動する際、その行動は福音的手段、福音的様式に沿っていることが肝要である。そしてキリストの心で行動し、社会の悪を告発する勇気を持ち、痛みを感じるほどの犠牲を伴うことを承知しなければならない、と話された。

その後若干の質疑応答を経て、松永司教は今後も司祭、修道者の召命促進に力を注ぐこと、キリストの愛を伝え、みことばを宣べ伝え、愛の業を実践していきたいと締めくくった。

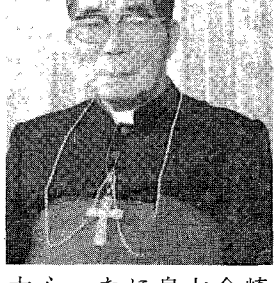
参加者は牧者の意を体し、これと積極的に取り組んで、その輪を拡げて行く決意を胸に松永司教司式の感謝ミサを共にささげて午後四時散会した。

神の摂理の糸に手繰り寄せられた、有意義な一日であったことに感謝したい。

（取材協力　古賀教会・小笠原一夫）

里脇浅次郎枢機卿帰天

ヨゼフ里脇浅次郎枢機卿が去る八月八日、脳腫瘍のため長崎市内の聖フランシスコ病院で逝去した。92歳。葬儀ミサ、告別式は十日、浦上教会で、長崎大司教区葬として、島本要長崎教区大司教の司式で行われ、駐日教皇庁大使をはじめ、各教区長、司祭、修道者、信徒ら約二千人が参加した。



里脇枢機卿は日本では三人目の枢機卿で、一九〇四年（明37）故田口枢機卿と同郷の長崎県出津の生まれ。ローマのウルバノ大学に留学して一九三二年司祭叙階。帰国後は長崎教区で司牧、教区会計・書記長を兼務。一時台湾の教区長も務めた。終戦後に神学校長、教区総代理を務め、一九五五年鹿児島教区長として司教叙階、一九六八年長崎大司教に任命され、一九七九年に現教皇より枢機卿に指名された。

この間、純心短大、英知大学教授を務め、日本司教協議会会長として尽力された。一九九〇年に教区長を引退、一九九六年より療養していた。

『時の話題』は休みました

カトリック福岡司教区
信徒協・修道女連盟
発足25周年合同記念祭

ともに

呼ばれ　そして歩むわたしたちの道

日時：1996年11月23日（土）
11時受付　12時開会
16時30分閉会
場所：カトリック大名町教会
記念講演：わたしたちが教会
講師：平山高明司教
（大分教区長・信徒使徒職委員会委員長）
信仰の証：信徒・修道女の信仰体験
記念感謝のミサ：
司式：松永久次郎司教
平山高明司教
福岡教区司祭
主催：教区信徒協／教区修女連
＊公共交通機関をご利用ください

みちくさ

秋は運動会の季節である。あちこちで、種々の仲間が集まって運動会を催している。子供の時の楽しい運動会の思い出は、多くの日本人に共通であろう▼数年前ブラジルに行ったとき、日本人移民の仲間がいる所では、必ず運動会が行われていた。運動会は日本文化の庶民的な表現なのかも知れないと思ったほどである。遠く外国に移り住んだ日本人たちは運動会を催して、遠い故郷を偲び、日本人仲間であることを確かめ合っていたのである▼体を動かして種々のゲームに興じることは、心をほぐし、心身の調和を整える。このように、運動は人の健康に大きく寄与し、健全な人間の育成に少なからず貢献している▼運動会をすることは仲間の心を一つにすることにも役立つ。話し合いはともすれば、仲間の心を分裂させるが、共同の行動は仲間を一つに集める働きをするからである。一つに決めなければ、行動に移れないので、行動は人間にとって一致の原理となるのである▼キリスト者が集まってともに語り合うことは大切である。キリストは真理であり、真理は美しい一致の根源だからである。しかし何か健全な活動・運動を共にすることも、良きキリスト者仲間を育てる優れた手段の一つである▼あちこちで、キリスト者グループの運動会が催されている。キリストは「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」と言われた。これらの運動会の中にキリストがおられ、そのキリストが良き働きをして下さることを祈るものである。（M）

紀元二〇〇〇年を迎えるにあたって

―日本のカトリック教会の皆さんへ―

はじめに

キリストにおいて兄弟姉妹である皆さん、

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九四年十一月十日、使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』を発表しました。イエス・キリストの誕生以後の時の流れを大きく千年毎に捉え、特に私たちが生きてきた第二の千年期の様々なできごとと、その時々の教会の姿勢を振り返り、反省・回心・祈りと学びによって、喜びと希望に満ちた新たな千年期を迎える準備をするように、教皇はこの使徒的書簡を通して世界中の全信者に向けて熱心に呼びかけておられます。

イエス・キリスト生誕二〇〇〇年

教皇は特にキリストのご誕生から二千年のこの年を「大聖年」とすると宣言しています。「聖年」についての説明はここでは省きますが、旧約聖書に、喜びと解放の年として示されているこの特別な恵みの年が、現在の私たちにとってどのような意味をもっているのかを黙想することは有意義なことでしょう。

教皇はこの紀元二〇〇〇年の準備にあたって、特に、悔い改めと和解の大切さを挙げ、いくつかの反省点を示しています。教会が、この千年間に教会の中で起こったことをはっきり意識すること、特に、教会が過去の誤りや不信仰、一貫性のなさ、必要な行動を起こすときの緩慢さなどを悔い改めることを勧めておられます。殊に、次の千年期に、同じキリスト者の間の分裂を克服し、完全な一致に向けて努力することが求められています。また、不寛容な態度、暴力の行使の黙認、不正や差別に対する多くのキリスト者の姿勢なども、過去の教会の反省すべき点として挙げられています。

教皇は、また、第二バチカン公会議がカトリック教会を他教派のキリスト者、他宗教の信奉者、現代のすべての人々に開いたことに言及し、紀元二〇〇〇年を迎える準備の過程で他教派のキリスト者や諸宗教の方々と積極的に対話し、この節目である年をともに喜びと解放の年とすることができるように切望しておられます。



「紀元2000年の大聖年に向かって」バチカン切手（1995年11月発行）

すべての人が、それぞれの身近な場で心掛け、実践していくことが大切です。

日本の教会のイエス・キリスト生誕二〇〇〇年に向けての基本的姿勢

1　学びと黙想

日本の司教団は、まずこの教皇の意図を十分に受け止め、それに熱心に応えていくことを、日本の教会の皆さんに勧めます。

それはとりもなおさず教皇の望みを十分に理解することにあります。そのためには、まず、使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』〈カトリック中央協議会発行〉（または、その要旨を説明した『紀元二〇〇〇年をめざして』〈大聖年準備特別委員会編集〉）を読むことをお勧めします。

紀元二〇〇〇年を迎える直前の準備については、一九九七年から各年毎にイエス・キリスト（一九九七年）、聖霊（一九九八年）、父である神（一九九九年）をそれぞれ中心として、三位一体の神が私たちにもたらした救いの恵みについて深く黙想するように呼びかけられています。

また、第二バチカン公会議の教えをあらためて学び、深く理解し、できる限り実生活に活かしていくことも大切な課題です。

この重要な公会議後、日本の教会もこの十年の間に二回の福音宣教推進全国会議を開催し、開かれた教会づくりをめざして歩んできました。ともに喜びをもって生きることによって福音のあかしをしようと、それぞれの場で、話し合い、分かち合い、祈り合い、実践することに努めています。私たち一人一人が、毎日の生活の中で育てられる信仰の力によって、自分たちの周囲の社会の中で起こるさまざまなことがらに関わり、社会とともに歩んでいくことも、キリスト生誕二〇〇〇年を迎える大切な準備の一つと言えるでしょう。

2　希望と解放の時

この準備の期間を有意義なものとするために、まず第一段階として、過去の時間の中での歩みについてのより深い反省・回心・祈りと学びが求められています。なぜなら、現在と未来への道は過去の積み重ねなしに存在することはないからです。

しかし、この準備の期間にいつも見つめていなければならないより大切なことは、未来への希望です。その希望は、次に来る千年期を不正や差別、殺戮や戦争、飢えや貧困、虐待や暴力、いじめや殺人、環境破壊などのない、人間一人一人と神が創造されたすべてのものが大切にされる希望と解放の時とすることにあります。喜びと平和に満ち、希望で一杯の新しい世紀を迎えるためでも、皆さん一人一人が、小教区共同体の中で、日々の生活の中で、よりよい準備に積極的に取り組むことが期待されます。

3　記念行事を通して

これから紀元二〇〇〇年に向けての準備の間に、日本の教会には特に記念すべき二つのことがあります。

一つは一九九七年の日本二十六聖人殉教四百年、もう一つは一九九九年の聖フランシスコ・ザビエル渡来四五〇年です。特にザビエル渡来四五〇年は、日本の教会の福音宣教の歩みを振り返る絶好の機会となります。その歴史の反省を踏まえて、次の千年期への積極的関わりを模索していくことは、教皇の意向に沿った、私たちの具体的な取り組みとなるでしょう。

4　取り組みの実施

このような紀元二〇〇〇年に向けての歩みは、皆さん一人一人の参加が不可欠です。そのために、行事など何らかの企画が必要ならば、できる限り皆さんの祈りを通して心の準備を整えた後、私たちは「待降節、四旬節以外の主日、および祭日と祝日、さらに、とくに盛大な祭儀のとき」（『ミサ典礼書の総則30』）には「栄光の賛歌」を歌い（唱え）ます。その冒頭にルカ2・14を含むこの「栄光の賛歌」は、「きわめて古いとうとぶべき賛歌」（『ミサ典礼書の総則30』）であり、はじめは朝の賛美の祈りとして用いられていたようです。そして六世紀の初め頃から、ローマ典礼のクリスマスのミサに取り入れられ、一部の地域では八世紀頃から日曜日や殉教者のミサにも用いられるようになったと言われています。

このように「栄光の賛歌」は、祭儀に荘厳さを添える性格の賛歌ですが、ミサの中でこの「栄光の賛歌」が配置されている位置に注意を向けてみる必要があります。「栄光の賛歌」によって私たちは、「感謝の祭儀」とも言われているミサの本来的な賛美や感謝の行為（祈り）へと移っていきます。そこに私たちは「栄光の賛歌」が持っているもう一つの重要な役割をみることができます。それは「栄光の賛歌」の内容が、これから行われる礼拝や感謝の行為全体の要約のようなものとなっており、ミサ全体を通して行われる祈りの精神へと私たちの心を導く「導入の役割」を果たしているということです。回心の祈りを唱えて心の準備をした後、私たちは「栄光の賛歌」を歌い（唱え）ながら、ミサの本来的な賛美と感謝の祈りへと入っていくのです。

この地上で平和を待ち望んでいる人を、真の幸せ（永遠の命）へと導く神の栄光のわざであるミサにあずかることができる喜びを、私たちは「栄光の賛歌」に合わせて、声高らかに歌いたいと思います。

（福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父）

典礼　ミサのこころ⑥『たたえる』

回心の祈りを通して心の準備を整えた後、私たちは「待降節、四旬節以外の主日、および祭日と祝日、さらに、とくに盛大な祭儀のとき」（『ミサ典礼書の総則30』）には「栄光の賛歌」を歌い（唱え）ます。その冒頭にルカ2・14を含むこの「栄光の賛歌」は、「きわめて古いとうとぶべき賛歌」（『ミサ典礼書の総則30』）であり、はじめは朝の賛美の祈りとして用いられていたようです。そして六世紀の初め頃から、ローマ典礼のクリスマスのミサに取り入れられ、一部の地域では八世紀頃から日曜日や殉教者のミサにも用いられるようになったと言われています。

このように「栄光の賛歌」は、祭儀に荘厳さを添える性格の賛歌ですが、ミサの中でこの「栄光の賛歌」が配置されている位置に注意を向けてみる必要があります。「栄光の賛歌」によって私たちは、「感謝の祭儀」とも言われているミサの本来的な賛美や感謝の行為（祈り）へと移っていきます。そこに私たちは「栄光の賛歌」が持っているもう一つの重要な役割をみることができます。それは「栄光の賛歌」の内容が、これから行われる礼拝や感謝の行為全体の要約のようなものとなっており、ミサ全体を通して行われる祈りの精神へと私たちの心を導く「導入の役割」を果たしているということです。回心の祈りを唱えて心の準備をした後、私たちは「栄光の賛歌」を歌い（唱え）ながら、ミサの本来的な賛美と感謝の祈りへと入っていくのです。

この地上で平和を待ち望んでいる人を、真の幸せ（永遠の命）へと導く神の栄光のわざであるミサにあずかることができる喜びを、私たちは「栄光の賛歌」に合わせて、声高らかに歌いたいと思います。

（福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父）

5　司教協議会・大聖年準備特別委員会の役割

司教協議会としては大聖年準備特別委員会を設置しています。この委員会の役割は、司教協議会が示した日本の教会としてのキリスト生誕二〇〇〇年のあり方を受けて、その発・推進し・必要な事項に対処していくことにあります。その教皇庁からの大聖年に関する情報・資料等を各教区に伝達し、また、各教区・小教区で何らかの企画のために要請があれば、適宜必要資料の提供等のお手伝いをいたします。

また、当特別委員会では、今後の皆さんの準備の助けになるようにと考え、これから紀元二〇〇〇年までの期間、教皇が定められた各年のテーマ等について、日本の教会としてはどのような視点から深めていくかを具体的にまとめて、適宜発表することを予定しています。

おわりに

このように、教皇の意向を全面的に受け止めながら、日本の教会としてイエス・キリスト生誕二〇〇〇年を喜び、希望、解放の年として迎えるために、どのような準備をしていけばよいのか、今後も皆さんの祈りと協力を得ながら、歩みを進めていきたいと思います。

これからの準備を通して、恵み豊かなキリスト生誕二〇〇〇年を迎え、日本の社会において私たち一人一人がイエス・キリストがもたらした福音をあかしする者となり、日本の教会がたえず「宣教する教会」に成長しますように、聖霊の豊かな導きを祈り求めましょう。

一九九六年九月十四日
十字架称賛の祝日に

日本カトリック司教協議会
大聖年準備特別委員会

〈写真説明〉
一九九五年から二〇〇〇年の六回にわたって発行されるシリーズの第一回で、キリストの生涯を描く四種。古い写本のイニシャル文字より。金を含むグラビア多色刷り。原寸大。

カテケジス⑥

初聖体の準備について。初聖体の時期については、幼稚園（保育園）の時、小学1年生、2年生、3年生の時など、まざまな意見がある。

幼稚園の時のように、まだ素直（？）で飲み込みが早い（？）時に初聖体を受けさせた方がよいという考え方があるが、それは正しいだろうか。参考に、教会の規定を示してみる。

「子供に至聖なる聖体を授けることができるためには、その理解力に応じてキリストの神秘を把握し、信仰及び敬虔な心をもって主のからだを受けることができる十分な認識及び入念な準備が要求される。」（教会法931条1項）

「第一に両親、後見人及び主任司祭は、理性を働かせるに至った子供がふさわしく準備され、秘跡的告白を済ませたうえで、可及的速やかにこの神秘的食物によって養われるよう配慮する義務を有する。主任司祭は、理性を働かせるに至っていない子供又は十分に準備できていないと判断される子供が聖体拝領に近づくことのないよう監督しなければならない。」（同914条）

初聖体の受領と「ゆるしの秘跡」は深い結びつきがあり、多くの場合、一緒に準備される。理性を働かせるに至った子供とは、もちろん個人差はあるが、一般的には7～8歳とされている。つまり、自分が幼児の時に受けた洗礼について理解して、再びそれを望んで受け入れ、聖体が単なるパンとは異なるものであることが認識できる必要がある。また、自分の犯した罪を意識し、神にゆるしを求めることができなければならない。このようなことを考えると、幼稚園児の時には、まだ早すぎると考えられる。言葉の理解もまだ不足している。★次回の「リーダー研修会」は10月6日13時30分から。浄水通教会では9時の「子どもとささげるミサ」後、初聖体クラス保護者の集いがある。**問合先：**神学院☎092-531-6821（山元神父）

'96 むなかた TEN・TEN まつり
点と点を結ぶ人の輪
すべてを超えて天の天まで大きく広がる心
10月10日10：00～
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

第一回熊本地区聖体大会

聖体礼拝が信仰生活を変える

八月十八日午後一時より、熊本・健軍教会において、第一回の熊本地区聖体大会が行われた。これは、平和を願って昨年の八月十五日、聖母被昇天の祝日から始まった永久聖体礼拝一周年を記念して行われたものである。

当日は晴天に恵まれ、熊本地区の各小教区をはじめ、福岡県や山口県など県外からの参加も大勢あり、約六百人の人々が、心を一つにして共に聖体を賛美した。

賛美の歌のあと聖時間があり、手取教会の浪治清一氏、島崎教会の平林とき子さん、手取教会の安部由子さんの三人が『証』のことばを述べた。

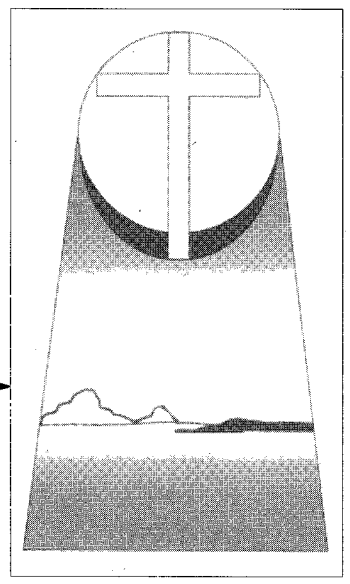
浪治氏は、永久聖体礼拝参加によって自分の信仰生活が変えられたことを、平林さんは、高齢で体が弱いと思いながらも一年間無欠席で礼拝に参加できたことを、最後に安部さんが、永久聖体礼拝は神のご計画のうちにあったことを、神からの『印』をもって総括的な証をし、聖堂いっぱいの人々は、三人の『証』に熱心に耳を傾けていた。

その後、松永久次郎司教と八人の司祭たちによってミサが行われた。松永司教は説教の中で、熊本地区の永久聖体礼拝に対する励ましの言葉を述べた。

奉納のとき、島崎教会で毎年行われている聖体行列の旗、永久聖体礼拝参加者名簿、祈りの意向集、一年間の聖体礼拝に関する献金及び大会当日の献金、キリスト・いやしの泉『証し』集などが、侍者団によって奉納された。市内五つの教会から編成された侍者団の子供たちは、初めての顔合わせにもかかわらず、互いに協力し合っていた。

聖体拝領後にいやしの儀式があり、聖堂内での聖体の行列の後、聖体は小聖堂に顕示され、永久聖体礼拝の輪がますます広がることを願って、二年目がスタートした。

こうして聖体大会は盛大裡に終了したが、当日参加した信徒たちから、「聖体大会で、喜びと感動、そして信仰の確信が持てました」など、うれしい反応があった。（取材協力　健軍教会・久野　薫）

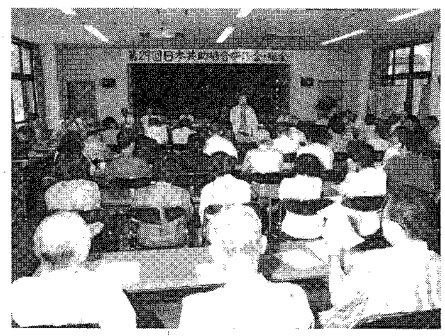


永久聖体礼拝一周年記念のカード
＊シンボルマークの意味＝イエスを支えるマリアのみ心をつらぬいた十字架・聖体から流れ出るいやしの泉

盛会！　共助組合

第29回通常総会・研修会

去る七月二十七日、二十八日の二日間、光丘カトリック会館において、一九九六年度の日本共助組合通常総会と研修会が開催された（＝写真）。



この総会は毎年東京で開催されていたが、一昨年、名古屋のカテドラルセンターで開催されて以来、隔年毎に東京以外の地区で開催することになり、その第二回目が福岡で行われたものである。

参加者は、ラフォント神父会長、山根神父副会長をはじめ、本部役員並びに北は北海道から南は九州までの各共助組合支部から約八十人の役員、会員が出席した。過密スケジュールにもかかわらず、熱心に、しかも和気あいあいのうちに予定どおり進行し、大きな成果を上げることができた。

共助組合は、『一人でもお金を必要な人がいるかぎり、助け合おう』をモットーに、各会員が少しずつ浄財を集め、それを必要な会員に貸し付けて助け合っている組織で、光丘教会支部は、創立以来二十三年目を迎える。

この会を当支部が引き受けられたのは、昨年、福岡教区司教の援助並びに信徒の協力によって見事完成したカトリック会館があったからに外ならない。

それに、この度の開催にあたっては、神父をはじめ小教区の信徒、特に婦人部の並々ならぬ努力により、これまでの総会では見られなかった盛り上がりをみせ、参加者全員から大いに感謝されながら盛会のうちに終了した。（取材協力　光丘教会・平田繁秋）

墓前で祈る

熊本・福岡

八月十四日午後六時より熊本市竜田山納骨堂において、鵜野泰年神父の司式により、ここに眠るすべての人々の霊魂のためにミサが捧げられた。

当日は台風12号の通過に伴う雨と風が強かったため、納骨堂内に祭壇を設けたが、風雨にめげず約七十人の信者が集まった。定刻間際になって風雨は止み、空の一角には青空も見え、野外ミサの考えもあったが、時間的にゆとりがなく、予定通り照明工事の終わった明るい納骨堂での最初のミサとなった。

鵜野神父は説教の中で、主のみ旨に従って生きた多くの霊魂に続いて、私たちも単なる生物学的生命を伝えるだけでなく、イエス様に視線を合わせて生きる信仰の喜びを代々伝えてはじめて、ここに眠る霊魂が真の安らぎを得られることを諭された。

ミサ後、司祭に続いて祈りを唱えながら堂内を回り、故人を偲び、意義深い祈りの時を過ごした。

参加者たちが帰った後、後始末をして最後に扉を閉め、車に乗るとき、再び雨風が激しくなり、ミサの間の特別のお恵みの感を深くして墓地を後にした。（取材協力　熊本納骨堂管理事務所・平川秋次）

福岡では、八月十五日午後二時から、松永久次郎司教司式による追悼ミサが教区和田墓地で行われ、多数の参加者の中で、六月に亡くなった西田邦洋神父はじめ、今年亡くなった方々の納骨が行われた。

北九州CYGキャンプ

北九州CYG（シーグ＝カトリック・ヤングガールズ）のキャンプが七月二十二日から二泊三日で大分県住吉浜で開かれた。指導司祭はL・ベリヨン神父（黒崎主任）。参加者の感想文を紹介する。

私は、CYGのキャンプに参加してよかったなと思いました。仲のいい友達もできましたし、海で泳げたし、楽しい思い出がいっぱいできました。そのなかでも忘れたくない思い出があります。それは、キャンプファイヤーで「この火は勇気の火です」と言ったことです。

神さまが愛する人のために、じゅうじかにつけられた時の勇気を、私はいつまでも忘れず、人のためにできることをしたいです。

（小倉教会　六年・片多麻依子）

スポーツの秋

北九州と筑後地区で

九月八日にタッチベース、北九州地区では同十六日にソフトボールの大会が開かれた。それぞれの地区の小教区の親睦をはかるのが目的。子供から大人まで、男性も女性も一緒になって楽しんだ。信者でない人も加わり、スポーツを通しての福音宣教となった？　写真は直方で開かれたソフトボール大会の表彰式。優勝は湯川チーム。



1997・98年教区内行事予定

＊小教区や地区で行事を計画する際に下記の予定と重ならないようにご留意ください＊＊＊＊＊

【1997年】
1月　1日（水）新年ミサ10時［カテドラル］
　　7日（火）司祭新年の集い11時ミサ［浄水通教会］
　12日（日）筑後地区／福岡地区「成人ミサ」
　28日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
　18日（土）～25日（土）ｷﾘｽﾄ教一致祈祷週間
2月　1日（土）宣教奉仕者・教会奉仕者選任式10時30分［大神学院］
　　2日（日）司祭叙階式14時［カテドラル］
3月19日（火）聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
　27日（木）聖香油ミサ11時［カテドラル］
　30日（日）【復活祭】
4月　6日（日）花岡山殉教祭　［花岡山］
　13日（日）司教座教会献堂記念日（特別献金）
　20日（日）召命祈願日
《5月》・福岡地区キリスト教講座・聖書講座［7月中旬まで：カテドラル］／佐賀地区人生講座［連休明けより8回、毎木曜日午前と夜］
5月　4日（日）世界広報の日／広報の集い13時30分［司教館別館］
　13日（火）短期キリスト教講座10時、18時30分［カテドラル］毎火曜日、計6回
　18日（日）聖霊降臨祭／カテドラル合同堅信式［カテドラル］
　21日（水）司祭候補者認可式［大神学院］
6月10日（火）～12日（木）司祭研修会
8月　6日（水）～15日（金）平和旬間
　10日（日）平和祈願ミサ［カテドラル／各小教区］
　15日（金）教区墓地ミサ14時［和田墓地他］
《9月》・福岡地区キリスト教講座・聖書講座［12月中旬まで：カテドラル］／熊本地区短期キリスト教講座
9月　2日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
　15日（月）福岡地区信徒協研修会
10月10日（金）むなかたTEN・TENまつり［黙想の家］
　13日（月）～17日（金）教区司祭黙想会［黙想の家］
《11月》・聖書週間16日～23日［聖書特別講演会］／北九州地区信徒協研修会［23日または24日］
11月　2日（日）教区墓地ミサ14時［和田墓地他］
　3日（月）召命の集い［大神学院］
　19日（水）神学院祭［大神学院］
　30日（日）宣教地司祭育成の日

【1998年】
1月　6日（火）司祭新年の集い11時ミサ［浄水通教会］
　18日（日）～25日（日）ｷﾘｽﾄ教一致祈祷週間
　11日（日）福岡地区「成人ミサ」［カテドラル］
2月　3日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
3月14日（土）宣教奉仕者・教会奉仕者選任式10時30分［大神学院］
　19日（木）聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
《4月》・花岡山殉教祭
4月　9日（木）聖香油ミサ11時ミサ［カテドラル］
　12日（日）【復活祭】
　13日（月）司教座教会献堂記念日
　19日（日）司教座教会献堂記念日（特別献金）

ビリングス・メソッド
いのちと性の尊厳を！
■福岡講演会
日時：10月24日（木）17時～19時
場所：聖マリア学院短期大学（久留米市津福本町422）
参加費：無料
連絡先：井手信（産婦人科医・短大教授）☎0942-35-7271
■長崎研修会
日時：10月26日（土）9時～17時
　　27日（日）9時～16時
場所：長崎カトリックセンター
連絡先：西村千鶴子　☎0958・45・4859／明るい家庭を築く会（カトリックファミリーセンター内）　☎092・541・6207　FAX552・5022

†シスター・アガタ　小野田玉枝様

幼きイエス会（ニコラ・バレ）福岡修道院修道女。福岡にて九月八日帰天。享年74歳。滞日、在日外国人のために奉仕。九月九日、浄水通教会にて松永久次郎司教司式で葬儀、告別式が行われた。

BOOK 読みは専科

★みことばを生きよう
―学び・分かち合い・祈る―
草野純英著



本書はタイトルそのものずばり、みことばを味わい日々の生活に生かそうと思っている人のために書かれている。

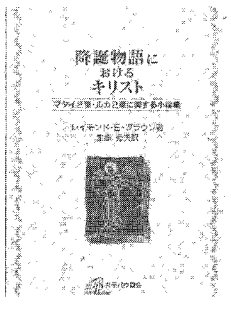
新約聖書のたとえ話が、二十項目に分けて展開されている。教会学校で聖書の教材を必要とする人、特に、聖書研究をするグループにとっては便利である。

信者の信仰生活を高めるために一読して欲しい書。

〈対象〉高校生以上信徒向け
サンパウロ　一〇〇〇円

◇　◇　◇

★降誕物語におけるキリスト
―マタイ2章、ルカ2章に関する小論集―
レイモンド・E・ブラウン著



いまや世界の祭りとなったクリスマスですが、飼葉おけに眠る幼児、星に導かれて拝みにくる異国の賢者たち、天使のコーラスに驚く羊飼、そして、残虐なヘロデの手を逃れるエジプト避難、神殿での奉献と、最後は十二歳の少年イエスの話、このような物語で、聖書は何を言いたいのでしょうか？

最新の聖書研究小論です。題材は降誕に適した部分で、興味のある聖職者や、教師に役立つことでしょう。

女子パウロ会　八〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛石理影の大御そ｝石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

10月　ロザリオの月

1日（火）幼いイエスの聖テレジア
　熊本結婚準備セミナー⑧（最終回）
2日（水）守護の天使
3日（木）＋E.ラゲ［福岡司教館1929］
4日（金）アシジの聖フランシスコ
　聖書講座⑬［カテドラル19時］■
7日（月）ロザリオの聖母
10日（木）体育の日
　むなかたTEN・TENまつり［黙想の家］■
11日（金）**聖書講座⑭**［カテドラル19時］
14日（月）**教区司祭黙想会**（～18日）
17日（木）聖イグナチオ
　＋J.グリーン［玉名教会1994］
18日（金）聖ルカ福音記者
　聖書講座⑮［カテドラル19時］
19日（土）十字架の聖パウロ
20日（日）世界宣教の日《指定献金》
　和田墓地清掃
23日（水）＋J.B.ドラビ［黒崎教会1967］
25日（金）聖書講座⑯［カテドラル19時］
27日（日）**黒崎教会堅信式**
　＋J.ベルトラン［門司港教会1987］
28日（月）聖シモン・聖ユダ使徒
31日（日）＋ヨセフ糸永一［今村教会1992］

■印は本面に詳細説明あり

11月　死者の月

1日（金）諸聖人／聖書講座⑰［カテドラル19時］
2日（土）死者の日
3日（日）文化の日／**教区和田墓地ミサ**（14時～）
　茶山教会創立記念ミサ
　福岡地区信徒協代表者会議
　＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（月）聖カロロ・ボロメオ
　教皇ヨハネ・パウロ２世霊名祝日
　召命の集い（大神学院）■
8日（金）聖書講座⑱［カテドラル19時］
9日（土）ラテラン教会の献堂
10日（日）**古賀教会堅信式**
14日（木）福岡結婚準備セミナー①（～12月12日）■
15日（金）聖書講座⑲［カテドラル19時］
17日（日）**小倉教会堅信式**
　聖書特別講演［カテドラル14時］■
　聖書週間（～24日）
21日（木）聖マリアの奉献／**大神学院祭**
22日（金）聖書講座⑳（最終回）［カテドラル19時］
23日（土）勤労感謝の日
　教区信徒協・修道女連盟25周年合同記念祭
　教区青年錬成会（大楠教会）■
24日（日）王であるキリスト（年間最後の主日）
　新田原教会堅信式
27日（水）＋S.ゼヴェリーニ［唐津教会1962］
30日（土）聖アンデレ使徒

福岡黙想の家　10月

◇10月５日（土）～６日（日）泰星学園聖書研究グループ黙想会
◇10日（木）　'96むなかたTEN･TENまつり
◇12日（土）～13日（日）泰星学園職員黙想会
◇14日（月）～18日（金）福岡司教区司祭黙想会
◇20日（日）～26日（土）サレジオ会黙想会
◇29日（火）～30日（水）シャローム会修養会
◇31日（木）～11月９日（土）修道女の為の８日間の黙想

［問合先］黙想の家　☎　0940・32・3222
　　FAX　0940・32・3385

生命山カトリック別院

■**黙想会**　今年９月30日から幼きイエズスの聖テレジア帰天百年祭が始まりました。愛と祈りに生き抜いた聖女に学ぶ黙想を神が祝福してくださいますように。
［日時］10月23日朝食（水）17時～26日（土）
［場所］生命山カトリック別院
［指導］奥村一郎神父（カルメル会）
［対象］一般信徒
［定員］10人
［参加費］15000円
［申込締切］10月17日
［持参品］聖書、筆記具、洗面具他
［申込・問合先］☎０４５・３２１・０５００（佐野）

■　召命の集い'96　■

［テーマ］「生命きらり」－キリストと共に…
［日時］11月４日（月）８時30分受付～15時閉会式
［場所］福岡サン・スルピス大神学院
★作品募集中★10月10日必着
［問合先］召命の集い実行委員会　☎092・864・4203

■**ロザリオへのおさそい**　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■**韓国語によるミサ**　［日時］毎月第１、第３日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎092・942・3336・2744（司祭館）FAX 3115（聖マリア病院）

■**青年の祈りの集い**　［日時］毎月第２、第４日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■**第４回聖書を読む会－キリストの譬え話を読む**　［日時］10月３日から97年３月６日まで第１木曜日（１月は第２木曜日）全７回、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［場所］佐賀教会［テーマ］②あの世とこの世③人間の罪と神の慈しみ④「われらが人に赦すごとく…」⑤死への準備⑥傲慢と謙遜⑦自分が損して他人を助ける［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

■**聖書講座－コリントの教会への手紙（前、後書）後期**　［日時］10月４日から毎週金曜日19時～20時45分（11月22日まで）［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［受講料］１回毎800円［申込］当日受付［問合先］本部事務局☎092・522・5139［テーマ・講師］⑬後書の解説と序文・白浜満神父⑭パウロの誠実さと配慮・松永久次郎司教⑮パウロの奉仕、霊の奉仕・同上⑯キリストの栄光を現すパウロの堅実さ・平田寛神父⑰生ける神の神殿、パウロの歓び・同上⑱エルサレムの教会への募金・中浜一男神父⑲敵対者との対決、パウロの誇り・同上⑳パウロに恵まれた神秘体験、結び・川上惣一神父

■**聖書週間特別講演会**　［日時］11月17日（日）14時～15時45分［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［テーマ］イエスの過越し［講師］牧山勝美神父［受講料］1000円［問合先］本部事務局☎092・522・5139

■**第９回熊本短期キリスト教講座**　［日時］10月４日から11月１日まで毎週金曜日全７回、午前の部10時～12時／午後の部19時～21時［場所］手取教会［受講料］1000円（講座全体で）［申込・問合先］カトリック熊本案内所☎096・322・7948［テーマ・講師］③人生の苦しみの意味について・松永久次郎司教④福音とは・静一志神父⑤おやじがおやじであるために・富田優神父⑥愛すること信ずること・小副川幸孝⑦キリストのあわれみ・笹田政偉嗣、口腔ケアを通していのちにかかわれる幸せ・本多志保子

■**佐賀新聞文化セミナー**　［日時］10月５日から12月21日まで第１、第３土曜日10時15分～11時45分［場所］佐賀新聞文化センター玉屋教室［テーマ］①人間は「人の間」で生かされて生きるもの②苦しみとの共存③喜びの人生④充実した生き方⑤充実した死に方⑥希望を育てる［講師］A・アレグリーノ神父［受講料・入会金・プリント代］7200円・2000円・300円（消費税別）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー☎0952・28・0371

■**よみうりFBS文化センター特別講座－「生かされて生きる」**　［日時］10月５日～97年３月22日（月２回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見酉次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シュバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教・▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎FAX 093・541・6556

■**むなかたTEN・TENまつり**　［日時］10月10日（木）10時［場所］福岡黙想の家［内容］午前の部／人生講座「心のシルクロード」A・アレグリーノ神父・手話講座・子供のコーラス・人形劇／午後の部／女性合唱・平和祈願ミサ（手話通訳付）［問合先］☎0940・32・3222

■**典礼を考える集い**　［日時］10月13日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会３階会議室［内容］典礼聖歌研修会（12月）の準備［対象］福岡地区各小教区の典礼担当者［問合先］森山信三神父☎0944・52・4871（大牟田教会）

■**佐賀短期キリスト教講座**　［日時］10月24・31日、11月14・28日、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［テーマ］①キリスト教でいう「神」②キリスト教からみた「人間」③聖書が説明するキリストの救世のみ業④聖書に約束されている「新しい命」［講師］マルコ・ターディフ神父［対象］希望者どなたでも。予備知識など不必要［参加費］無料［申込先］佐賀教会☎0952・23・4754 FAX 4929

■**静かな祈りの時を！**　［日時］10月26日（土）17時30分～27日（日）11時［場所］福音の光修道会祈りの家（大分県湯布院町）［指導］佐藤勤神父［対象］独身女性信徒［参加費］4000円［申込締切］10月20日［申込・問合先］福音の光修道会☎FAX 0977・84・2609

■**一日静修**　［日時］10月27日（日）９時～15時30分［場所］マリアの宣教者フランシスコ修道会福岡修道院［テーマ］主よ、私の道を示してください［指導］シスターマリア・スピハルスキ（同修道会）［対象］女子青年［参加費］500円［持参品］聖書、筆記用具申込・問合先］同会福岡修道院☎092・581・1663 FAX 5505（シスター中村）

■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］10月27日（日）時［場所］カテドラル大名町教会１階講堂［テーマ］大震災と生と死を考える［講師］シスター高木慶子［受講料］800円［問合先］大山美穂子☎FAX 092・713・8523

■**福岡地区信徒協代表者会議**　［日時］11月３日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会３階会議室

■**講演会**　［日時］11月10日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［テーマ］21世紀に向けての日本の教会のあり方～大聖年を前にして［講師］小田武彦神父（日本カトリック宣教研究所）［主催］福岡地区カトリック正義と平和協議会［問合先］佐田一兵☎0922・933・6545

■**死者のために祈る日**　［日時］11月10日（日）13時30分～15時30分［場所］黒崎教会［ミサ司式］畠基幸神父［主催］援助修道会黒崎修道院［問合先］同上☎0932・621・5670

■**第66回福岡結婚準備セミナー**　［日時］11月14日毎木曜・土曜日19時～21時20分（23日は休み）［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■**女子青年黙想会「あつまりませんか」**　［日時］11月17日（日）10時～16時［場所］聖母訪問会新田原修道院［講話］竹森勇神父［対象］女子青年［会費］1000円（含む昼食・茶菓代）［主催］北九州地区女子修道会［申込締切］11月10日［申込・問合先］援助修道会黒崎修道院☎093・621・5670（シスター塩路）

■**教区青年錬成会**　［日時］11月23日（土）９時30分～17時［場所］大楠教会［テーマ］新世紀に向かって［指導］中村彰神父［参加費］500円（弁当代）［主催］教区青年委員会［申込締切］11月10日［申込・問合先］中村彰神父☎FAX 092・521・6946

■**典礼聖歌研修会－ミサを歌おうPARTⅡ**　［日時］12月１日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会［講師］高田三郎［会費］1000円［主催］福岡教区典礼委員会［申込・問合先］伊東成晃神父☎FAX 092・741・3687 741・5107

■**第６回全国カトリック家庭セミナー**　［日時］12月７日（土）12時受付～８日（日）15時閉会ミサ［場所］長崎カトリックセンター［テーマ］家庭における信仰の伝達［基調講演・講師］①キリシタン時代の信仰・結城了悟神父（日本二十六聖人記念館館長）②婚姻の秘跡・牧山強美神父（福岡サン・スルピス大神学院倫理学教授）［参加費］１日1000円［参加定員］300人（対象はカトリック信者に限りません）［宿泊］原則として参加者各自で手配のこと［申込締切］11月20日［申込・問合先］カトリック中央協議会家庭委員会☎03・5632・4465 FAX 5632・4465

■**第６回ぶどうの樹の会パイプオルガンチャリティーコンサート**　［日時］12月７日（土）14時30分［場所］大名町教会聖堂［曲目］ジグー／クリスマス・ラプソディーほか［演奏者］大坪由香（リコーダー）古賀智恵子（オルガン）［チケット］前売（小学生以上）1000円・当日1200円［主催］ぶどうの樹の会［後援］福岡市・福岡市教育委員会・エリザベト音楽大学・聖パウロ女子修道院・大名町教会信徒会［問合先］相良☎050・6984・2109［チケット取扱］聖パウロ書院

編集後記

あの夏の日は戻らない。新たな気持ちで、また前進！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木１－４－23
ＴＥＬ　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

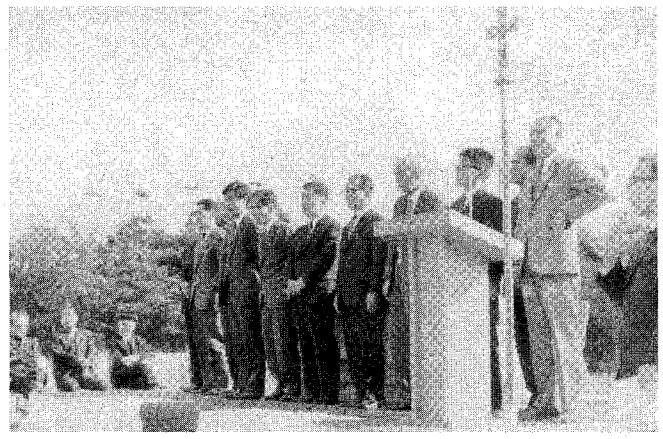
ともに

呼ばれ、そして歩むわたしたちの道

教区信徒協・修女連発足25周年

11月23日に合同記念祭

教区信徒使徒職協議会（会長・田丸鋭）と教区修道女連盟（会長・シスター佐藤節子）では、発足二十五周年に当たり、十一月二十三日（勤労感謝の日）正午より、カテドラル大名町教会で合同記念祭を行うが、このほど記念行事のテーマとプログラム内容が決まり、具体化が進められている。企画準備委員会事務局では、この記念祭を一日だけの単なるお祭りに終わらせるのではなく、西暦二〇〇〇年を見すえた新たなスタートとする構想で、広く一般の、特に若者たちの参加を切望している（本紙四月号、八月号既報。2面に関連記事）。



信徒協発足当時の役員の皆さん

テーマは「ともに」

記念行事の主旨は、信徒協・修女連の活動に対する信徒の理解を深め、今後の活動への指針を求めることにあり、司教をはじめ、教区の司祭・修道者・信徒たちに向けて行われる。

記念祭の実現に向けて三月初旬、第一回の企画準備委員会が開かれ、テーマ、内容などについて検討を重ねた。その結果、「一人ひとりが別々にではなく、一つの民として神に仕え、互いに仕え合いながら救いにいたる」のであるから、信徒、修道者、司祭、司教という身分の違いはあっても、ともに歩む教会そして社会とともにある教会を目指したいとして、記念祭を導くテーマを「ともに」とした。

サブテーマは「神に呼ばれ、そして歩むわたしたちの道」―教会にさまざまな立場の人がいるとしても、いずれも神が与えた召命の道であり、それぞれの召命を生きながら互いに認め合い、助け合い、ゆるし合う姿こそ真のキリスト者として光を輝かし、周囲の人々を引き寄せるものである。

行事内容としては記念講演と国内外宣教活動の発表、展示、ミサであるが、詳細は次の通り。

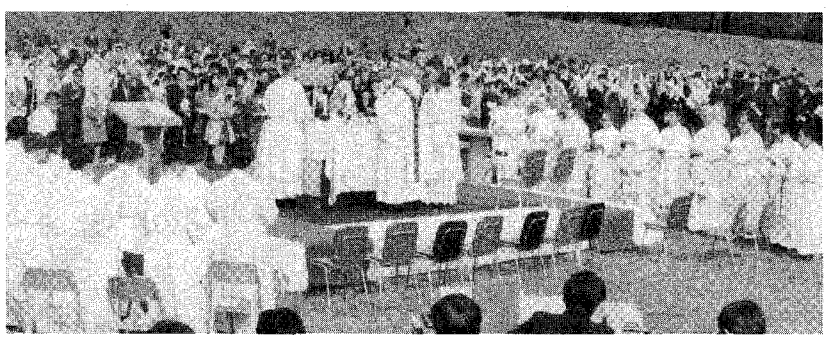
プログラムと展示

十二時開会（受付は十一時）後、先ず記念講演は大分教区長で信徒使徒職委員会委員長平山高明司教が「わたしたちが教会」と題して行い、信仰の証しとして、宣教活動の発表（五人）が続く。「永久聖体礼拝は一致と愛の道」として手取教会の信徒安部由子氏、「東チモールでの体験」を聖母訪問会のシスター亀崎善江、「アフリカでの宣教体験」をマリアの宣教者フランシスコ会のシスター福永順子、「日本のフィリピン人とともに」をカノッサ修道会のシスターアイーダ、最後に「修道者としるし」をショファイユの幼きイエズス修道会のシスター黒木紗耶子、以上五人が順に約二十分ずつ、それぞれの体験に基づいて発表する。

最後に松永久次郎司教司式、平山高明司教と教区司祭たちによる共同ミサがささげられ、十六時三十分閉会となるが、カテドラルの一階ロビーには展示コーナーも設けられ、信徒協ならびに修女連の諸活動がパネルで紹介される予定である。

25年前は一三〇〇人が参加

信徒使徒職協議会の発会式と、信徒による使徒職活動の高まりをめざす大会は、二十五年前の一九七一年十一月二十一日に、福岡聖スルピス大神学院で開かれ、教区内各地区から約千三百人の信徒が式典、ミサに参加した（写真）。



教会への奉仕を目して修女連発足

教区修女連も、二十五年前の一九七一年六月二十七日に第一回目の総会が、福岡雙葉学園で開かれ、発足した。百三十人の修道女が参加した。

修女連の目的は、教区内の修道女全員が司教のもとで一致協力し、教会への奉仕をすること。

ミサのあと、御受難会の国井健宏神父が、神と教会への奉仕、共同生活の重要さ、専門の仕事と修道生活との調和について記念講演をしている。

自分を知る・他者を知る

教区司祭黙想会

十月十四日から十八日まで、福岡黙想の家で教区司祭を対象とした黙想会が開かれた。毎年行われているもので、今年も病気療養中の司祭を除く全教区司祭が参加した。この黙想会は修道会、宣教会の司祭にも開かれたもので、この四月に新しく教区に赴任したテオドール・シーベル神父（高宮主任）も参加した。

黙想は一日二回行われる説教を基に、過ぎ去った一年を振り返るとともに、向こう一年間の司牧宣教への熱意を養うもの。

説教師はマリア会の冨来正博神父（札幌光星高校理事長）。

冨来神父は北九州市若松区の出身で、泰星学園在学中に故深堀仙右衛門司教から受洗。心理学、カウンセリングに造詣が深く、教育現場での体験を踏まえながら、自分と他者を知ることの大切さを説いた。その上で、「他人と過去は変えることはできない。ただ、自分を変えることはできる」と述べ、黙想のポイントを示した。また、人と人、信徒と司祭のコミュニケーションにおいては、人の話しを聞くこと、心を開くことの大切さを説き、相手のよいところを引き出すかかわりを持つよう勧めた。

また、黙想会初日の夜には司教の話しがあり、今年の教区年間テーマである「豊かな交わりの教会づくりを目指して」を思い起こさせながら、司祭同士の交わりをよりいっそう深める希望を表した。



黙想会で説教する冨来正博神父

今月のみことば

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
（ルカ1・47）

F・センター　S・M・ライル　神父

喜びの初ミサ

新田原教会出身の北川純二神父

新田原教会（主任・竹森勇）出身のヨセフ北川純二さんが九月二十一日、東京のカトリック下井草教会で、福岡教区長松永久次郎司教の手によって司祭に叙階された。

九月二十八日には、出身の新田原教会で初ミサがたてられ（写真）、喜びに満たされた信徒、修道者、出身司祭が共に感謝の祈りをささげた。翌日は日曜日であったが、地域の小学校の運動会などがあったため、公式の初ミサは土曜日にたてられた。



北川神父は聖ドンボスコの精神による青少年の教育を目的としたサレジオ修道会所属。一九六五年生まれ。福岡小神学校（現福岡カトリック神学院）に入学したが、後にサレジオ会の司祭を目指して東京の同会志願院に入学。現在は東京サレジオ学園の養護施設で指導員として司牧、宣教をしている。北川神父が叙階の際に選んだ聖句は「あなた方は、ただで受けたのだから、ただで与えなさい」（マタイ10章8節）。

今年2月に行われた修女連の沖縄巡礼（安里教会にて石神司教と）



巡礼者募集

日本26聖人殉教四〇〇年祭

教皇特使による荘厳ミサ
（2月5日14時・長崎）

申込先［教区本部事務局・深堀邦枝まで］
☎092・522・5139（10時～16時）
定員一〇〇名【主催・教区広報委員会】

みちくさ

十一月、といえば先ず、諸聖人を連想する。現在ではそうでもないだろうが、戦前戦中派の信者にとっては、異国人の名というものは、ほとんど教会すなわち聖書や聖人伝から仕入れたものである。外国人の名前即聖人名とインプットされている▼外国特にアメリカ大陸では、聖人名が地名になっていることが多く、国名をはじめ市町村、山川草木まで、主、天使、聖人たちの名が付されている。うらやましいとも思う。恐らく宣教師たちが、その地に到着した日とか初めて足跡を印した人の保護者の名をつけたのであろう▼日本ではそれがないが、かつてないほど外国人を受け入れている今日では、意外な所で聖人名を見かけることがある。懐かしくもあるのだが、奇異な感も否めない。ビューティサロン・テレジアはまだかわいい。キャバレーサクラメント（秘跡）となると、どうも。福岡は天神、親不孝通りにあるディスコが、なんとマリアクラブ。宮沢りえのあの写真集のタイトルが「サンタフェ（聖なる信仰）」！　いいかげんにしてもらいたい▼こういうギャップは外国とて例外ではない。血なまぐさいメアリ、聖バルテルミーの虐殺は歴史上名高い。切り裂きジャック（ヤコブ）も。クリスマス島で核実験、サルバドル（救い主）では為政者による大虐殺があった。ドンファン（ヨハネ）にスキャンダルの多いマドンナ、先月生まれた娘がルルド・マリア、これは許せよう。だが、聖人たちの名が汚されているようで、辛い。洗礼以来付き合いの長い霊名の聖人を大切に。（H）

使徒職活動とは？
目立たないところで行われています

使徒職は、主・キリストから与えられたキリスト者共通の使命であり、それは教会の歴史の中で自発的に実践され、多くの実りをもたらしてきた。そしてまた今日ほど、その強化と拡大が要請されている時代はない。使徒職は、それぞれの立場においてそれぞれ固有の使命を持っているが、それがキリストにおいて一つにあつまり、協働し合う事によってこそ、その働きはより力強いものとなる。

教区内で、これまで種々の形で実践されていた信徒の使徒職活動は、第二バチカン公会議の『信徒使徒職に関する教令』を受けて、更なる推進のための組織化が検討され、一九七一年一月に北九州地区、同年四月には、福岡地区と続いて信徒使徒職協議会が発会した。このような盛り上がりの中で、福岡教区の全信徒をもって構成する「福岡教区信徒使徒職協議会」が、同年十一月二十日に発足したのである。

一方、教区内の修道女会においては、一九七一年六月二十七日に平田三郎司教のもとで一致協力し、教会への奉仕を目指し「福岡教区修道女連盟」の第一回総会が開かれ、「教会活動のすべてにわたって司祭、信徒と共に一致して力を尽くす」ための歩みが始まった。

そして本年、両者発展のうちに二十五周年を迎えることとなり、しかも信徒協、修道女連盟が合同で、その記念祭を開催する運びとなったことは、摂理的に意義深いものがある。

合同記念祭のテーマは、「ともに」。「呼ばれ、そして歩む私たちの道」というキャッチフレーズのもとに、その準備が進められてきた。

私たちはこの合同記念祭を機会に、すべての信者に課せられた使徒職への理解と認識を深め、やがて迎える三〇〇〇年期に向けて、新しい出発の時としたい。

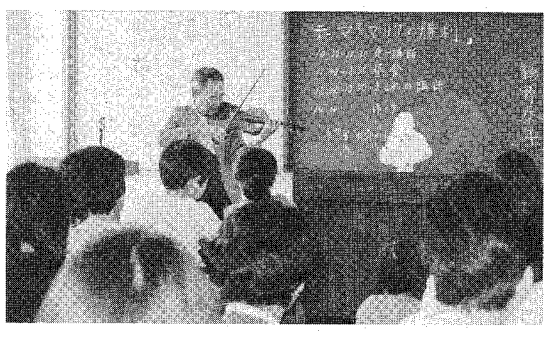
教区内の司祭、修道者、信徒誘い合わせての参加が望まれている。

ヤング・ママの黙想会

若い母親を対象とした黙想会が十月三日に司教館別館で鵜野泰年神父（健軍教会）の指導のもとに開かれた。この黙想会は十年以上も前から毎年開かれている。家庭内で一人だけ信者であるために、日曜日のミサや告白の秘跡に近づくことが困難な人たちが対象となっている。主催は福岡地区婦人会（会長・山口紀子）。

今年のテーマは最初は「お祈りを子供に教えるには？」というものであったが、聖母マリアについてもっと知りたいという声があり、「マリア様の勝利」というテーマで鵜野神父がバイオリン演奏などを交えながら講話をした（＝**写真**）。

今回はこれまで最高の四十三人が参加。ベビーシッターも二十八人が集まり、二十五人以上の子供たちのお世話をした。この黙想会は参加者に評判がよく、初めての参加者だけでなく、何年も続けて参加している若い母親もいる。



典礼　ミサのこころ⑦『一つにして』

ミサの開祭の部の締めくくりとして司祭は、「祈りましょう」と呼びかけた後、『集会祈願』を唱え始めます。日本語で『集会祈願』と呼ばれているこの祈りは、ラテン語の規範版のミサ典礼書では、〈Collecta〉と呼ばれるようになったのは、司式する司祭が、この祈りを通してミサに参加しているすべての信者の祈りを一つにし、一同を代表して、「聖霊において、キリストを通して、父なる神に」、教会共同体全体として公的な祈願を行うからです。

けれども司式司祭は、ミサに参列している一人ひとりの信者の願いを聞いて確認する時間がありません。そのために、まず「祈りましょう」と司祭が呼びかけた後、『集会祈願』の前に、「一同はしばらく沈黙する」ように、『ミサ典礼書の総則32』は促しています。その理由について同総則は、「自分が神の前にいることを意識し、自分の願いを思い起こすためである」と説明しています。この沈黙の時間のうちに、私たちはこれから行われるミサの中で、自分が願いたいことを確認することができるようになっています。たとえ司式する司祭が、一人ひとりの信者の願いを知らなくても、すべてを見通しておられる神は、すべての人の望みをご存じです。また『集会祈願』には、一同の願いを「集める」だけでなく、その「ミサの中で祝われる祭儀の性格」を示す役割もあります。司式司祭が代表して唱えるこの『集会祈願』をよく聞き、教会全体の祝いの性格とそれに伴う公的祈願に心を合わせながら、自分のためだけでなく「すべての人のために祈る教会の使命」を、ミサの中で司式司祭とともに果たす決意を新たにして『アーメン』と力強く答えたいと思います。

福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父

ヤンママ黙想会から家庭集会へ



ヤング・ママの黙想会がきっかけで、お母さんの集いが生れた（＝**写真**）。黙想会での自己紹介を聞いて、家庭での信仰教育など、同じ悩みをもっている人が多いことから、互いに声をかけあって集まることが決まった。去年のことである。毎月一回。昼食持参で11時（ロザリオ）～14時まで。東区では週一回集まっている。参加者は十人くらい。詳しくは福岡市東区香椎在住の尾島純子さんまで。☎092・672・9517

第6回　全国カトリック家庭セミナー
家庭における信仰の伝達

主催／日本カトリック家庭委員会

日本カトリック家庭委員会（委員長・島本要大司教）では、毎年セミナーや講演会の形で家庭の福音化を推進している。

今年は長崎で「家庭における信仰の伝達」というテーマでセミナーが開かれる。同委員会は「来年は日本二十六聖人殉教四〇〇年を迎えます。その記念の年の開幕のミサに合わせてともに長崎に集い、自分の信仰を見つめ、次の世代に伝えていくべきものを探しましょう」と、すべての信徒に参加をよびかけている。

時代がどんなに変わろうとも、私たちは常に原点に戻って自分の信仰を見つめなければならない。日本人の信仰は、殉教者たちが命を賭けて築いた遺産である。私たちはこの遺産を次の時代にも伝えていく義務を負っている。また、信仰の伝達は「義務」だからというだけではなく、実際、日頃の信徒の深刻な悩みでもある。

福岡教区内でも、各地で草の根的な集会がもたれており、そこで出されるおもな悩みの一つに、子供たちへの信仰の伝達の問題がある。信徒、未信徒など、参加資格は特別に求められていないので、多くの方の参加が望まれる。

［開催要項］

●日時／一九九六年十二月七日（土）～八日（日）●場所／長崎カトリックセンター（〒852長崎市上野町10-34●費用／一日につき一〇〇〇円（親睦会費は含みません）●人数／三〇〇人（対象はカトリック信者に限りません）●申込締切／一九九六年十一月二十日（火）●問合先／日本カトリック家庭委員会☎03・5632・4445 FAX 5632・4465〒135東京都江東区潮見2・10・10日本カトリック会館内●宿泊／原則として、参加者各自でご手配いただきます。

［プログラム］

●12月7日（土）◎12時／受付◎13時／委員長挨拶・オリエンテーション◎13時30分／基調講演【キリシタン時代の信仰】結城了悟神父（日本二十六聖人記念館館長）◎15時／休憩◎15時30分プレゼンテーション？【私の家庭の信仰】@【私の祖国と日本人の信仰観】質疑応答◎17時30分／まとめ、解散◎18時30分／懇親会（希望者のみ）

●12月8日（日）◎9時／受付◎9時30分／基調講演【結婚の秘跡】牧山強美神父（福岡サン・スルピス大神学院倫理学教授）◎10時30分／休憩◎10時45分／質疑応答◎11時30分／総評◎12時／解散（昼食は各自で。その後西坂公園に移動してください）◎15時／日本二十六聖人殉教四〇〇年祭・開会のミサ（西坂公園）＊オプショナルとして、セミナー後、三泊四日の五島巡礼が企画されている。

いのちの尊厳は自然の摂理に従うこと
ビリングス・メソッド講演会／研修会

十月二十四日午後五時から七時半まで、久留米市にある聖マリア学院短期大学でビリングス・メソッド（排卵法による自然の受胎調節）の開発、普及に世界的に努力しているJ・Jビリングス博士夫妻の講演会があった。テーマは「現代社会といのちの尊厳～自然の恵み、ビリングス・メソッド～」。

医師、看護学生や修道女、信徒など約一三〇人が参加した。鹿児島の大口明光学園高校や熊本の信愛女学院の教師、シスターなども参加。両校では性教育の中でこの排卵法を教えている。講演はスライドを交えて二時間ほど。終わりに質問を受けた。コンドームとエイズの問題なども紹介され、コンドームはエイズ予防には役立たないことなどが科学的根拠を示して、研修会（養成講座）が開かれた。



九州内外から医者、看護婦、主婦、助産婦、学生、修道女、大学教授など約九十人が参加。参加者の内、約二割は未洗者。一般では聞くことのできない講演ということで参加したとのこと。

「自然の恵み～ビリングス・メソッド」というテーマのもとに研修が行われたが、内容はメソッドそのものの説明の他に、八人の体験談も紹介され、参加者にはビリングス博士のサイン入りの修了証書が渡された。

ビリングス・メソッドに関する問い合わせは左記の「明るい家庭を築く会」（カトリックファミリーセンター内）まで。☎092・541・6207 FAX 552・5022

カテケジス⑦

初聖体の前にゆるしの秘跡を受けることが求められる。いわゆる「初告解」である。罪の共同体性について考えたり、理解するために「共同回心式」のかたちで行ってはどうだろうか。共に祈り、糾明し、決心と償い、感謝をする。できれば保護者にも参加してもらい、ゆるしの秘跡も受ける。

ゆるしの秘跡については準備の時間が十分に必要。罪の糾明、式次第の説明についても時間を要する。子供用の「式次第」を作ってもよいのではないか。

償いとして、洗礼の約束の更新をしてはどうだろう。悪霊の拒否と信仰宣言を子供のことばで行う。それはまた、初聖体の準備にもなろう。

以下、参考までに…。

「洗礼の約束の更新」（初告解の償い用）

神父：初めてゆるしの秘跡のお恵みをいただいたみなさん、私たちは洗礼の秘跡によって、神さまの子供としての新しい命をいただきました。そして今日、その新しい命の食べ物であるイエスさまのお体を心の中にお迎えする準備ができました。イエスさまのお望みにしたがって、もっとよい子供になるように決心をいたしましょう。

神父：みなさんは、神さまの子供として、よいことをいっぱいするように努力いたしますか。

みんな：いたします。

神父：みなさんは、神さまの子供として、悪いことをしないように努力いたしますか。

みんな：はい、いたします。

（全文をご希望の方は下記まで）

★次回の「リーダー研修会」は12月1日13時30分から。浄水通教会では9時から「子どもとささげるミサ」がある。

問合先：神学院☎092-531-6821

待降節の黙想会ご案内

①12月6日(金) 15:00～ 7日(土) 15:00 / Fr.ガブリエル
②　7日(土) 16:00～ 8日(日) 16:00 / Fr.マテオ
③ 13日(金) 15:00～14日(土) 15:00 / Fr.畠
④ 14日(土) 16:00～15日(日) 16:00 / Fr.ガブリエル
⑤ 20日(金) 15:00～24日(火) 16:00 / Fr.マテオ

福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

'96 むなかた TEN・TEN まつり

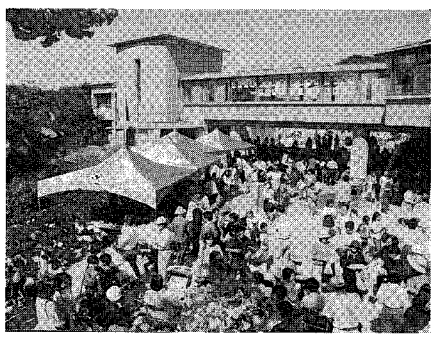
点と点を結ぶ人の輪
すべてを超えて天の天まで大きく広がる心

10月10日10：00～

地域に密着・福岡黙想の家に約３０００人が参加

十月十日十時から福岡黙想の家（御受難会・院長・畠基幸）で、恒例となった「むなかたTEN・TENまつり」（実行委員長・深堀剛）が行われた（＝写真）。第六回目。この祭りは、近隣の人々との交流を心がけ、福音宣教の一環として古賀、水巻の両教会の信者と黙想の家後援会の協力で開催しているもの。年々、内容が充実し、地域の人々をはじめ、遠方からの参加者も増えている。

地元、自由ケ丘南二丁目子供会のコーラスをはじめ、人形劇、歌で学ぶ手話教室、A・アレグリーノ神父の人生講座、北九州市の到津動物園の協力による「移動動物園」など内容も盛りだくさん。本部周辺には「ちびっこコーナー」も設けられ、魚つりや竹馬、ダーツ、輪投げなどが準備され、子供たちで賑わった。また、今年は特別に広島のエリザベト音楽大学の卒業生会で構成されている女声コーラス「コラル・マ・ファミーユ」や福岡地区の手話グループと大川好洋神父（長崎・神言会）の手話グループの協力で手話ミサが実現した。





自由ケ丘子供会のコーラス



▲動物と遊ぶ子供たち

各種バザーも同時に開催され、約二十店舗が協力、水巻教会主任司祭のJ・ガイヤール神父が作るクレープは早々と売り切れた。また、参加者が多いこともあって、食品店は大盛況。うどんつきたての餅やカレー、うどんなども売り切れ、関係者はうれしい悲鳴をあげていた。

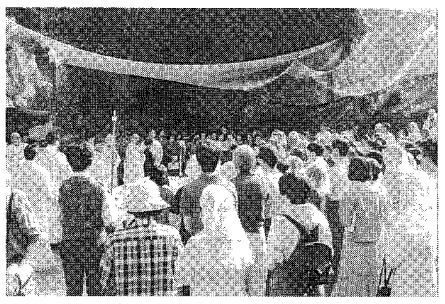
今年は「点と点を結ぶ人の輪―すべてを超えて天の天まで大きく広がる心」というテーマを掲げていたが、その通りに人と人が結ばれ、それが天の父である神にまでつながる出会いの場となったといえよう。黙想の家中央の「へそ広場」から始まった「平和行列」とそれに引き続いてルルドで行われた手話による感謝の典礼は、人々が共に集う喜びと平和を静かに表現していた。



▲「マリア様の心」を歌いながら

黙想の家の責任者で御受難会福岡修道院院長の畠基幸神父は「いろんな人々の協力で、年々充実したものになっている。地域社会の人々との交わりのよい機会になっているし、これが福音宣教につながることをいつも願っている」と語った。また、参加者の一人は、「最近は、たくさんの人が集まる機会が少ないが、教会の集いを超えて様々な人がたくさん集まるこの祭りには感動を覚える。教会が何かをする、というのではなく、地域の人々と一緒に何かを実行していけば、それが福音宣教につながるのではないでしょうか」と感想を語ってくれた。

▼ルルドでの感謝の典礼





覚せい剤 リハビリ施設は高校生に広がる《ダルク》だけ 86.5%増

昨年一年間の覚せい剤取締法違反容疑の検挙者数は、未成年者が大幅に増え、特に高校生が九十三人で前年に比べて五十一人増と目立っている。厚生省の麻薬課は「簡単な使用法が広まったほか、やせられるといった安易な動機が増加の理由」と説明している。若年層でも中・高校生や、大学、専門学校などの学生の増加が特徴で、高校生以外は、中学生が十九人（前年十三人）、大学生が四十四人（同二十五人）、各種学校生が五十一人（同三十一人）増えた。学生や生徒の検挙者数は合計二百七人で、前年比九十六人（八六・五%）増。

一方、一度麻薬中毒（依存症）になると、回復することはたいへん困難なことになる。ほとんどの場合、刑務所や精神病院に出入り繰り返すことになり、リハビリはほとんどできない状況にある。

財政面での協力を！

昨年、福岡に設立された『ダルク』（薬物依存症者回復施設）は唯一のリハビリ施設ということができる。覚せい剤のみではなく、シンナーやかぜ薬に含まれている薬物で依存症になる場合も多い。『ダルク』設立依頼、薬物依存症に関する理解も次第に深められて来ており、その存在の評価も少しずつではあるが、上がっている。ただ、施設を維持していく上での経済面での問題が多く、国や県からの援助を申請しているが、未だ十分ではない。財政面での信徒の協力が求められる。

【問合先】九州ダルクデイケア・センター☎092・471・5140

福岡でフォーラム

十二月一日午前九時半から午後四時まで、福岡の都久志会館（中央区天神）で第二回目のアディクション（嗜癖行動）・フォーラムが開かれる。主催は第二回九州アディクション・フォーラム実行委員会（☎030・73・0810 5）で福岡県精神保健福祉センター（☎092・641・3501）が共催する。

内容は以下の通り。

【第一部】体験談◎アルコール依存本人より◎薬物依存本人より◎摂食障害本人より◎ギャンブル依存本人より◎アダルトチルドレン本人より◎家族より

【第二部】◎アルコール依存、薬物依存、摂食障害、ギャンブル依存、アダルトチルドレン、家族のための自助グループによる相談コーナー他

【第三部】斉藤学講演会「アダルトチルドレンと家族」

参加費二〇〇〇円（電話で申込み）【問合先】右記精神保健センター

本島等 講演会

"希望の2000年へ"
―― キリストを体して、平和を創る ――



十字架上のキリスト

1996年12月8日（日）14：00～16：00

場所：佐賀カトリック幼稚園講堂
料金：無料
主催：佐賀カトリック正義と平和協議会
問い合わせ：森内慎一郎（0952-30-9015）

テゼの祈り

テゼ共同体の
ブラザーを迎えて

信頼の巡礼：A Pilgrimage of Trust on Earth

■11月22日（金）
7：00～8：30pm
■カトリック浄水通教会

テゼ共同体

■フランスのテゼに、1940年代に始められた男子の観想修道会。
■カトリック・プロテスタントのメンバーから成り、ヨハネ・パウロ２世やマザー・テレサ、プロテスタント各派や正教会の指導者たちが訪れ、キリスト教各派と密接な関係を持つ。
■その初めから、共同体のテーマの中心を「和解」に置く。それは、キリスト教各派間の和解と、小さき者・痛み破壊されている者との連帯を通して求める人類全体の和解。
■60年代前半から、テゼに毎年、何万もの若者が訪れるようになった。テゼは、人生の意味と希望をキリストの中に見いだそうと求めた若者たちが、共に語り祈り黙想する場。
■分裂した世界に一致を求め、世界各地で和解を祈り、生きる人々との「信頼の巡礼」をすすめる。これらの巡礼を支え、共に祈り語り合うために毎年数万の規模の国際大会も開かれている。アジアでは、インドやフィリピンなどで開かれてきた。

【問合先】
黙想と祈りの集い準備会　☎FAX0424-89-6953
福岡カトリック神学院　☎092-531-6821（山元）

BOOK 読みは専科

★零点にとどまる
―神への委託―
ヴィクトール・シオン著
カルメル会訳

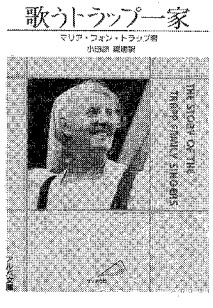


「今の瞬間」に続くV・シオンのシリーズ二冊目。霊的生活にいちばん大切なことの一つ―神への委託―がわかりやすく説明されている。述べられていることはまったく単純であり、福音的である。各瞬間に最大の愛を注ぐこと、一言でいえば、神を真実にこの世界におくこと。そこに行き着くためには「自分をゆだね、自分から出、他者なる方に自分を任せきること」など、静かな秋の季節に心を深めてくれる霊的読書。

女子パウロ会　一三〇〇円

◇◇◇

★歌うトラップ一家
マリア・フォン・トラップ著
小田部　胤明　訳



歌うトラップ一家というタイトルの本でピンとこない人も、映画の『ザ・サウンド・オブ・ミュージック』と言えばご存知の方も多いはずである。このミュージカルを演じたのがトラップ一家の物語なのである。「ドレミの歌」「エーデルワイス」を耳にしたり、口ずさんだりした人も多いことだろう。

本書は、フォン・トラップ男爵夫人マリアの実筆によるもので、長年コンサートの旅で起こる苦労話などをつづった、母としての愛情と笑顔と歌のハーモニーとで心温まる書。

サンパウロ刊　七〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 石 理 御
石 影 そ
他 の 大

石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096－352－2417

福岡黙想の家　11月

◇31日（木）～11月９日（土）修道女のための８日間の黙想会
◇２日（土）～３日（日）北九州レジオ・マリエ黙想
◇３日（日）～４日（月）聖母カテキスタ会黙想
◇９日（土）～10日（日）福岡レジオ・マリエ黙想
泰星／聖書研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ黙想
◇12日（火）人生講座『子供の心を育てるには』
木藤幸子
◇17日（日）～23日（土）サレジオ会黙想
◇25日（月）～26日（火）スピリチュアル・ワークショップ
◇29日（金）～12月１日（日）ｶﾄﾘｯｸ・ﾕｰｽﾌﾙ・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ

［問合先］黙想の家　☎　0940・32・3222
FAX　0940・32・3385

カトリック福岡司教区信徒協・修道女連盟発足25周年合同記念祭

ともに

呼ばれ、そして歩むわたしたちの道

●とき　1996年11月23日(土)・勤労感謝の日
(11:00受付)　12:00開会　16:30閉会

●ところ　カトリック大名町教会(福岡カテドラル)
福岡市中央区大名２丁目７－７

■プログラム

記念講演　演題　わたしたちが教会
講師　平山高明司教(大分教区長・信徒使徒職委員会委員長)

信仰の証し
「永久聖体礼拝は一致と愛への道」安部由子(手取教会)
「東ティモールでの体験」シスター亀崎善江(聖母訪問会)
「アフリカでの宣教体験」シスター福永順子(マリアの宣教者フランシスコ修道会)
「日本のフィリピン人とともに」シスターアイーダ(カノッサ修道会)
「修道者としるし」シスター黒木紗耶子(シュファイユの幼きイエズス修道会)

ミサ　司式　松永久次郎司教・平山高明司教・福岡教区司祭(福岡教区長)

※できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

主催　カトリック福岡司教区信徒使徒職協議会・修道女連盟

聖歌隊に参加しませんか！

教区信徒協・修道女連盟発足25周年合同記念祭のため
練習日時：11月17日（日）13時30分
練習会場：大名町教会
練習曲目：『典礼聖歌』　27「栄光は世界におよび」
〃　148「遠く地の果てまで」
〃　400「ちいさな人々の」
〃　173「わたしたちは神の民」
『カトリック典礼聖歌集』「マラナタ」他

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

11月　死者の月

1日（金）諸聖人／聖書講座⑰［カテドラル19時］■
2日（土）死者の日
3日（日）文化の日／**教区和田墓地ミサ**（14時～）
茶山教会創立記念ミサ
福岡地区信徒協代表者会議
＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（月）聖カロロ・ボロメオ
教皇ヨハネ・パウロ２世霊名祝日
召命の集い（大神学院）■
8日（金）聖書講座⑱［カテドラル19時］
10日（日）**古賀教会堅信式**
14日（木）福岡結婚準備セミナー①（～12月12日）■
15日（金）聖書講座⑲［カテドラル19時］
17日（日）**小倉教会堅信式**
聖書特別講演［カテドラル14時］■
聖書週間（～24日）
21日（木）聖マリアの奉献／**大神学院祭**
22日（金）聖書講座⑳（最終回）［カテドラル19時］
23日（土）勤労感謝の日
教区信徒協・修道女連盟25周年合同記念祭
教区青年錬成会（大楠教会）■
24日（日）王であるキリスト（年間最後の主日）
新田原教会堅信式
27日（水）＋S.ゼヴェリーニ［唐津教会1962］
30日（土）聖アンデレ使徒

12月

1日（日）宣教地司祭育成の日《献金》
3日（火）聖フランシスコ・ザビエル
6日（木）福岡結婚準備セミナー⑥
7日（土）聖アンブロジオ
8日（日）日本26聖人殉教400年祭［長崎］
9日（月）無原罪の聖マリア
福岡カトリック神学院創立記念日
13日（金）聖ルチアおとめ殉教者
14日（土）十字架の聖ヨハネ
17日（火）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（水）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（木）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（金）＋M.ソーレ［久留米教会1917］
23日（月）天皇誕生日
＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
25日（水）主の降誕（クリスマス）
26日（木）聖ステファノ殉教者
27日（金）聖ヨハネ使徒福音記者
28日（土）幼子殉教者
29日（日）聖家族
31日（火）大晦日

■印は本面に詳細説明あり

■**ロザリオへのおさそい**　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■**韓国語によるミサ**　［日時］毎月第１、第３日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX34・3115（聖マリア病院）

■**青年の祈りの集い**　［日時］毎月第２、第４日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一　092・714・3477

■**第４回聖書を読む会―キリストの譬え話を読む　開催中**　［日時］97年３月６日まで第１木曜日（１月は第２木曜日）全７回、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［場所］佐賀教会［テーマ］③人間の罪と神の慈しみ④「われらが人に赦すごとく…」⑤死への準備⑥傲慢と謙遜⑦自分が損して他人を助ける［講師］アレグリーノ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

■**聖書講座―コリントの教会への手紙（前、後書）後期　開催中**　［日時］毎週金曜日19時～20時45分（11月22日まで）［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［受講料］１回毎800円［申込］当日受付［問合先］本部事務局☎092・522・5139［テーマ・講師］⑰生ける神の神殿、パウロの歓び・平田寛神父⑱エルサレムの教会への募金・中浜一男神父⑲敵対者との対決、パウロの誇り・同上⑳パウロに恵まれた神秘体験、結び・川上惣一神父

■**聖書週間特別講演会**　［日時］11月17日（日）14時～15時45分［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［テーマ］イエスの過越し［講師］牧山勝美神父［受講料］1000円［問合先］本部事務局☎092・522・5139

■**佐賀新聞文化セミナー　開催中**　［日時］12月21日まで第１、第３土曜日10時15分～11時45分［場所］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室［テーマ］①人間は「人の間」で生かされて生きるもの②苦しみとの共存③喜びの人生④充実した生き方⑤充実した死に方⑥希望を育てる［講師］A・アレグリーノ神父［受講料・入会金・プリント代］7200円・2000円・3000円（消費税別）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー☎0952・28・0371

■**よみうりFBS文化センター特別講座―　開催中「生かされて生きる」**　［日時］97年３月22日（月２回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見酉次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シュバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教・▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎093・541・6556

■**佐賀短期キリスト教講座　開催中**　［日時］11月14・28日、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［テーマ］③聖書が説明するキリストの救世のみ業④聖書に約束されている「新しい命」［講師］マルコ・タイディフ神父［対象］希望者どなたでも。予備知識など不必要［参加費］無料［申込先］佐賀教会☎0952・23・4754　FAX23・4929

■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］11月24日（日）時［場所］カテドラル大名町教会４階［テーマ］①医師と患者の信頼関係（病名告知、延命医療、尊厳死について）②死別体験者の語り合い［講師］飯野耕三（国立療養所福岡東病院院長）［会費］500円★12月は休み［問合先］大山美穂子☎FAX092・713・8523

■**講演会**　［日時］11月10日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会１階ホール［テーマ］21世紀に向けての日本の教会のあり方～大聖年を前にして［講師］小田武彦神父（日本カトリック宣教研究所）［主催］福岡地区カトリック正義と平和協議会［問合先］佐田一兵☎092・933・6545

■**死者のために祈る日**　［日時］11月10日（日）13時30分～15時30分［場所］黒崎教会［ミサ司式］畠基幸神父［主催］援助修道会黒崎修道院［問合先］同上☎093・621・5670

■**第66回福岡結婚準備セミナー**　［日時］11月14日毎木曜・土曜日19時～21時20分（23日は休み）［場所］カテドラル大名町教会［問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207　FAX552・5022

■**女子青年黙想会「あつまりませんか」**　［日時］11月17日（日）10時～16時［場所］聖母訪問会新田原修道院［ミサ司式］竹森勇神父［対象］女子青年［会費］1000円（含む昼食・茶菓代）［主催］北九州地区女子修道会［申込締切］11月10日［申込・問合先］援助修道会黒崎修道院☎093・621・5670（シスター塩路）

■第14回「出会いの集い」《…きてみませんか？！》
［日時］11月17日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会４階会議室［お話］山川辰幸神父［スポーツダンス］吉川信雄氏［派遣の祝福］山元眞神父［対象］20歳以上の独身男女［参加費］1000円［主催］カトリック福岡司教区カナの会［申込締切］11月５日（火）［申込・問合先］（当日参加も可）奥村浩子☎0928・41／安部良子☎512・4028／各務（かがみ）志津子☎943・4759

■**教区青年錬成会**　［日時］11月23日（土）９時30分～17時［場所］大楠教会［テーマ］新世紀に向かって［指導］中村彰神父［参加費］500円（弁当代）［主催］教区青年委員会［申込締切］11月10日［申込・問合先］中村彰神父☎FAX092・521・6946

■**典礼聖歌研修会―ミサを歌おうPARTII**　［日時］12月１日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会［講師］高田三郎［会費］1000円［主催］福岡教区典礼委員会［申込・問合先］伊東成晃神父☎FAX092・741・3687　741・5107

■**第６回全国カトリック家庭セミナー**　［日時］12月７日（土）12時受付～８日（日）15時閉会ミサ［場所］長崎カトリックセンター［テーマ］家庭における信仰の伝達［基調講演・講師］①キリシタン時代の信仰・結城了悟神父（日本二十六聖人記念館館長）②婚姻の秘跡・牧山強美神父（福岡サン・スルピス大神学院倫理学教授）［参加費］１日1000円［参加定員］300人（対象はカトリック信者に限りません）［宿泊］原則として参加者各自で手配のこと［申込締切］11月20日［申込・問合先］カトリック中央協議会家庭委員会☎03・5632・4465　FAX5632・4465

■**第６回ぶどうの樹の会パイプオルガンチャリティーコンサート**　［日時］12月７日（土）14時30分［場所］大名町教会聖堂［曲目］ジグー／クリスマス・ラプソディーほか［演奏者］大坪由香（リコーダー）古賀智恵子（オルガン）［チケット］前売（小学生以上）1000円・当日1200円［主催］ぶどうの樹の会［後援］福岡市・福岡市教育委員会・エリザベト音楽大学・聖パウロ女子修道院・大名町教会信徒会［問合先］相良☎050・6981・2109［チケット取扱］聖パウロ書院

編集後記

もう秋が来た。やがて冬が来るだろう。春が待ちどおしい。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木１－４－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

殉教の精神に生きよう

大聖年準備特別委員会メッセージ

現代にあかしを

日本カトリック司教協議会の大聖年準備特別委員会（委員長・白柳誠一枢機卿）は十一月九日、「大聖年をよりよく過ごすために―殉教者の意味を考える―」と題するメッセージを発表した。これは九月十四日付「紀元二〇〇〇年を迎えるにあたって」＝本紙十月号掲載＝に続く第二弾で、大聖年が過去の殉教者たちの一過性の祝いに終わることなく、殉教の精神について理解を深め、現代の信徒たちが殉教者に倣って生きるよう呼びかけている（2面に全文掲載）。



今日
わたしたちのために
救い主が生まれた。

［写真＝カトリック浄水通教会のステンドグラス］

大聖年の直前準備期間

教皇とともに待降節から



白柳誠一枢機卿

大聖年準備特別委員会委員長・白柳枢機卿はさらに十一月十八日、各教区長に書簡を送り、「大聖年の直前準備期間」を待降節第一主日から始めるよう呼びかけた。同枢機卿はその書簡に、教皇ヨハネ・パウロ二世が「大聖年の直前準備期間」を十一月三十日の待降節第一主日の前晩の祈りから荘厳に始めることを伝えるエチェガレイ枢機卿（教皇庁大聖年中央委員会）の手紙を添えて、日本の教会も教皇の意向に合わせて、同じ日に始めるよう要請している。

大聖年の直前準備期間は、時間的には、一九九七年から一九九九年までの三年間と定められているが、教会の典礼暦は待降節（もっと正確にいえば待降節第一主日の前晩）から始まるため、今回の呼びかけとなったものである。

福音宣教に向けて
新たな気持ちで前進

信徒協・修女連発足25周年合同記念祭

教区信徒使徒職協議会（会長・田丸鋭）と教区修道女連盟（会長・シスター佐藤節子）の発足25周年記念祭が両会の合同主催で十一月二十三日にカテドラル大名町教会で催され、教区内の各地から信徒、修道女、司祭、司教たち八百人以上が参集し、福音宣教に向けて新たな気持ちで前進する決意を互いに確認した。

信徒、修道者の福音宣教の使命を思い起こさせるかのように、ローソクの灯と塩が聖堂入口に置かれていた（＝写真）。

十二時になると典礼聖歌の「栄光は世界におよび」と「小さな人々の」が静かに歌われ、三曲目の「遠く地の果てまで」が歌われる中、教区信徒協会長が「世の光」を表すローソクの灯を、教区修女連会長が「地の塩」を表す皿に盛られた塩をカテドラルの中央祭壇に運んだ。

続いて田中重治助祭がマタイ福音書の第五章十三節から十六節の「地の塩、世の光」のイエスのみ言葉を朗読した。

こうして始まった合同記念祭は、第一部の「記念講演」、第二部の「信仰の証し」と続き、福音宣教のために聖霊の助けを願うミサで締めくくられた。



カテドラルのロビーには、信徒協と修女連によってそれぞれの二十五年の歩みや各修道会の紹介、修道女の召命の道を表すパネルなどが展示された。今年度の終わり、三月には記念誌の発行も予定されている（3面に関連記事）。

記念の十字架が
長崎へ道行の旅

京都教区では十一月二十三日、日本二十六聖人殉教四百年祭のトップを切って、記念式典が挙行された。記念講演・ビデオ上映に続き、田中司教他五司教と六十四人の司祭による荘厳ミサが行われ、二十六本のローソクと十字架が祝別された。この十字架は翌日から、二十六聖人のかつての道をたどりながら、長崎への旅を開始した。

福岡教区では一月十九日に大名町教会へ、同二十六日に西新教会へ到着、それぞれ一週間とどまるが、その間、特別な祈りやミサが行われる予定である。

時の話題

田丸　鋭

ともに

カトリック福岡司教区信徒協・修道女連盟発足25周年合同記念祭の主題として、「ともに」が選ばれた。

「ともに」とは、どんな働きをするのだろうか。

選ばれた理由として、25周年合同記念祭実行委員会では、「信徒使徒職協議会、修道女連盟がともに、信徒同士がともに、人々とともに、社会とともに、これらに大きな意味を込めた」と説明している。

さらに、神様から呼ばれ、使徒としての召命、修道女としての召命、それぞれの道を歩いていくという共通の標語「呼ばれ、そして歩くわたしたちの道」が、サブテーマとしてつけ加えられた。社会のために働くという自覚「わたしたちが皆、教会」という視点を持つことを強調していると思う。

先日、アトランタオリンピックヨット競技銀メダリストの重由美子さんの講話を拝聴した。木下アリーシアさんとコンビで活躍した人である。木下さんは背が高く、重さんは、木下さんの肩までしかない。体格、性格そしてヨットの操作も違う二人であるが、自然界の動きを、同じ心で読み取り、ともに思いを一つにして、定めた目標目指して大海原を駆けなければ、ヨットは走らない、と力説された。お互いに違う個性を持った、同じ「ひと」として、神から与えられた自然界をともに生きる道を探っている姿に心打たれた。

ヨハネによる福音書17章21節に、「どうかみんなをひとつにしてください。父よ、わたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、みながひとつになるように、彼らもわたしの内にいるようにしてください。それは、あなたがわたしをお遣わしになったことを、この世が信じるためです」とある。

教会に集う私たちは、「信者はみな兄弟」と呼び合い、神がイエス・キリストによって示された道を、ともに歩いて行こうとしている。

宗教にかかわる話題が多いこの頃、福音を宣べ伝えるため、私たちは、「主とともに働く」ことをいつも心に抱いていきたいと思う。ともにいてくださる主を信じて。

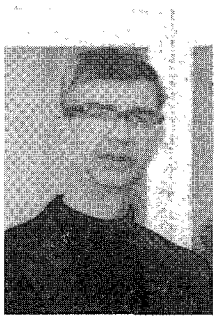
（教区信徒協会長・佐賀教会）

今月のみことば

光の子として
歩みなさい
（エフェソ5・8）

門司教会　下町　豊重　神父

J・B・シュルツ神父帰天



募集中

日本26聖人殉教四〇〇年祭
教皇特使による荘厳ミサ参加
2月5日14時・長崎にて　定員一〇〇名

詳細3面

吉塚教会主任ジョン・ブレンダン・シュルツ神父（スカボロ外国宣教会）が去る十一月二十三日午後二時五八分、福岡市内の日赤病院で帰天。享年五九歳。二十四日に吉塚教会で仮通夜、二十五日にはカテドラル大名町教会で通夜、二十六日に葬儀ミサと告別式が松永久次郎司教司式、スカボロ会、教区司祭ら約七十人の共同司式で行われた。この神父の兄弟姉妹をはじめ司牧に従事した。福岡では一九六六年から十一年間にわたり司牧活動。かたわら福岡、佐世保の米軍基地のチャプレンも務めた。一九八六年にフィリピンに移籍して院長、病院チャプレンを務めていた。昨年、叙階金祝を機に来日し、福岡では多くの知人と再会し、親しく往時を偲んだばかりであった。

生まれ、七人兄弟の四番目。長兄に続いて一九六二年に司祭叙階。翌年来日して名古屋教区で十三年間司牧、一九七八年から十八年間の長きにわたり、福岡教区吉塚教会で主任司祭（一九九〇年からは管区長も兼任）をつとめ、信徒たちに慕われていた。

P・プラチェック神父

御受難会のパウロ・プラチェック神父が十一月二十二日、心筋梗塞のためフィリピンで帰天した。享年七八歳。

プラチェック神父は一九一九年生まれ、一九四五年司祭叙階。一九五三年に来日して大阪、福岡教区で三十三年間にわたり司牧に従事した。福岡では一九六六年から十一年間にわたり司牧活動。かたわら福岡、佐世保の米軍基地のチャプレンも務めた。一九八六年にフィリピンに移籍して院長、病院チャプレンを務めていた。昨年、叙階金祝を機に来日し、福岡では多くの知人と再会し、親しく往時を偲んだばかりであった。

みちくさ

DARC（ダルク＝薬物依存回復施設）でリハビリ中の青年が逝った。アパートの自室で自らの命を絶った。壁にはイエスと聖母マリア、聖ヨセフのご絵が飾られ、小さな祭壇はキチンと整えられていた▼今年の二月にカテドラルの小聖堂において、DARCでリハビリ中に亡くなった方々の慰霊ミサが行われた。過去十年間で三十三人が亡くなり、そのほとんどは二十歳代の青年である。一般紙でも報道されているように、シンナーや覚せい剤の使用者は年々、低年齢化している（本紙十一月号既報）。彼らはやがて依存症となり、精神病院や刑務所の出入りを繰り返すことになる。依存症になると、神経が破壊され、鬱（うつ）になったり、被害妄想が生じてくる。自殺予備軍といっても過言ではない▼九州にDARCが出来て二年半になるが、DARCの関係だけでも、今年になって全国で九人の若者が亡くなっている。例年の約三倍。相談が多く、待ってもらっている間に命を断つケースも少なくない、という。ちなみに、DARCはイエスと聖母マリアの薬物依存症から立ち直るための唯一のリハビリ施設である▼人間関係が希薄になり、子どもも大人も「孤独」にさいなまれている。人は何かに依存しなければ生きていけない存在。依存するものを間違えば、悲惨な結果になる。DARCのメンバーはハイヤーパワー（それぞれが認める神）の力に依存しながら、薬物依存症からの回復を目指している。その処方せんは、仲間として生きることにある▼神の子が人の仲間になってくださった。救い主を待ち望む人々は多い。（Y）

大聖年をより良く過ごすために
―殉教者の意味を考える―

はじめに

使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』は、殉教者について度々言及しています。日本のカトリック司教団もイエス・キリスト生誕二〇〇〇年に備えて、各地で日本の殉教者崇敬の行事を盛り上げるよう勧めています。特に、ザビエル渡来四百五十年祭と、豊臣秀吉によって長崎西坂の丘で処刑された日本二十六聖人殉教者四百年祭を意義ある祝典にするように具体的提案を行っています。しかし、殉教者のお祝いをすることが大聖年の目的ではありません。今、私たちに問われているのは、殉教者の生き方に倣って殉教の精神を生きることです。

そこで、今回は殉教の精神とは何かをご一緒に深め、さらに日本の教会の信者が殉教者に倣って現代に生きるように、呼びかけたいと思います。

イエスは殉教者の原型

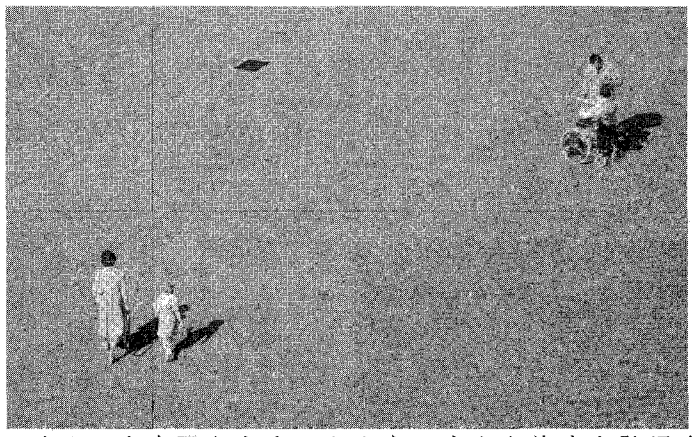
殉教者とは、一般的に『証人』の意味を表しています。キリスト教の用語としては、【イエス・キリストを忠実に証明するために生命をささげた人】という意味で使われています。イエス・キリストは父のみ旨を果たすために自らをいけにえとしてささげました。そのためにあらゆる侮辱や苦しみ、嘲笑を忍び、沈黙を貫かれました。そしてついに十字架の死によってご自分の生命をささげました。また、自分を死に追いやった人々をゆるし、彼らのために祈りました。この態度こそ後に続く殉教者の模範であり、原型でした。殉教者たちはイエスの模範に励まされて、自分の苦しみと生命をささげて、イエス・キリストの忠実な証人となったのです。

私たち信仰者も、イエスの模範と殉教者の生き方に励まされて、自分の苦しみ、自分の生命そのものをささげるように招かれています。侮辱、孤独、嘲笑、人生の苦しみなどを信仰の精神をもって受け入れ、ゆるし、孤独に耐え、他人のために祈り、他人を助ける生き方を目指すことが大切です。殉教者を敬うとは、自ら殉教の精神を生きることを表しています。

殉教は救いの計画の実現

「血を流すことなしに罪がゆるされることはない」（ヘブライ9・22）。イエスが流された血は、すべての人々の救いの原因でした。イエスが死の苦しみを味わったことによって、初めて人類に救いがもたらされました。マリアはイエスの殉教に深くかかわっていることから、『殉教者の母』として尊ばれました。殉教者は自分の苦しみを通してイエスとともに人類の救いに参加した人たちです。彼らは愛する主イエスとともにこの世界の人々のために自分をささげました。私たち信仰者にもイエスは「自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい」（マルコ8・34）と言われて、ご自分とともにこの世界の救いに参加するように招いておられます。

それでは、主イエスの招きに、私たちはどのように応えることができるのでしょうか。まず、主イエスは私たち信仰者が教会とともに生きることを教えています。なぜなら、教会はイエス・キリストが始められた救いの業を続ける務めをいただいているからです。その主な務めは、みことばを宣布することと、秘跡によって信仰者の生活を高めることです。私たち信仰者には教会生活、特に秘跡を大切にすることが勧められます。聖体祭儀はイエス・キリストとともに、人々の救いのために自分を捧げることを求め、悔い改めの秘跡は神と和解し、自分を清めることを通してよりよい社会をつくることを求めています。このように、秘跡にあずかることで、主イエスの血による救いの業に参加することができます。同様に、福音のことばを大切にすることが強調されています。みことばは信仰者を内より変えていく力をもっており、私たちにはみことばを聴き、それを伝える務めがあるのです。



日本の殉教者は何よりも教会の生活、特に聖体祭儀と悔い改めの秘跡を大切にしました。殉教者に倣うとは、教会の秘跡を大切にし、それを自分の生活に活かすことにあります。また、日本の教会は、どのようにキリスト教を日本の文化に根づかせるかに苦労してきました。その中で、みことばこそ信者を励ます大切な手段であると感じています。

以上のようなことから、殉教者を崇敬するにあたっては、まず、自分と教会とのかかわりを振り返ってみることをお勧めします。

殉教者はあかしする人

『わたしは真理について証しをするためにこの世に生まれ、そのためにこの世に来た』（ヨハネ18・37）。イエスは弟子たちに、将来自分と同じように迫害されると預言しました。その時は、聖霊が話してくれるので心配するなとも言っています（マタイ10・16～21参照）。殉教者とは、カトリック教会の中で信仰を守り通した偉い人程度の意味ではありません。彼らはこの世界で『真理をあかし』するために遣わされ、そのことのために受難しました。聖霊の語るままに自分の信仰、信念に基づいた生き方を宣言したのです。それが当時の為政者、見識者の心証を悪くしたことも否めません。また、政治的思想や人間的思惑を乗り越えた非常識、頑固といった印象も多くもたれていました。多くの場合、彼らのもつ人生に対する信念、モラル観念は当時の通常観念に強い警鐘となったのです。彼らは決して譲れない何ものかがあると宣言し、そのためにあえて死を選んだのでした。

殉教者はまた愛をあかしした人たちです。「友のために自分の生命を捨てる、これにまさる大きな愛はない」（ヨハネ15・13）。教皇ヨハネ・パウロ二世は日本の殉教者を『愛の証人』と宣言しておられます。愛さないで殉教することはできません。殉教とは神を愛し、人を愛し、そのために死を選ぶ行為です。

殉教とは、真理をあかしし、決して譲れないと心に決めたことから起こっています。しかし、殉教の大切な要因はこれを公言することにあります。『わたしはキリスト教徒です』とローマの殉教者たちは公言しました。『わたしは教えを捨てることができません』と日本の殉教者は公言して死刑に処せられています。そしてさらに、殉教者は現代社会にも警鐘を鳴らし続けているのです。彼らは高いモラル観念、譲ることのできない信念、超自然の価値観などを通して現代社会に反省を求めています。殉教者の遺徳を称える私たちは、彼らのもつ価値観を現代社会に投げかけていく務めがあります。なぜなら、私たちは彼らの後継者だからです。私たちに必要なことは、自分の信仰を公言していく勇気をもつことです。それは、自分だけの信仰を個人的に守っていくことでもなければ、殉教者をすばらしいと称えるだけでもない、もっと積極的な生き方なのです。

殉教は聖人になる道

初代教会の信仰者は殉教者への崇敬をもっていました。また、殉教へのあこがれを抱いていました。彼らこそ、イエスの模範に完全に倣った聖人として考えていたからです。日本の教会でも歴史の初めより、殉教者は聖人として崇められていました。一粒の麦が地に落ちて死ねば何倍の実を結ぶとイエスは言います。実際、ステファノの殉教はパウロの回心を生み、その結果何倍もの霊的実りを結びます。殉教者を生んだ土地は、多くの霊的実りを産み、新しい信仰の種が芽生えました。

迫害の終わったローマ時代、信者はより高いキリスト教生活の理想を求めて砂漠に退きました。砂漠は殉教に代わる神の完全な一致の場と考えたからです。そこでは苦行と節制、労働、祈りの日々を過ごしました。この修道生活の起源となったのです。さらに時が経つにつれて、人々が住む社会の中にこそ神との一致があるとし、社会の中にこそ神をあかしして生きるでキリストをあかしして生きる理想を求める信仰者が出てきました。殉教も、砂漠の中の生活も、すべて教会の中の生活に倣って聖人になる道を意味しています。殉教者の遺徳を偲ぶとは、自ら神に向かって成聖の道を歩むことを意味しています。

現代社会の矛盾の中でも真面目に人生の意味を探し、弱い人々の立場に立って自分を忘れて献身している人々がいることは大きな慰めですが、反面、日本の社会には安楽な生活、遊興によって教会全体の必要と全世界の救いのために祈りをささげ」（同33）るのです。このような『語る／聞く／答える』という二重の要素が交互に織りなされた構造によって、ことばによる神と人間の心と心のふれ合い（コミュニケーション）が、『ことばの典礼』の中で実現されるのです。

殉教は永遠の生命をもたらす

日本の殉教者は最後のお別れに、『パライソ（天国）で会いましょう』と挨拶しています。彼らは、見えないあの世のことよりも、今の生活が大切であると何度も諭されました。その結果、うつつけとか、狂気の沙汰呼ばわりされました。

永遠という観点に立って、殉教者は現世の出来事を解釈します。その観点から、譲れないものを譲れないと彼らは宣言します。その視点に立つとき、血縁関係が壊れても仕方がないとさえ考えます（マタイ10・21参照）。現代社会は刹那的なもの、今の世のことのみを追う傾向がありますが、殉教者は永遠で不変の価値がこの世にあることを私たちに告げています。『イエス・キリスト』が、私たちに与えられた何物にもまさる恵みであるように、『イエスに倣った殉教者たちの群れ』も私たち信仰者にとって最高の賜物なのです。永遠の生命を信じて神にすがって生きることにより、弱い私たちも殉教者の強い生き方を自分のものとして生きることができるのです。

おわりに

今回はカトリック教会の中での殉教のみを挙げましたが、一つの信念のために生命をささげた他の多くの人々が存在していることも認めなければなりません。教皇ヨハネ・パウロ二世はカトリック教会外の聖人殉教者のことにも言及しておられます。「教皇パウロ六世がウガンダの殉教者の列聖式の説教の中で指摘したように、血を流すことも辞さないキリストに対するあかしは、カトリック、正教会、聖公会、プロテスタント共通の遺産となっています。」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来』37）

殉教者を過去の偉人にしてはいけません。また、政治上の必然的な犠牲者にしてもなりません。自らの生と死を『イエスの名』のために選んだ聖人であることを留意しましょう。そして、特にわが身を振り返って、襟を正す生活に向かっていくことにより、大聖年の準備と祝典の中で殉教者を祝う意義をはっきり意識するように努めましょう。

一九九六年十一月九日
ラテラン教会の献堂の日に

日本カトリック司教協議会
大聖年準備特別委員会

典礼　ミサのこころ⑧『コミュニケーション』

『集会祈願』をもって、準備・導入の役割を持つ開祭が終わると、いよいよ、ミサの重要な第一部に当たる『ことばの典礼』が始まります。イエスさまは申命記（8・3）を引用しながら、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と教えておられますが（マタイ4・4）、まるでこれを図式化したように、ミサは『ことばの典礼』と『聖体の典礼』（＝感謝の典礼）の二つの重要な部分から構成されています。しかも「これらは相互に固く結ばれて一つの礼拝行為を成している」（『典礼憲章』56）のですが、私たちはまず、『ことばの典礼』から始めます。「実に信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まるのです」（ローマ10・17）と聖パウロが教えているように、神のことばを聞くことが私たちの信仰の基礎だからです。

ですからミサに参加する会衆にとって、神のことば（聖書朗読）及びそれを解説する説教を聞くことが、『ことばの典礼』の一つの重要な要素になります。それは「説教による解説を伴う聖書朗読の中で、神はその民に語られ……、キリストは、ご自分のことばによって信者の間に現存される」（『ミサ典礼書総則33』）からです。また同時に、語られる神（キリスト）のことばに答えるということも、もう一つの重要な要素になりますが、朗読の間の歌・信仰宣言・共同祈願などが、この役割を果たします。つまり「神のことばを、会衆は歌によって自分のものとし、信仰宣言によって自己に結合する。また神のことばで養われた会衆は、共同祈願によって教会全体の必要と全世界の救いのために祈りをささげ」（同33）るのです。このような『語る／聞く／答える』という二重の要素が交互に織りなされた構造によって、ことばによる神と人間の心と心のふれ合い（コミュニケーション）が、『ことばの典礼』の中で実現されるのです。

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

待降節の黙想会ご案内
①12月6日(金) 15:00～ 7日(土) 15:00 / Fr.ガブリエル
②　7日(土) 16:00～ 8日(日) 16:00 / Fr.マテオ
③　13日(金) 15:00～14日(土) 15:00 / Fr.畠
④　14日(土) 16:00～15日(日) 16:00 / Fr.ガブリエル
⑤　20日(金) 15:00～24日(火) 16:00 / Fr.マテオ
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

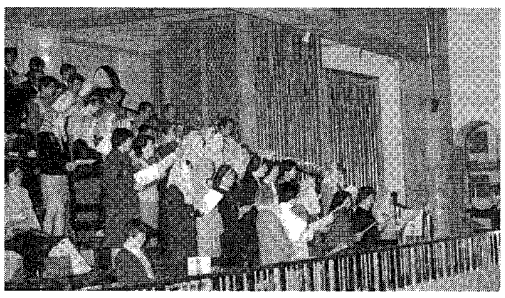
教区信徒協・教区修女連発足25周年合同記念祭

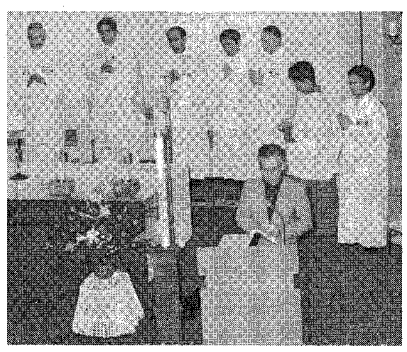
わたしたちが教会

平山高明大分司教講演

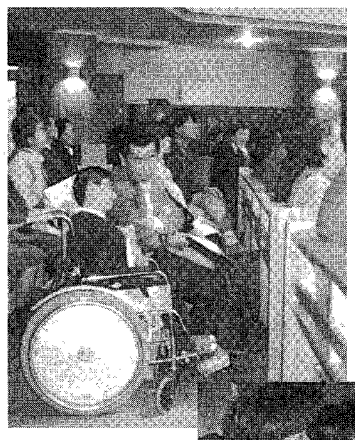
信徒・修道者の証し・パネル展示・ミサ

写真で見る合同記念祭

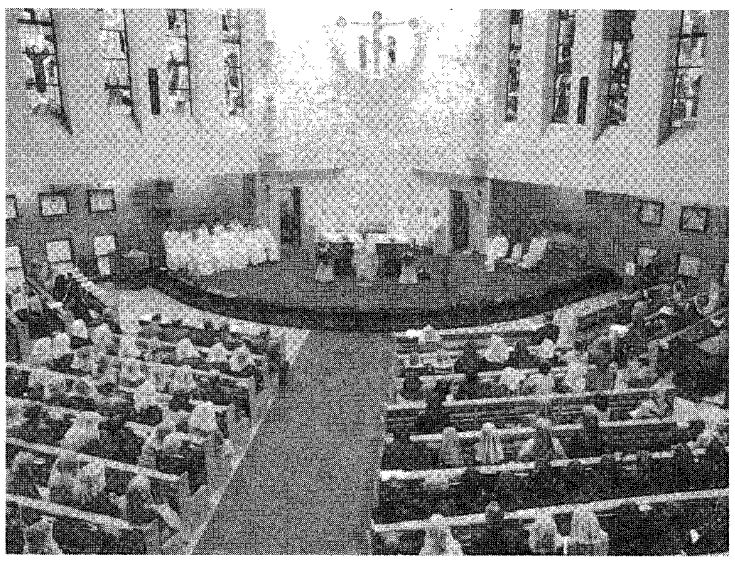

▶聖歌隊―信徒とシスターたちが一つになって―

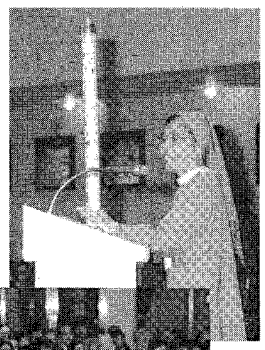

◀共同祈願をする信徒

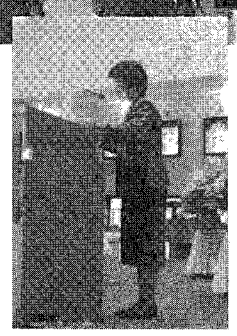

▶記念の講演をする平山司教


◀親子ともに神を賛美


▶証しに聴き入る小神学生

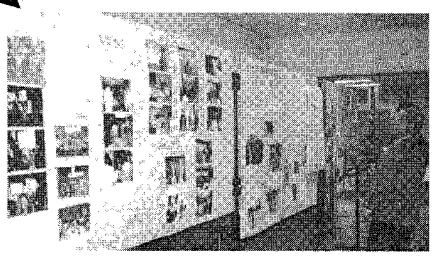

宣教のために聖霊の助けを求める

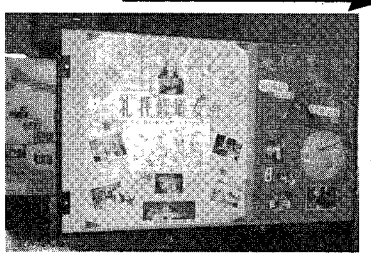

▶体験談を踊りも交えて語るシスター福永

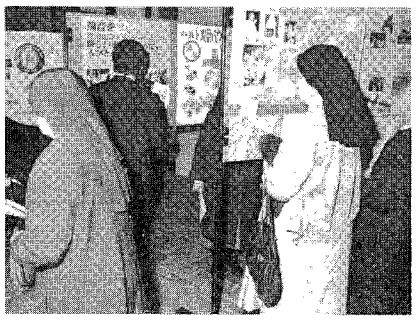

▶信徒の発表　安部由子さん

会場に展示された信徒協と修女連紹介のパネル









〈写真協力・福吉新〉

11月　召命の集い96　4日

城島瑛（浄水通教会6年生）

召命の集いに行っての思い出は、ふだんしない野外ミサと劇でした。まず一つはしばふの上でミサをすること、もう一つはたくさんの神父様がミサに参加したことです。大神学生のバンドもかっこよかった。劇はヤコブが目の見えない神父様を道案内している内容でした。とても楽しかったです。前に、ぼくの教会にいた牧山じょさいと再会できたのもうれしかった。来年も必ず集いに行きます。

先人の遺徳しのび

納骨堂前でミサ

熊本地区

熊本地区では、十一月二日十四時、竜田山納骨堂前（野外）で、鵜野泰年神父の司式により死者ミサが行われた。

当日は穏やかな秋晴れに恵まれ、市内の信者、またこの日のために遠く各地からの参列者、総勢百二十人を越える盛大なミサとなった。前週日曜日の墓地清掃作業で周辺はきれいに掃き清められ、祭壇の供花台には菊花をはじめ色とりどりの草花がいけられ、祈りの場に相応しい雰囲気の中で始められた。

鵜野神父は説教の中で、『一粒の麦は地に落ちて死なければ…』の聖書の箇所に言及し、ここに眠る先人の遺徳を称え、これに続くわれわれを励ました。また、現世と来世とを、不透明な泥水の中に棲むトンボの幼虫のヤゴの生態を引用して、不安におののきつつ後に続く幼虫にせきたてられ次々と水茎をよじ登り、水面に顔を出し、そこに今まで経験したことのない光と色彩に浴し、澄みわたった青空を見いだして喜ぶ様子を話し、現世と来世をわかりやすく対比して説き、天国が希望に満ちた世界であることを諭した。参加者は深い感銘を受け、感謝のうちに終了した。（取材協力　健軍教会　平川秋次）

老いと死

身近にとらえる

Sr. 高木講演

福岡「生と老い・死を見つめる会」では、去る十月二十七日、カテドラルにて、神戸の英知大学助教授シスター高木慶子（神戸生と老いを考える会・会長）を招いて、講演会を開いた。

約百四十人の参加者でカテドラルの講堂はほぼいっぱいとなり、盛会であった。

シスター高木は、「大震災と生と死を考える」と題して話し、突然の死は、悲嘆と喪失感を震災を受けた人々に与えたこと、そして、その回復の過程において生じたいろいろな問題を、自己の体験を通して語った。

震災は、遠い所の問題と考えていた福岡の人々にとっても、本当に身近なものとして問題をつきつけられた感じを与えるものであった。


福岡生と老い・死を見つめる会
講師を囲むメンバーのみなさん

日本26聖人殉教
400年祭

教皇特使による荘厳ミサ

2月5日14時・長崎

巡礼者募集中

教区広報部として100席を確保しております。この他には、事前に予約しておられる方以外は席がございません。

8時00分にカテドラル前を出発、途中、中バス停（8時40分）、基山PA（9時）と金立SA（9時50分）で乗降が可能です。帰りは20時50分福岡着予定。

参加費：6000円（昼食・夕食弁当付）
申込先［教区本部事務局・深堀邦枝まで］
☎092・522・5139
（10時～16時）
【主催・教区広報委員会】

BOOK 読みは専科

★キリストは近づいている
―待降節の福音
マタイ一章・ルカ一章―
L・E・ブラウン 著
佐久間勤 訳



福音書の中ではマタイ・ルカだけがイエスの誕生と幼年期を生き生きと記念し、伝えている。マタイの系図の中に含まれる歴史の重みと洞察。ルカのザカリアへの告知、マリアへの告知の意義深い相違。待降節中に読まれるこれらの使信は、書かれた当時と同じく私たちにとっても適切な使信。本書はそれに新しい光を投げかけている。先に出版された《降誕物語におけるキリスト》と合わせて読むとよい。待降節、降誕節をふさわしい準備のうちに生きるのを助けてくれる。この時期おすすめしたい本。

女子パウロ会　一二三六円

◇　◇　◇

★子どもの聖書物語
アンネ・デ・グラーフ著
ホセ・ペレス・モンテロ絵
竹中弥生 訳



この本は旧約聖書物語が二〇六ページ、新約聖書が一八九ページにわたってしたためられている。さし絵はその物語のおもしろさを生き生きとした鮮やかなタッチで描きあげている。文章は聖書の中の主な人物アブラハム、モーセ、ノア、ヨナ、マリア、イエス、ペトロ、パウロなどが登場する。子どもにはもちろんのこと、おとなでも読んでみたくなる待望の書。

サンパウロ刊　二八〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 石 理 石 / 石 影 の / 他 大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　12月

◇6日（金）～7日（土）待降節の黙想①Fr.ガブリエル
◇7日（土）～8日（日）待降節の黙想②Fr.マテオ
◇13日（金）～14日（土）待降節の黙想③Fr.畠
◇14日（土）～15日（日）待降節の黙想④Fr.ガブリエル
◇14日（土）～15日（日）在世フランシスコ会黙想
◇20日（金）～24日（火）待降節の黙想⑤Fr.マテオ
◇27日（金）～1月5日（日）ショファイユの幼きイエズス修道会黙想

◆97年1月6日（月）～12日（日）　休館

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

24日 主の降誕・夜半のミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
福岡地区		吉塚	19:30	鹿島	18:00
糸島	20:00	南粕屋	19:30	唐津	20:00
今村	21:00	老司	19:30	佐賀	20:00
大楠	18:00	北九州地区			
大牟田	18:00 20:00	飯塚	19:30	多久	20:00
		黒崎	19:00 22:00	武雄	20:00
小郡	19:30			鳥栖	21:00
久留米	19:00 22:00	小倉	18:00 20:30 23:00	馬渡島	19:00
				呼子	19:00
古賀	19:00			熊本地区	
笹丘	20:00	新田原	20:00	荒尾	19:00
浄水通	19:00	田川	18:30	大江	19:00
大名町	18:00 20:30 24:00	天神町	20:00	帯山	19:30
		戸畑	20:00	菊池	20:00
		直方	19:00	健軍	20:00
高宮	20:00	水巻	19:30	崎津	21:00
茶山	20:00	門司	19:30	島崎	20:00
西新	19:00	湯川	19:30 23:00	玉名	19:00
箱崎	20:00			手取	19:00 23:00
光丘	20:00	行橋	19:30		
二日市	20:00	若松	19:30	人吉	19:00
美野島	20:00	佐賀地区		水俣	20:00
	ｽﾍﾟｲﾝ語	伊万里	20:00	本渡	19:30
本郷	18:00 21:00			武蔵ヶ丘	19:30
				八代	19:30

会合と催し

教区年間テーマ：豊かな交わりの教会づくりを目指して

12月

1日（日）宣教地司祭育成の日《献金》
　典礼聖歌研修会（カテドラル13時）■
3日（火）聖フランシスコ・ザビエル
6日（木）福岡結婚準備セミナー⑥
7日（土）聖アンブロジオ
8日（日）日本26聖人殉教400年祭開会ミサ［長崎］
9日（月）無原罪の聖マリア
　福岡カトリック神学院創立記念日
13日（金）聖ルチアおとめ殉教者
14日（土）十字架の聖ヨハネ
17日（火）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（水）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（木）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（金）＋M.ソーレ［久留米教会1917］
23日（月）天皇誕生日
　＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
25日（水）主の降誕（クリスマス）
26日（木）聖ステファノ殉教者
27日（金）聖ヨハネ使徒福音記者
28日（土）幼子殉教者
29日（日）聖家族
31日（火）大晦日

■印は本面に詳細説明あり

1月

1日（水）神の母聖マリア／元旦
　（守るべき祝日）
　世界平和のミサ（カテドラル10時）
　＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（木）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
　＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
3日（金）初金曜日
5日（日）主の公現
7日（火）司祭新年の集い（浄水通11時）
12日（日）主の洗礼
14日（火）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（水）成人の日
17日（金）聖アントニオ
18日（土）キリスト教一致祈祷週間（～25日）
　＋M.J.マルタン［大牟田教会1975］
19日（日）＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（火）聖アグネスおとめ
　熊本結婚準備セミナー①（～2月18日）■
25日（土）聖パウロの回心
26日（日）カトリック児童福祉の日《指定献金》
　佐賀地区信徒研修会 ■
28日（火）聖トマス・アクイナス
31日（金）聖ヨハネ・ボスコ

■ロザリオへのおさそい［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■韓国語によるミサ［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX34・3115（聖マリア病院）

■青年の祈りの集い［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■第4回聖書を読む会―キリストの譬え話を読む　開催中［日時］97年3月6日まで第1木曜日（1月は第2木曜日）全7回、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［場所］佐賀教会［テーマ］③人間の罪と神の慈しみ④「われらが人に赦すごとく…」⑤死への準備⑥傲慢と謙遜⑦自分が損して他人を助ける［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

■佐賀新聞文化セミナー　開催中［日時］12月21日まで第1、第3土曜日10時15分～11時45分［場所］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室［テーマ］①人間は「人の間」で生かされて生きるもの②苦しみとの共存③喜びの人生④充実した生き方⑤充実した死に方⑥希望を育てる［講師］A・アレグリーノ神父［受講料・入会金・プリント代］7200円・2000円・3000円（消費税別）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー☎0952・28・0371

■よみうりFBS文化センター特別講座―　開催中「生かされて生きる」［日時］97年3月22日（月2回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見西次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シュバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教・▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎093・541・6556 FAX093・541・6556

■典礼聖歌研修会―ミサを歌おうPARTⅡ［日時］12月1日（日）13時～17時［場所］カテドラル大名町教会［講師］高田三郎［会費］1000円［主催］福岡教区典礼委員会［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎092・741・3687 FAX741・5107

■第6回全国カトリック家庭セミナー［日時］12月7日（土）12時受付～8日（日）15時閉会ミサ［場所］長崎カトリックセンター［テーマ］家庭における信仰の伝達［基調講演・講師］①キリシタン時代の信仰・結城了悟神父（日本二十六聖人記念館館長）②婚姻の秘跡・牧山強美神父（福岡サン・スルピス大神学院倫理学教授）［参加費］1日1000円［参加定員］300人（対象はカトリック信者に限りません）［宿泊］原則として参加者各自で手配のこと［申込締切］11月20日［申込・問合先］カトリック中央協議会家庭委員会☎03・5632・4445 FAX5632・4465

■第6回ぶどうの樹の会パイプオルガンチャリティーコンサート［日時］12月7日（土）14時30分［場所］大名町教会聖堂［曲目］ジグー／クリスマス・ラプソディーほか［演奏者］大坪由香（リコーダー）古賀智恵子（オルガン）［チケット］前売（小学生以上）1000円・当日1200円［主催］ぶどうの樹の会［後援］福岡市・福岡市教育委員会・エリザベト音楽大学・聖パウロ女子修道院・大名町教会信徒会［問合先］相良☎050・698・2109［チケット取扱］聖パウロ書院

■本島前長崎市長講演会［日時］12月8日（日）14時～16時［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［テーマ］希望の2000年へ―キリストを体して、平和を創る―［入場料］無料［主催］佐賀カトリック正義と平和協議会

■'96福岡市民クリスマス［日時］12月9日（月）18時30分（開場18時）［場所］福岡市民会館大ホール［映画鑑賞］長編アニメーション映画・チョッちゃん物語［入場料］無料［主催］福岡市民クリスマス実行委員会［問合先］同事務局☎092・731・1805

■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって一年間で、今後の日程をお知らせいたします。［日時］③12月15日（日）13時［講師］ペトロ・アロイジオ神父（カルメル会）④1月12日（日）14時～講話／13日（月）13時（聖書深読―聖書持参のこと）［講師］奥村一郎神父（カルメル会）⑤2月9日（日）13時～講話［講師］チプリアノ・ポンタッキョ神父（カルメル会）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX092・807・7361

■クリスマスコンサート96［日時］12月19日（木）19時（開場18時）18時30分）［場所］あいれふホール（福岡市健康づくりセンター）［内容］ピアノ三重奏・声楽・リコーダー・合唱など［チケット］3000円・当日3500円★ソプラノ歌手として活躍中の手取教会所属の高見久美子さんが出演致します。［主催］サンパウロ［問合先］同上☎092・531・0899

■九州ダルク・クリスマスパーティー［日時］12月21日（土）14時～17時［場所］美野島司牧センター（九州ダルクデイケアーセンター）［参加費］1000円（高校生以下無料）［問合先］九州ダルク☎092・471・5140

■カテキスタの集い［日時］1月12日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［テーマ］堅信の秘跡［講師］山元眞神父［参加費］500円（資料代）

■第52回熊本結婚準備セミナー［日時］1月21日（火）～2月18日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回（但1月28日は除く）［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎0963・52・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）0963・52・5022

■SE・CO～奉仕と分かち合いボランティア・グループ新年の集い［日時］1月25日（土）11時30分～14時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会ホール［講師］カトレット神父（イエズス会）［会費］1000円（昼食代共）［申込・問合先］龍☎092・581・6838／山下574・3787／武田552・4250／白壁552・1879／シスター高取512・0033（1月18日迄）

■佐賀地区信徒研修会［日時］1月26日（日）10時～［場所］佐賀教会［テーマ］①信徒使徒職とは②聖体奉仕者について［講師］①深堀純（大名町教会信徒）②熊本地区信徒3名／詳細は次号にて

■第67回福岡結婚準備セミナー［日時］2月1日（土）～27日（木）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

研修センター出張コース

◎生活のなかで読む聖書［日時］1月17日（金）16時～19日（日）13時［場所］カトリック福岡黙想の家［テーマ］7ステップ法による聖書の活用［内容］7ステップは現在世界的に注目をあびているダイナミックな「聖書の読み方」。復活のキリストの現存を個人・グループ・教会共同体に強く反映させ、使徒職遂行の精神的基礎を据える［指導］日本カトリック研修センタースタッフ［対象］信徒・修道者・司祭［費用］20000円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人308310・5317 FAX052・831・5037

編集後記

ドタバタしているうちに一年が過ぎてしまった、感じ。ともあれ、みなさまのご協力で本紙もなんとか途切れずに発行できました。毎月の発送作業の皆様もご苦労さまでした。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博